

2022年度 点検評価改善報告書
[教育研究活動報告]



西南女学院大学
西南女学院大学短期大学部

学 長

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	浅野嘉延	職名	教授	学位	医学博士 (九州大学 1989 年)
----	------	----	----	----	--------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
内科学、看護教育学、保健統計学、高齢者福祉学、大学運営学	血液内科、看護教育、福祉用具、大学運営

研 究 課 題
2007 年に本学に奉職して依頼、医療現場での臨床医と看護大学における教員の経験を同時に有する立場を生かして、看護学生に臨床現場で実際に必要となる知識・技術を、適切かつ効率的に教授する教育法の確立を目指してきた。これまで、患者サンプルを用いた実践的な教材を利用して、7 冊のテキストを出版してきた (現在、150 校以上で教科書採用されている)。また、高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」での研究から商品化した「車椅子用フットプレートカバー」は、有菌製作所より販売を継続中である。 2021 年度 4 月より学長に就任し、本学が社会から求められる大学であり続けるための大学運営の在り方を模索している。

担 当 授 業 科 目
キリスト教と西南女学院のあゆみ (前期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科) キリスト教と生命倫理 (助産別科) 疾病学各論 I (前期) (看護学科) 疾病学各論 II (後期) (看護学科) 保健統計学 (後期) (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【キリスト教と西南女学院のあゆみ】 5 学科の 1 年生に対して、本学の歴史とキリスト教主義教育について解説した。複数の教員によるオムニバス形式で進行したが、私は学長として初回のガイダンスを担当した。自学の歴史を知ることで愛着と誇りを持ち、「感恩奉仕」という共通の精神基盤のうえで学部学科を超えて高めあうことの大切さを強調した。
授業科目名【キリスト教と生命倫理】 助産別科の学生に対して、生命の誕生に立ち会うことの素晴らしさを改めて確認した。現在の医療現場における倫理的な問題を提示して、助産師としての考えを深めてもらった。助産師として、医療人として、女性として「感恩奉仕」を胸に刻んで、キリスト教の愛の精神で今後の人生を歩んで欲しいことを強調した。
授業科目名【保健統計学】 看護学科の学生にとって数少ない社会医学の系統講義である。ただ、馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計 (改訂 3 版)」を使用して、基礎から分かりやすく解説した。 毎回の授業の最初に前回の復習を行い、繰り返し説明を行うようにした。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。 授業中に統計データから「社会問題を考察する」「表をグラフ化する」などのレポートを課した。

授業科目名【 疾病学各論Ⅰ 】【 疾病学各論Ⅱ 】

臨床経験が豊かな専門医にオムニバス形式で行った。私（内科医）は内科疾患 25 コマを担当した。自著の教科書「看護のための臨床病態学（改訂 4 版）」を使用して、内科疾患の系統的な講義を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。

小児科疾患 5 コマは笹月教授（小児科医）に、外科疾患 6 コマ・麻酔科疾患 1 コマ、婦人科疾患 3 コマ・精神科疾患 5 コマは医療機関に勤務する専門に外部講師を依頼した。最新の医療知識を教授できたと考える。

疾患に関する知識を伝えるだけでなく、病める患者と向き合う医療者としての心構えも教授するように心がけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本内科学会 日本血液学会	＜役職＞ 認定医・専門医試験の病歴評価担当 評議員（1998 年 4 月～現在） 九州支部評議員（2011 年 4 月～現在） 上級会員 FACP（2000 年 1 月～現在）	1983 年 6 月～現在 1985 年 6 月～現在
アメリカ内科学会 日本癌学会		1998 年 12 月～現在 1986 年 6 月～現在
日本内科学会 日本血液学科 日本医師会	＜認定資格＞ 指導医・認定医 専門医 専門医 指導医 認定産業医	1993 年 5 月～現在 1993 年 12 月～現在 1994 年 10 月～現在 1994 年 12 月～現在 2001 年 5 月～現在

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（雑誌） 1. 検査まるわかり POCKET BOOK	単著	2022 年 5 月	プチナース 5 月号付録 （全 82 ページ）、照 林社	看護学生に必要な検査の知識 をコンパクトにまとめた。
（問題作成） 1. なすもし（午前 28.79.85. 午後 78.86）	単著	2022 年	2022 年 1 回目看護師 国家試験模擬試験、医 学書院、インターメ ディカル	模試の問題 6 問の作成と解説を 執筆した。
（その他の執筆） 1. 学長メッセージ	単著	2022 年 4 月	西南女学院大学ホー ムページ	新年度における学内外への学長 メッセージ
2. ウクライナ情勢に関 する学長声明	単著	2022 年 4 月	西南女学院大学ホー ムページ	ロシアのウクライナ侵攻に関す る学内外へのメッセージ

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 西南女学院100年のあゆみ写真展	単著	2022年	西南女学院キリスト教センター便り 116:8.	写真展の紹介をした。
4. 当世学生気質	単著	2022年5月	西南女学院月報 697:2	巻頭言。
5. ウクライナ学生支援	単著	2022年5月	西南女学院月報 697:3-4	ウクライナ学生への支援をお願いするメッセージ。
6. 学長メッセージ	単著	2022年	西南女学院大学 2023 入学案内 5,	高校生を対象とした大学の紹介とメッセージ。
7. 大学 SELECTION 西南女学院大学	単著	2022年7月	読売新聞 (2022. 7. 6)	全面高校で大学の紹介。
8. 社会に求められる大学であり続けるために	単著	2022年	広報西南女学院 102, 2	学長として挨拶。
9. ウクライナ学生支援	単著	2022年	広報西南女学院 102, 14	本学におけるウクライナ学生支援の紹介。
10. 創立100周年記念式典	単著	2022年11月	西南女学院月報 703:2	巻頭言。
11. 毎日フォーラム学長メッセージ	単著	2022年11月	毎日新聞 (2022. 11. 28)	大学の紹介。
12. クリスマスの思い出	単著	2022年12月	しおんのそののあゆみ 12月号:1	巻頭言。
13. 100周年記念誌編集の進捗状況(その3)	単著	2023年	広報西南女学院 103,	記念誌編集の進捗状況
(挨拶・講演など)				
1. 入学式式辞		2022年4月	西南女学院大学入学式 (2022. 4. 2.)	学長式辞
2. 入園式式辞		2022年4月	シオン山幼稚園入園式 (2022. 4. 13.)	学長式辞
3. 開講式式辞		2022年5月	ファーストレベル開講式 (2022. 5. 14.)	学長式辞

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
4. 命の重み		2022年7月	西南女学院大学チャペルアワー (2022. 7.)	チャペルでの奨励。
5. 医療現場の苦悩		2022年7月	2022年度シニアサマーカレッジ (2022. 7.)	市民講座。
4. 卒業式式辞		2022年9月	西南女学院大学 秋の卒業式 (2022. 9. 22.)	学長式辞
5. 学長挨拶		2022年11月	西南女学院同窓会 (2022. 11. 3.)	学長挨拶
6. 閉講式式辞		2022年12月	セカンドレベル閉講式 (2022. 12. 10)	学長式辞
(教職員へメッセージ)				
1. 学長メッセージ		2022年4月	全教職員に向けてメール (2022. 4. 28.)	年度初めのメッセージ
2. 学長メッセージ		2022年8月	全教職員に向けてメール (2022. 8. 1, 8.)	コロナ感染対策などについて臨時のメッセージ
3. 学長メッセージ		2022年9月	全教職員に向けてメール (2022. 9. 22.)	後期開始におけるメッセージ
4. 学長メッセージ		2022年11月	全教職員に向けてメール (2022. 11. 14.)	キリスト教主義教育について臨時のメッセージ
5. 学長メッセージ		2023年1月	全教職員に向けてメール (2023. 1. 4.)	2023年の年頭メッセージ

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
社会福祉法人 福音会 医療法人起生会 大原病院 北九州市立医療センター 九州労災病院 キリスト教学校教育同盟	産業医 評議員 産業医 医の倫理委員 治験審査委員会委員 研究倫理委員会委員 西南地区協議会代議員	2007 年 4 月～現在 2009 年 4 月～現在 2016 年 6 月～現在 2015 年 4 月～現在 2021 年 4 月～現在 2021 年 4 月～現在 2021 年 4 月～現在

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
西南女学院 評議員 2011 年 4 月～現在 地域連携室 運営協議会委員 2016 年 8 月～現在 西南女学院 理事 2019 年 4 月～現在 創立 100 周年記念事業実行委員会 2019 年 7 月～現在 大学短大事前行事担当 2019 年 7 月～現在 100 周年記念誌出版委員会 2019 年 10 月～現在 100 周年記念誌編集委員長 2019 年 10 月～現在 COVID-19 対策班 責任者 2020 年 9 月～現在 西南女学院大学・大学短期大学部 学長 2021 年 4 月～現在 西南女学院 常任理事 2021 年 4 月～現在 将来計画検討プロジェクトメンバー 2021 年 4 月～現在 公的研究費 最高管理責任者 2021 年 4 月～現在

大 学

保健福祉学部

看護学科

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	石井 美紀代	職名	准教授	学位	修士 (看護学)
----	--------	----	-----	----	----------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
地域・在宅看護学	継続看護、地域包括ケア、多職種連携

研 究 課 題
病院完結型医療から地域完結型医療へ変換され、診療報酬改正でも継続医療に関する加算が設けられることで、病院では入退院支援のしくみが作られている。一方、在宅ケアでは多職種連携が進んでいて在宅療養支援のしくみが作られている。両者でしくみが作られているが、患者側からみてシームレスにつながっているか、繋がるためにはどうすればいいか、看護の立場で研究する。

担 当 授 業 科 目
* 社会保障概説 (看護学科 1 年 後期) * 家族と健康 (看護学科 2 年 前期) * 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ (看護学科 2 年 後期) 看護研究 (看護学科 3 年 前期) * 在宅看護学 (看護学科 3 年 前期) * 在宅看護学演習 (看護学科 3 年 前期) * 在宅看護学実習 (看護学科 3 年後期・4 年前期) * 看護総合演習 (看護学科 4 年 通年) * 看護総合実習 (看護学科 4 年 通年) * 研究演習 (看護学科 4 年 通年) 高齢者支援学Ⅰ (保健福祉学部共通科目 2 年集中) 高齢者支援学Ⅱ (保健福祉学部共通科目 4 年集中) ※履修者 0 名で開講せず 看護学 (栄養学科 3 年 後期) ※履修者 0 名で開講せず *は単位認定者として担当

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 社会保障概説 】 本講義は、社会福祉士の外部講師を含み 3 人で担当しており、単位認定者として調整も行った。 講義は、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生の 4 本柱を、制度の解説と法的根拠の整理だけではなく、患者や地域住民、家族と関連させた事例使って解説し、看護とのつながりを意識している。また、授業の最後には過去の国家試験で出題された問題を解いてもらい、資格取得に必要な知識であることを学生に理解してもらうように心掛けている。さらに、授業終わりには、毎回、質問の時間を確保した。 中学や高校の「公民」の授業で日本国憲法や社会保障制度を学んできているが、学生の多くは苦手意識を持っている。法律や制度は暗記するのではなく、将来の看護の対象者に講義で得た知識をどう役立てるかを意識して学習することを積極的に問い、苦手だが頑張る意欲を持たせた。
授業科目名【 家族と健康 】 講義は家族看護学の教科書を使い、家族を看護学、心理学、社会学でどう捉えているかを解説した。単位認定者として、社会学を専門とする外部講師にも 2 回講義してもらい調整も行った。家族看護には、アセスメントに使う理論がいくつかある。その代表的な理論を解説し、使える知識になるように事例を用いて各自で展開し提出を求め、次の週に解説した。 学生の中には、自分の家族に対して複雑な感情をもっている者もいることが想定される。そのため、事前に学

生支援室に協力を依頼するとともに、あえて自分の家族を説明したり分析したりさせずに、あくまで看護の対象としての架空の事例で講義を実施した。
授業科目名【 対象別公衆衛生看護活動論Ⅱ 】 この講義は、看護師課程は選択、保健師課程は必修である。保健師課程を目指す学生と、単位取得のみを目指す学生が混在しており、取り組み意欲に差があった。しかし、目標を下げることなく、専門雑誌の記事を資料にして実務とその背景や理論を押さえていった。 さらに、個人ワークからグループでディスカッションをして、先進的な取り組みについて成功する因子を思考させて理解を深めようとした。しかし、ディスカッションに慣れていないこと、前述のように学習意欲の差があり、グループで学習成果の差があった。そのため、ディスカッションが上手くできたグループに発表させ、製菓の共有を行っていった。
授業科目名【 在宅看護学・在宅看護学演習 】 今回は、在宅看護学と在宅看護学演習が時間割上続きであった。そのため、演習を中心に、講義と演習を同じテーマで流れを作った。演習の在宅看護過程では、共通事例の看護過程を見本として配布・解説し、さらに、熱の事例の看護過程をグループワークと個人ワークで完成させることで、個々人の知識・理解の習得を目指した。さらに、技術提供は手順書を、患者教育は指導案をグループで作成し、ロールプレイで発表した。 教員4人で担当しているため、指導や評価に差が出ないように頻繁に打合せ、コメントの内容も出来るだけ統一した。しかし、評価基準を授業展開途中で変更することがあり、一部の学生に疑念を抱かせてしまったことが反省である。
授業科目名【 在宅看護学実習 】 在宅看護学実習は、学生に訪問看護師との同伴訪問を必ずさせることにこだわった。理由は、本学の学生のほとんどは急性期病院に就職する。病院実習であれば、就職してからでも経験できるが、訪問看護を経験するのは、学生時代しかないという場合が多い。在宅看護は対象の生活環境が違うところで臨機応変に看護を提供するもので、実習は現場から得ることが必要である。そのため、前年度から、コロナ禍であっても学生を1回以上の同伴訪問してくださる訪問看護ステーションを、助手とともに開拓していった。 学内実習と臨地実習とハイブリットとなった学生もあったが、すべての学生は同伴訪問が実施でき、学生に貴重な体験を提供することができた。 一方、これまで基礎実習から学内のみの実習だったことから、学生は臨地実習に慣れていないため、過緊張となり、楽しんで実習する様子が見られないまま終了することが多かった。また、学生を臨地に行かせたことで、今までになかった失敗やヒヤリハット事案が発生し、実習施設に謝罪に行くことが多かった。しかし、施設側は実習の重要性を理解していただいており、中断させることなく最後まで実習を継続させていただいたことに感謝している。 学生は、臨地実習より学内実習やリモート実習を好み、学生自身が看護学実習の辛さから逃れようとする姿勢があった。これは、在宅看護学実習だけの問題ではないことから、他の看護領域とも協働して指導していく必要性を感じた。
授業科目名【 看護研究 】 本講義は5名の教員で担当した。講義では、研究の流れ・研究デザイン・研究手続・研究倫理・研究計画書についての解説を行う。演習では、論文クリティーク、英語文献の要約、研究計画書の作成・量的研究と質的研究の分析体験・抄録作成と、研究の一連の流れを体験させた。5名の教員が、それぞれ複数のグループを分担して指導するため、授業前に打合せを十分に行い、方向性を一致させた。 一方、学生はオンライン授業に慣れ、オンラインでのグループワークの手法も獲得しており、フォームを使ったアンケート、ドライブ上のファイルの共同編集などの機能を使いこなした。また、時間外の作業も自分たちで時間調整して実施していた。一部のメンバーに負担があったグループもあったため、学生同士でのリーダーシップ・メンバーシップのあり方を学ぶことが、今後の学生の課題であるように思う。
授業科目名【 看護総合演習・看護総合実習 】 5人の学生は、例年通り、多領域の選抜を漏れて在宅領域に来た学生であった。それでも、在宅看護領域で、テーマを決めてもらった。前半は、自分が設定したテーマについて、入手可能な論文を読んで調べ、毎週1回、発表があった。メンバーのテーマを共有し、自分だったらどうするか、を考えて助言するように雰囲気盛り上げた。今年のメンバーには、自分の疑問や意見を伝えるのためらわない学生、さらに他者の意見をきいて修正できる学生がおり、それに影響されて自由な発言と相互作用が展開できていた。

後半は、学生に面談予約をさせながら個別に論文作成の指導を行った。すると、4年生は夏休み以降に登校する機会が減るため、学生の論文作成の進行に差が生じた。提出期限を定めるものの自発性を尊重したところ、最初の期限に提出した学生は、2名であった。 看護総合演習・看護総合実習の成果の論文は、論文集にしてゼミ生に配布した。さらに、学生に看護総合実習をさせていただいた施設に、論文集をもってお礼に行くことで、終了とした。
授業科目名【 研究演習 】 在宅看護領域で1名の学生がこの科目に取り組んだ。看護総合演習・看護総合実習でまとめた論文から、さらに文献検索し、研究計画書を作成して、看護学科1年生と4年生を対象とした調査研究を行い、論文にまとめた。そのため、取り掛かった時期が後期であり、国家試験に影響しないように短期集中で実施した。 We bによるアンケート調査を実施したことで、学生は倫理的配慮を教科書だけでなく調査研究に関する文献で調べて、十分考えることができた。また、学年による差が思うように出なかったことで、その背景についてさらに文献で調べて、考察できていた。
授業科目名【 高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ 】 高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ講義は総合人間科学に位置し保健福祉学部の3学科共同で行われる。 高齢者支援学Ⅰは福祉学科の荒木先生を中心に、到達目標・講義展開・評価基準を統一するための打合せに力を注いだ。初日に講義、2日目に3学科合同で事例を使ったグループワークを行う。講義では、各学科のカリキュラムが違うために、高齢者の特性を共通認識させることに特化した。グループワークでは、3学科の学生が自分の得意分野を示そうと作業分担しがちになることから、3学科でディスカッションさせることに注力した。事例の問題をあげるだけでなく、その原因や要因を話し合う事を約束事にしたことから、解決方法が導きやすく具体的な方法が出された。看護学科の学生は、各グループの中でリーダーシップを発揮しており、これまでの授業でディスカッションになれていることが明らかにわかった。 高齢者支援学Ⅱは、受講生がおらず開講されなかった。
授業科目名【 看護学（栄養学科） 】 この講義は看護学科教員がオムニバスで行い、私は在宅療養における看護師と栄養士の機能について2コマ担当した。今年度は受講生がおらず、開講されなかった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康福祉政策学会		1997年6月～（現在に至る）
日本地域看護学会		1997年10月～（現在に至る）
日本看護学教育学会		1998年4月～（現在に至る）
日本公衆衛生学会		1998年4月～（現在に至る）
日本老年社会科学会		1999年4月～（現在に至る）
日本学校保健学会		1999年4月～（現在に至る）
日本老年看護学会		1999年8月～（現在に至る）
日本看護研究学会		2001年11月～（現在に至る）
日本在宅ケア学会		2004年8月～（現在に至る）

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
なし				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市介護認定審査会	委員	2007年4月～2023年3月
戸畑区地域ケア研究会	運営委員	2020年4月～2022年3月
福岡県看護協会看護研究倫理審査委員会	委員	2021年4月～2023年3月
北九州市開発審査会	委員	2022年11月30日～2024年11月29日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

〔大学委員会〕

学生募集委員

〔学科役割〕

要ネット・学生募集関連担当（リーダー）

1年生アドバイザー

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 一 期 崎 直 美	職名 講 師	学位 修士 (教育学) (熊本大学 2010 年)
--------------	--------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
養護教育	養護教諭、専門職、ケア

研 究 課 題
専門職としての養護教諭の仕事について研究を行っている。現在、養護教諭の仕事に関する教育学及び社会学の基礎的研究を踏まえ、養護教諭を対象とした社会調査について分析している。

担 当 授 業 科 目
対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ (前期) 看護学科
学校保健 (後期) 看護学科
養護概説 (後期) 看護学科
健康相談 (前期) 看護学科
学校保健教育法 (前期) 看護学科
養護実習事前事後指導 (4 年生対象) (3 年後期から 4 年後期) 看護学科
教育実習事前事後指導 (4 年生対象) (3 年後期から 4 年後期) 看護学科
養護実習事前事後指導 (3 年生対象) (3 年後期から 4 年後期) 看護学科
養護実習 (通年) 看護学科
教育実習Ⅰ (通年) 看護学科
教職実践演習〈養護教諭〉 (後期) 看護学科
教職実践演習〈中・高等学校〉 (後期) 看護学科
看護総合演習 (通年) 看護学科
看護総合実習 (通年) 看護学科

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ】 ① この科目は、看護学科公衆衛生看護関係科目の選択科目である。1 年次の「公衆衛生看護学概論」後の受講となる。学生は、公衆衛生看護活動の場としての「学校保健」「産業保健」の概要について学ぶ。担当の「学校保健」は、これまで学生が経験した学校生活で理解できる点もあるため、経験と結び付けよう解説した。 ② 講義内容について知識や理解を深めるように、事前学習に選択式問題の課題に取り組みさせた。 ③ 特別支援教育の児童生徒の理解を深めるために、発達障害の事例を用いた演習を取り入れた。
授業科目名【学校保健】 ① 学校保健は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目で、講義内容の理解を深めるために、発表したり議論したりする機会を設けている。 ② 学校保健で利用頻度の高いホームページや電子書籍サイトなどを利用する機会として、学生の発表に使用する資料として提示した。 ③ 現在の児童生徒の健康課題を理解するために、図書館の雑誌を用いて学生が発表に使用するよう提示した。 ④ 学生の主体的な学習を促すために、授業後に作成するポートフォリオを定期試験に活用できるようにし

た。

- ⑤ 学校保健で重視される食育に関する給食管理や食育における教育の実際について、学校現場を知る講師を招いた。

授業科目名【養護概説】

- ① 養護概説は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。学校保健活動を養護教諭として実践していくために必要な基本的な知識・技術を学ぶ。そのため学校保健の講義終了後の履修になるよう計画した。
- ② 養護教諭の具体的な活動については、実務経験を含め解説し、演習を取り入れた。
- ③ ロールプレイや模擬授業など、学生が養護教諭と児童生徒役を経験できるように講義を設定した。また、学生の振り返りには、学生の他者評価も踏まえるように授業を設計した。
- ④ 学生の主体的な学習を促すために、授業後に作成するポートフォリオを定期試験に活用できるようにした。
- ⑤ 現在の児童の実態を理解し、現場の養護教諭の仕事を理解するために小学校に訪問する機会を設けた。

授業科目名【健康相談】

- ① この科目は、養護教諭一種免許状取得においては必修科目である。講義「学校保健」「養護概説」終了後に履修する。
- ② 学生が児童生徒に健康相談が実施できるような力が身につくよう、支援の基礎となる知識についてはワークを実施し、技術についてはロールプレイを中心に実施した。
- ③ 学校における課題を抱える子ども（虐待、不登校、自殺など）について、学生は調べ学習を発表する。その知識を基に、そのような子どもたちへの対応について、学生同士で討論させた。
- ④ 学校と専門機関との連携を学ぶために、スクールソーシャルワーカーの仕事を知る講師を招いた。

授業科目名【学校保健教育法】

- ① 学校保健教育法は、教職課程における養護教諭一種免許状取得希望学生を対象とした科目である。養護教諭は兼職発令で教科の保健教育を担うことができるため、その点を含め講義内容を構成した。
- ② 教職課程での既習事項を確認しながら、保健教育（教科保健・特別活動）の授業づくりができるように進めた。
- ③ 養護教諭が主に担う保健教育（歯の健康づくり、性に関する教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止など）については、学生が事前学習し、その知識を用いて模擬授業が展開できるよう授業を構成した。
- ④ 学生の模擬授業後に、授業の展開方法について討論の機会を設けた。
- ⑤ 学校保健教育の教材研究に役立つホームページなどを学生に紹介し、活用を促した。
- ⑥ 学習指導案や教材の作成などについて、授業時間外を含め学生への個別支援を行った。

授業科目名【養護実習事前事後指導】4年生対象

- ① 教職課程の実習に関わる事前指導および事後指導を行う科目である。教職課程での実習は、はじめての経験になる。そのため、事前指導を充実させるよう構成した。
- ② 主体的に実習となるよう、実習期間中に経験できる授業や行事について学生自身に学校から情報を収集し、その情報を模擬授業等に活かすように指導した。
- ③ 学生の指導計画作成や教材づくりは、授業時間外でも個別支援した。
- ④ 学生が行う模擬授業の評価は、学生からの他者評価や授業のビデオを視聴し、客観的な自己評価につながるよう指導した。
- ⑤ 実習後は、学生が実習校での学びを共有できるよう、実習発表会を実施している。学生主体の実習発表会になるよう、会の進行などについても学生が担うよう指導している。
- ⑥ 4年生と3年生が発表会で交流できるよう時間を設定した。

授業科目名【教育実習事前事後指導】4年生対象

- ① 教職課程の実習に関わる事前指導および事後指導を行う科目である。教職課程での実習は、はじめての経験になる。そのため、事前指導を充実させるよう構成した。
- ② 主体的に実習となるよう、実習期間中に経験できる授業や行事について学生自身に学校から情報を収集し、その情報を模擬授業等に活かすように指導した。
- ③ 学生の指導計画作成や教材づくりは、授業時間外でも個別支援した。
- ④ 学生が行う模擬授業の評価は、学生からの他者評価や授業のビデオを視聴し、客観的な自己評価につな

がるよう指導した。

- ⑤ 実習後は、学生が実習校での学びを共有できるよう、実習発表会を実施している。学生主体の実習発表会になるよう、会の進行などについても学生が担うよう指導している。

授業科目名【養護実習事前事後指導】3年生

- ① 教職課程の実習に関わる事前指導および事後指導を行う科目である。教職課程での実習は、はじめての経験になる。そのため、事前指導を充実させるよう構成した。
- ② 学生の実習時期は、実習に行く学生でそれぞれ異なる。実習時期を考慮しながら、授業を構成した。
- ③ 実習を充実させたり、不安の軽減するために、現職の養護教諭に講師を依頼した。
- ④ 目指す養護教諭像と現在の課題について記入後、その内容を踏まえ、実習に向けて、個別面談を実施した。

授業科目名【養護実習】

- ① 養護実習は、養護教諭一種免許状取得のためには必修科目である。学校で養護教諭としての仕事を体験する3週間の実習である。学生はこれまでグループで実施する実習形態で、単独での実習経験がない。そのため、個別面談の機会を設け学習の準備状況を確認した。
- ② 学生自身が、将来、養護教諭として働くことを目指し積極的に実習するよう支援した。
- ③ 各自の目標が達成できるよう、主体的に実習校と連絡をとり準備をすすめるよう支援した。
- ④ 学生の実習状況を把握し実習の事後指導に役立てるよう、実習校訪問は学生の査定授業の日に可能な限り計画し訪問するようにした。

授業科目名【教育実習Ⅰ】

- ① 教育実習は、高等学校教諭一種免許状（看護）の取得のために行う。高等学校における看護教員としての仕事を体験する2週間の実習である。学校で実際に生徒に関り、現職の看護教員の授業を参観したりや担任の役割についても学ぶ。学生はこれまでグループで実施する実習形態で、単独での実習経験がない。そのため、個別面談の機会を設け学習の準備状況を支援した。
- ② 看護教員になるためには、看護師としてのキャリアが一般的には必要になる。学生が自身のキャリアを考え実習に臨むよう事前に面談した。
- ③ 学生の実習先は、出身校ではない。主体的に実習校と連絡をとって準備をすすめるよう支援した。
- ④ 学生の実習状況を把握し実習の事後指導に役立てるよう、実習校訪問は学生の査定授業の日に設定し訪問した。

授業科目名【教職実践演習】（養護教諭）

- ① 教職課程における学びや実習を振り返り、教員になるための課題を考え、解決へと結びつけていくための講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携・性に関する教育）を招き、学生の学びを深化させるよう授業を構成した。
- ② 教職課程担当者全員で指導を行う授業には参加し、学生の学習状況を把握した。
- ③ 多職種連携として、栄養学科の栄養教諭志望学生および高等学校看護教諭志望学生と相互の職務について発表および討論する授業を企画した。
- ④ 学生は特別支援学校の実習経験がないため、特別支援学校の養護教諭の職務や子どもたちの実態を学ぶ機会として特別支援学校に訪問した。
- ⑤ 養護教諭の研修の場を学ぶために、遠隔で受講できる研修を事前に視聴させた後、授業で討論した。

授業科目名【教職実践演習】（中・高等学校教諭）

- ① 教職課程における学び及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていくための講義である。外部講師（特別支援教育・地域家庭との連携）を招き、学生の学びを深化させるよう授業を構成した。
- ② 教職課程担当者全員で指導を行う授業に参加し、学生の学習状況を把握した。
- ③ 多職種連携として、栄養学科の栄養教諭志望学生と養護教諭志望学生と相互の職務について発表および討論する講義を企画した。
- ④ 英語教諭志望学生と合同での模擬授業に参加し、高等学校での看護の授業が展開できるよう事前に指導計画について個別指導を実施した。
- ⑤ 看護教員の研究を学ぶために、遠隔で受講できる研修を視聴し研究のあり方について討論した。

授業科目名【看護総合演習】 ① 看護総合演習は、看護学科専門の必修科目である。各自が研究の問いをたてレポートを作成する。全体の進行と個別指導について、学生と調整しながら日程を計画した。 ② 学生の進捗状況に応じて、レポートへの個別支援を行った。 ③ 中間発表を設定し、学生の進捗状況を把握した。最終レポート発表会へとつながるよう個別支援を実施した。
授業科目名【看護総合実習】 ① 看護総合実習は、看護実習の集大成と位置づけられ、課題から主体的に実習を計画し展開していく。学生が主体的に実習指導者と連絡を取り、実習を進められるよう、指導者と連絡をとりながら学生を支援した。 ② 看護課程の学びをいかし、養護教諭としての課題を解決できるような計画が立案できるよう、実習計画について個別支援した。 ③ 学校における保健教育を実施するためには、指導計画の作成や児童の実態を把握することや学級担任との連携が重要になる。学生に進行状況を確認し個別支援した。 ④ 学生が学級で保健教育（授業）を実施するときに参観し、授業内容の改善を図るよう支援した。 ⑤ 自己評価で終わらないよう個別面談を実施し、実習で課題が解決できたどうか確認した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健学会		2008 年～現在に至る
日本養護教諭教育学会		2008 年～現在に至る
日本健康相談活動学会		2008 年～現在に至る
日本教育保健学会		2013 年～現在に至る
日本看護協会		2015 年～現在に至る
日本看護学教育学会		2016 年～現在に至る
日本養護実践学会		2020 年～現在に至る

2021 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
(その他)				
				教育研究業績 総数 (2023.3.31現在) 著 書 (内訳 単 0, 共 1) 学術論文 (内訳 単 2, 共 4) 翻 訳 (内訳 単 0, 共 0) 学会発表 (内訳 単 3, 共 5)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
福岡県若年教員研修（養護教諭）実施協議会	委員	1 年

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
教職課程委員会（全体・学科）	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日
FD委員会委員（全体・学科）	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日
看護学科 2 年生 4 年生アドバイザー	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日
看護学科 プロジェクト	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 井手 裕子	職名 助 教	学位 修士(看護学) (大分大学 2006 年)
----------	--------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人看護学	慢性期看護学 看護教育 コロナ禍における看護学実習

研 究 課 題
・ 成人慢性期看護学実習における効果的な指導 ・ コロナ禍における実習での学生のまなび

担 当 授 業 科 目
・ 基礎看護学実習Ⅰ(前期) ・ 成人看護学演習 (前期) ・ 成人慢性期看護学実習 (後期) ・ 看護学 (栄養学科) (後期 ※2022 年度開講なし)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【成人看護学演習】 ＜看護過程演習（全日程対面授業）＞ 今年度は、全日程対面での実施が可能であった。例年と同様、1 グループ 5 人編成で、2 人の教員で 5 グループ(25 名)を担当した。今年度の 3 年生は、1, 2 年次の講義が殆ど遠隔授業であったため、学生間のコミュニケーションが希薄であり、「知らない友人」が多い学年であった。従って、まずはメンバー間でのスムーズな話し合いができるように、グループワーク時に発言の少ない学生に意図的に声掛けを行うなどの交流を深めさせることにも注意を払った。 事例は例年通り、慢性期事例（肝硬変）と急性期事例（胃癌）の 2 事例であり、事例ごとにもう一人の教員と担当を変えて全グループ把握に努め、演習前後で教員間で個々の学生への指導等について調整を図った。 今年度、慢性期事例では、看護診断「非効果的健康管理」の教育計画(EP)を実際実践することにしたため、計画立案時に、具体的な指導案や必要に応じて媒体の作成など、患者教育についての学びを深めさせた。 ＜技術演習（全日程対面授業）＞ ・ 患者教育の演習では、従来の糖尿病事例を用いた食事指導から上記の看護過程演習での肝硬変事例を用いた演習に変更した。肝硬変事例で挙げた看護診断「非効果的健康管理」の看護計画のなかの教育計画(EP)を実際実践するという形式で行った。これにより、情報収集・アセスメント・看護問題の明確化・実施・評価という看護過程の展開を一つの事例を通じて学習でき、情報収集やアセスメントが実践に結びついていることを体感できていた。 ・ 血糖測定、インスリン自己注射の演習では従来通り 1 グループ 5 ～ 6 名の学生で行い、基本的な技術の取得を行った。ティーチングアシスタントとして 4 年生にも参加してもらい、低学年の技術指導を通して再度学びを深めさせた。 ・ 術直後の演習では、昨年度からの術後の清潔ケアの学習へ取りくみ、全体での演習後、1 グループの学生達のデモンストレーションを実施、学びを共有させた。 授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 コロナ禍のため、1 年次の基礎看護学実習Ⅰは学内実習であったため、この実習からは初めての臨地実習になる学生達であった。まずは、臨地で抱く緊張を和らげるためシャドーイング実習から開始し、受け持ち患者

とのコミュニケーション時には教員もしくは指導者の同席のもと、会話が運びやすいように場の環境を調整した。また実際の患者への看護技術の提供も初めてであるため、事前事後での学内での練習なども実施した。 実習記録に関するインシデント事象が発生した場面があり、インシデントレポートの指導を要する学生がいた。初めてこのようなレポートを作成するにあたり、決して「罰としての報告書」ではなく看護職としての倫理に基づき次回への医療事故発生予防の目的であることに視点を置いて指導した。
授業科目名【成人慢性期看護学実習】 ・今年度より2年ぶりに臨地での実習が再開された。実習2施設のうち、A病院の実習時間は午前もしくは午後の3時間と限定されているため、その時間で効果的かつ有意義な実習ができるように常に臨地の実習指導者と調整を重ねた。 ・今年度の3年生は、1、2年次の実習が殆どの学生が学内実習であり臨地での実習が初めてとなる学生が大半であった。そのため、臨床側に協力を依頼し実習開始2日間はシャドーイングを取り入れた。昨年度も1グループのみが臨地実習を実施できた際にもシャドーイングを行ったが、その際に早期に現場のスタッフとのコミュニケーションが図れるという利点も得られており、今年度も同様の実習効果が得られたと考える。 ・臨地慣れしていない学生達の中には、実習記録の作成や臨地スタッフとの関りなど不慣れな環境に適応できずに、メンタルへ影響を及ぼす学生が多かった。そのような学生に、実習中に適宜声掛けを行い状況把握に努め、必要時担当アドバイザーに報告するなどしてサポートを継続した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
聖路加看護学会		1996年 4月～現在に至る
日本看護研究学会		1996年 6月～現在に至る
日本看護学教育学会		1998年 4月～現在に至る
日本看護診断学会		1998年 6月～現在に至る
日本糖尿病教育・看護学会		2003年 8月～現在に至る
日本看護科学学会		2008年 10月～現在に至る
日本慢性期看護学会		2017年 7月～現在に至る

2021 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 新型コロナウイルス感染症流行化の看護学各論代替実習における看護学生の学に関する文献研究	共著	2023.3	西南女学院大学紀要 2023 Vol.27	①新型コロナウイルス感染症流行下における看護各論領域の代替実習で、看護学生がどのような学びを得たのかを探り、今後の実習指導における示唆を得る目的で文献研究を行った。 学生は 対象に応じた問題点や援助方法、更に多職種役割や連携の重要性を学んでいた が 、実際の対象者との関わりをもつことができない代替実習では、感情の揺らぎを伴う学びは見受けられず、看護者としての援助的人間関係の構築

2021 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
				とそれに伴う命の尊さや看護 観・人間性を育む経験を積むこ とには限界があることがわか った。今後、臨床現場と連携し、 リアリティや感情の揺らぎの ある実習方法を検討していく 必要がある。 ② 井手裕子、坂部滯、坂本未 穂、水原美地、橋本真弥、石井 奈央、安藤愛 ③ in press
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
看護学科3年生アドバイザー(2022.4.1～2023.3.31) 看護学科物品係 （2022.4.1～2023.3.31）

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	伊藤直子	職名	教授	学位	学士 (社会学) (佛教大学 1996 年)
----	------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学 地域看護	公衆衛生看護 介護保険 地域包括ケア

研 究 課 題
行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。 地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

担 当 授 業 科 目
公衆衛生看護管理演習 (後期) 選択 14/14 公衆衛生看護学実習 (通年) 選択 保健医療福祉行政と政策 (前期) 選択 7/7 保健福祉学入門 (前期) 必須 2/8 地域母子保健 (前期) (助産別科) 6/8

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 保健医療福祉行政と政策 】 「保健医療福祉行政と政策」は、3 年生前期に配置された選択科目である。保健師課程の学生には必修科目となっているが、保健師課程を選択していないが科目内容に関心があり受講した学生もいる。 科目内容は、既習した保健医療福祉の知識を基盤に、行政の施策及び政策の策定まで学習する内容となっているため、現存する日本における制度について具体的事例を通して、思考する構成としているため、課題及び個々の学生とのやり取りにより主体的学習を促した。 結果、授業評価の質評価において、『わりにそう思う』『かなりそうだと思う』を合わせると、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」100%、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」84.2%であり、意図した主体的学習を促すための教育方法については、一定の成果を上げたと評価できる。 本授業は、2022年度授業表彰 (看護学科) を受けた授業となっている。
授業科目名【 保健福祉学入門 】 「保健福祉学入門」は、1 年生前期に配置された必修科目である。保健福祉学部への導入科目となっている。看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。 オムニバス形式の講義となるため、講義開始前の導入について、担当講師との打合せおよび調整を行った。各々の学科の学生は、他学科の教員の講義を聴くことで、自身の学ぶ学問領域の関心を深め、他職種と協働していくことの重要性を考えていくこと目的としている。

授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

「公衆衛生看護学実習」は、コロナ禍の中、実習指導教員と実習施設指導者のコミュニケーションを十分に得ながら、学生の実習環境の整備に苦勞した実習となった。直接、住民と触れ合う場面に限界がある実習ではあったが、実習施設指導者の熱意に学生達の成果は、コロナ禍とはいえ、様々な形で得ることができた。

また、学生の学習意欲及び効果が得られるよう教員間の情報交換を密に行いながら、教育支援を行ったことにより、学生の教育支援が効果的に運営された。実習環境は行政の対応により異なるが、学習成果の達成状況に大きく差は見られず、全員の学生が到達レベルに達することができた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長 （1996年4月～1997年3月） 訪問看護委員会委員長 （1997年4月～1998年3月） 介護支援専門員支援委員会委員長 （1997年4月～2004年3月） 認定看護管理者研修委員会委員 （2001年4月～2006年3月） 介護保険関連委員会委員長 （2004年4月～2006年3月） 第46回日本看護学会－看護管理－学術集会抄録選考委員（2014年3月～2014年9月） 消費税対応検討委員会委員長 （2015年11月～2016年7月） 日本看護学会学術集会抄録選考委員 （2022年3月～現在）	1977年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		1979年4月～現在に至る
日本地域看護学会		1999年4月～現在に至る
日本在宅ケア学会		2000年9月～現在に至る
日本保健医療社会学会		2002年4月～2014年3月
日本病院管理学会		2002年9月～現在に至る
日本高齢者虐待防止学会		2003年8月～現在に至る
日本看護教育学会		2003年2月～現在に至る
日本健康教育学会		2005年6月～現在に至る
日本看護研究学会		2008年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2008年4月～現在に至る
日本臨床救急医学会		2011年8月～2016年3月

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(その他)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007年7月～現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012年4月～2020年3月
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012年6月～2022年6月
日本私立看護系大学協会	理事（業務執行理事）	2013年7月～2018年7月
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員	2005年4月～現在に至る
粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員	2007年4月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議調整会議	構成員	2012年4月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	代表	2013年4月～現在に至る

北九州市健康づくり推進プランの推進にかかわる意見交換会	構成員	2014 年 2 月～2021 年 3 月
北九州市認知症施策推進会議（北九州市オレンジ会議）	構成員	2013 年 4 月～現在に至る
全国保健師教育機関協議会	社員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡県総合計画審議会	委員	2016 年 7 月～現在に至る
行橋市地域保健計画策定委員会	委員	2017 年 12 月～2018 年 2 月 24 日
行橋市地域保健計画推進委員会	委員	2018 年 2 月 25 日～現在に至る
北九州市健康づくり活動表彰選考委員会	審査員	2018 年 10 月 1 日～現在に至る
福岡県公衆衛生看護実習連絡協議会	当番校	2021 年 4 月～2022 年 3 月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）		
学校法人西南女学院 評議員	2005 年 4 月～現在に至る	
学校法人西南女学院 理事	2021 年 4 月～現在に至る	
・学院将来計画委員会		
西南女学院大学・大学短期大学部 副学長	2022 年 4 月～現在に至る	
・大学点検評価改善会議 構成員		
・教学マネジメント検討会 構成員		
・入学試験会議 構成員		
・COVID-19 対策会議 構成員		
・将来計画検討プロジェクト会議 構成員		
西南女学院大学 保健福祉学部長	2021 年 4 月～現在に至る	
・非常勤講師候補者選考会議 構成員		
・動物実験委員会 委員長		
・地域連携室運営会議 構成員		
・学生総合支援室運営連絡協議会 構成員		

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 大嶋 満須美	職名 教授	学位 修士 (健康福祉学) 山口県立大学
-----------	-------	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人慢性期看護 看護管理	慢性期、家族、ゆらぎ、受容過程 組織、人材育成

研 究 課 題
慢性疾患を抱えた患者・家族の揺らぎと受容過程 看護教育

担 当 授 業 科 目
成人看護学概論 (前期) 成人看護学演習 (前期) 緩和・がん看護 (前期) 保健福祉学入門 (前期) 成人慢性期看護方法論 (後期) 成人慢性期看護学実習 (通年) 看護総合実習 (通年) 看護総合演習 (通年) 看護学特論 (後期) 看護研究演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 成人看護学概論 】 成人看護の対象は地域社会で暮らす生活者であり健康の側面から理解できるように、統計資料等を用いて教授した。本年度成人年齢が 18 歳となったことにより、成人期の位置づけを明確化し、青年期にある学生が自身の成長発達と関連づけながら理解が出来るよう意識化を図った。授業の構成は調べ学習、グループワークや発表を交え、健康課題の明確化と看護について考察を加えた。また、学生の意見には毎回フィードバックに努めた。
授業科目名【 緩和・がん看護学 】 がん治療や緩和ケアに関する最近の動向を把握し、看護の多様性と専門性を踏まえ解説した。自己決定を主体とした個別化医療も進む中、「がん」の罹患による健康障害と、慢性疾患からターミナルステージへと移行する患者・家族が歩む治療過程を事例や教材を紹介し具体的に解説した。看護の役割として苦痛の緩和と意思決定支援が求められているが、この科目は看護者の健康観や人間観、そして「死生観」を育む重要な機会である。人々の尊厳と QOL の視点を持ち、看護者が関わることの意義について教授した。
授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】 系統別看護の展開として、既習の知識、また看護学概論や基礎看護学実習の体験をもとに、形態機能や疾患と結び付けながら健康障害とアセスメントの視点、主な症状や疾患と看護などについて解説し、看護実践に応用できるよう具体的に教授した。科目範囲が広いことから単元毎に小テストによる確認を行い、次回に繋げた。

授業科目名【 成人看護学演習 】 成人看護学実習に臨む前段階として位置づけ、模擬患者による課題演習を基本とし、「看護過程」と「看護技術」を柱として展開した。グループワークと個人ワークを組み合わせ、学生の学修状況を確認しながら解説を行い、個別にも配慮し領域担当者全員で関わった。演習終了後、教員間で課題や到達度について協議し、進捗状況や方向性について情報共有を行った。
授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】 コロナ禍の影響により、臨地と学内実習を組み合わせた実習形態となった。受け持ち事例を通して慢性疾患の病態理解と看護の方向性について学生の思考を確認しながら実習を行った。指導においては、アセスメントの視点を重要視し個別指導に時間をかけた。学生カンファレンスの場を通じ、看護実践について助言を行うとともに学びの共有を図った。実習終了後は個別面接を行い、自己の達成度と学習課題の明確化を図った。
授業科目名【 看護総合実習：成人慢性期・終末期 】 学生が課題とする自身のテーマに沿って実習計画を立案し、調整する等、看護職への将来展望を視野に入れ、学生の主体性と看護の洞察が深まることを意図した科目である。臨地に臨むことにより人の人生に触れ、直接指導を受けながら深く看護を学ぶ体験と自己成長を期待している。コロナ禍のため実習内容の変更を余儀なくされたが、受け入れ施設の協力により臨地実習の機会は確保できた。動機づけがされ緩和ケア病棟で学生がテーマとする「安楽」「苦痛」「意思決定」「看護」など、キーワードを意識した看護実践がスタッフと共に出来た。
授業科目名【 看護総合演習 】 看護総合実習前後の演習として位置づけられている科目である。学生が関心あるテーマや自己の課題について文献検索に時間をかけ、主体的に取り組めるよう個別に関わった。実習前は課題に向き合い、実践すべきことについて計画する段階、実習後は実際の現象を概念化し、学生のテーマとした論文作成が出来る段階である。それぞれの段階とプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。成果発表をはじめグループメンバーとの学びの共有の機会を持つことで、新たな視点や看護の多様性について学修できた。
授業科目名【 看護学特論 】 4年生後期の選択科目である。授業は各看護領域の教員によるオムニバス形式で行った。履修生が9名と少ないものの、専門職としての看護に対するニーズを解説し、現在の課題と看護政策、これからの看護の展望について投げかけ、考察を行った。看護を取り巻く社会環境が大きく変化する中で、看護の社会的意義や責務についても考える機会とした。
授業科目名【 保健福祉学入門 】 履修学生は学部3学科(看護・福祉・栄養)の1年生である。社会の期待に応えるための保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、課題に対する認識を深め、学部入門編として自己の専門性との関連を学修できるよう構成されている。合同講義を通じ、専門性を深め、他領域を知り、理解することにより、より広く現象を捉えることを意図している。看護の社会的責務を伝え多職種との協働の必要性、および実践者として課題の明確化を図った。
授業科目名【 看護研究演習 】 既習の知識・技術・理論および臨地実習の経験をもとに自ら看護に関する研究テーマを設定する。また文献検討をはじめ一連の研究活動の基本を学ぶ選択科目である。研究プロセスを踏み、計画書の重要性など、系統的な学修や論文としてまとめていく研究過程を重要視している。本年度、履修選択者は3名、単位取得者は1名であった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本家族看護学会		1975年～ 現在 1997年～ 現在

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 高橋甲枝, 坂本末穂, 財津倫子, 大嶋満須美: ストーマ装具を装着した看護学生の生活体験からの気づき	共著	2023.3	西南女学院大学紀要. 27 (in press)	本研究の目的は、演習による模擬ストーマとストーマ装具を装着した看護学生の日常生活体験からの気づきを明らかにすることである。看護学生3年生105名を対象に装具装着を1日間体験後、提出された課題レポートの記述内容について質的帰納的分析を行った。 学生が患者疑似体験からストーマ造設患者の困難を知ること、患者に共感し、患者理解の深まりとともに必要な看護を考える上で有用な体験であったと考える。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
一般財団法人 佐波共済会	評議員	2017 年 5 月～ 現在
福岡県看護協会	地区支部 施設会員代表者	2018 年 4 月～ 現在
日本私立看護系大学協議会	施設代表者	2018 年 4 月～ 現在
日本看護系大学協議会	施設代表者	2018 年 4 月～ 現在

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
・看護学科 学科長 (2018 年 4 月～ 現在) 運営会議、入学試験会議、点検評価改善会議、教授会、学生総合支援室会議の構成員 学科会議議長 学科運営・人事にかかわる事項 文科省「ウィズコロナ時代の新たな医療人材育成事業」応募し選定された。補助金獲得により看護実習室の器材の整備を行った。 ・看護キャリア支援センター長 (2018 年 4 月～ 現在) 看護キャリアセンター運営にかかわる事項 認定看護管理者教育課程 講師 ファーストレベル講師 (2022 年 7 月 2 日) 認定教育課程検討委員長 (2018 年 4 月～現在) 認定教育課程運営委員長 (2018 年 4 月～現在) ・高大連携 講義 (2022 年 11 月 8 日)	

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	鹿毛 美香	職名	講師	学位	修士 (医科学) (久留米大学 2008. 3 月)
----	-------	----	----	----	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護学 産業保健学 労働衛生学 環境医学 公衆衛生学 公衆衛生看護学	労働衛生 ワークストレス 雇用不安 疲労蓄積 大学生の健康 現任教育 住民の健康 保健行動

研 究 課 題
・労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について考察する。 ・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め、現任教育のあり方や学士課程で備えるべき能力等を考察する。 ・行政における保健師の機能と役割について考察し、それらを学ぶための学士課程での教育方法を検討する。

担 当 授 業 科 目
社会保障概説 (後期:看護学科) 健康教育論 (前期:看護学科) 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ (前期;看護学科) 疫学 (前期;看護学科) 公衆衛生看護活動演習 (前期;看護学科) 公衆衛生看護学実習 (通年;看護学科) 看護総合演習 (通年;看護学科) 看護総合実習 (通年;看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 社会保障概説 】 1. 人の生活が安定していくように、国がどのような社会保障および施策で保障しようとしているのか、ライフステージ毎に、事例を通して概要を捉えることができるように努めた。特に施策や制度は、国の課題背景があり、それを解決するために整えられるため、背景と施策や制度の流れを連動して講義を組み立て資料化することで意識づけた。 2. 基本的に講義資料は、1 枚 (A3) で作成し、制度の構造、支援の流れ等が体系的にイメージできるよう工夫した。
授業科目名【 健康教育論 】 1. 科目責任者と共に、講義内容の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、講義組み立てを行った。組み立て時には、健康に関する行動変容と維持に関する理論の選定や時間数の配分、協同学習の活用など検討した。 2. 健康に関する行動変容と維持に関する理論を理解し活用できるように、図式や画像、動画を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、事例を提示することで看護活動への応用をより具体的に実感できるように努めた。事例については、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、対象者を実践的に捉えられるように工夫した。 3. 協同学習を活用し、学生個人が他人の価値観や考え方を知り、多様な対象者の存在を意識できるように努め、学生個人の施行の深まりを支援できるようにした。
授業科目名【 対象別公衆衛生看護活動論Ⅰ (産業保健・看護) 】 1. 産業保健および産業看護について、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした。また、産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた。 2. 産業保健師の活動の一部を実践させることで、ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた。今回は学生自身の VDT 作業状況を振り返り、3 管理の視点で

改善提案書を記録するなどした。産業保健師の活動の一部を実践させることで、ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた。

授業科目名【 疫学 】

1. 保健師（主に行政・産業）が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法、また、国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ、ペーパーシュミレーションを取り入れた。
2. 授業資料の1枚目には、毎回、新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ、今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるように試みた。
3. 少人数の協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように試み、グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した。
4. 保健師課程以外の学生も受講できるため、看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら、現場との連動を行った。

授業科目名【 公衆衛生看護活動演習 】

1. 科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2. 演習時はすべてにおいて協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、協同学習のメンバーを実習メンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3. 家庭訪問技術に関しては、実習で必ず経験する新生児～4 ヶ月児までの母子への訪問を題材とし、母子手帳の交付時の保健指導から電話によるアポイント、次の訪問の予約までと一連の流れをロールプレイ形式で行うことで、この科目の学習と実習との連動を図った。
4. 母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては、現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし、解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた。これは、最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である。
5. 健康教育（集団）技術では、地区診断技術と連動させ、学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど、何のために健康教育をするのかを意識づけさせ、教育スキルだけを学習するのではなく、保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った。
6. 地区診断技術では、保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。
7. 地区診断を進めるにあたり、教員側から指標等の提示を極力せず、学生の疑問・興味関心から思考を広げ、深めていくように努めた。

授業科目名【 公衆衛生看護学実習 】

1. 実習指導者と密にコンタクトを取り、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
2. 学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
3. 学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問・学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
4. 抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
5. 講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。

授業科目名【 看護総合演習・看護総合演習（行政・産業） 】

1. すべての看護各論実習を修了した学生が、自身の疑問や課題を明確にし、実習と連動できるように指導した。そのために、演習では、地域保健や産業看護の理解を深めるために文献検討を行いレポートとしてまとめ、それと併せて実習で必要となる知識技術を振り返る機会を設けた。また、産業看護が提供される場面で初めて学生は実習するため、個々の学びを補うことを目的に、演習に関しては2グループ（3～4名/グループ）での集団学習とした。
2. 実習終了後は、集団学習ではなく、各自の学びを基に作成していた事前レポートを追加修正し、課題解決に向けるようにした。また、ゼミの中で発表し、他学生と共有化することで思考の広がり求めた。
3. 看護総合実習は、最終学年での看護を統合する実習であるため、学生自身が臨地指導者と実習内容を検討

し、実習目標を達成できるように記録用紙や評価指標も学生主体で検討できるように、学生達の思考に合わせて提示する資料や文献等を選んだ。

授業科目名【 その他 】

1. 自分自身が看護職として、学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本産業衛生学会	代議員（2008年11月～）	2003年4月～現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会	倫理審査委員（2018年1月～） 産業保健看護専門家制度委員会：研修 内容認定部会実務委員（2021年6月～）	2003年4月～現在に至る
日本産業衛生学会九州地方会産 業看護部会	役員幹事：広報担当（2006年4月～）	2003年4月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2008年4月～現在に至る
日本産業保健師会		2013年1月～現在に至る
日本産業看護学会		2014年4月～現在に至る
日本公衆衛生看護学会		2015年5月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（2） 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
◎（公社）日本産業衛生学会 ・学会員から研究等の遂行に当たり倫理的な要件を満たしているかどうか協議する。また、審査を受けるまでの相談等を受ける。	倫理審査委員	2018 年 1 月～現在に至る
◎（公社）日本産業衛生学会産業看護部会 ・産業保健看護専門家制度における研修認定審査を担当し、各地方会や学術集会で行われる研修内容が産業保健看護専門家制度の必要単位の研修内容として要件を満たしているかを検討する。	産業保健看護専門家制度委員会	2021 年 6 月～現在に至る
◎（公社）日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関係する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事	2006 年 4 月～現在に至る
◎福岡県医師会 外国人看護師候補者資格修得支援事業 ・母性看護学、小児看護学（各社会保障含む）について講義する。	講師	2017 年 1 月～現在に至る インドネシア現地 なし 国内 2022 年 10 月、2023 年 1 月（2 日）
◎第 19 回日本ヘルスプロモーション学会・第 11 回日本産業看護学会合同学術集会／大会 ・合同学術集会／大会の企画、及び運営に係る作業の支援を担い、主に会場運営およびスタッフ配置に関わる。	企画運営委員	2022 年 3 月～11 月 会期：2022 年 11 月 26、27 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
・学生個人情報保護委員会	2021 年 4 月～現在に至る
・1 年生アドバイザー	2022 年 4 月～現在に至る
・看護学科プロジェクトメンバー	2022 年 4 月～現在に至る
・生協理事	2012 年 5 月～現在に至る

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	梶原江美	職名	教授	学位	修士(看護学)(佐賀医科大学 2003 年)
----	------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
基礎看護学 看護教育学	ラテックスアレルギー 看護基礎教育 看護技術 コミュニケーション

研 究 課 題
ラテックスアレルギーの予防に関する研究 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究 ケアリングに関する研究

担 当 授 業 科 目
看護技術論演習 (前期)(看護学科) 生活援助技術論演習 (後期)(看護学科) ヘルスアセスメント演習 (後期)(看護学科) 診療関連技術論演習 (前期)(看護学科) 看護過程論 (前期)(看護学科) 早期看護実習 (前期)(看護学科) 基礎看護学実習Ⅰ (後期)(看護学科) 基礎看護学実習Ⅱ (前期)(看護学科) 看護総合演習 (前期・後期)(看護学科) 看護総合実習 (前期・後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【看護技術論演習】 看護技術論演習は、看護実践の基本となる「感染予防技術」、「ボディメカニクス」、「体位保持」、「環境調整技術」、「コミュニケーション」、「記録・報告」からなる1年次前期必修科目1単位で講義と演習形式で行う。学生を取り巻く環境としては、①入学して初めて看護について学び始める、②コロナ禍での対面授業である、の2点が挙げられる。そのため、感染対策に注意しながらも、講義時には発問をして自分の意見を述べる時間や演習で学生間のコミュニケーションをとりながら実施できるよう配慮した。また、初回講義時に、看護用語について学習するきっかけを作り、「感染予防技術」、「ボディメカニクス」、「体位保持」、「環境調整技術」「コミュニケーション技術」、「記録・報告」と段階的に学修を組み立てた。また、①看護援助を行う際の自身の安全を守るボディメカニクス、②気遣い・配慮といったケアリングの基本、③他者と協力しながら看護技術を学ぶ必要性の学修にもつながるようベッドメイキングの実技試験を取り入れて、学修の機会とした。授業評価によると、自発的学習に取り組んだ学生は81.8%を占め、肯定的な意見も聞かれた。今後は、学修進度に並行して学生の自発的学習態度が維持できるよう努めたい。
授業科目名【生活援助技術論演習】 生活援助技術論は、「活動」「睡眠・休息」「褥瘡予防」「清潔」「食事」「排泄」からなる1年次後期必修科目2単位で講義と演習形式で行う。学生を取り巻く環境としては、①前期の「看護技術論演習」に引き続いて、具体的な生活援助方法としての看護技術を学修する、③学生自身が毎日営んでいる日常生活行動が学修内容に直結する、②後期の看護技術関連の演習として「ヘルスアセスメント演習」が並行する、の3点が挙げられる。

そのため、まずは日々の生活の中で自身の日常生活行動を振り返ることから始めた。そして、疾病や障害を持って自立した生活行動ができなくなった場合の援助方法のひとつについて、相互演習の形式で演習を行った。 ①予習として動画視聴、技術の整理を入れる、②演習開始時に援助の要点整理を行う、③演習中に援助の細かな動きや要点の補足説明とデモンストレーションを行う、学生が実際にやってみての質疑応答の時間をとる、④意見交換などを通してピアラーニングの実施をした。各単元の学習後は、統合型演習として、2 事例の看護援助についてグループで計画立案をし、そのうち 1 つを実技試験項目として実施、全体にフィードバックを行った。知識面では、関連の国家試験問題や要点整理の資料を配付し説明を加えた。
授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 ヘルスアセスメント演習は、1 年次後期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行う。内容は、ヘルスアセスメントの意義と「生きている」ことをアセスメントするうえで必要となる「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」、「生きていく」ことをアセスメントするうえで必要となる「感覚器系」「中枢神経系」「筋・骨格器系」のフィジカルアセスメントである。必要に応じて、演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めていけるよう努めた。また、実技試験項目であるバイタルサインは、技術面として①コロトコフ音の聴取、②減圧時の指の巧緻性、③値の読み取りが学生の苦手部分となるため、個別で丁寧な指導をするよう心がけた。
授業科目名【診療関連技術論演習】 診療関連技術論演習は、2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行う。必要に応じて、演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めることができるようにした。また、注射の演習では、無菌操作の重要性、針刺し事故を回避する安全策など学生の確実な手技につなげられるよう少人数を同時進行しながら説明や指導を行った。
授業科目名【看護過程論】 看護過程論は、2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行う。グループワークで、6 名/G で構成される 3 グループ 18 名を担当し、事例を基に一連の看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を教授した。この科目は、基礎看護学だけにとどまらず、その後の各領域別実習でも共通の思考過程をたどる。また、看護過程の思考過程が身につくと、看護実践が面白くなるという要素がある。そのため、学生の苦手意識を最小限にし、グループでわからないことをわからないと言える雰囲気づくりと学生が進度に合わせながらめ切を設けて、個別もしくはグループでの指導を行った。
授業科目名【早期看護実習】 早期看護実習は、1 年次前期必修科目 1 単位の実習形式で行う。看護の対象者の療養環境を知り、生活を整える意味について考える機会とする。また、看護師と患者のコミュニケーションを通して、看護におけるコミュニケーションの在り方、看護学生に求められる態度や姿勢についても学ぶ機会とする。病院実習を担当し、学生の動機づけを行った。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 基礎看護学実習Ⅰは、1 年次後期必修科目 1 単位の実習形式で行う。COVID-19 の影響により、病院での臨地実習ができなかったため、学内での実習を行った。学生は、2 事例のうちの 1 事例に対して実習を行う。普段接することのない人を模擬患者として、コミュニケーションをとる中で自身の傾向をプロセスレコードで振り返り、関係構築に必要な要素や対象者に必要な援助について考えることができるように支援した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 基礎看護学実習Ⅱは、2 年次前期必修科目 2 単位の実習形式で行う。COVID-19 の影響により、病院での臨地実習と学内での実習と併用した形式だった。病院での実習では、時間制限もあり、感染予防の徹底と臨地実習の緊張が強かったため、学生の不安の軽減を図りつつ実際に療養生活を送る受持ち患者の看護について、実習指導者と調整を図りながら実習指導を行った。学内の実習では、3 事例のうち 1 事例を学生は受け持って実習をし、普段接することのない人を模擬患者として、電子カルテで情報を取り時間を区切ってコミュニケーションを取り全体像を描写、看護問題を挙げて計画立案し、援助を実施するという一連の看護過程の思考が整理できるよう助言、支援した。

授業科目名【看護総合演習】

看護総合演習は、4 年次前期・後期必修科目 2 単位の演習形式で行う。ゼミ生 5 名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、計画立案の指導を行った。また、実習後は、シミュレーターを使ってフィジカルアセスメントの復習をすることや実習成果の発表に向けた資料準備などを行った。併せて、次年度は看護師として働いていることを想定した意識づけや国家試験対策についても支援した。

授業科目名【看護総合実習】

看護総合実習は、4年次前期・後期必修科目2単位の実習形式で行う。ゼミ生5名が看護総合演習で立案した計画を基に、病院での実習もしくは学内での実習を行った。学生が自ら実習の中で看護師と調整をする、多職種との連携を考える機会とするなど目的意識を持って自ら学ぶ実習にすることを目指して支援した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員	選挙管理委員会委員（2021 年 7 月～2023 年）	1996 年 4 月～現在に至る
日本看護研究学会会員		2000 年 9 月～現在に至る
日本看護科学学会会員		2003 年 3 月～現在に至る
日本看護診断学会会員		2003 年 5 月～現在に至る
日本看護学教育学会会員		2005 年 4 月～現在に至る
日本看護技術学会会員		2010 年 4 月～現在に至る
日本看護倫理学会会員		2011 年 2 月～現在に至る
STTI 会員		2011 年 12 月～現在に至る
日本看護管理学会会員		2012 年 7 月～現在に至る
日本ラテックスアレルギー研究会会員		2015 年 4 月～現在に至る
特定非営利活動法人日本コクラ ンセンター		2019 年～現在に至る
日本看護福祉学会		2018 年 5 月～現在に至る
日本医療・病院管理学会		2020 年 2 月～現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) 『月刊アレルギーの臨床』2022年5月号 看護師のラテックスアレルギーに関する知識獲得の必要性	単著	2022年5月	北隆館 アレルギーの臨床 42 (5) P.48-P.53 (通巻 569 号)	即時型アレルギーであるラテックスアレルギーについて、医療従事者への周知は進んでいるものの具体的内容は不明瞭かつ個別に差が大きい。 看護師のラテックスアレルギーに関する知識内容について整理し、ラテックスアレルギー予防の啓発の機会とした。
メディカ出版看護師国家試験模擬試験執筆	単独	2022年度	メディカコンクール	数回にわたり、出版社から国家試験対策模擬試験問題の依頼を受け、基礎看護学に関して出題し、解説を行った。
研修会講師： 私が意識した科研費獲得の紹介	単独	2022年8月9日・10日	西南女学院大学 外部資金導入プロジェクト 科学研究費補助金の採択に向けて	西南女学院大学外部資金導入プロジェクトの取り組みで実施された研修会の講師を務めた。対象は、過去に科研費の申請経験のある准教授・講師である。科研費獲得に向けた要点を3つに絞り講演した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
ラテックスアレルギー予防に向けたタンパク質フリー天然ゴム素材の開発	文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	4,290,000 円	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
大学委員会：入学試験委員会委員 学科役割：1年生アドバイザー 学科プロジェクト 4年生アドバイザー その他：西南女学院大学保健福祉学部設置 30 周年キックオフ特別講演会（2022. 11. 23） 実行委員

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	金山 正子	職名	教授	学位	修士
----	-------	----	----	----	----

研 究 分 野	研究内容のキーワード
基礎看護学、看護教育	看護教育、看護倫理、看護実習、看護学生

研 究 課 題
看護学生の看護倫理に対する意識についての教育効果の研究

担 当 授 業 科 目
看護学概論、看護倫理、看護理論、看護技術論演習、看護過程論、診療関連技術論演習、生活援助技術論演習、ヘルスアセスメント演習、早期看護実習、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、看護総合演習、看護総合実習、看護学特論

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 看護学概論 】 1 年次前期に対面授業で実施した。看護の定義、看護の概念について、ナイチンゲールとヘンダーソンの看護に対する考え方について理解を深めるため、個人の課題レポートとグループワークを導入し、相互に学ぶ機会を設定した。また、看護事例を紹介し、理解を助ける工夫を行った。講義終了時に、練習問題と質問を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認し、授業に活用した。
授業科目名【 看護倫理 】 2 年次後期に遠隔授業を実施した。Classroomでの資料提示や連絡と教科書を使用し、看護者の倫理綱領、看護倫理の原則、倫理的課題、倫理的意思決定の方法などの基礎的知識の修得をめざした。また、事例検討では、グループワークと発表を行い、相互に学ぶようにした。講義終了時に、練習問題と質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の意識や反応を確認し、授業に活用した。
授業科目名【 看護理論 】 3 年次前期に選択の受講者に授業を実施した。看護理論のテキストにそって、主要な看護理論家の看護理論の特徴と看護実践への活用について概説し、課題レポートで理論の特徴と活用について考える機会を作った。また、講義終了後に質問・感想を記入する出席カードを提出してもらい、学生の学びを確認するようにした。
授業科目名【 看護技術論演習 】 1 年次前期に対面授業により、複数の教員で担当した。実習室では、手洗いなどの感染予防対策を厳重に行い、ベッドメイキング、シーツ交換などの技術を指導し、技術試験を実施した。自己練習の時間もあり、学生は、短時間でベッドメイキングを効果的にできるようになっていた。

授業科目名【看護過程論】 2年次前期に対面授業で、主に看護過程論のグループ学習を担当した。学生の学習内容を把握し、事例患者の理解や情報整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案などのプロセスに従って、助言や指導、提出物へのコメントなどを工夫した。
授業科目名【生活援助技術論演習】 1年次後期に、対面授業により、複数の教員とともに実施した。技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。
授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 1年次後期に、複数の教員でヘルスアセスメント技術への指導を行った。演習では、手順とともに根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行った。また、フィジコやシナリオなどのシミュレータを活用して、呼吸音・心音・腸音などの聴診技術を学び、また、時間外のバイタルサイン測定の自己練習などにおいて、学生が効果的に活用することができた。
授業科目名【早期看護実習】 早期看護実習は、看護への動機づけをはかる目的で、1年次前期の6月に実施した。市内の感染状況により臨地実習の受け入れ可能な施設で、89名の学生全員が1日は臨地実習の体験ができるように、調整を行った。また、学内実習では、臨床現場の実践について、病院や在宅、高齢者施設、認定看護師や専門看護師の活動、個人情報の保護などの看護師の活動について、講義や動画、また、コミュニケーション演習やベッドメイキングの技術練習などを企画し、グループで意見交換と発表、課題レポートにより、学びが深まるようにした。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 1年次生2月の1週間の実習である。臨地実習が困難なため、感染予防策を厳重に行い、学内実習を行った。臨地実習の実践の方法を考慮し、実習室を病室とみなし、2人の教職員が模擬患者となり、学生が患者訪問をして、コミュニケーションをとる形式をとった。学生は患者の情報収集やニーズの把握、コミュニケーションの取り方やプロセスレコードの記載・分析などを行い、教員は助言や指導を行った。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 2年次生は、感染状況により、実習施設での人数調整が必要であり、9月は臨地実習を実施したが、2月は臨地実習が困難なため、学内実習を行った。2月の学内実習では3人の模擬患者を設定し、模擬電子カルテを活用して、受持ち患者の看護過程にそって情報収集・アセスメント・全体像の把握・看護問題の抽出、計画の立案を行った。看護技術の実施では、模擬患者に看護技術を提供する計画を立案し、実習室で発表会を行った。看護過程の思考・判断と看護技術の実施について、円滑に進むように助言を行った。
授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】 看護総合演習は、4年次に対面により実施した。日常生活援助技術を中心に課題学習を行い、テーマを設定して実習計画を立案し、実習室で相互に看護技術の演習・実習を行った。 看護総合実習は8月に、2人が臨地実習を実施した。3人はやむを得ない事情により、臨地実習ができなかったが、学内実習を行った。学内実習では、模擬電子カルテを活用して、アセスメント・看護計画の立案を中心とした看護過程にそった学習を進めた。また、全員で学びを共有する発表会を行い、看護観の形成につながるようにした。
授業科目名【看護学特論】 4年次後期の選択科目において、看護実践における看護倫理について講義した。看護倫理の課題と看護職の倫理綱領の改訂など、最新の知識と今後の課題について講義内容に含めた。また、国家試験の過去問題を参考にして、各自の知識を確認した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会 日本看護科学学会		1990年～現在 1990 年-2012 年、2014 年～現在

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等
西南女学院大学 認定看護管理者教育 課程 ファーストレベル	講師	2022年6月
西南女学院大学 認定看護管理者教育 課程 セカンドレベル	講師	2022年9月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教務委員会委員 4年生アドバイザー 認定看護師教育課程検討委員 その他：【文科省】「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業(メニュー2A)実習等に資するシミュレータ等のDX設備整備」(9,592千円)に関するシミュレータ等の設備整備と活用

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	木村政伸	職名	教授	学位	博士 (教育学)
----	------	----	----	----	----------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
近世教育史	識字教育 連合運動会 文字社会

研 究 課 題
近世社会における文字学習の社会史的研究 明治期中等教育における運動会・運動部の社会史的研究

担 当 授 業 科 目
教育原理 教職概論 教育課程論 教育方法論 教育実習事前事後指導 初年次セミナー 看護総合演習

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【教育原理・教職概論・教育課程論・教育方法論】 ・毎回の授業の感想を書いてもらい、その内容を次回にフィードバックした。 ・多くの視聴覚教材を準備し、授業にリアリティを持たせるようにした。
授業科目名【教職概論・教育課程論・教育方法論】 ・半分の授業でグループワークを実施し、その成果を報告書として提出するようにした。 ・視聴覚教材やグループワークの成果を事前に提示し、それを予習してくることを前提とした反転授業を実施した。
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
教育史学会	理事（～2025）	1981 年
九州教育学会	会長（～2023）	1981 年
全国地方教育史学会	幹事（～2023）	1981 年
日本教育学会	理事（～2023）	1987 年

2022 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 教室の灯は希望の灯― 自主夜間中学「福岡・よ みかき教室」二五年	単	2022 年 6 月	福岡県人権研究所	1997 年に開校した自主夜間 中学・福岡よみかき教室（22 年 8 月から呼称）の 25 年間の 歩みをまとめたもの。22 年 4 月に福岡市立福岡きぼう中学位 の開設に併せて、公立夜間中 学校設立を求める運動と、そこ で展開された学びの姿を学校の 教材として使えるようにまと めた。
（学術論文） 明治後期新潟県におけ る中学校の地域代表性 の獲得 ―連合運動会をめぐる 言説の検討を通して―	単	2022 年 5 月	全国地方教育史学会、 『地方教育史研究』43	明治後期新潟県において2度 開催された県内中等学校を網 羅した連合運動会の実施経緯 をたどり、この連合運動会を経 て各地の中学校が地域の代表 性を獲得したことを明らかに した。
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
自主夜間中学・福岡よみかき教室	代表	なし

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教職課程委員長

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 財津 倫子	職名 講師	学位 博士(看護学)(大分県立看護科学大学 2023年)
----------	-------	------------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
・看護教育学→ ・成人看護学→	看護大学生、臨地実習適応感、アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研究課題
看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、実習適応感については論文をまとめた。続いてアタッチメントスタイルと実習適応感の関連について調査を行い、結果を論文にまとめた。今後は、実践を行い、データを整理する予定である。 成人看護学(急性期)に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

担当授業科目
クリティカルケア看護学(前期:看護学科) 成人看護学演習(前期:看護学科) 看護研究(前期:看護学科) 健康教育論(前期:看護学科) 保健福祉学入門(前期:保健福祉学部全学科) 看護学(後期:栄養学科)←開講なし 成人急性期看護方法論(後期:看護学科) 成人急性期看護学実習(後期:看護学科) 看護のための臨床検査(後期:看護学科) 看護総合実習・演習(前期・後期:看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 クリティカルケア看護学 】4年生前期 1. 危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。 2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。
授業科目名【 成人看護学看護過程演習 】3年生前期 <講義> 1. 事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても解説する。 <看護過程> 1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。 2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。 3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。

4. 個人ファイルも作成するため、個々にできていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。 <看護技術：周手術期の看護> 1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。学生が、ベッド毎に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、時には質問も交えながら、自分で考え理解しやすいようにした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。 2. ①深部静脈血栓症の予防として、弾性ストッキング装着の実践。フットポンプの装着。②JVACの仕組みについての解説と実践。①②が学べるブースを作り、時間ごとに移動し全員が実践しながら学べるよう工夫した。
授業科目名【 看護研究 】3年生前期 1. 担当部分を4名の教員が講義を行い、それを受けた形でグループワークをおこなった。 2. 研究テーマの選定から、論文検索、研究計画書の作成、依頼文・承諾書・調査票の作成、英文要約、文献を整理し発表までを行った。
授業科目名【 健康教育論 】2年生前期 1. 理論の講義から指導案・パンフレット作成、発表までの実践を行った。 2. 2年生が対象であり、パンフレットの構成を考えることは、まだ難しいと考えた。事例を提示し、どのような項目でパンフレットを作成するかはあらかじめ伝え、その項目内容で個性をふまえるとどのように説明をすれば相手が理解しやすいのか、相手にわかりやすくするためにはどのような工夫が必要かを、自らで考えて気づくことが出来るような授業とした。指導案を作成し、パンフレットを作成するだけでなく、指導を受ける側（患者体験）も経験させ、客観的に自己を振り返る機会（自己評価表の配布）を設けた。
授業科目名【保健福祉学入門】保健福祉学部全学科1年生前期 1. 看護領域について、そして看護研究について興味を持ち楽しく理解できるような講義内容とした。 2. 専門領域ではないと興味は半減するであろうと考え、写真を多く用い、体験談を伝えた。 3. レポートでは、看護研究をどのように感じたか、学びや気づきを問うた。提出されたレポートは、ルーブリックを使用し採点した。
授業科目名【 成人急性期看護方法論 】2年生後期 1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。 2. レジメの重要なポイントは赤く反転させ、学生が重要な箇所を自身でチェックできるよう工夫した。 3. 課題は、そのまま3年生の前期（看護過程）につなげるものとし、学びがつながるよう配慮した。
授業科目名【 成人急性期看護学実習 】3年生後期～4年生前期 1. コロナ禍により臨床実習が行えない施設もあったが、2グループを除き臨地実習を行うことができた。 2. 知識の上でわからなければ、どこに（教科書や参考書や事前課題）戻ればいいのかを伝え、自分で考えることが出来るよう導いた。また、質問しやすい雰囲気を作り、グループ間そして教員へもわからないことがあれば質問・確認ができるように、必ず学生に所在を伝えた。 3. 直接指導に当たる教員と毎日コンタクトをとり、各学生の目標やゴールを定め、協力して指導を行った。 4. 担当患者さんが、気になることや大学側に伝えたいことがあれば、いつでも伝えられる機会を持てるよう、担当教員に、毎日実習開始前と終了時に挨拶に伺うようお願いした。 5. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。 6. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をすべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にした。

授業科目名【 看護のための臨床検査 】2年生（後期） 1. 担当部分を3名の教員が講義を行い、前（知識確認テスト3分）後（小テスト3分）を実施した。 2. 章が終わるごとに、国家試験問題を出題し、学生解答させることで、全員が自身の理解度を確認できる機会を必ず設けた。 3. 演習では、心電図の波形が出る人形を用い、グループごとに12誘導の装着を体験した。装着のポイントを学ぶとともに、装着される患者の気持ちも考えることができる機会を設けた。	
授業科目名【 看護総合実習・演習 】4年生（通年） 1. コロナ禍にて臨地実習は行えなかったが、3年生の各論実習（学内対面）における患者役や指導する役割を担いながら、学びが得られるよう実習を組み立てた。事前課題として、3年生に指導を行う技術項目について、その目的・根拠・注意点をレポートにまとめて提出させた。ICU・OP室実習では、4年生は技術指導が行えるように事前に練習を重ね（事前に技術チェックを実施した）、教員監督のもと技術指導を行った。手術直後の観察・手術後の清拭・手術後の離床・退院指導においても事前に技術練習に取り組み知識を得て、教員監督のもと患者役や指導を行いながら学びを深めた。また、実践後の後片付けも看護師の大切な仕事であり、その体験もできるように配慮した。 2. 文献研究・ケースレポートにおいては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、週に1度ゼミ日（遠隔）を設けて、完成まで指導を繰り返した。 3. レポート作成終了後、パワーポイントで（10分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催（質疑応答5分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。	

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会 日本運動器学会（日本整形外科 看護研究会より改名） 日本看護科学学会 日本看護学教育学会会員	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2004年12月～現在に至る 2005年6月～現在に至る 2007年3月～現在に至る 2015年12月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 財津倫子	単著	2022	日本看護学教育学会 誌, 32 (1), 27-38	看護学生のアタッチメントスタイルと実習適応感の関連を検討し、個人特性に応じた学生への実習指導を可能にする視点を提示した。
高橋甲枝, 坂本末穂, 財津倫子, 大嶋満須美: ストーマ装具を装着した看護学生の生活体験からの気づき	共著	2023.3	西南女学院大学紀要. 27 (in press)	本研究の目的は、演習による模擬ストーマとストーマ装具を装着した看護学生の日常生活体験からの気づきを明らかにすることである。看護学生3年生105名を対象に装具装着を1

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				日間体験後、提出された課題レポートの記述内容について質的帰納的分析を行った。 学生が患者疑似体験からストーマ造設患者の困難を知ることは、患者に共感し、患者理解の深まりとともに必要な看護を考える上で有用な体験であったと考える。
(翻訳)				
(学会発表) 看護学生のアタッチメントスタイルの傾向とその課題	単著	2022年12月3・4日	日本看護科学学会学術集会（ポスター）	①看護学生のアタッチメントスタイルの傾向を明らかにし、その課題を提示した。 ②財津倫子

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

3年生ゼミアドバイザー(2019年4月1日～継続中)

1. 学生を5クラスに分け、名簿を作成。それぞれのクラス委員長を決定後、連絡網の作成。
2. 前期及び後期に1回ずつ担当クラスメンバーに面接（対面）を実施。
3. 各論実習前に模試を対面で実施。同時にアンケート調査も実施した。
5. 11月に、保護者懇談会（遠隔および対面）を実施（COVID19禍における講義・演習・実習をどのように実施して いるかを説明・模試結果報告・就職活動について）
6. 各論実習期間中に担当クラスの学生に問題があれば、その都度対応（保護者を交えての面談等）
7. 8月8日（月）各論実習前知識確認模試、1月6日（金）に実習後知識確認模試を実施。

看護総合実習（BLS 受講調整：2017 年 4 月 1 日～継続中）

1. 受講料は、COVID19 の状況を踏まえ、後期の学費で追加納入（会計課へ3月に受講者名簿をメール送信した）。
2. 4月初旬に博多トレーニングセンターの担当者に連絡し、受講日の調整を行った。
3. 実習室の予約及び施設使用願いの提出
4. 受講者の名簿作成（英語記およびメールアドレスを入れたもの）
5. 知識面はオンラインでの受講を選択した（2021 年度より開設される）。オンラインパートへのアクセス方法は、直接博多トレーニングセンターからメール送信されたが、アクセスできない学生については大学が対応した。
6. 技術の受講日と就職試験日と重なる学生から報告が来るため、博多トレーニングセンターへ欠席の連絡を入れた。学生には、直接トレーニングセンターで受講できる手続きについて説明した。
7. 受講日当日の9月17日（土）は、8時30分からの開始であるが、当日に BLS 人形等の搬入があるため、7時から搬入が 開始された。体温測定及び出欠確認は、博多トレーニングセンター（インストラクターが担当）が実施。欠席者（事前連絡あり：受験等）あり。
8. インストラクターに受講中の写真撮影の許可を得て、写真撮影を行い、ブログ UP の準備を整えた。
9. コロナ禍にあり終了時、機材の消毒を実施した。

実習コーディネーター(2018 年 4 月 1 日～継続中)

1. COVID19 禍における臨地実習が可能であるかを、実習病院へ必要時メールにて確認を行った。指導者会議の調整も行った。
2. 各論実習前のオリエンテーション運営（第1回）と、「個人情報取り扱いと SNS 利用について」スライドを用いて説明した。さらに、手指消毒液やポシェットの配布。
3. 実習誓約書作成（学生）に向けた調整
4. 2023 年度の実習病院（2 病院）の実習配置を作成し調整（他大学）後、病院へ提出。
5. 2023 年度の実習配置表作成。

公開講座委員（2022 年 4 月 1 日～継続中）

1. 4月21日（木）第1回会議にて委員長や副委員長の選出。シニアサマーカレッジ開催が決定し、テーマは、「躍進の夏・西南の夏」に決定した。
2. シニアサマーカレッジの講師2名を学科長と協議し選出後、当人へ依頼した。
3. 10月13日（木）第2回会議にて、シニアサマーカレッジ後の振り返りを行った。

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	笹月桃子	職名	教授	学位	医学博士 (九州大学)
----	------	----	----	----	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
・小児緩和ケア ・小児の生命倫理 ・小児の臨床倫理	子どもの最善の利益、尊厳、代理意思決定、協働意思決定、きょうだい支援

研 究 課 題
1. 自身の意向を表明できない胎児・新生児・小児・障害児のいのちに関わる医療の方針決定に際する医療者と家族の協働意思決定はいかにあるべきか 2. 自身の意向を表明できない胎児・新生児・小児・障害児の代理意思決定とはいかに可能か 3. 自己決定概念が基盤にある現代医療において脆弱な立場に置かれた子どもの最善の利益、尊厳はいかに捉え得るか 3. 重篤な病態や重度障害を抱える子どものきょうだいの心理社会的体験とは何か・支援はいかにあるべきか

担 当 授 業 科 目
・看護形態機能学Ⅰ ・看護形態機能学Ⅱ ・初年次セミナーⅠ ・初年次セミナーⅡ ・医療と倫理 ・疾病学各論Ⅱ：小児科 ・緩和・終末期看護：小児緩和ケア ・キリスト教と生命倫理 (助産別科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ 】 身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。 復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。後期に実施した解剖実習見学を通じて、いのちへの畏敬の念と医プロフェッショナルとしての覚悟を自身の内に芽生えさせ、自覚できるよう、綿密な事前事後学習の上で実習に臨めるよう支援した。
授業科目名【 疾病学各論Ⅱ：小児科 】 範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【 医療と倫理 】 一方向性にならないよう、医療をめぐる倫理的な課題について、折々に意見を求めながら講義を進めた。映画を鑑賞し、物語の中からそれまでの講義で学んだ倫理的な課題の抽出を試みさせた。また投票システム等を利用し、思考問題を提示し、課題を自分ごととして考えながら、同時に他者の意見や思索を聞く機会とした。正解を示すのではなく、今後医療者として倫理的課題に対峙した際の思考アプローチを示すよう努めた。
授業科目名【 緩和・終末期看護学：小児緩和ケア 】 子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。

授業科目名【 初年次セミナー I・II 】

初年次セミナーI

- ①昨年度の課題であったグループ学習については、グループ学習導入として講義3回目に学生の交流を図る場を1コマ設けた。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会を増やした。
- ②学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式（構成）と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。
- ③「問いたて」を起点とした思考の展開を促し、併せて「文章の構成」を意識できるよう、新規ワークシートを作成した。
- ④担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

初年次セミナーII

- ①初年次セミナーIIでは、初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。
- ②学習内容・進度にあわせた講義進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。
- ③プレゼンテーションの評価表について、評価表の見直し・修正を行った。
- ④発表時の評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑤プレゼンテーションの後、学生・教員による評価を行い、優秀賞と準優秀賞を選出し発表の場を設けた。また、グループ別に評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【 キリスト教と生命倫理 】（助産別科）

出生前診断や重篤な病態・重度の障害を抱える新生児の治療中止等をめぐる現代の周産期医療現場の課題を共有した。その上で、医療者としてそこで生じる倫理的ジレンマにいかに対峙するか、どのように妊婦・母親・家族と協働するかについて考察する機会とした。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児科学会	日本小児科学会専門医 倫理委員会委員（2020年～）	1994年～ 1998年～
日本小児神経学会	第58-65回日本小児神経学会学術大会実践教育 セミナー企画責任 第59-63回日本小児神経学会学術大会シンポジウム 企画責任	2010年～ 2015年～
日本小児血液・がん学会	教育研修委員会（緩和ケア等事業委員会）委員（2015年～）	2015～2021年
日本緩和医療学会	日本緩和医療学会緩和ケア研修指導者（2011年～） 将来構想委員会 小児緩和ケアWPG員（2014年～）	2015年～

日本生命倫理学会	第 28 回日本生命倫理学会年次大会プログラム委員 第 30-33 回同大会シンポジウム企画者 新生児・小児部会 幹事	2016 年～ 2021 年～
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士 上級倫理認定士 上級倫理委員会委員	2016 年～ 2021 年～ 2021 年～
日本医学哲学・倫理学会 九州医学哲学・倫理学会 日本重症心身障害学会		

2022 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 緩和ケア 小児神経領域における緩和ケアの いまとこれから	共著	2022.06	難病と在宅ケア 28 巻 3 号	笹月桃子, 吉良龍太郎 P41-44
(学術論文) Critical vitamin deficiencies in autism spectrum disorder: Reversible and irreversible outcomes.	共著	2022.11	Eur J Clin Nutr. 2022 Nov;76(11):1618-1621.	Chong PF, Torio M, Fujii F, Hirata Y, Matsuoka W, Sonoda Y, Ichimiya Y, Yada Y, Kaku N, Ishimura M, <u>Sasazuki M</u> , Koga Y, Sanefuji M, Sakai Y, Ohga S.
(翻訳) なし				
(学会発表) 子どものいのちをめぐる「意思」とは、「決定」とは、「支援」とは何か シンポジウム：終末期を見据えた話し合いを子ども本人とどのように進めるか? 重度の障害のある同胞と暮らすきょうだいの心理社会的体験～当事	単 共	2022. 4. 15 ふくしま hybrid 開催 2022. 6. 25 三重	第 125 回 日本小児科学会学術集会 第 69 回日本小児保健協会学術集会	 樋口由貴子、 <u>笹月桃子</u> 、山本佳代子、文屋典子、野井未加

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
者の語りの分析から～				
いのちをめぐる「代理意思決定」はいかにあり得るか シンポジウム：言葉で意向を伝えることができない患者の意思決定について考える～小児と高齢者における意思決定の類似点と違い～	単	2022. 7. 1 神戸 hybrid 開催	第 27 回日本緩和医療学会学術集会	
九州大学病院小児緩和ケアチームにおける活動報告 子どもたちが一番良い最期を迎えるための多職種での取り組み（一般口演）	共	2022. 7. 1 神戸 hybrid 開催	第 27 回日本緩和医療学会学術集会	古賀 友紀, 横山 智美, 東 加奈子, 武本 淳吉, 若杉 陽子, 小笠原 貴子, 池田 世里奈, 清水 絵里花, 副嶋 綾子, 野母 ゆかり, 上野 ふじ美, 北村 佳代子, <u>笹月 桃子</u>
大きな言葉の前に立ち止まる シンポジウム：看護師さん、ねえ、見て、聞いて ～日々の実践で子どもの権利を守ること～	単	2022. 7. 9 福岡 hybrid 開催	第 32 回日本小児看護学会学術集会	
新生児のいのちをめぐる「代理意思決定」とは何か 教育講演（特別セッション）	単	2022. 7. 12, 横浜 hybrid 開催	第 58 回日本周産期・新生児医学会学術集会	
子どもを亡くした遺族に関わる医療福祉等関係者のグリーフに関する認識と遺族支援の現状	単	2022. 08 福岡	第 29 回日本家族看護学会学術集会	藤田紋佳, 濱田裕子, <u>笹月桃子</u> , 植木 慎悟
子どもの最善の利益と代理意思決定 特別講演	単	2022. 9. 3, web 開催	第 13 回 九州医学哲学・倫理学会学術大会	
医師はいかに「最後の砦」たり得るか 大会企画シンポジウム：安楽死問題における〈当事者〉とは誰か？	単	2022. 11. 19, 大阪 hybrid 開催	第 34 回日本生命倫理学会年次大会	
「代弁」の困難性の実体を探る ワークショップ：代理	単	2022. 11. 20 大阪 hybrid 開催	第 34 回日本生命倫理学会年次大会	

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
意思決定を再々考する 一関係性の内にある弱 き存在をいかに支え得 るか				
小児医療における倫理 的課題と話し合い 子どもの声は届いてい ますか～子供にとって の「最善の利益」を考え るために～	単	2023. 1. 7 web 開催	日本小児看護学会 倫理委員会企画 研 修	
子どもの最善の利益を めぐる議論の構造とこ れから シンポジウム：小児の End of Life Care～子ど もの最善の利益とは？ ～	単	2023. 3. 3 京 都	第 50 回日本集中治療 医学会学術集会	
子どもの最善の利益を 追究する「話し合い」の 課題と可能性 日本小児科学会に求め られる倫理とは？～小 児医療において今求め られる生命倫理・臨床倫 理～	単	2023. 3. 4 web 開催	第 13 回日本小児科学 会倫理委員会公開フ ォーラム	
教育講演：小児医療と臨 床倫理	単	2023. 3. 19 東京	第 10 回日本臨床倫理 学会年次大会	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は 学外者	交付決定額 (単位：円)

子どものいのちに関わる協働意思決定の実態調査研究～小児科医と家族の対話の構造化～	科学研究費補助金・基盤研究(C) 2021-24	○笹月、(酒井、板井、加部、櫻井、松岡)	代表 4,030,000
小児緩和ケアの対象となる子どものQOL向上に向けた看護師教育プログラムの開発	科学研究費補助金・基盤研究(B) 2019-23	(○松岡、奈良間、川合、岡崎)、 <u>笹月</u>	分担 (総15,730,000)
子どもを亡くした家族のビリーブメントプログラム開発	科学研究費補助金・基盤研究(C) 2021-24	(○藤田、濱田)、 <u>笹月</u>	分担 (総3,770,000)
小児からの臓器提供にかかる基盤整備と普及・教育システムの開発に関する研究	厚生労働科学研究費 2021-24	(○荒木、種市、多田羅、他)、 <u>笹月</u>	分担 (総9,685,000)
新生児臨床倫理コンサルテーションシステム構築及び新生児医療の倫理的判断基準の検討	国立成育医療研究開発費：2021-23	(○賀藤、高橋、掛江、加部、横野、武藤、稲森、瀧本)、 <u>笹月</u>	分担 (総1,232,000)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期間等
・厚労省委託事業、現在日本緩和医療学会及び日本小児血液がん学会 共催事業、「小児科医のための緩和ケア教育プログラム：CLIC」	プログラム作成・コアファシリテーター・講師	2010年～現在に至る 年に2～4回定期開催継続中
・新生児生命倫理研究会	世話人	2019年～現在に至る
・九州大学病院小児緩和ケアチーム及び小児倫理コンサルテーション	医師	2015年4月～現在に至る
・福岡市立こども病院	倫理委員会外部委員 非常勤医師	2018年4月～現在に至る
・研究支援（学会雑誌論文査読）		

・九州大学医学部小児科 ・中村学園大学栄養科学部栄養科学科 ・立正大学哲学科	非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	2017 年度～：小児臨床倫理の講義 2019 年度～：小児疾病の講義 2022 年度：著書（反延命主義の時代）に沿った講義
・厚労省小児がん拠点病院等の指定要件に関するワーキンググループ	WG 員	2021. 11. 3
子どものいのちをめぐる「代理意思決定」について考える 久留米大学病院 2022 年度第 2 回緩和ケアセンター勉強会	以下、招待講演	2021. 4～
重篤な疾患を抱える子ども・家族との対話 コールメディカルクリニック福岡 小児緩和ケア研修会		2022. 8. 4 web
いのちをめぐる問い 修猷館高校出前授業		2022. 10. 3 web
小児緩和ケアと意思決定支援 第 1 回 相談支援研修会 第 7 回 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会相談支援部会		2022. 11. 3 福岡
子どものいのちをめぐる代理意思決定について考える シンポジウム：自分らしく人生を全うするために～人生の最終段階の医療・介護のあり方を考える～ 日本弁護士連合会		2023. 1. 6 web 開催
意向表出のできない子どもの代理意思決定支援 日本小児血液がん学会・日本緩和医療学会共催 2021 年度 小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会	企画・講師	2022. 12. 17, 2023. 3. 19 web 開催
学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）		
倫理審査委員会 委員 2018 年～、同委員長 2022 年～ 保健福祉学部附属研究所 運営委員 2018 年～ 学生総合支援室 室長 2021 年～ 看護学科 国試対策強化学習講義		

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	隅田由加里	職名	講師	学位	修士 (看護学) (産業医科大学 2017 年)
----	-------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護管理 基礎看護学	看護実践能力、看護経験 1~3 年看護師、人材育成 看護学生、看護教育、協同学習、ジグソー法、診療に 伴い看護技術、コミュニケーション

研 究 課 題
・経験 1~3 年の看護師の看護実践能力を向上に影響を与える要因とその関連について検討をすすめる。 ・ジグソー学習法を活用した協同学習を診療に伴う看護技術演習に導入し、その学習効果の検証を行う。

担 当 授 業 科 目
・看護マネジメント総論 (後期必修) ・看護マネジメント論 (前期選択) ・診療関連技術論 (前期必修) ・看護技術論 (前期必修) ・生活援助技術論演習 (後期必修) ・ヘルスアセスメント技術演習 (後期必修) ・看護過程論 (前期必修) ・基礎看護学実習Ⅰ (後期必修) ・基礎看護学実習Ⅱ (前期必修) ・看護総合演習 (通年必修) ・看護総合実習 (通年必修) * 全て看護学科科目

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 看護マネジメント総論 】 2 年後期必修科目。本科目は経営・経済的なハード的要素と、人間関係構築のようなソフト的要素を含む組織管理の授業のため、対患者との関係から看護の学習を深めてきた学生にとっては、組織やマネジメントはイメージしにくい。また理解すべきマネジメント用語も多いため、可能な限りわかりやすい言葉を使用し、日常の生活の中に存在する身近なマネジメントともリンクさせながら、マネジメントとは何かという導入から開始し、今の医療現場の状況を踏まえながら授業を展開し理解向上に努めた。現在の医療において重要性が高い「医療安全」は国家試験にも複数出題されるため、講義内に「医療安全」の単元を設け、動画等の視聴を活用してヒューマンエラーの理解と医療安全対策の必要性を教授した。授業終了後は、出欠確認を含んだ質問 foam アンケートを毎回実施し、学生の質問には翌週回答、もしくは個別対応を行った。
授業科目名【 看護マネジメント論 】 4 年前期選択科目。対象学生は看護総合演習・実習で「看護管理」を選択した 4 年生が中心のため、看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、実習部門を例にして、2 年次の「看護マネジメント総論」での学びを活用しての看護サービス管理と、それをもとにした看護ケア管理を軸に授業を構成した。授業は講義と演習方式とし、2 チームで同課題をグループ学習し、課題発表を通して意見交換が行えるように配慮した。これによって質の高い医療・看護が全ての患者に提供されるまでのプロセスを思考できるように配慮した。本授業は最後の各論実習期間と合致するため、選択している学生の実習日等を配慮し、履修学生全員が参加

できるよう日程の調整を図った。

授業科目名【 診療関連技術論演習 】

2 年次前期必修科目。1 年次後期必修科目の「生活援助技術論演習」での学びが活用できるよう、演習スケジュールやワークシートなどの媒体等の統一を図った。授業は「呼吸管理技術（酸素吸入、口腔・鼻腔内吸引）」「体温調整の技術（罨法）」「検査の技術（静脈血採血）」「与薬・輸血の技術（点滴作成と管理、筋肉内注射）」「皮膚・創傷管理技術（包帯法）」を教授した。各技術は講義後に演習を行い、講義から演習までの期間は自主学習が行えるよう、Google classroom 内に動画媒体を導入し繰り返し視聴できるようにした。また形態機能学の知識の振り返りを事前・事後学習として推奨し、その学びが活用できるよう配慮した。演習は感染防止に配慮し、学生を 2 つのクラスに区分し密を回避して実施した。入室と退室場所を決め、入室時は健康チェックを行い、入れ替わり時の交差感染リスクに配慮した。課題である実技試験に関しては、学生が実習で遭遇する機会の多い 3 技術を選択し、練習期間を約 1 か月設け、基礎看護学教員で技術習得支援を行った。また試験は技術のみでなく基礎知識の修得として口頭試問も含め実施した。

授業科目名【 看護技術論 】

1 年次前期必修科目。科目責任者と事前調整を図り、「感染予防技術（スタンダードプリコーション）」「安全を守る技術（ボディメカニクスとポジショニング）」「環境調整技術（ベッドメイキングとシーち交換）」の演習では、履修学年である 1 年生が理解できるよう、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントを思考できるよう心がけた。

授業科目名【 生活援助技術論演習 】

1 年次後期必修科目。科目責任者とは、限られた時間の中で教授すべき技術ポイントの事前調整を図り演習に臨んだ。演習では「活動と休息（車椅子操作）」「清潔（足浴、洗髪台での洗髪）」「食事（口腔ケア）」「排泄（オムツ交換と陰部洗浄）」を教授し、可能な限りわかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。

授業科目名【 ヘルスアセスメント技術演習 】

1 年次後期必修科目。他の演習科目同様、感染防止に配慮し、学生を 2 つのクラスに区分し密を回避して実施したため、主に演習時間ではない学生の予習・復習支援を実施し、基礎看護学教員間で役割分担を行い、可能な限り学生の学びが効果的になるよう配慮した。主にバイタルサインの「体温測定」「脈拍測定」「呼吸測定」「血圧測定」に関しては、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。実技試験の評価時は、公平性を担保できるよう時間を調整し、評価ポイントに準じて実施した。

授業科目名【 看護過程論 】

2 年次前期必修科目。1 グループ 6 名で構成された 3 グループ 18 名を担当し、事例を基に一連の看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を、可能な限りわかりやすく具体例などを活用しながら教授した。この科目は、その後の基礎看護学実習Ⅱ、3 年次の各領域別実習でも必要となる基礎知識であるため、学生が興味を持ち、看護展開が学習への継続意欲となるよう、肯定的な言語を活用し承認を意識したコミュニケーションを図った。これによって不明点等を相談しやすい雰囲気づくりに努めた。授業終了後は、担当教員間で Meeting を開き、各グループの学習活動の進捗状況やグループ内学生の理解度、グループワークを進めるにあたっての課題の有無など、教員間の情報交換と情報共有を行った。

授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ 】

1 年次後期必修科目。実習は COVID - 19 の影響で学内実習となったが、既習の知識およびコミュニケーションを通して、看護の対象（模擬患者）を生活者として理解し、生活上のニーズを見出す能力を養う。自身の対象との関わりを通して、看護者としてあるべき姿勢・態度について考え、自己の課題を明確にするという 2 の目的が達成できるよう、早い段階から日程やスケジュール等を基礎看護学教員間で調整し学内実習に臨んだ。具体的には 2 つの事例を作成した。学生は 1 グループ 6 名で配置し、さらにこのグループを 3 名の小グループに分け、模擬患者を全学生が訪問しコミュニケーションを図ることができるように配慮した。極力病院施設と類似した体験ができるよう、基礎看護学教員が看護師役等に分かれ、学習支援が円滑に行えるようにし、生活上のニーズを見出すためのワークシートも改良し教授した。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】

2 年前期必修科目。COVID - 19 の影響で病院側の受け入れ状況に差異が生じ、当初の予定通り 9 月に病院実習が行えたのは 40 名であった。またこの 40 名の実習も午前実習のみであったため、午後は大学に戻り目的・目標の達成にむけ、情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案、提供する看護技術実践過程を支援した。残る 54 名も 2023 年 2 月に病院実習が実現できるよう調整を図ったものの、やはり COVID - 19 の影響で学内実習となった。病院実習と同様の学びを実現するため、科目責任者をはじめ基礎看護学教員間で協議を重ね、学内実習を 2 月 17 日から 3 月 1 日で実施した。具体的には 3 つの事例を作成し、電子カルテ媒体を活用した。学生は 1 グループ 6 名で配置し、さらにこのグループを 3 名の小グループに分け、模擬患者を全学生が訪問しコミュニケーションと看護技術を提供できるよう配慮した。極力病院施設と類似した体験ができるよう、基礎看護学教員が看護師役等に分かれ、学習支援が円滑に行えるようにし、受け持ち患者の生活上のニーズを見出し看護技術提供につなげることができた。

授業科目名【看護総合演習】

4 年次前期・後期必修科目。看護総合実習の受け入れ施設からは終日の実習可能との返事をいただけたため、実習部門である「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「外科病棟」「内科病棟」における看護管理実習の目的・目標の立案に向け、週に 1 回ゼミを開催し、上記の部門に関する自主学習の学びを発表し学生間で意見交換を行いながら教員が補填する形式とし、8 月下旬までに実習目的・目標・実習スケジュール・評価指標を構築することができた。また実習終了後は実習での学びを卒業論文としてまとめ、2023 年 2 月には論文集の冊子作成が完了した。

授業科目名【看護総合実習】

4 年前期の 8 月 24 日～9 月 2 日までの期間の計 7 日間、「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「外科病棟」「内科病棟」の部門・部署の臨地実習を行うことができた。実習遂行にあたっては年度初めの 4 月から複数に渡って、教育担当看護副部長と調整を重ね、最終の実習指導者への説明会に関しては、本来は学生が行うが、COVID - 19 の影響もあり教員が代行説明を行うことで補った。実習開始 2 週間前から学生は自主的に行動を制限し、感染防止に努め実習に臨んだ。COVID - 19 の影響で、3 年次の殆どの各論実習が学内実習となっていた学生にとっては、「医療安全管理部」「感染制御部」「退院支援室」の実習を介して、様々な部門の医療や看護の現場を見学することができ、医療者とコミュニケーションを図れたことは貴重な経験となり、就職後のレディネスに役立つ実習となった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護技術学会		2017 年 4 月～現在に至る
日本看護学教育学会		2017 年 4 月～現在に至る
日本看護管理学会		2017 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会		2017 年 4 月～現在に至る
医療の質・安全学会		2022 年 8 月～現在に至る

2022 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 (教育運営委員役割) (フォーストレベル 質管理Ⅰ：看護サービス管理の安全管理授業担当)	教育運営委員	2017年より継続

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
・宗教委員 2022年4月1日～2023年3月31日 ・学生募集関連担当（ブログ等運営） 2022年4月1日～2023年3月31日 ・3年生アドバイザー 2022年4月1日～2023年3月31日 ・4年生アドバイザー 2022年4月1日～2023年3月31日 ・学力向上プロジェクト担当 2022年4月1日～2023年3月31日 ・認定看護管理者教育課程教育運営委員 2018年4月1日～2023年3月31日

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 高橋 甲枝	職名 准教授	学位 修士 (看護学)
----------	--------	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 がん看護	・ シミュレーション教育 ・ 乳がん患者の就業支援

研 究 課 題
・ がん患者の就労支援ニーズについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する ・ 術後の看護支援についてのシミュレーション教育研究

担 当 授 業 科 目
初年次セミナーⅠ (前期) 成人看護学演習 (前期) 救急・クリティカルケア看護学 (前期) 看護総合演習 (通年) 看護総合実習 (通年) 初年次セミナーⅡ (後期) 成人急性期看護方法論 (後期) 看護のための臨床検査 (後期) 看護学特論 (後期) 成人急性期看護学実習 (前期・後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ】前期 ① 昨年度の課題であった「問い」については、「問い」とは何かについて講義内容および課題シートの変更を行い、学生が思考のステップを踏むことができるようにした。また、ミニレポート・レポート作成の進行途中に意見交換の場を作ることでグループ学習の機会とした。 ② 学生の学習スキルをアップするために、ミニレポートではレポートの書式(構成)と文献検索スキルの習得を重点に、レポート作成では講義の流れを、考える・思考に重点におき授業を展開した。 ③ 担当教員5名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。
授業科目名【成人看護学演習】前期 ① 成人看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。急性期事例 (胃がん)、慢性期事例 (肝硬変) の 2 例を展開し、反転授業とした。 ② グループワーク人数を 5 名とし、個人ワークを行い、グループワークに反映するようにした。グループワークは小グループのクラスルームでグループワークができるようにした。 ③ 看護技術演習は、食事療法、血糖・インスリン、食事指導、術食後の観察演習、術後患者の清拭・離床を行った。実施後にディスカッションを行い、実践の根拠について検討を行った。実施する根拠の修得を目指してプログラムの修正を行った。ストーマ造設した患者の看護については、模擬便を入れて体験を行い、ディスカッションを設けた。さらに学生は 1 日装着体験を行う患者体験を行った。

授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】前期 集中講義 ① 2名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。 ② 集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明や挿管の看護について、患者体験と看護の根拠、看護師の役割について学びを深めた。 ③ 脳神経、運動器等を中心に救急・クリティカルケア場面についての解説を行った
授業科目名【看護総合演習】通年 看護総合演習では、5名の学生を担当した。 「急性期看護学実習」を想起させ、急性期における看護について「文献研究」を行った。学生は作成したレポートをもとに発表抄録作成、パワーポイントを用いた発表を行い、ディスカッションを通して急性期の看護について学びを深めていた。さらに、他者評価・自己評価を行うことができていた。
授業科目名【看護総合実習】通年 ① 看護総合実習では、周手術期の患者の理解と看護師の理解を深めるために、各自「実習目的、計画」を立案し、午前中臨地にて実習を行い、午後はカンファレンスを行った。 ② 濃厚接触者となった学生は、電子カルテを閲覧させて頂いたデータをもとに看護計画を立案し、学内にて模擬患者に対する観察、清潔ケア、離床の実施、退院指導を実施した。 ③ 最後に目標に対する学びの発表とディスカッションを行った
授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期 ① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた ② 初年次セミナーⅠで用いた課題発見やレポート作成計画書は引き続き活用し、グループ小冊子の構成を考えるためのワークシートについては、小冊子全体を効果的に捉えられるようにブラッシュアップした。 ③ 発表準備の時間を十分確保できるように、グループ小冊子作成までの流れを見直し、プレゼンテーションに充てる時間を1コマ増やした。 ④ 学習内容・進度にあわせて2コマ続きの講義も交えた進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。 ⑤ プレゼンテーションの評価表について、見直し・修正を行った。 ⑥ 発表時の評価は、担当者5名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。学生・教員による評価をもとに、優秀賞を選出し発表の場を設けた。
授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 成人急性期看護方法論は、2年次開講科目である。2人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、乳腺外科疾患で手術を受ける患者の看護、脳神経外科の術後の管理について解説を行い、視覚的に学習する機会を取り入れた。また、3年前期につながるように事例を用いて看護過程の展開に必要な知識について考えるような講義展開を取り入れた。新たに得た知識を用いることで、患者理解に繋がることを実感できるようにした。 本年度より、「人工呼吸器を装着している患者の看護」の単元を追加した。
授業科目名【看護のための臨床検査】後期 ① 昨年度に引き続き看護師3名にて担当した。放射線技師を外部講師として迎え1コマ放射線検査について説明を受けた。 ② 授業計画は、これまでの形態機能学、疾病学、そして成人急性期方法論、成人慢性期方法論との関連を意識して立て、系統別に講義を組み立て、講義終了後に小テストを実施し、学生の理解を確認しながら講義を行った。 ③ 検査データの基準値の定着のために毎回、知識確認テストを行った。 ④ 演習を取り入れ、シミュレーション人形を用いた心電図の装着と不整脈の講義、模擬尿での検査の実施と判断、呼吸機能検査の解説とマウスフィルタをくわえての患者体験の課題学習を取り入れた。

授業科目名【看護学特論】後期 8コマ（担当1コマ） 4 年次生を対象に各領域の教員で授業を行った。急性期看護の学びを深めるために、臨床検査・画像診断から得られた知見から「根拠にもとづいた看護」について考える機会とした。
授業科目名【成人急性期看護学実習】 ① 成人急性期看護学実習は本来 2 週間の臨地実習と 3 週目に ICU および手術室見学実習の 3 週間実習であるが、臨地実習は午前中 3 時間の臨地実習と午後は学内実習を行った。 ② コロナ禍での実習であるため、朝の健康確認を徹底して、体調の悪い学生は受診勧奨と学内での実習にて対応を行った。 ③ 臨地実習から急遽学内実習になることも考慮して、学内における代替実習の体制を整えた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		1987 年 4 月～（現在に至る）
日本公衆衛生学会会員		1995 年 5 月～（現在に至る）
日本看護研究学会会員		2004 年 7 月～（現在に至る）
日本看護科学学会会員		2004 年 7 月～（現在に至る）
日本看護技術員		2011 年 4 月～（現在に至る）
日本運動器看護学会会員		2015 年 2 月～（現在に至る）
日本看護教育学会会員		2021 年 1 月～（現在に至る）

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） 高橋甲枝，坂本末穂，財津倫子，大嶋満須美： ストーマ装具を装着した看護学生の生活体験からの気づき	共著	2023.3	西南女学院大学紀要. 27 (in press)	本研究の目的は、演習による模擬ストーマとストーマ装具を装着した看護学生の日常生活体験からの気づきを明らかにすることである。看護学生3年生105名を対象に装具装着を1日間体験後、提出された課題レポートの記述内容について質的帰納的分析を行った。 学生が患者疑似体験からストーマ造設患者の困難を知ること、患者に共感し、患者理解の深まりとともに必要な看護を考える上で有用な体験であったと考える。
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・ 学生委員：2022. 4. 1～2023. 3. 31 ・ 学科教務担当：2022. 4. 1～2023. 3. 31 ・ 4 年生（ゼミ）アドバイザー：2022. 4. 1～2023. 3. 31 ・ 看護学科プロジェクトメンバー ・ 看護学科プロジェクトワーキンググループ（学力向上ワーキンググループ、科目運営ワーキンググループ） ・ 保健福祉学部 設置 30 周年キックオフ特別講演会 担当者

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	長崎 恵美子	職名	講師	学位	修士 (保健看護学) (川崎医療福祉大学 2016 年)
----	--------	----	----	----	---------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
基礎看護学	看護倫理 意思決定支援

研 究 課 題
臨床に勤務する看護師を対象に心疾患をもつ高齢者の DNAR 選択に対する意思決定支援の現状や困難感、効果的な支援方法などをインタビュー調査した。現在、カテゴリー生成を進めており、研究者間で妥当性の検証を行った後、学会発表と論文執筆に向けて準備を進めている。得られた結果から、今後は看護師に必要な意思決定支援コーチングの教育開発に関しての研究を行っていく予定である。また、心疾患をもつ高齢者の家族に対しての困難感に関する研究活動の企画を考えていきたい。

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

--

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員 STTI 会員 日本看護研究学会会員 日本看護倫理学会会員 日本看護診断学会会員 日本看護科学学会会員		2014 年 4 月～現在に至る 2014 年 12 月～現在に至る 2015 年 12 月～現在に至る 2016 年 2 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2022 年 6 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 疾患ポイントノート メニエール病	単著	2022 年	照林社, プチナース vol.31 No.14, pp.11-15	実習学生に向けたマイナー疾患のシリーズ企画。メニエール病についての概要、原因と発症機序、主な検査と診断、治療とケアについて具体的にわかりやすく解説した。
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

心疾患をもつ高齢者の DNAR 選択に対する看護師の意思決定コーチングの教育開発	文部科学省 科学研究費補助金	○長崎 恵美子 (伊東 美佐江) (森山 美香)	配分額 : 3,770,000 円
--	-------------------	--------------------------------	-------------------

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
第 28 回日本看護診断学会学術大会	実行委員	2022 年 7 月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023 年度入職）

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	中島紀江	職名	助教	学位	修士 (看護学) (九州大学 2021 年)
----	------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
下肢のむくみに関する研究	成人女性 下肢のむくみ 月経周期

研 究 課 題
成人女性のライフサイクルにおける下肢のむくみと月経周期の関連

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】
※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本環境学会 人間—生活環境系学会 日本女性心身医学会 日本看護研究学会		2021 年 3 月～現在に至る 2021 年 5 月～現在に至る 2021 年 11 月～現在に至る 2021 年 12 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 成人女性における下肢のむくみと月経周期の関連	共著	2023年3月	女性心身医学, Vol. 27, No. 3	8名の成人女性を対象に、月経周期の各期(卵胞期・黄体期・月経期)の違いにおける下肢のむくみの発生について明らかにすることを目的とした。黄体期および月経期は卵胞期より下肢に水分が貯留し、形態的に増大すること、また主観的にも下肢のむくみ感が高まることが示され、成人女性の下肢のむくみに月経周期の違いが関連するということが明らかとなった。 共著者名：中島紀江, 檜木ゆうか, 立石礼望, 藤田香奈恵, 松本美晴, 松尾和枝, 小崎智照, 橋口暢子 p. 295-304
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
成人女性のライフサイクルにおける下肢のむくみと月経周期の関連	科学研究費補助金・基盤研究(C) 2022-2025	○中島紀江(橋口)	3,640,000

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
※ 該当なし (2023 年度入職)

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	中原 智美	職名	講師	学位	修士 (保健学) (山口大学 2011 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
成人看護学， 遺伝看護学	慢性期看護， 糖尿病教育・看護， 生活習慣病， 多因子遺伝， 遺伝看護

研 究 課 題
・ 慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 ・ 2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究 ・ 初年次教育の学修効果に関する研究

担 当 授 業 科 目
緩和・がん看護学 (看護学科) 成人看護学演習 (看護学科) 成人慢性期看護方法論 (看護学科) 成人慢性期看護学実習 (看護学科) 2021 後期～2022 前期 / 2022 後期～2023 前期 看護のための臨床検査 (看護学科) 初年次セミナーⅠ (看護学科) 初年次セミナーⅡ (看護学科) 看護総合演習 (看護学科) 看護総合実習 (看護学科) 看護学 (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 緩和・がん看護学 】 主な担当内容は、がん看護 (6 コマ)、症状緩和のためのマネジメント (1 コマ) である。疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、看護の根拠を理解しやすいように組み立て、できるだけ具体的な看護方法を示しながら講義した。また、がんサバイバーが治療と生活を両立することをサポートするための視点にも重点を置き、法制度や社会資源、チーム連携のあり方を具体的に紹介したり、実際の患者の声 (大規模調査のデータ) を題材としたディスカッションを行ったりした。 講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、医療ドラマなどの話題を盛り込んだり、講義内容と関連のある最新ニュースや新聞記事を紹介するなど、理解を深めるための工夫を行った。 講義終了後には、学び・疑問を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介し、お互いの考え・疑問を共有することにより関心を高められるように努めた。
授業科目名【 成人看護学演習 】 看護過程演習では、慢性期疾患 (肝硬変) の事例を通して看護過程の展開 (12 コマ) を主担当として講義した。反転学習として事前に課題に取り組みせ、自分が解決したい疑問点を整理したうえで講義に臨めるように工夫した。また、ポイントとなる点は繰り返し説明した。講義前後に教員 8 名で指導内容を共有し、講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。

グループワークを円滑に行うために適切な人数を検討し、1 グループは 5 名に設定した。個別性のある看護が導き出せるよう、担当グループを巡回しながら提出物へのコメントを細やかに行った。必要時には個別面談を行いフォローアップした。 技術演習では、患者役・看護師役として患者教育の体験ができるように工夫した。それぞれ、技術の手技習得のみならず、看護過程事例を題材として患者の生活改善や行動変容のために必要な教育や心理面への配慮すべき点を考えながら個別性に沿った援助（看護計画）を導きだせるように指導を行った。血糖自己測定やインスリン自己注射の技術については、予習・復習のためにデモンストレーション動画を繰り返し見られるように Classroom に掲載した。
授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】 主に、内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護（計 8 コマ）を担当した。機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆき、生活面や心理・社会的側面でのなりゆきを予測してアセスメントする力を養うためのトレーニングとして、講義で取り上げた各疾患のアセスメントの視点をふまえた観察項目を考えることを課題として課し、発表により意見を共有するなどの工夫を行った。また、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法などではできるだけ具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。 学習内容への関心を高め、授業への集中力を高めるために、講義終了後に記入してもらった学びや質問を次の講義の冒頭で共有したり、単元（2～3 コマ）ごとに小テストを行いこまめに振り返りができるようにした。講義の間に空く際には課題を組み入れ、前回内容の復習、次の講義の予習につながるように工夫した。
授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】 本年度は毎日 3 時間（午前）の時間制限付きで臨地実習を行うことができた。感染症拡大の影響により、時期によって病棟に上がれないこともあったが、カルテ閲覧のみや学内での実習に切り替えるなど、状況に合わせて実習目標が達成できるように調整した。臨地実習やケア実践の経験がほとんどできていない学年であったため、できるだけ臨地へ行けるよう、ケア実践の機会を多く確保できるように努めた。実践することでの気づき、失敗からの学びを大切に自己や他者を深く理解できるように働きかけた。 実習中の実践、カンファレンスや最終面談においては、次の 3 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。 ①患者を全人的に捉え、これまでのライフスタイルや価値観を尊重した個別性のある看護実践 ②看護展開を通して一貫性・整合性のある思考 ③学生の強みと今後の課題 学習面、精神面などで特に指導を要す学生に対してはこまめに個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習内容、実習場所、実習方法の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように努めた。
授業科目名【 看護のための臨床検査 】 本科目では、基盤となる血液検査、画像検査の基本を押さえたうえで、系統別に検査の特徴、実施法、看護上の注意点が理解できるように構成した。主として、内分泌・代謝系／腎・泌尿器系／血液内科系／皮膚科・耳鼻科・眼科系の検査、技術演習（計 5 コマ）を担当した。検査の理解だけでなく、検査データから患者の病態を正しくアセスメントできるよう、まずは基本的なことや基準値を覚えることを促進する働きかけとして、講義の初めに知識確認テストを行った。また、終了前にはその日の内容について小テストを行い、毎回の講義に集中できるように工夫した。 技術演習では、3 つの項目について検査方法、結果の判定、看護上の留意点が理解できるように構成した。
授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】 ①グループワークの円滑化とグループワークへのコミットメントを意識させることを目的とし、アイスブレイキングの時間を昨年度よりさらに増幅し、グループワークの成果を競わせるようなゲーム型の活動を導入した。 ②本科目の根幹をなす「書く力」養成のために、一貫して、問い立て→根拠をもった論理展開→新規意見の提示という構造を意識させることに重点を置いた。そのために、「問いの発見と構想展開図」「レポート作成計

画書」の 2 種類のシートを新たに作成して、活用を促した。特に「問い立て」(リサーチクエスチョン)の設定はレポート作成の起点になるため重点を置き、講義も追加した。 ③担当教員 5 名で、講義前後に講義の内容・指導方法について詳細な打ち合わせをした。講義の指示内容については、教員間で統一をはかった。
授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】 ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。 ②初年次セミナーⅠで用いた課題発見やレポート作成計画書は引き続き活用し、グループ小冊子の構成を考えるためのワークシートについては、小冊子全体を効果的に捉えられるようにブラッシュアップした。 ③発表準備の時間を十分確保できるように、グループ小冊子作成までの流れを見直し、プレゼンテーションに充てる時間を 1 コマ増やした。 ④学習内容・進度にあわせて 2 コマ続きの講義も交えた進行を行い、発表・まとめを 12 月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。 ⑤プレゼンテーションの評価表について、見直し・修正を行った。 ⑥発表時の評価は、担当者 5 名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。学生・教員による評価をもとに、優秀賞を選出し発表の場を設けた。
授業科目名【 看護総合演習〔慢性期・終末期〕 】 自己課題に基づいたテーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもってテーマに沿った看護を追求することで今後の課題が明確になるよう指導した。レポート作成時は、研究論文の形式を意識して構成できるように、個別に繰り返し添削指導を行った。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、最終的に冊子も作成して達成感を感じられるように図った。 そのほか、ゼミメンバーや教員間との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。
授業科目名【 看護総合実習〔慢性期・終末期〕 】 本年度は 3 時間の時間制限付きでの臨地実習であり、コロナウイルス感染症拡大の影響による急な変更等も多かったが、実習施設と学生の調整を行いながら円滑に実習できるように努めた。特に、遠隔授業を余儀なくされていた学年であり、臨地実習の経験が全く無いことをふまえて事前準備を整え、患者とのかかわり方、根拠に基づいた看護実践能力を培うことや看護実践における自己課題を明確にすることができるよう、臨地実習指導にあたった。 また、看護の質向上や互いの能力向上のために、メンバー間の連携をとりながら主体的・計画的に行動できるように指導・助言を行った。
授業科目名【 看護学 】(栄養学科) 本年度は開講されなかった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護研究学会 日本糖尿病教育・看護学会 日本遺伝看護学会 日本看護科学学会 日本看護学教育学会		2007 年 4 月～現在に至る 2007 年 5 月～現在に至る 2007 年 5 月～現在に至る 2012 年 7 月～現在に至る 2013 年 7 月～現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) プチナース 2022 年 7 月 号 Vol.31, No.8 (412 号) 別冊付録 症 状 別 観 察 & ケ ア POCKET BOOK	共	2022.6	照林社	①実習中によく出会う 10 の症 状について、何を想定して観察 し、どのようなケアを行うかを 解説している ②編修者名：小田正枝，山口哲 朗 共著者名：姫野深雪，窪田恵子， 山口哲朗，穴井めぐみ，安藤敬 子，下舞紀美代， <u>中原智美</u> ， (掲載順) ③担当部分： *9 脱水がある―脱水― (P41 ～P45) *10 体がだるい―全身倦怠感 ― (P46～P50) *総頁数 P51
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
ギラヴァンツ北九州における ・救護ボランティア （ミクニワールドスタジアム北九州に於ける試合の際、観客を対象とした救護活動） ・ホームゲームでの防災イベントでの AED・CPR 講習（ステージ）	学生ボランティアのコーディネーターおよび指導、引率	2019 年 2 月～現在に至る （2020～2022 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止中） ⇒9 月 11 日開催

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・国家試験対策担当 （国家試験対策として、模試の計画・準備・実施・事後分析、強化学習や補講等の計画・調整・実施・評価、学生の個別サポート、模試業者との連絡調整窓口、会計課との連絡窓口、看護師国家試験当日の引率、国家試験結果の分析など） ・2 年生アドバイザー （学年全体の活動方針策定、担当学生の定期個別面談・履修指導、学業不振者や精神的サポート等の個別面談・保護者面談、学生総合支援室との連携、科目担当者との連携、遠隔授業に関するサポート、保護者懇談会の開催、ワクチン接種状況の確認など） ・看護学科種まきプロジェクト【学力向上】分科会メンバー （各学年の模試結果等からの現状分析、4 年間を通した学力向上プログラムの検討、3 年次知識確認試験の検討、資料作成など） ・情報システム管理運用委員 （会議開催 1 回のみ）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	樋口 由貴子	職名	講師	学位	修士(看護学)(産業医科大学 2017 年)
----	--------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障がい児、家族支援 学生健康支援

研 究 課 題
・小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実践について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。 ・一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。 ・病気や障害をもつ子どもとその家族への支援について考察する。 ・学生健康支援の一つとして、本学保健福祉学部 1 年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。

担 当 授 業 科 目
小児看護学概論(前期:看護学科) 小児看護学方法論(後期:看護学科) 小児看護学演習(前期:看護学科) 小児看護学実習(通年:看護学科) 看護総合実習・演習(通年:看護学科) 緩和・がん看護学(前期:看護学科) 看護学特論(後期:看護学科) 助産診断・ケア学Ⅳ(前期:助産別科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 小児看護学概論 】 正常な子どもの成長と発達を、教科書を基に説明した。リモート形式での講義であったため、学生が興味をもち授業に参加できるよう、また子どもとほとんど接する経験がない学生も理解できるように動画などを用い講義した。毎回「学び票」の提出を求め、学生の理解を確認した。学生の理解が難しいところは、次の講義時に再度説明を入れるなどの工夫を行った。また、途中、小テストを実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。小テストの得点率が高いが、定期テストでの得点率は低くなったことから、知識を定着することが課題となった。今後、反復学習など知識の定着に繋がる方法を考える。
授業科目名【 小児看護学方法論 】 疾患や障がいをもつ子どもと家族の看護について講義した。講義では、子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、小児看護として工夫をする事の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、小児をとりまく社会や援助方法に興味を持つために、個人ワークとその発表を行った。コロナ禍で、実習での看護の現場を経験する機会の減少や、もともと子どもと触れあう機会が減少している学生も、小児医療の現場がイメージできるよう、DVD や画像、また、実習中の学生が実施したプレパレーションなどの事例の画像を用い説明した。 障がいをもつ子どもと家族の看護、被虐待児への看護については、実際に現場で働く外部講師に講義を依頼した。現場の写真などを多く取り入れた講義を展開することで、実際の看護を学べる機会となっていた。

授業科目名【 小児看護学演習 】 ペーパーペイシエントを用いた看護展開と実技演習を対面で実施した。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように、DVD や写真を取り入れ状況を理解し、看護展開できるよう工夫した。アセスメントまでを個人ワークとし、計画立案はグループワークでディスカッションしながら理解を深めていけるようにした。個人ワークについては、個別にコメント入れ、学生へ返却し、それぞれの学生が理解できるように対応した。グループワークについては、発表を行い、その後、全体でディスカッションすることで、理解を深めるようにした。 技術演習についても、短時間ではあるが、個人練習ができる環境を整えた。自己練習をする学生は少ないため、実習前に技術チェックを行い、反復して学習する機会をもち技術の習得に繋がるようにした。
授業科目名【 小児看護学実習 】 今年度は、半日の臨地実習で実習を行い、残り半日を学内実習となった。短時間での臨地実習のため、学生が最大限に経験できるよう、臨床指導者と時間や方法を調整した。また、学生と共に患児のベッドサイドに行き、コミュニケーション方法や技術提供方法等の指導を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、目標達成できるよう支援を求めた。半日の臨床での経験を基に、学内ではリフレクションを通し看護を見出していった。グループでリフレクションすることで、短時間の臨床実習時間であっても学びを深めることが出来ていた。また、看護師以外にも医師、保育士、療養支援士などと学生が関わり学べるよう調整した。
授業科目名【 看護総合実習・演習 】 看護総合演習では、小児医療の現場で起こる倫理的問題を、事例をあげディスカッションすることで、子どもの人権の擁護や倫理的配慮について学びを深めた。その後、学生それぞれの探求したいテーマに沿い、文献を用い、現在の状況と課題を見出し、発表を行った。 看護総合実習では、演習で学んだ知識・技術を小児外来と子育て支援施設実習を通し、看護の実際を学んだ。それぞれの学生が、実践を通し、看護実践の難しさ、やりがいを学び、自己の課題を見出すことができていた。 最終的に、学生それぞれの探求したいテーマで論文を作成し、研究的思考ができるよう支援した。
授業科目名【 緩和・がん看護学 】 小児の緩和・終末期・がん看護について 1 コマを担当した。DVD を用い小児の緩和・終末期医療の実際を紹介し、看護師として、どう向き合うかを思考できるように講義を展開した。「生きる」を大切にする看護の重要性について、教授した。
授業科目名【 看護学特論 】 これから看護職として社会にでる 4 年生後期に開講された。1 コマを小児医療のトピックとして、小児救急の現状や課題について、事例や統計を用い、看護師としてできること、大切にしていきたいことをそれぞれの学生が考える機会になるよう講義を展開した。 理解状況としては、講義内容を小テスト形式で出題し、把握した。
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅳ 】 助産別科前期「助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児）」では、乳幼児の発達について講義した。さらに、助産師として乳幼児と関わる中で遭遇しそうな事例を挙げ、事例検討する中で乳幼児の特徴を捉え児と家族への援助について思考できるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員		2002 年 4 月（現在に至る）
日本小児看護学会会員		2009 年 1 月（現在に至る）
日本小児保健協会会員		2009 年 4 月（現在に至る）
日本環境感染症学会会員		2010 年 10 月（現在に至る）
日本看護科学学会会員		2013 年 6 月（現在に至る）

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし (報告書) 1.女子大学生を対象にし た健康 管理カルテの 作成と有用性	共	2022.6	西南女学院大学 保健 福祉学部附属保健福 祉学研究所 2021 報告 書	① 女子学生の健康に対する 意識を高め、学生の健康維 持・増進に向けた学生支援 の取り組みを実施するた めの方法として、「健康管 理カルテ」の作成を行なっ た。今後、その有用性を調 査し、改良を重ねること で、より学生にとって利用し やすい 「健康管理カルテ 」を作成する。 ② 樋口由貴子, 目野郁子, 高崎智子, 水貝洵子, 山田恵, 大内田知英 ③ 西南女学院大学 保健福 祉学部附属保健福祉学研 究所 2021 報告書 (P6-7)
(翻訳) なし				
(学会発表) 1. 重度の障害のある同 胞と暮らすきょうだい の心理社会的体験－当 事者の語りの分析から －	共	2022.6	第 69 回日本小児保健 協会学術集会 (於 三 重県総合文化センタ ー)	① 障害のある同胞と暮らすき ょうだいの心理社会的体験 を、きょうだい自身の語り を通じて明らかにすること を目的に研究を行った。そ の結果、きょうだいは同胞 への捉え方が変容する心理 社会的体験を理解し、それ ぞれの位相に合わせた支援 を提供することが必要であ ると示唆された。 ② 樋口由貴子, 笹月桃子, 山本佳代子, 文屋典子, 野井未加 ③ 第69回日本小児保健協会学 術集会講演集 心身障害児 (者) 支援 (P128)

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	共	2023.3	2022 年度西南女学院大学保健福祉学部付属保健福祉学研究所報告会	① 本学学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みとして「健康管理カルテ」を作成し、2021年度保健福祉学部入学生および2022年度大学部・短期大学部入学生へ配布した。また、本年度の使用状況について調査した。その結果、本学学生は健康管理カルテを体調不良時や実習前に活用していることが明らかとなった。また、学生にとってより利用しやすくなるよう今後の健康管理カルテの運用方法について考察した。 ② 水貝洵子, 山田恵, 樋口由貴子, 目野郁子, 高崎智子, 大内田知英
				教育研究業績 総数 (2023. 3. 16現在) 著書 0 学術論文 (報告書) 1 (内訳 単0, 共1) 翻訳 0 学会発表 2 (内訳 単0, 共2)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位 : 円)
1. 本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	西南女学院大学 保健福祉学部 付属保健福祉学研究所研究費	○水貝洵子 山田恵 樋口由貴子 目野郁子 高崎智子 大内田知英	300,000 円

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位 : 円)	備考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
・九州・沖縄小児看護教育研究会 (幹事) ・日本小児看護学会第 32 回学術集会 (実行委員として会場受付を担当) ・日本家族看護学会第 29 回学術集会 (実行委員として会場運営を担当) ・八女市同県乳幼児教育部会 (令和 4 年度第一回職員研修講師) ・北九州市小児慢性特定疾病対策協議 会 (委員)		2021 年 4 月～現在に至る 2022 年 7 月 (1 日) 2022 年 9 月 (1 日) 2022 年 6 月 (1 日) 2023 年 3 月 (1 日)

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
・保健福祉学部 1 年生および助産別科 1 年生への感染症予防／予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨 (2011 年 6 月～現在に至る) ・親子遊びの会「ほほえみ project」運営 (2016 年 4 月～現在に至る) ・地域貢献活動企画名「一緒に遊ぼう」、団体名「ちゃれんじ」にスタッフとして参加 (2022 年 4 月～現在に 至る) ・看護学科の学生募集委員 (2022 年 4 月～現在に至る) ・キャンパスハラスメント相談委員 (2022 年 4 月～現在に至る) ・看護学科の国家試験対策強化学習講義担当 (2 コマ)

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	布花原 明子	職名	教授	学位	修士 (看護学)
----	--------	----	----	----	----------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動 公衆衛生看護学教育

研 究 課 題
公衆衛生看護学において、地域の健康課題の解決に向けた公衆衛生看護活動の方法、発展要因との関連、支援課題について考察する。また、保健師基礎教育の効果的な教育方法について考察する。 2022 年度は「新型コロナウイルス感染症の健康危機管理業務において求められる迅速に対応するための保健師の判断と行為」をテーマに共同研究を開始した。

担 当 授 業 科 目
公衆衛生看護方法論Ⅰ (前期) 公衆衛生看護活動演習 (前期) 公衆衛生看護学実習 (前期) 公衆衛生看護方法論Ⅱ (後期) 公衆衛生学 (後期) 災害看護学 (後期) 看護総合演習・実習 (前後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅰ】前期 公衆衛生看護の対人支援に関する知識、理論、技術について講義を中心に授業を実施した。毎回、講義のキーワードを提示し、基本的な知識、理論を講義した後に事例を提示し、学生が知識や理論を事例に活用して考える機会をつくり、理解を深められるように工夫した。教材動画コンテンツを活用し、講義、ワークを組み合わせ進めた。
授業科目名【公衆衛生看護活動演習】前期 実習地域のアセスメントを行う「地域診断演習」と、実習地域に生活する人々を対象とした公衆衛生看護技術の演習を組み合わせ授業を実施した。学生が演習期間を通じて、実習グループメンバーとの協力関係を形成し、実習への意欲や保健師としての姿勢・態度を養うよう意図して進めた。4 月～6 月上旬までの集中講義では毎回の進度が速いため、学生の進捗状況を把握し授業時間外にも質問対応ができるよう配慮した。
授業科目名【公衆衛生看護学実習】前期 北九州市保健所及び 3 区役所の実習指導を実施した (5 週間)。今年度は、コロナ禍以降、新たにデジタル化された保健事業を体験する機会も取り入れるなど、多様な支援方法の実践を経験できるよう工夫した。また、学生は自ら指導者との関係を形成し、能動的に実習に取り組めるよう、巡回時に学生の状況について実習指導者と情報交換し、随時対応できるよう工夫した。
授業科目名【公衆衛生看護方法論Ⅱ】後期 地域全体を対象とした公衆衛生看護の活動方法について授業を実施した。地域診断では、理論を用いて一部を演習した。学生が、集団として地域を捉えるための統計データの見方や、将来を予測し予防の視点でデータをアセスメントすることの必要性について、実践的に理解できるよう工夫した。また、外部講師に実際の地域診断と事業展開事例を紹介いただいた後に事業計画の講義を行うなど理解が深まるよう工夫した。

授業科目名【公衆衛生学】後期 新設科目である。看護師・保健師・養護教諭を目指して入学した1年生にとっては、耳慣れない公衆衛生である。なぜ看護学生が公衆衛生を学ぶのかについて、例えば新興感染症等の健康問題に対して公衆衛生が果たす役割について、また身近な生活環境と健康との関連を実感できるようなトピックスを授業の導入に用いて興味を引くように工夫した。講義後に提出される授業の学び及び質問へのフィードバックは随時行った。
授業科目名【災害看護学】後期 災害看護に関する基本的な知識と実践活動を紹介し、学生が卒後の進路を意識して、災害看護への関心、意欲を高めることができるように工夫した。地域、病院、災害支援組織における災害看護活動の実際と看護の役割について、災害看護の活動経験をもつ医療者を講師に招き実践的な授業を進めた。
授業科目名【看護総合演習・実習】 学生が実習企業の健康課題に対する現状と対策の分析を行い、解決策を立案し、プレゼンテーションを実践した。産業看護の現場で生じている事象に関して、企業から関連データを提供いただき分析を行う。また、企業での取り組みについて、また勤労者の意識について関係者からインタビューを行い、導き出した課題に対する施策案を提示した。今年度は、指導保健師に加え、管理者（工場長、人事課、産業医）もプレゼンテーションに参加いただき、多方面から学生への助言をいただき、学生は充実感を得たようであった。教員と指導者とは、学生のPDCA展開について、日々情報共有しながら役割を分担し、効果的な指導を目指した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994年4月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001年3月～ 〃
日本地域看護学会	〃	2001年4月～ 〃
日本看護教育学学会	〃	2003年4月～ 〃
日本公衆衛生看護学会	〃	2014年4月～ 〃
	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会企画委員	

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009年4月～現在に至る
北九州市介護保険認定審査会	審査委員	2017年4月～現在に至る
北九州市社会福祉法人審査会	審査委員	2020年4月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012年4月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

1. 就職委員 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日
 - ・委員会出席（全 4 回）
 - ・推薦受験希望者の選出
 - ・進路登録カードと就職（進路）報告書の周知と回収
 - ・卒業生アンケート 回収率 34.1%（前年度 19.6%）
 - ・病院からの来学者対応
2. 国家試験対策担当 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日
 - ・年間計画の立案及び運用
 - ・国家試験対策会議開催（全 11 回）
 - ・保護者面談対象学生のマネジメント
 - ・強化学習対象者への個別支援
3. 学科将来計画プロジェクト（学力向上リーダー）2022 年 9 月～2023 年 3 月 31 日
 - ・分科会開催（全 4 回）
 - ・看護師国家試験 4 年間対策プラン作成及び 3 年次知識確認試験運用案作成
 - ・看護学科中間報告
4. 学科将来計画プロジェクト（科目運用）2022 年 9 月～2023 年 3 月 31 日
 - ・分科会出席
5. 西南女学院大学 保健師ネットワーク KANAME 活動支援
 - ・卒業生保健師交流会及び学部生との交流会の開催（12 月 3 日）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 藤本 奈緒子	職名 助教	学位 修士(看護学)(産業医科大学 2017 年)
-----------	-------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
在宅看護学	在宅看護、地域包括ケアシステム、精神障がい者支援教育内容

研 究 課 題
看護基礎教育における医療的ケア児への地域包括ケアに関する教育内容を小児看護学実習における学生の学びや、重度心身障がい児のケアにあたる施設の職員からのインタビュー等により検討する

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会 日本看護福祉学会 日本在宅ケア学会		1995 年 4 月 2014 年 4 月 2015 年 12 月

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023年度入職）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	前田 由紀子	職名	教授	学位	修士 (教育学) (九州大学 2004 年) 博士 (教育学) (福岡大学 2010 年)
----	--------	----	----	----	--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、家族、地域、リカバリー、ストレングス、キャリア

研 究 課 題
精神科看護師のキャリア形成に関する研究 精神科看護におけるリカバリーに関する研究

担 当 授 業 科 目
精神看護学概論 (後期) (看護学科) 精神看護方法論 (後期) (看護学科) 精神看護学演習 (前期) (看護学科) 精神看護学実習 (通年) (看護学科) 看護総合演習 (前期) (看護学科) 看護総合実習 (前期) (看護学科) 看護学特論 (後期) (看護学科) 看護教科教育法Ⅰ (前期) (看護学科) 看護教科教育法Ⅱ (後期) (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【精神看護学概論】 心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。新型コロナウイルス感染症のため、感染予防に留意し対面授業を進めた。
授業科目名【精神看護方法論】 精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら、精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材 DVD は、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。精神疾患についてノート整理、国家試験問題を解く、精神科関連の著作を読むなどの課題を出し、ポートフォリオの作成を行った。課題は、複数回に分けて提出させ、内容の不備がある場合、適宜指導を行った。新型コロナウイルス感染症のため、感染予防に留意し対面授業を進めた。

授業科目名【精神看護学演習】 精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについてグループで十分にディスカッションを行った。例年、実習病院の指導者が演習に参加し、精神科看護のイメージが捉えやすくなっていたが、コロナの影響で前年度に引き続き今年度もできなかった。実習の実施も危ぶまれたため、模擬電子カルテを取り入れ演習を実施した。また、病棟がイメージしやすいような DVD を購入し適宜活用した。例年、夏期課題として、うつ病の事例展開や実習に必要な基礎力の定着を目的にワークブックを作製していたが、知識の定着を確実にするため夏期課題を取りやめ実習前の試験を実施した。知識定着が不十分な学生に対して再試の実施や個別指導を行った。
授業科目名【精神看護学実習】 実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与え、指導を行った。新型コロナウィルス感染症の影響で、現地オリエンテーションは、実施できる病院とできない病院が出てしまった。できない場合は、実習病院から資料をいただき教員が説明したり、実習指導者に大学でオリエンテーションおよび講義をしていただいた。新型コロナウィルス感染症の影響で、臨地実習が実施できたのは3施設のうち1施設のみであった。1施設以外は、学内実習またはリモート実習で対応した。教員が患者役を担い、学生との対話を進めた。教員は、統合失調症やうつ病の患者役になりきり、対話を中心に進めることで患者理解が図られた。学内実習時は、感染予防に留意し、感染状況によって適宜リモートを取り入れた。
授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】 5人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者の訪問看護と精神科デイケアを総合実習の施設として展開した。精神障がい者の地域生活の理解が深まったと考える。4年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検索を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマで論文を作成し、研究的思考が反映されるように支援した。論文完成後は、パワーポイントを作成しゼミで発表会を行った。実習は、新型コロナウィルス感染症の影響で、精神科訪問看護のみ臨地実習を実施した。地域で生活している精神障害者の DVD や精神科病院のコロナ感染症対応のテレビ番組などを視聴しグループディスカッションを繰り返し精神障害者の地域ケアについて考察を深めさせた。
授業科目名【看護学特論】 本科目は、成人看護学（急性期・慢性期）、母性看護学、小児看護学、精神看護学、老年看護学、在宅看護論の7つの領域でオムニバスで実施した。そのうちの精神看護学を担当した。精神科ファーストエイドの講義後に最近のトピックスや国家試験に関連ある内容を講義した。対象学生が少数であったので次年度はもっと多くの学生が受講するよう、本科目の意義を説明したい。
授業科目名【看護教科教育法Ⅱ】 看護教科教育法Ⅰの学びを活かし、看護基礎教育における「演習」「実習」の学習形態の特徴等について関連する本を読むことで広い視野で考えることができるように指導し、講義と演習の一体的な授業設計について意見交換をすることができた。臨地実習の経験後であったため、臨地実習における指導計画・指導方法について、実習の特性、指導法について具体的に考えさせることができた。模擬授業は、「演習」の授業形態について授業案の作成を指導し、実習室における練習を重ねた。模擬授業の展開後は、授業を客観的に評価するとともに、授業研究の必要性の理解にもつなげた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学会		1984年4月～現在に至る
日本看護科学学会		2003年4月～現在に至る
日本看護研究学会		2003年4月～現在に至る
日本精神保健看護学会		2007年10月～現在に至る
日本医学看護学教育学会		2007年10月～現在に至る
日本精神科看護技術協会		2008年4月～現在に至る

日本看護学教育学会		2008 年 4 月～現在に至る
-----------	--	------------------

2022 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				
1. The Study of Work Motivation of Psychiatric Nurses in Japan [Poster]	単	2022.10	7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS), Taiwan	①本研究の目的は日本における 精神科に勤務する看護師が専門 看護師および認定看護師の資格 を取得する過程とワーク・モチベ ーションの関連を検討すること である。資格取得の動機は、組織 的な目標管理の下ではなく、個々 の問題意識からキャリアアップ を目指すという特徴があった。 専門看護師・認定看護師は、認定 後の経験から看護実践能力の向 上が「達成動機」、役割遂行が「 権力動機」、仲間とのかかわりが 「親和動機」になる。これら3つ の動機がワーク・モチベーショ ンの向上に関連すると考えられた。
2. A Literature Study on Strength-Focused Nursing Care by Visiting Nurses in Japan [Poster]	共	2022.10	7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS), Taiwan	①本研究の目的は、日本における 精神科訪問看護師がストレン グに焦点をあてた関わりを行う中 で利用者の状態の悪化や困難時 にどのような看護を行っている のかを明らかにすることである。 文献研究において、訪問看護師は 根気強く利用者と対話を重ね信 頼関係を築き、利用者のリカバリ ーを共に考え希望を持ち続けら れるように支持していくことが 重要であり、再入院の予防や利用 者のリカバリーの促進につなが ることが明らかとなった。 ②共同発表者：安藤 愛、前田 由紀子、坂部 滯

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
〔大学委員会〕 将来計画委員 2022 年 4 月 1 日～現在 研究紀要委員会 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日 〔学科委員〕 国家試験対策委員 2020 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日 看護学科プロジェクト委員 2022 年 4 月～2023 年 3 月 31 日

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 溝部 昌子	職名 教授	学位 博士(保健学) 東京大学 2003 年
----------	-------	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護技術 高齢者看護 循環器疾患の看護 国際看護	看護技術、循環器看護、血管看護、老年看護学 異文化対応能力 グラフィックレコーディング

研 究 課 題
・看護師が行う下肢血流障害の評価、深部静脈血栓症予防対策 ・看護基礎教育における血管看護技術教育 ・血管看護教育における教材開発 ・異なる文化的背景をもつ患者への看護ケア ・外国につながる人々への看護におけるコミュニケーション ・グラフィックレコーディングのヘルスケアコミュニケーションへの活用 ・グラフィックレコーディングのスキル修得に関すること

担 当 授 業 科 目
・老年看護学概論(前期) ・老年看護学演習(前期) ・看護研究(前期) ・看護総合看護学演習(前期) ・看護総合看護学実習(通年) ・老年看護学実習Ⅰ(通年) ・老年看護学方法論(後期) ・国際保健論(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【老年看護学概論】 ① 高齢者を理解するうえで、発達段階や人生、社会について知り、思考する態度を養うために、教科書や形態機能学や老年医学の知識や技術だけでなく、説明資料として有効な一般書籍や報告書、調査資料を吟味選択し、提示、解説した。 ② 高齢者看護で修得すべき知識量は多く、国家試験と直結する情報が多いため、小テストを学期中に2回、定期試験、合計3回のテストと、レポート3回で評価することとした。繰り返し学ぶ機会は増えたと考える。 ③ 従来、書き込み式のプリントとパワーポイントを教材として用意していたが、学生の取り組み状況に差があり、特に書き込みは該当の教科書ページを指定しているにもかかわらず、何を書いてよいのかわからないという学生が複数いたため、ほぼすべてをパワーポイントに表示した形で、1ページ4枚印刷で直接メモを書き込めるようにした。資料についての不満は聞かれなかった。
授業科目名【看護総合看護学演習・実習】 ① 実習施設での受け入れ態勢が回復し、コロナ以前の従来通りの方法、時間数で実習を行うことができた。このことは、自律した学修や実習計画の策定や調整など、本来の看護総合演習・実習の目的を達成するうえで重要な要素であったと考える。実習施設との信頼関係の構築、実習施設の理解によるもので、今後も継続できるよう務めたい。 ② 「脳梗塞患者の意欲低下を防ぐ関わり」、「片麻痺を持つ高齢者のストレスコーピングについて」、「透析患者の下肢虚血予防におけるフットケアとリハビリテーションの実態と効果」、「血液透析治療における心理面への影響の検討」、「外国人看護師が日本の病院で働くことの現状」学生は個々のテーマで総合実習を実施した。事前の学修、計画、準備、調整などの一連のプロセスは全体指導と個別指導により計画

した日程通りに行えた。最終的に、看護総合演習・実習報告書として、2施設 A4版44頁、57頁を印刷製本した。

- ③ 就職活動、国家試験対策、進学へのサポートは、4月から行っていたが、総合演習・実習の実施と並行しながら、自然にすべてが順調に進んでいったように思われる。本来の看護学科4年生の学業生活の中で、卒業前教育が行えたものと考ええる。

授業科目名【看護研究】

- ① 3年生前期で看護学演習での課題、グループワークが多く負担であるとの例年の懸念から、今年度よりグループでの調査研究を実施するのを取りやめた。代わりに、個人で研究テーマ、課題を設定し、指定論文の文献クリティーク、指定論文の抄録作成、英語論文要約、自身のテーマに関する文献整理、研究説明・同意文書の作成、研究計画書の作成、フォーム作成の課題を課し、グループで質的データの内容分析を行った。それらをすべて評価対象とした。
- ② 研究に関するすべてのプロセスを個人が体験したことは意義深かった。また、講義時間内に個人PCで作業を進めることができ、教員が巡回しながら指導できたことも大変良かった。
- ③ 個人作業であったが、作業を教えあったり、成果をグループで発表するなどして、学びの共有が促進されたこともよかった。
- ④

授業科目名【老年看護学演習】

- ① 老年看護学演習では、グループワークではなく、必ず個人が老年看護学における看護過程の展開を経験することを優先的に考えている。アセスメントのパターンごとに、丁寧に解説をする、アセスメントに含めるべき内容を資料として配布することを毎回徹底して行った。また、提出された課題を確認し、優れたものを紹介しながら全体にフィードバックすることを継続した。
- ② 課題の解説とは別に、各パターンにおける看護問題に関連した実践的な看護技術、方法について、詳しい資料を提示して講義した。資料はすべてパワーポイントとして新しく作成し、将来的にも活用できる実践的な情報を豊富に含むものとした。実習病院として、小倉リハビリテーション病院、戸畑共立病院、小倉第一病院が予定されており、それぞれの患者、看護に対応できる事前知識は提供できたと考える。
- ③ 事例課題の疾病を見直し、実習病院での看護過程に対応できるよう、新規の肺がん、慢性腎不全患者の紙上事例を作成した。
- ④ 看護技術の実習は、実習室の確保が難しく、土曜日に2コマ開講し、ブース制で排泄援助、下肢血流評価ABI測定、入浴介助DVD学修、KYT危険予知トレーニング、義歯洗浄を行った。教員は3名と、限られた実習機器の制約が大きかったが、ワークシートの活用や事前の計画、打ち合わせにより、予定の項目を安全に実践することができた。

授業科目名【老年看護方法論】

- ① 老年看護では、様々なツールを用いて患者の状態を評価し、ガイドラインを用いてケア方法を検討することが多く、どの単元においてもエビデンスに基づいて看護を実践し評価するという原則に沿った授業を展開した。また、栄養や排泄など、どの単元においても、患者の生活歴や意向、環境によって目標や手段、方法が変わってくることも特徴的であり、知識の提供と同時に必ず説明するようにし、課題についても単なる情報整理でなく思考を伴う形式とした。
- ② 今年度は、講義資料をA4プリントからパワーポイント印刷に変更した。また、1頁2スライドとし、学生があとからPDFで確認する必要があるよう、そのままのサイズで書き込みや勉強ができるようにした。紙の量は増えたが、参考資料などが散在せず、学修の流れの中に図表や参考Webサイトを確認することができ、注意を高めることにつながったと考える。7回の課題提出、毎時の感想など、都度質問への回答や、学びの共有、補足説明などのフィードを適宜行った。

授業科目名【国際保健論】

- ① 過去にこの科目で履修者が制作した「文化的安全を守る看護 食事にまつわる患者ケア」、「看護英語ノート」や、海外調査や研修の写真を多く講義に取り入れ、関心を高めることと、教科書的な知識を結びつけることに努めた。
- ② EPA 看護師として実習病院で勤務する外国人看護師に出講していただき、海外で勉強することや働くこと、外国人として日本人を看護することの難しさや意義について学生に直接話をしていただく機会を設けた。また、米国でNPとして勤務する日本人看護師によるオンライン講義を実施した。教員や資料から伝え聞くことと、当事者から直接話を聞くことの違いや意義についても理解されたと考える。
- ③ この科目での課題は、ゲストスピーカーへの質問や感想の他、「海外で興味のあることの光と影について」「医療における人種差別」「世界の衛生習慣」「CLAS基準について」について、視野と知識が拡大したと考える。

授業科目名【老年看護学実習Ⅰ】

- ① 3 か所の実習施設の協力を得て、臨地実習を継続している。学生の体調不良や実習施設での感染予防対策上の事由で、学内実習、遠隔実習となった日があったが、数日に留まり、2022 年中は、ほぼ従来通りの臨地実習を行えた。実習方法の変更は、COVID-19 感染症流行下における代替実習において作成した様々な教材を活用することで、柔軟に対応できている。実習病院で作成していただいた動画、倫理課題に関するディスカッション、老年看護における高度実践に関する動画資料、学内技術実習課題などである。
- ② 2023 年実習施設の制約により、実際の患者と対面実習が困難となっており、高齢で、重篤な病態の患者が対象となる場合の実習方法、実習施設の選定に課題が残った。
- ③ 学生 1～3 人を 1 組として、患者を担当する方法を全面的に実施しているが、学生による対象と病態の理解、臨地実習指導者の指導、教員の指導がいずれも充実した結果となっている。患者安全、学生安全、指導管理の面からも継続していきたい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
・日本看護系大学協議会	広報・出版委員会委員 2012-2014 年	
・日本血管外科学会	チーム医療推進委員会委員	2014 年～現在に至る
・日本血管看護研究会	代表世話人 研究会プログラム委員	2015 年～現在に至る
・日本リンパ浮腫治療学会	評議員 2016-	2016 年～現在に至る
・日本看護科学学会		1999 年～現在に至る
・日本看護管理学会	選挙管理委員会委員 2003-2005 年	2003 年～現在に至る
・日本看護評価学会	編集委員会委員 2016 年- 編集委員会委員長 2021 年～	2011 年～現在に至る
・日本循環器看護学会	学術委員会ワーキンググループメンバー-2018-2020 年	2014 年～現在に至る
・日本看護理工学会		2016 年～現在に至る
・日本静脈学会		2022 年～現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【著書】 なし				
【学術論文】 COVID-19 感染状況の変化に対応した老年看護学実習方法の検討	共著	2023年3月	西南女学院大学紀要 Vol.27	COVID-19 感染症流行下における老年看護学実習の方法の変更、工夫について、実習目標に対する妥当性から整理して述べた。 A4 版総頁数:147 頁、p133-142 金子由里、 <u>溝部昌子</u> 、吉原悦子
【報告書】 老年看護学アセスメントガイド 2.0	共著	2022年8月	西南女学院大学保健福祉学部看護学科 老年看護学領域	高齢者看護におけるアセスメントガイドについて、従来あったものを改訂し、収集する情報をベースに整理し直したもの。老年看護学実習だけでなく、老年看護学の知識の体系化を図りつつ老年看護方法論の展開の基盤として活用できるものとした。 A4 版8頁 <u>溝部昌子</u> 、金子由里、吉原悦子
看護総合演習・実習成果報告書 「小倉リハビリテーション病院」 「小倉第一病院」	共著	2022年12月	西南女学院大学保健福祉学部看護学科溝部ゼミ	「脳梗塞患者の意欲低下を防ぐ関わり」、「片麻痺を持つ高齢者のストレスコーピングについて」、「透析患者の下肢虚血予防におけるフットケアとリハビリテーションの実態と効果」、「血液透析治療における心理面への影響の検討」、「外国人看護師が日本の病院で働くことの現状」 A4 版 44 頁、57 頁 依田優花、手塚菜摘、牧美乃里、田中葵、藤田彩花、 <u>溝部昌子</u>
循環器看護の定義及びステイトメント作成にかかわるワーキンググループ活動報告書	共著	2023年1月	日本循環器看護学会誌	日本循環器看護学会学術委員会、循環器看護の定義及びステイトメント作成にかかわるワーキンググループの構成員として、関連学会の Scope of Practice や倫理綱領を参考に、循環器看護の定義（案）を策定し報告したもの 岡田彩子、三浦稚郁子、北村愛子、瀬戸奈津子、仲村直子、濱上亜希子、三浦英恵、 <u>溝部昌子</u> 、南川貴子 Vol18.1 p51-55

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
【学会発表】 Internationalization Guidelines to enhance Nurses' Cultural Competence and Hospital Systems	共著	March 10-11 TOKYO, JAPAN	EAFONS 2023	看護師の文化能力測定尺度の日本語版質問票の妥当性研究、看護師対象の調査結果に基づく外国人患者対応での困難の類型化、看護国際化ガイドライン開発の、これまで基盤研究Aで行ってきた看護師の文化能力教育に関する研究をまとめた報告 Ariko Noji1, Shigeko Kamishima1, Akiko Nosaki, Sachiko Iijima, Akiko Mizobe, Mari Kondo, Sayaka Kotera
【その他】 編集後記	単著	2022 年 12 月	日本看護評価学会誌 Vol12 (1)	p61 溝部昌子
グラフィックレコーディング 第7回日本血管看護研究会ライブレコーディング	共著	2022 年 5 月 27 日	第7回日本血管看護研究会 教育講演	教育講演4演題について、リアルタイムにグラフィックレコーディングを行い、講演後振り返りのプレゼンテーションを行った 藤村百音、平井優花、金子由里、 <u>溝部昌子</u>
【招聘講演・講師】 対話型ヘルスコミュニケーションにおけるグラフィックレコーディングのすすめ	単著	2022 年 5 月 27 日	第7回日本血管看護研究会会長基調講演 (於 北九州)	<u>溝部昌子</u> 第7回日本血管看護研究会抄録集
外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）				
(1) 共同研究				
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)	
看護師による POCUS 活用に関する研究-DVT 予防対策と安全なケアへの効果-(20H03990)	文部科学省科学研究費補助金 基盤 (B)	代表：○溝部昌子 (FY2020-2024)	910, 000 円 (R4)	
(2) 個人研究				
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考	
なし				

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 期 等
・日本血管看護研究会	代表世話人 学術集会主催 学術集会プログラム委員 第7回日本血管看護研究会大会長	2015 年～ 2015 年～毎年 2015 年～毎年 2022 年
・西南女学院大学 認定看護管理者教育課程	教育運営委員 検討委員	2018 年度より ファーストレベル開講式出席 運営会議出席 3 回
・日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	2020 年 12 月 1 日～現在に至る
・第 5 回日本フットケア・足病医学会 九州沖縄地方会学術集会	プログラム委員	2022 年 10 月～
・第 43 回日本静脈学会学術集会	プログラム委員	2022 年 10 月～
・モニターレブルーラメール管理組合	理事 監事	2021 年 6 月～ 2022 年 6 月～

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
・国際交流委員会委員 ・図書委員会委員 ・看護学科3年生アドバイザー 責任者 ・看護学科保護者懇談会 ・看護学科研究推進委員会委員 ・看護師国家試験対策補講（老年看護学）

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 目野 郁子	職名 教授	学位 博士 (医学) (九州大学 1994 年)
----------	-------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
病原微生物学 免疫学	微生物 感染症 感染対策 ワクチン 抗体

研 究 課 題
・ 学生支援の一つとして、全学の 1 年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。 ・ 保育園をモデルに新型コロナウイルス感染症流行前後における感染症対策および小児感染症罹患状況について調査研究を行う。

担 当 授 業 科 目
感染と免疫 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (看護) 生物と生命科学 (前期) (福祉) 初年次セミナーI (前期) (看護) 初年次セミナーII (後期) (看護) 微生物学 (後期) (福祉)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【感染と免疫：看護】 ① 専門基礎科目としての科目の位置付けや本科目で得た知識を他科目 (形態機能学・疾病学他) に連携させる必要性を説明した。 ② 講義は、初学者を対象としているため教科書、パワーポイント、資料などを使い、重要点を繰り返し説明しまた、教科書からの学び (知識) を実習で体験することで強化した。 ③ 感染症のトピックスや法律改正に伴う最新情報は、文献や資料をもとに説明した。 ④ 学習習慣および主体的学習学習を促すために、講義内容を整理するプリント「ポイント整理」を講義進行に伴い 10 回配布した。学生には教科書や関連する科目と連携させ、まとめるよう指導した。 ⑤ 例年実施している小テストは、早期からの復習を促すために回数を増やし 3 回実施した。
授業科目名【生物と生命科学：看護】 ① 高校の生物の学び直しではなく、大学の学びに必要な生物学としての位置付けで講義を行った。講義は、生物学の基礎知識の修得から始め、いくつかの疾病をモデルに、疾病が生じる原因を形態機能学や疾病学に関連づけ内容を展開した。 ② 初学者である学生を意識し、興味関心を持たせるために身近な疾病モデルを題材に選んだ。難しい内容は、理解しやすい言葉・表現を使い、繰り返し説明した。 ③ 早期からの振り返りと主体的学習を促す意味で、講義進行に併せ講義の重要な点をまとめるための「ポイントの整理」を 8 回提示した。 ④ 小テストを 2 回実施し、試験後に問題の解説と成績開示を行い、学びへの意欲・モチベーションを高めるようにした。 ⑤ 学習課題の評価項目に、雑誌・図書を使うことを明記することで、学生に図書館活用を促した。 ⑥ 講義中に質問を受ける時間を設けるとともに、メールなどでも質問を受け付けた。

授業科目名【生物と生命科学：福祉・栄養】

- ① 高校で学ぶ生物を基礎に、大学での講義に興味や関心がもてるように、“生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)”に焦点をあて講義を行った。難しいと思われる内容は、理解しやすい言葉・表現を使い、事例を展開しながら説明した。
- ② 早期からの振り返りと主体的学習を促す意味で、講義進行に併せ講義の重要な点をまとめるための「ポイントの整理」を8回提示した。
- ③ また、小テストを2回実施し、試験後に問題の解説と成績開示をすることで、学びへの意欲・モチベーションを高めるようにした。
- ④ 理解することが難しい内容については、講義開始時に前回の講義の復習を取り入れ、繰り返し説明した。
- ⑤ 学習課題の評価項目に雑誌・図書を使うことを明記することで、学生に図書館活用を促した。
- ⑥ 講義中に学生の反応を見ながら積極的に質問をするよう促した。

授業科目名【初年次セミナーⅠ：看護】

- ① グループワーク（GW）の円滑化とGWへのコミットメントを意識させることを目的とし、アイスブレイキングの時間を昨年度よりさらに増幅し、GWの成果を競わせるようなゲーム型の活動を導入した。
- ② 本セミナーの根幹を成す「書く力」養成について：講義概要作成及びミニレポート・レポート作成については一貫して、問いたて→根拠性を持った論理展開（そのための文献検索）→新規意見（理論）の提示という構造を意識させることに重点を置いた。そのために、「問いの発見と構想展開図」「レポート作成計画書」の二種類のシートを新たに作成して、活用を促した。特に「問いたて」つまりリサーチクエスチョンの設定は、レポート作成の起点になるので、重点を置き、講義も追加した。

授業科目名【初年次セミナーⅡ：看護】

- ① 初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。
- ② 初年次セミナーⅠで用いた課題発見やレポート作成計画書は引き続き活用し、グループ小冊子の構成を考えるためのワークシートについては、小冊子全体を効果的に捉えられるようにブラッシュアップした。
- ③ 発表準備の時間を十分確保できるように、グループ小冊子作成までの流れを見直し、プレゼンテーションに充てる時間を1コマ増やした。
- ④ 学習内容・進度にあわせて2コマ続きの講義も交えた進行を行い、発表・まとめを12月中に終了するようにした。そのため学生はポートフォリオ提出までの時間的余裕ができた。
- ⑤ プレゼンテーションの評価表について、見直し・修正を行った。
- ⑥ 発表時の評価は、担当者5名で実施した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。学生・教員による評価をもとに、優秀賞を選出し発表の場を設けた。

授業科目名【微生物学：福祉】

- ① 今年度は、講義形式がオンラインから対面に戻った。学生の講義姿勢・状況をよく把握しながら講義を進めた。
- ② 講義内容が多いため、特に学校現場や福祉施設で必要な内容を意識し講義を行った。感染症については、具体的な事例をもとに平易な言葉を使い説明するよう心がけた。
- ③ 内容が理解しやすいように、教科書で説明しスライドを見せる、逆にスライドをみせて教科書でまとめる、と2パターンを使い分け講義を進めた。
- ④ 例年、早期より復習を促すために重要点をまとめるよう指導している。ポイントの整理としてclassroomにアップし、学生がいつでも取りかかれるようにした。
- ⑤ 授業中に小テストを実施しているが、試験後に必ず解説を行い、classroomを使い個別に成績を知らせた。また、質問も適宜受けた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
----------	----------	------

日本細菌学会 日本感染症学会 日本小児保健協会 日本環境感染学会 日本ワクチン学会		1987 年 4 月～現在に至る 1996 年 4 月～現在に至る 2000 年 4 月～現在に至る 2004 年 4 月～現在に至る 2016 年 4 月～現在に至る
---	--	--

2021 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 病原体・感染・免疫	共	2022. 2	南山堂 改訂 3 版 7 刷	① 医療系の学生および医療従事者の方々 を対象に病原体・感染・免疫を学ぶた めの書籍である。治療薬、疾患の流行 状況、ワクチン接種スケジュールなど を最新のものに更新し、内容の追加や 修正をおこなった。 ② 藤本秀士, 目野郁子, 小島夫美子 ③ 担当部分 第 4 章 感染症の予防と管制 御対策・技術 (P91～P128) 総頁数 P396 ④ B5 版
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 保健福祉学研究所報告会 本学の学生を対象にした「健康 管理カルテ」の作成	共	2023. 3	西南女学院大学保健福祉学部 附属保健 福祉学研究所	① 本学学生の健康維持・増進に向けた 学生支援の取り組みとして「健康管理カ ルテ」を作成し、2021年度保健福祉学部 入学生および2022年度大学部・短期大学部 入学生へ配布した。また、本年度の使用 状況について調査した。その結果、本学 学生は健康管理カルテを体調不良時や実 習前に活用していることが明らかとなっ た。また、学生にとってより利用しやす くなるよう今後の健康管理カルテの運用方法 について考察した。 ② 水貝洵子, 山田恵, 樋口由貴子, 目野郁子, 高崎智子, 大内田知英 ③ 2022年度西南女学院大学保健福祉学部 附属保健福祉学研究所報告会 教育研究業績 (2022. 4. 1-2023. 3. 31日現在) 著書 1 (内訳 単 0 共 1) 学術論文 0 (内訳 単 0 共 0) 報告書 0 (内訳 単 0 共 0) 研究所報告会 1 (内訳 単 0 共 1)

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
本学の学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	西南女学院大学 保健福祉学部 附属保健福祉学研究所 研究費	○水貝洵子 山田恵 樋口由貴子 目野郁子 高崎智子 大内田知英	300,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県食品安全・安心委員会」において、食品の安全・安心の確保に関する基本計画等について調査審議する。	委員	2021年5月1日～2023年4月30日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
・ 人事委員会委員 2017年4月1日～ 現在に至る 人事委員会委員長 2021年4月1日～ 現在に至る ・ 動物実験委員会委員 2016年4月1日～ 現在に至る ・ 保健福祉学部附属保健福祉学研究所運営委員 2003年4月1日～ 現在に至る ・ 外部資金促進導入プロジェクト 2021年4月～ 現在に至る ・ 看護学科推薦入試合格者に対する入学前課題担当 課題提示と提出された課題の評価及び面談により個別学修支援を行う。2009年～現在に至る。 ・ 学生の健康支援 保健室と協働し看護学科および助産別科の1年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防

可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている。2011 年～現在に至る。

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式9)

氏名	矢治 亜樹子	職名	助教	学位	修士(看護学) (福岡県立大学 2020 年)
----	--------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護学	精神疾患 長期入院 退院支援

研 究 課 題

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神科看護学会 日本看護協会 九州・沖縄 高度実践看護師活動促進協議会 PAS セルフケアセラピー看護学会 日本専門看護師協議会	精神看護代議員(2024 年まで)	2011 年 6 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2021 年 3 月～現在に至る 2021 年 9 月～現在に至る 2022 年 11 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023 年度入職）

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式9)

氏名	吉原 悦子	職名	講師	学位	修士(看護学) 大分大学
----	-------	----	----	----	--------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
老年看護学 地域包括ケア	認知症高齢者のケア 地域貢献活動 実習における学生の学び

研 究 課 題
・認知症高齢者のケア ・実習における学生の学び(高齢者理解について) ・もしバナゲームを活用した高齢者理解について ・聞き書きによる高齢者のライフストーリー

担 当 授 業 科 目
(前期) ・地域連携協働支援論 ・地域生活支援論 ・老年看護学演習 ・在宅看護学 ・在宅看護学演習 ・看護研究 ・高齢者支援学Ⅰ ・高齢者支援学Ⅱ(開講なし) ・早期看護学実習 (後期) ・地域生活支援論(新カリキュラム) ・老年看護方法論 ・看護学(栄養学科)(開講なし) (通年) ・老年看護学実習Ⅱ ・看護総合演習 ・看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【地域連携協働支援論】 健康、生活、地域という基本的なことにに関して、自分自身のことと捉えられるように日常生活をイメージすることから講義を始めた。自身の住んでいる地域を概観し、課題を見出すことを課した。その際には、家族にインタビューを行い生活者としての話を聞くことを求め、実際の課題に着目できるようにした。また、既習の知識である、社会保障概説などとも絡めながら、幅広く地域で暮らす人を見る視点を持てるように享受した。また、講義の中では、具体例をあげ、学生がイメージしやすいように話をし、興味や関心を持ってもらう工夫を行った。さらに、地域包括ケアについての基礎的な知識を解説し、社会的背景を理解するように努めた。

授業科目名【地域生活支援論】 本科目は、必修科目である。2 年次に学ぶ「地域連携協働支援論」に次ぐ科目であり、地域で生活するあらゆるライフステージにある人々の健康を支えるための知識・ケアを学ぶ科目である。 そのため、これまでに学んだ各領域の概論や方法論をベースにし、保健・医療・福祉・教育などの領域の専門職との協働連携や包括的にケアする方法、その中で看護師の役割などを講義した。後半の講義で「障害者・高齢者・医療的ケア児」を地域で支えるネットワークを考え、図式化した。昨年度より、コロナの状況により講義形態が変化する可能性があるため、グループワークではなく個人ワークとしての課題とした。しかし、講義中に、周りの学生と意見交換をする時間を設け、自身の課題をブラッシュアップするように促した。最後には、発表する時間を設け、内容を共有した。また、授業評価では課題以外の学習はほとんどの学生が行っていないと回答していたが、毎回の課題をきちんと提出しており、課題を行うことによって復習や調べることにもつながっていた。
授業科目名【老年看護学演習】 老年看護学概論・老年看護方法論をもとに演習を行った。看護過程の展開と看護技術を行った。事例については2 年時の方法論でも触れており、老年特有の疾患で、対象理解を進めていった。事例患者をイメージしながら看護実践が行えるように関連性を持たせ、技術演習を行った。特に豊かな生や意思決定支援についての講義では、対象を理解するための方法や着目点について解説を行った。
授業科目名【在宅看護学】 継続看護、多職種連携の講義を担当した。地域包括ケアも含めて、社会的背景、制度を含めて講義した。これまで、各領域の概論や方法論で学んできたことを繰り返し想起しながら、講義を行った。また、病院、在宅など切れ目のない看護を提供することをイメージ付けるためにも具体例を挙げながら、病院から在宅、在宅から病院での継続の方法や関連職種などを含めた連携を具体的に実際のやり取りや身近な話題を組み込みながら伝えた。
授業科目名【在宅看護学演習】 在宅看護学を踏まえながら、演習を行っていった。特に看護過程では在宅の特有の視点と特徴を踏まえることができるように指導を行った。昨年度に引き続き、実習の場面と関連付けておこなった。在宅看護では、いろんな世代を対象とするため、演習内容も幅広いことや看護師だけでなく、多職種と連携する必要や家族への視点も重要であり、特に意識して伝えた。疾患を治療することだけでなく患者さん本人と家族の可能な限り望ましい生活に近づけるための援助を伝えていった。
授業科目名【看護研究】 本講義は4 名の教員で担当した。研究の基本となる講義とグループワークで講義を構成している。文献クリティークや英論文の要約など研究の基礎となる課題を行い、研究計画書の作成に取り組んだ。また、実際の調査票の作成を行うことや質的研究での分析の一連の流れを行って見た。学生にとっては、難解であった課題もあったが、学生の質問にその都度答え理解が進むように説明を行った。
授業科目名【看護総合演習・実習】 今年度は5 人の学生を担当した。看護総合演習・実習については、関心のある分野の論文を読み、ゼミのメンバーと意見交換を行った。今年度は、聞き書きをテーマとし、地域在住の高齢者の人生を聞き取るという実習を行った。2 人または、3 人一組で受け持たせていただき、話を聞かせていただいた。そして、まとめの作業に入る際には、実際に地域で聞き書きを実践されている方に指導を受けながら、作成した。また、地域貢献活動の実践を視野に入れ、乳がん検診についての学びを深めることや地域で活動している企業に話を聞きに行き、見学をさせていただいた。地域での暮らしを支援するための多職種連携について、医療職のみならず、様々な職種との交流が学生の視野を広げる手助けとなった。
授業科目名【老年看護学方法論】 高齢者の排泄の自立支援について担当した。基本的な疾患や症状はすでに学んでいるため、高齢者では特に気を付けるべきことについて具体的な場面を盛り込み、講義を行った。
授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】 3 年生後期から4 年生前期にかけての実習である。この実習では、高齢者施設での実習であり、コロナ感染対策のため、学生の施設への立ち入りはできなかった。しかし、教員の施設への立ち入りを可能にいただき、オンラインで施設の療養者と学内の学生をつなぎ実習を行った。しかし、画面上では、療養者の全体像が見えにくい実習であるため、学生の考えや捉え方を十分に確認することや職員へのインタビューを行

いながら療養者の生活の全体が把握できるように行った。また、訪室する時間帯を変えて食事の様子や他の入居者とのかかわり、歩行状態や施設の設備などを画面上で映し、学生が施設に入所する高齢者の生活を環境も含め把握できるように工夫した。高齢者は難聴や認知力の低下がありオンラインでのコミュニケーションは難渋したが、パソコンや外付けのスピーカーなどを使用し、出来るだけ直接やり取りができるようにかかわった。認知力が低下している高齢者とのかかわりになるため、言語だけを聞くのではなく、その人の持つ背景を鑑み、受け持ち療養者さんのメッセージをくみ取るように指導した。オンラインの中でも一緒に歌を歌ったり、療養者が行ってみたいと思っている土地の写真を会話の中に盛り込み、グーグルマップを利用し、オンラインならではの紹介も組み込み、気分転換活動へのケアも提供できた。また、今年度は、介護老人保健施設での半日ではあったが実習を行い、実際の施設を見学し、ケアを見学させていただいた。このことは、実際に廊下の広さや、居室やトイレといった生活空間を見ることで療養者の生活をリアルに体験でき、施設における看護についての理解が深まったといえる。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】

本科目は、保健福祉学部 3 学科合同の科目であり、アクティブ高齢者への支援について、講義と PBL（事例検討）を通して検討した。本年度は対面での授業で実施したため、3 学科合同の特性を生かし、議論ができるように工夫した。

授業科目名【地域生活支援論（新カリ）】

新カリキュラムより、1 年生後期科目として組まれている。そのため、これまでより具体的に落とし、できるだけ抽象的な表現は避け、講義を行った。また、必ず、講義の中で、こちらが提示した内容について考える時間や友人とディスカッションをする時間を設けた。看護は人々の暮らしを理解することが必要であるが、何気なく暮らしていることを意識し、生活や暮らし、属している集団などを振り返ることを心掛け、学生自身も生活者であることを意識づけた。また、これまでは既習の知識として持っていた社会保障についても並行で講義が行われるため、社会保障の教科書も使用して関連についても講義した。

しかし、地域包括ケアシステムに関する基礎知識は理解するのが難しいため、社会的背景をできるだけ具体的に起こし、理解を進めていった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		2001. 4～現在に至る
日本老年看護学会		2003. 4～現在に至る
日本老年社会科学会		2003. 4～現在に至る
日本認知症ケア学会		2006. 4～現在に至る
日本看護科学学会		2008. 6～現在に至る
公益社団法人「認知症の人と家族の会」		2016. 5～現在に至る
血管看護研究会		2021. 11～現在に至る

2021年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) COVID19 感染状況の変化に対応した老年看護学実習方法の検討	共	2023. 3	西南女学院大学紀要	①COVID-19 拡大に伴い臨床実習形態を変更した。その内容を検討した。 ②A4 版総頁数:147 頁、p133-142 金子由里、溝部昌子 吉原悦子

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) (その他)				
	共			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護師による POCUS 活用に関する研究—DVT 予防対策と安全なケアへの効果—	文部科学省科学研究費補助金 基盤 (B)	○溝部昌子、 <u>吉原悦子</u> 、金子由里	910, 000 円 (R4)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市障害支援区分認定審査会 第7回血管看護研究会	委員 実行委員	2021年4月～現在まで 2022年5月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
・地域連携室員 2020.4～2023.3 ・予算配分委員 2022.4～2023.3 ・看護学科2年生アドバイザー 2022.4～2023.3 ・看護学科物品係 2021.4～2023.3 ・認知症サポーター養成講座 2023.1.19

福 祉 学 科

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 荒木 剛	職名 教授	学位 博士 (保健福祉学)
---------	-------	---------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、ソーシャルワーク、実習教育 (社会福祉士養成課程)	地域包括支援センター、地域を基盤としたソーシャルワーク、ソーシャルワーク実習

研 究 課 題
・ 高齢者福祉領域におけるソーシャルワーク実践のあり方 ・ 社会福祉士養成課程における実習教育のあり方

担 当 授 業 科 目
福祉入門 (1 年前期)、基礎実習 (1 年通年)、高齢者福祉 (2 年前期)、ソーシャルワーク実習指導 I (2 年通年)、ソーシャルワーク実習 I (2 年後期)、ソーシャルワーク演習 (専門) I (2 年前期)、ソーシャルワーク演習 (専門) II (2 年後期)、高齢者支援学 I (2 年前期)、現代社会と福祉 (3 年通年)、相談援助実習指導 II (3 年通年)、相談援助実習 (3 年通年)、相談援助演習 IV (3 年前期)、相談援助演習 V (3 年後期)、専門研究 I (3 年通年)、専門研究 II (4 年通年) 【不開講科目】 高齢者支援学 II (4 年前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【福祉入門】 本科目は、福祉基礎科目に位置づけられ、学生の社会福祉への動機や関心を高めることを目的としている。講義では、初学者である 1 年生が福祉課題の現状を理解するとともに、対人援助職の魅力とやりがいを実感できるよう統計資料や DVD を活用するなどの工夫を行った。また、授業運営のマネジメントを担い、教授内容の検討や外部講師との日程調整を行った。
授業科目名【基礎実習】 本科目は、福祉基礎科目に位置づけられ、学生が対人援助のフィールドで体験型学習を行うものである。講義は学生を 3 グループに分け、担当制により実施した。実習前には、対人援助職への理解や実習への動機が高まるよう個別指導を実施した。また、自己学習により実習先や利用者特性について理解を深めさせ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会により、実習体験から得た学びや気づきの振り返りを行った。
授業科目名【高齢者福祉】 本科目は、社会福祉士養成課程の 2021 年度新カリキュラムによるものである。講義では、教科書を中心としたレジュメを作成し、学生の内容理解を助けた。また、適宜、新聞記事や DVD 等を活用し、最新情報の提供を行った。講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めた。
授業科目名【ソーシャルワーク実習指導 I】 本科目は、社会福祉士養成課程の 2021 年度新カリキュラムによるものであり、ソーシャルワーク実習 I の事前・事後指導を主な内容としている (高齢者福祉と地域福祉領域を担当)。実習前指導では、自己学習やグループ学習、DVD 等の視覚教材により、実習先で必要となる知識・技術の習得と動機づけに努めた。実習後指導では、個別面談や自己評価を通して、実習体験の学び・気づきを深めさせた。なお、昨年度同様に、新型コロナウイルスの影響で実習時期にばらつきが出たため、各人の進捗に合わせた指導を行った。

授業科目名【ソーシャルワーク実習Ⅰ】 本科目は、社会福祉士養成課程の2021年度新カリキュラムによるものであり、福祉施設・事業所において学外実習（60 時間）を行うものである（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習を実施するにあたっては、実習先との日程調整やプログラム内容の確認を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、昨年度同様に、新型コロナウイルスの影響で実習時期にばらつきが出たため、各人の状況を踏まえた対応を行った。
授業科目名【ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ】 本科目は、社会福祉士養成課程の2021年度新カリキュラムによるものである。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点、姿勢、支援過程などについて教授した。また、事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを理解し、実践的に習得できるよう工夫した。 ※ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱは、ローテーション（4 グループ）による授業展開となるため教授内容・方法は同じ。
授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】 本科目は、保健福祉学部3学科による合同講義である。内容は、アクティブ高齢者への支援について、講義（3回）とPBL（5回）を通して検討するものである。講義では、介護保険制度について教授したが、他学科の学生も理解しやすいよう説明内容や方法、配布資料を工夫した。また、PBLにおいては、3学科の学生が多職種連携の視点から議論を深められるよう配慮した。
授業科目名【現代社会と福祉】 本科目は、社会福祉士指定科目の1つである。社会福祉の原理と政策を主な内容としており、学生にとってはやや難易度が高い科目と思われる。したがって講義では、学生の内容理解を助けるため、教科書を中心としたレジュメを作成した。また、実習体験とリンクさせた説明を行うなどの工夫も行った。毎回の講義後には、コメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めた。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】 本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、相談援助実習の事前・事後指導を主な内容としている（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習前指導では、自己学習やグループ学習、DVD等の視覚教材により、必要な知識・技術の習得に努めた。また、実習計画書、個人紹介票、誓約書などの作成指導を通して、動機づけを行った。実習後指導では、個別面談、自己評価、実習報告会の実施により、実習体験の学び・気づきを深めさせた。なお、昨年度同様に新型コロナウイルスの影響で実習時期にばらつきが出たため、各人の状況に応じた指導を行った。
授業科目名【相談援助実習】 本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、福祉施設・事業所において学外実習（180 時間）を行うものである（高齢者福祉と地域福祉領域を担当）。実習を実施するにあたっては、実習先との日程調整やプログラム内容の確認を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、昨年度同様に新型コロナウイルスの影響で実習時期にばらつきが出たため、各人の状況を踏まえた対応を行った。
授業科目名【相談援助演習Ⅳ】 本科目は、社会福祉士指定科目の1つである。講義では、要支援高齢者の事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを教授した。また、実習後の講義では各人の実習体験の共有を行うとともに、ソーシャルワークの視点から体験を一般化し、知識・技術を習得できるよう指導した。
授業科目名【相談援助演習Ⅴ】 本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、地域福祉の基盤整備に関わる実践について教授するものである。講義では、調べ学習、グループ学習、事例検討などを積極的に用いて、地域づくりへの動機づけとその際に活用される知識・技術の習得に努めた。また、実習後の講義では各人の実習体験の共有を行うとともに、ソーシャルワークの視点から体験を一般化し、知識・技術を習得できるよう指導した。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習し、報告を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を深め、意欲的に取り組めるよう努めた。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、レポート作成に取り組んだ。学生指導においては、コミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉士会 日本社会福祉学会 日本地域福祉学会 日本介護福祉学会 日本ケアマネジメント学会		1998 年 4 月～現在に至る 2002 年 3 月～現在に至る 2007 年 3 月～現在に至る 2007 年 3 月～現在に至る 2008 年 1 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) コメディカルのための 社会福祉概論 第5版	共	2023 年 2 月	講談社	① コメディカルを目指す人に対して、社会福祉の制度や支援方法等について基礎から解説したテキスト。 ②編者：鬼崎信好、本郷秀和 共著者：今村浩司、片岡靖子、島崎剛、永田千鶴、畑香理、古野みはる、松岡佐智、村山浩一郎、渡辺暁 ③担当部分：第 13 章 社会福祉を担う人々（P191～P199）
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
ソーシャルワーク実習プログラムの開発	附属保健福祉学研究所	○荒木剛、岡田和敏、通山久仁子、文屋典子、中川美幸、山本佳代子、江藤くるみ	150,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市社会福祉協議会（権利擁護・市民後見センター運用委員会）	委員	2009年4月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会（総合企画委員会）	委員	2018年4月～現在に至る
社会福祉法人兼恵園（評議員会）	評議員	2017年4月～現在に至る
社会福祉法人北九州市福祉事業団（評議員会）	評議員	2021年6月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教務委員（2019年4月～現在に至る） 入試会議（2021年4月～現在に至る） 地域連携室室長（2021年4月～現在に至る）

2022 年度教育研究活動報告用紙（様式9）

氏名	稲 木 光 晴	職名	教授	学位	博士（体育科学）（筑波大学，1994 年）
----	---------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
運動生理学	持久性パフォーマンス、トレーニング、栄養

研 究 課 題
長距離走者の競技力向上に関する研究

担 当 授 業 科 目
運動と健康（前期）（看護学科） 運動と健康（前期）（福祉学科） チームスポーツ（前期）（看護学科） チームスポーツ（前期）（福祉学科） 生涯スポーツ（後期）（看護学科） 生涯スポーツ（後期）（福祉学科） 運動処方論（後期）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（前・後期）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（前・後期）（福祉学科） 母性の運動科学（前期）（助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【運動と健康】 1. 生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの提示を行った。また、最新情報を提供するよう心掛けた。 2. 授業の終わりに、授業内容に関して理解したことや感想、質問等を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で回答するようにした。
授業科目名【チームスポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. チームで練習をしたり、試合内容などについて意見交換したりすることによって、十分にコミュニケーションを図れるようにした。
授業科目名【生涯スポーツ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより、自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。また、ウォーキング・ジョギングは学生個人の体調や体力レベルに合ったペース設定で行わせた。

授業科目名【専門研究Ⅰ】 1. 様々な健康や体力に関連する記事や動画を用いて、興味関心の幅を広げた。 2. 記事や動画内容についての理解度を確認し、また知らなかった用語等について調べさせ、より多くの知識を獲得できるよう促した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 1. 専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。 2. 学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。
授業科目名【母性の運動科学】 1. 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。 2. 授業の終わりに、授業内容に関して理解したことや感想、質問を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で答えるようにした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本体力医学会 American College of Sports Medicine	評議員（1999年～）	1988年4月～現在に至る 1993年4月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
日本高等教育評価機構 北九州市立浅生スポーツセンターマ ラソン教室	評価員 アドバイザー	令和3年度 2022年4月1日～2023年3月31日

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
福祉学科長 人事委員 衛生委員 保健福祉学研究所 運営委員 西南女学院 評議員

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 今村 浩司	職名 教授	学位 医療経営・管理学修士(専門職)九州大学 修士(福祉社会)福岡県立大学
----------	-------	--

研 究 分 野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス(精神保健・心の健康)領域におけるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス(精神保健・心の健康)、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研 究 課 題
メンタルヘルス領域における地域生活支援に関する研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関する研究 精神保健福祉士の専門性向上に関する研究 精神障害者の成年後見に関する研究 触法障害者・高齢者の地域定着に関する研究 諸外国におけるメンタルヘルスサポートシステムの歴史的変遷の研究

担 当 授 業 科 目
ソーシャルワークの基盤と専門職(福祉学科1年前期必修2単位) ソーシャルワークの基盤と専門職(社会専門)(福祉学科1年後期必修2単位) 福祉入門(福祉学科1年前期必修2単位) 精神保健学(福祉学科3年前期選択4単位) 精神障害者地域生活支援論(福祉学科4年後期選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(福祉学科3年通年選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(福祉学科4年通年選択2単位) 精神保健福祉援助演習Ⅰ(A、B)(福祉学科2年後期選択1単位) 精神保健福祉援助演習Ⅲ(A、B)(福祉学科4年後期選択1単位) 精神保健福祉援助実習Ⅰ(福祉学科3年選択4単位) 精神保健福祉援助実習Ⅱ(福祉学科4年選択4単位) ボランティア概論(保健福祉学部看護学科・福祉学科・栄養学科1年前期選択1単位) ボランティア概論(人文学部の英語学科・観光文化学科1年前期選択1単位) 専門研究Ⅰ(福祉学科3年通年必修2単位) 専門研究Ⅱ(福祉学科4年通年必修2単位)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【ソーシャルワークの基盤と専門職】および 【ソーシャルワークの基盤と専門職(社会専門)】 福祉学科1年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。新カリ移行で、通年講義から半期ごとでの単元に変わった。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、高等学校の福祉科教諭やスクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーの機能を使用して理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テスト

を実施し、理解を深めた。
授業科目名【福祉入門】 対人サービスを行う福祉専門職（ソーシャルワーカー）養成のために、福祉学科4名の教員で、現実的な福祉実践臨床現場における活動などを、それぞれの設定したテーマに沿って、臨場感溢れリアリティな内容の授業を提供し、①障害福祉、②司法福祉、③低所得者福祉、④子ども家庭福祉、⑤災害福祉を担当した。福祉専門職が実践にてどのような活動を展開しているのかを伝え、そのために必要なコミュニケーション、自己表現、チームワーク等の技能の習得の必要性を理解することを中心に展開させた。リアクションペーパーの機能を利用して、次の担当の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【精神保健学】 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職課程においても必修の科目である。可能な限り臨床的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士を受験しない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパーの機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【精神障害者地域生活支援論】 精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解してきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアクションペーパーの機能を使用して、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】 精神保健福祉士レーン担当の2人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】 上記同様2人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。
授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】 メンタルヘルスの専門家である、精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、先ずは精神障害者とののかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。
授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】 メンタルヘルスの専門家である、精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。
授業科目名【ボランティア概論】 人間総合科学の中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を実践している5名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、さまざまな角度からのリアリティにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 18名のゼミ生に対して、精神保健福祉士・社会福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、精神科病院や福祉施設等のwebによる施設見学を行って、具体的現実感を習得させ

ることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的イメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い、web による参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 24名のゼミ生に対して専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士・社会福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスをを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生全員の就職が内定し、社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格を含め、多数輩出することができた。今年度も、ゼミ生のダブル合格者多数の結果であったので、次年度に向けても同様に取り組みたい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年4月～2020年3月）	1994年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年6月～2012年6月）	1996年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）	1996年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008年～現在
日本精神保健福祉学会		2012年～現在
九州精神神経学会		2012年～現在
日本更生保護学会		2013年～現在
日本医療ソーシャルワーク学会		2018年～現在

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書 等） 1.「コメディカルのための社会福祉概論【第5版】」	共	2023年2月	講談社	① コメディカルに対して社会福祉全般の概要を解説したものである。執筆担当部分は「低所得者への福祉」であり、貧困と低所得の関係性、生活保護をはじめ公的扶助の制度的サービス全般にわたり解説して述べている。 ② 編集 鬼崎信好・本郷秀和 ③ 担当部分「第8章 低所得者福祉 8.1 貧困とは 8.2 生活保護制度 8.3 生活保護と関連事業 8.4 低所得者対策 8.5 現状と今後の課題」103頁から116頁 ④ 総頁数 240頁 A4版

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 「入門 保健医療と福祉」	共	2023年3月	ミネルヴァ書房	① 社会福祉士・精神保健福祉士養成の「保健医療と福祉」に関する専門書である。 ② 編集 川村 匡由 ③ 担当部分 第3章 医療保険制度「1 医療サービス（国民医療費の内訳とその動向）、2 医療費の自己負担や保険料の減免制度、高額療養費制度、無料低額診療、3 労働者災害補償保険、傷病手当金、特定疾患医療費助成制度(30頁分)を担当した。 ④ Pp59～88 総頁数 211頁 A5版
3. 「精神医学と精神医療」	共	2023年3月	弘文堂	① 精神保健福祉士養成の「精神医学と精神医療」のテキストである。精神医療と精神保健・福祉との連携について、特に治療の導入に向けた精神保健福祉士のかかわりや、連携の視点をまとめた。 ② 編集 高岡健・古谷龍太 ③ 担当部分 「第5章精神医療と精神保健・福祉の連携 1、治療の導入に向けた支援」を執筆 ④ Pp230～234 総頁数 250頁 A4版
4. 「認知症の人の生活と作業療法」	共	2023年3月	青海社	① 認知症の人に対しての作業療法に関する実践書であり、認知症と生活支援捉え方や支援のポイント、作業療法の実際についてまとめられている。 ② 編集 谷川良博 ③ 担当部分 「第2章 認知症の人への生活支援のポイント 3 各職種の置ける支援のポイント (2) 精神保健福祉士」を執筆 ④ 108頁から110頁 総頁数159頁 A4版

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(論文・総説・報告等) 1.「北九州市教育委員会事務点検・評価報告書(令和3年度実績)」	共	2022年8月	北九州市教育委員会	① 北九州市教育委員会の業務に関する事務の管理及び執行状況の点検評価を、有識者の立場で評価をまとめた報告書である。 ② 総頁数 80頁
2.「精神保健福祉学基本用語」 公益社団法人社会福祉振興・試験センター「精神保健福祉士の実践研究で活用される学術用語の合意形成に向けた試案づくり」研究助成事業	共	2023年3月(予定)	公益社団法人社会福祉振興・試験センター	① 公益社団法人社会福祉振興・試験センター「精神保健福祉士の実践研究で活用される学術用語の合意形成に向けた試案づくり」の研究助成事業であり、「危機介入(クライシスインターベンション)」、「精神障害者通院医療費公費負担制度」「相談援助」の用語を担当した。 ② 原稿提出済み 発行待ち
(学会発表等) なし				
(受賞) 北九州市表彰		2023年2月	北九州市長	北九州市表彰(功労賞) 北九州市要保護児童対策地域協議会の活動に対して表彰

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
なし			

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本精神保健福祉士協会 福岡県精神保健福祉士協会	理事 会長(代表理事)	2001年4月～2020年3月 2001年4月～

福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012 年 7 月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002 年 9 月～
北九州地区社会福祉専門職 5 団体連絡協議会	代表世話人	2006 年 4 月～
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員	2005 年 10 月～
北九州成年後見センター	理事	2006 年 3 月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005 年 4 月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001 年 4 月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005 年 7 月～2020 年 3 月
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012 年 4 月～2021 年 3 月
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005 年 4 月～2019 年 3 月
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006 年 4 月～
北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）	2006 年 4 月～
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008 年 7 月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013 年 4 月～
福岡県精神医療審査会	委員	2013 年 4 月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センター） 精神保健福祉士国家試験委員会	委員	2014 年 6 月～2021 年 3 月
北九州市障害者差別解消法委員会	委員長	2016 年 8 月～
北九州市社会福祉協議会	評議員	2021 年 3 月～
中間市社会福祉協議会	評議員	2021 年 3 月～
北九州あゆみの会	評議員	2022 年 7 月～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
学校法人西南女学院 評議員 西南女学院大学・短期大学部 評議会 運営協議会 メンバー 西南女学院大学・短期大学部 入試部長 学生募集委員長 西南女学院大学・短期大学部 地域連携室 室員 西南女学院大学 精神保健福祉研究会 顧問（精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会） 福祉学科 精神保健福祉士養成レーン 担当	

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	上村 眞生	職名	准教授	学位	博士 (教育学) (広島大学 2012 年)
----	-------	----	-----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研 究 課 題
・ 保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況 ・ 保育者の研修効果に関する研究 ・ 保育者のストレスマネジメント

担 当 授 業 科 目
保育原理 (前期) 子どもの理解と援助 (前期) 保育内容 環境 (前期) 保育内容の理解と方法Ⅲ (前期) 保育課程論 (後期) 保育内容 総論 (前期) 保育内容 ことば (後期) 保育内容の理解と方法Ⅳ (後期) 保育実習Ⅰ (通年) 保育実習Ⅱ (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅱ (通年) 保育実践演習 (通年) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないように、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。今年度は受講人数が少なく、授業進行におい対話を中心に行った。
授業科目名【子どもの理解と援助】 子どもを理解するための理論と方法について、教授した。種々の保育論の解説、学生による発表に加え、子ども理解のための観察技法、記録法について解説し、観察技術の獲得を目指した。
授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅲ】 造形的表現技術の獲得を目的として、各技法の解説・実演を通して、保育における表現活動の展開方法について教授を行った。

授業科目名【保育課程論】

保育を実施する上で必要となる、カリキュラム論について解説し、保育の中で展開の仕方について解説した。合わせて、子どもの発達について、学生にプレゼンテーションを課し、定型発達児と障害のある子どもの保育に展開についても解説した。

授業科目名【保育内容 環境】

保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。

授業科目名【保育内容 総論】

保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになった。

授業科目名【保育内容 ことば】

保育場面における言語環境の構成、子どもの言葉の発達を促すための保育方法について教授した。実体験を基にした学びを構築するために、言葉の発達を促す教具の製作等を行い、それを実際に使用する演習を中心に授業を進めた。

授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】

保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。

授業科目名【保育実践演習】

保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。

授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】

保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。

授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】

実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	特になし	2005年6月～現在に至る
日本小児保健協会	特になし	2006年7月～現在に至る
日本保育園保健学会	特になし	2007年8月～現在に至る
日本ウェルネス学会	特になし	2009年5月～現在に至る
日本乳幼児教育学会	特になし	2018年5月～現在に至る

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
子ども家庭支援論	著書	2022 年	教育情報出版	①子ども家庭支援における現代的課題を解説する教科書である。編者を務めると共に、第2章・10章・11章を執筆した。 ②七木田敦・上村眞生・岡花祈一郎編著

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
多声的保育評価の開発：子どもと保護者の声 を評価に導入する方法	科学研究費	○（松井 剛太） 上村 眞生 （松本 博雄） （水津 幸恵） （片岡 元子） （中西 さやか） （岡花 祈一郎） （大野 歩） （越中 康治） （佐藤 智恵）	300,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称	役 職 名 等	任 期

(内 容)		期 間 等
・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場	ボランティア委員	2001 年 4 月～
・福岡県保育協会遠賀中間地区	研修コーディネーター	2018 年 4 月～
・福岡県保育士等キャリアアップ研修	指定講師	2017 年～
・北九州市児童福祉施設等第三者評価 委員会専門委員	専門委員	2020 年 4 月～

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
・情報システム管理運用委員 2017 年 4 月 1 日～現在に至る ・PHOTO 部 顧問 2010 年 12 月 14 日～現在に至る ・学生募集委員 2019 年～現在に至る ・WEST 管理責任者 2018 年 4 月～現在に至る

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	岡 田 和 敏	職名	教 授	学位	修士 (社会学) (佛教大学 1984 年)
----	---------	----	-----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	保健医療ソーシャルワーク

研 究 課 題
保健医療ソーシャルワーク実践における障害者、高齢者、難病患者の諸問題に関する研究

担 当 授 業 科 目
保健医療と福祉 (2 年 前期) 福祉行財政と福祉計画 (3 年 前期) 社会福祉特講 (4 年 後期) 相談援助演習 I (1 年 後期) ソーシャルワーク演習 (1 年 後期) 相談援助演習 IV (3 年 前期) 相談援助演習 V (3 年後期) ソーシャルワーク実習指導 I (2 年 前・後期) 相談援助実習指導 II (3 年 前・後期) ソーシャルワーク実習 I (2 年 後期) 相談援助実習 (3・4 年 前・後期) 専門研究 I (3 年 集中講義) 専門研究 II (4 年 集中講義) 社会福祉概説 (栄養学科 B クラス 2 年後期) 社会福祉概説 (栄養学科 A クラス 2 年後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 保健医療と福祉 】 医療がクライアントにとっても自分自身にとっても身近な問題であることを先ず認識し、医療保険制度の仕組みや年金制度、介護保険制度など社会福祉との関係性について基礎的な理解ができるよう説明した。医療の場や広く社会において実際に起きていることを説明するとともに、人々が抱える生活課題に対して、医療機関において社会福祉士 (ソーシャルワーカー) が専門職として、如何に重要な役割を担っているかを講義した。
授業科目名【福祉行財政と福祉計画】 社会保障制度を構築するうえで、必要になるのが財源である。福祉行財政の実際と実施体制について解説し、福祉行政の骨格や法制度、社会福祉の基礎構造改革、支援体制の実際を取り上げて解説した。 また、各種福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明し、計画策定の実際を解説した。

授業科目名【社会福祉特講 II】 『福祉行財政と福祉計画の動向』 社会福祉の領域、特に福祉行財政と福祉計画における制度・政策の最新動向について講義を行った。 『保健医療施策の動向』 保健医療機関に社会福祉士国家資格を持つ医療ソーシャルワーカーがいる意味と実践活動する際に必要となる知識の習得を目指した講義を行った。
授業科目名【 ソーシャルワーク演習 】 ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を理解したうえで、1. ソーシャルワーカーとして求められる基礎的な能力、2. ソーシャルワークの価値規範と倫理、3. ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術について、実践的に学ぶことを基本として、学生とのコミュニケーションを取りながら学ばせた
授業科目名【 相談援助演習 IV 】 問題の実情、社会的把握、援助の過程、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発など相談援助の方法、技術について、保健医療ソーシャルワークの事例を用い、何を考え、調べ、援助をどのように展開して行くかについての視点や援助の実践について考えさせる形で学ばせた。
授業科目名【 相談援助演習 V 】 地域福祉の問題の実情、社会的背景、援助のプロセス、地域住民へのアウトリーチ・ニーズ把握、地域福祉計画、サービス評価についてを地域福祉の基盤と開発に係る実践事例をもとに学ばせた。
授業科目名【 ソーシャルワーク実習指導 I 】 医療領域を担当。他の領域と指導の流れは同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。
授業科目名【 相談援助実習指導 II 】 他の社会福祉領域と実習する上では特別ではないが、医療機関の特殊性から、現場実習であってもより実践場面で活動が出来るよう、興味、疑問、不安などに対して個別に指導した。配属実習については一人ひとりの特性に応じ配属に繋げた。 コロナ禍により実習が本来の実習期間ではなく時期をずらし実習可能となるよう実習機関と相談し個別に対応した。
授業科目名【 ソーシャルワーク実習 I 】 初めての实習で、それまでは医療機関との関りは患者としてであったものから医療機関の内側から患者と関わり、医療ソーシャルワーカーと云う職種をある程度の理解はできていても、直接に接することでのギャップを経験する。新カリキュラムで実施される2年次での実習に不安と挫折感を感じないよう具体的で平易な指導を心掛けた。
授業科目名【 相談援助実習 】 学生の希望を聞くとともに個々に配慮しながら配属先を決めた。また、各医療機関のソーシャルワーカーとの調整を行い、実習生に配慮した指導を行った。 配属先が新型コロナ感染者を出し受入れが中断することがあった。学生たちには、医療機関の特殊性から起こり得ることであると説明し不安なく実習が終了できるよう実習先指導者と調整しながら実習を行うことが出来るよう指導した。
授業科目名【 専門研究 I 】 一年をかけ、自分が気付いたことを研究に結び付けるように指導した。図書館でのガイダンスも受講させ論文、文献、資料などの検索の仕方を学ばせた。適宜、参考となる資料は提供し学ぶ機会も持った。

授業科目名【 専門研究 II 】

今年度は、コース変更の学生を担当することになり、学生と面談し実習などこれまでに学んで来た事から本人の考えを聞き研究へと向かうことが出来るよう指導した。

授業科目名【 社会福祉概説 B, A 】

社会福祉の理論、制度・政策、援助技術などの基礎知識について、さらに、社会福祉の各領域の動向及び現状についても解説した。

専門職の連携と云うが、医療、福祉領域での栄養士、管理栄養士の役割は他の専門職とともに重要な存在であり、人に関わる専門職として社会福祉の知識と技術は重要なものであると認識できるよう指導した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会	会員	1990 年 10 月～現在に至る
福岡県医療ソーシャルワーカー協会	会員	1985 年 4 月～現在に至る
佐賀県医療ソーシャルワーカー協会	会員	1998 年 6 月～現在に至る
日本医療社会福祉協会	会員	1998 年 4 月～現在に至る
日本医療ソーシャルワーカー協会	会員	2010 年 9 月～現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会	会員	2001 年 4 月～現在に至る

2 0 2 2 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) (その他)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市民生委員推薦委員会	委員	2020年4月1日～2023年3月31日
北九州市福祉有償運送運営協議会	会長	2005年8月～現在に至る
北九州市小倉南区社会福祉協議会評議員	評議員	2020年4月1日～2023年3月31日
北九州市社会福祉協議会ふれあいネットワーク第三者委員会	委員	2022年5月～2023年3月31日
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長	2013年5月～現在に至る
社会福祉法人 北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員	2021年4月1日～2024年3月31日
社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長	2003年4月～現在に至る
入所判定委員会	委員長	2003年4月～現在に至る
社会福祉法人 敬寿会	理事	2021年6月～2023年6月
特定非営利法人 生活支援館「パートナー」	理事	2002年3月～現在に至る

社会福祉法人 療養介護事業所「ひなた家」	理事	2021 年 6 月 15 日～2023 年 6 月 14 日
社会福祉法人 みぎわ会	理事	2022 年 4 月 5 日～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
① 附属図書館長 2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月末日 ② 図書委員会委員 ③ 研究紀要委員会委員 ③ ITK（イラスト制作）顧問

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	梶 原 浩 介	職名	講 師	学位	博 士(社会福祉学)(熊本学園大学 2017年)
----	---------	----	-----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社 会 福 祉 学	精神保健福祉、障害者福祉(発達障害)、子ども家庭福祉、ソーシャルワーク

研 究 課 題
地域で生活する家族が抱える生活課題(不登校・ひきこもり、子育て、虐待、介護、精神疾患など)に各当事者(家族1人ひとり、家族、地域の支援機関・施設の支援者等)に取り組む上で生じる語りを対象として、主に質的研究・量的研究の方法を用いて社会問題の現状と課題を明らかにするとともに、ソーシャルワーカーとして各当事者に対する支援に求められる知識・技術について明らかにすることを目指している。特に、家族が抱える生活課題の現状及び傾向、家族支援における視点、援助技術の生成などについて社会福祉学の観点により研究している。

担 当 授 業 科 目
保健福祉学入門 (1 年次前期) ソーシャルワーク演習 (1 年次後期) 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ (2 年次前期) 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ (2 年次後期) 精神保健福祉制度論 (2 年次後期) ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ (2 年次前期) ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ (2 年次後期) 健康相談(看護学科科目) (3 年次前期) 相談援助演習Ⅳ (3 年次前期) 相談援助演習Ⅴ (3 年次後期) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ (3 年次通年) 精神保健福祉援助実習Ⅰ (3 年次通年) 専門研究Ⅰ (3 年次通年) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ (4 年次通年) 精神保健福祉援助演習Ⅲ (4 年次後期) 国家試験対策(地域福祉論を担当) (4 年次後期) 精神保健福祉援助実習Ⅱ (4 年次通年) 専門研究Ⅱ (4 年次通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保健福祉学入門】 本科目は看護学科、福祉学科、栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種協働の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題の認識を深めていくものである。そのうち福祉学科教員として、福祉の実践現場でおこなわれる支援者間の協働の事例をもとに福祉専門職の価値・専門性について学生の理解を促した。
授業科目名【ソーシャルワーク演習】 近年の社会福祉に関する問題を取り上げ、その事例を基にグループワークを通して他者と意見を共有しながら、自分なりの理解を深めていく機会をできるだけ確保した。学生同士の振り返りを通して、個別の内容をグループ全体に共有することにより、学生自身の気づきを共有できる時間を設けた。福祉的課題・問題の理解に

ついては、主に複合課題を抱える家族の問題を事例として取り上げ、自己覚知・他者理解の促し、支援者に求められる基本的なコミュニケーション技術等について学生同士の関わりを生かして理解を深めた。
授業科目名【地域福祉と包括的支援体制Ⅰ・Ⅱ】 地域福祉を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解することを目指した。前期は、地域福祉の概念、行政システム、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、福祉教育、コミュニティワーク等を中心に指導に従事した。後期は、コミュニティソーシャルワーク、事例教材等を基にした地域福祉の実践について触れ、地域福祉の推進の在り方について指導に従事した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
授業科目名【精神保健福祉制度論】 メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者など)を取り巻く法制度の詳細についての理解を深めるとともに、相談援助活動を展開する精神保健福祉士の役割について捉えることを目指した。教科書の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって、学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
授業科目名【ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ・Ⅱ、相談援助演習Ⅳ・Ⅴ】 本科目は、社会福祉士指定科目の1つである。講義では、複合課題を抱える家族への支援事例を用いて、ケースワークの展開プロセス、アセスメント技法、地域組織化活動の手法等について教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士、様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。
授業科目名【健康相談】 本科目は、看護学科のうち養護教諭を目指す学生を対象に、福祉専門職の立場により、学校に通う児童生徒が抱える問題(不登校・虐待・貧困など)の現状と課題、家族支援の在り方、校内での支援体制の構築、養護教諭として地域の支援機関との連携・協働の在り方について指導に従事した。文部科学省の資料の要点を整理したパワーポイント資料等を作成し、視覚情報として併用した。聴覚・視覚情報を併用することによって学生が理解しやすいよう知識・技術の習得を促した。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】 福祉学科3年生を対象にした実習科目。精神科医療機関への実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 本科目では、ゼミ全体で研究テーマを設定した後、各人が個別の課題について自己学習を行った。学生指導においては、できる限り各人が研究への関心を高め、意欲的に学習に取り組めるよう努めた。
授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】 福祉学科4年生を対象にした実習科目。3年次の医療機関の実習を踏まえて、更なるステップアップを目指していけるよう、4年次の地域実習に向けての事前及び事後学習として、実習中に求められる知識・技術、学生の疑問等を整理の上で、学生自身が実習に取り組む主体者として学習できるよう担当教員一同にて検討の上、工夫した。そして、実習後は報告会を通して、学生自身が実習中の学びを、より実践的な理解として深めた。
授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】 精神保健福祉士として現場実践を行う際に、求められる知識・技術の習得を目指し、演習プログラムを通して指導に従事した。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて解説を行い、理解を深めさせた。4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。
授業科目名【国家試験対策(地域福祉論を担当)】 本科目は、4年次の社会福祉士国家試験の受験を目指す学生を対象に指導に従事した。講義では、地域福祉論を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正や学生の理解度が十分でないと思われる内容を中心に教授した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 本科目では、各人が研究テーマ・課題を設定し、調べ学習及びレポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会	正会員（2014年6月～現在に至る） ・九州地域部会事務局・事務局員（2018年6月～2022年6月迄）	2014年6月～現在に至る
日本地域福祉学会	正会員（2019年6月～現在に至る）	2019年6月～現在に至る
日本ソーシャルワーク学会	正会員（2014年7月～現在に至る）	2014年7月～現在に至る
日本学校ソーシャルワーク学会	正会員（2012年5月～現在に至る）	2012年5月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
（シンポジウム） 「熊本地震の被災状況下における研究活動を振り返る ・私が体験した研究継続上の 苦悩・課題と研究を止めない ための工夫 -」	単 独 （シンポジ スト）	2022 年 10 月	日本社会福祉学会 第 70 回秋季大会 スター トアップ・シンポジウ ム、口頭発表(会場：関 西福祉科学大学)	「研究を止(と)めない～様々な 危機をどう乗り越えるのか～」を テーマに、熊本地震(自然災害) の影響下における研究遂行する ための工夫や課題について個人 的体験をもとに報告した。主に① 日常生活に関する危機的状況、② 就労に関する危機的状況、③研究 活動に関する危機的状況につい て報告した。新型コロナウイルス 感染症及び自然災害等の影響下 においても研究を止めないため の課題や工夫について他3名のシ ンポジストと共に協議した。(20 3字) ※査読有 ※ 日本社会福祉学会 第70回秋 季大会 抄録集(pp. 61～63)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地域包括ケアシステム推進下における介護系 NPO の役割	日本学術振興 会	研究代表者(○本郷 秀和)、分担研究者 (鬼崎信好、村山浩一 郎、松岡佐智、畑香 理、田中将太、島崎 剛)、梶原浩介	4,420,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
地域共生社会の推進に伴う、制度の狭間の問 題に対するソーシャルワーカーの役割と技能	日本学術振興 会	2,210,000 円	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
熊本県精神保健福祉士協会 SSW 委員 会	調査研究班	2014 年 11 月～現在に至る
日本精神保健福祉士協会	会員	2014 年 5 月～現在に至る
福岡県精神保健福祉士協会	会員	2019 年 12 月～現在に至る
実習指導委員会	委員	2021 年 4 月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2019 年 12 月～現在に至る
北九州市民カレッジ企画運営委員	企画運営委員	2019 年 12 月～現在に至る
北九州市福祉事業団 福祉サービス苦 情解決体制・第三者合同委員会	専門委員	2021 年 4 月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 ボランティ ア・市民活動センター 運営委員会	運営委員	2021 年 4 月～現在に至る
NPO 法人障害者支援要会 カフェ・ラ ポール	監事	2021 年 6 月～現在に至る
北九州市発達支援センターつばさ・ケ ース検討会	アドバイザー	2021 年 7 月～現在に至る
宮若市地域福祉計画策定委員会	会長	2022 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

学生アドバイザー 2019 年 4 月 ～ 現在に至る

地域連携室 2020 年 4 月 ～ 現在に至る

・室員 2020 年 4 月 ～ 現在に至る

国際交流委員会 2021 年 4 月 ～ 現在に至る

・委員 2021 年 4 月 ～ 現在に至る

ハラスメント相談員 2021 年 4 月 ～ 現在に至る

学生総合支援室 2022 年 4 月 ～ 現在に至る

・アドバイザー 2022 年 4 月 ～ 現在に至る

教職員懇談会 2022 年 4 月 ～ 2023 年 3 月迄

・委員 2022 年 4 月 ～ 2023 年 3 月迄

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	金谷 めぐみ	職名	講師	学位	修士 (芸術学) (日本大学)
----	--------	----	----	----	-----------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
・歌唱芸術 ・子どもの音楽 ・キリスト教音楽	・声楽技術 ・音楽表現 ・讃美歌

研 究 課 題
・歌唱における発声および技術の習得について W.A.モーツァルトの声楽作品から検討する。 ・子どもの音楽表現活動の指導法について検討する。 ・キリスト教音楽の歴史と讃美歌について文献的考察を行う。

担 当 授 業 科 目
保育内容・表現 (前期) (福祉学科) 保育内容の理解と方法Ⅰ (前期) 保育内容の理解と方法Ⅱ (後期) (福祉学科) 保育実践演習 (通年) (福祉学科) 保育実習指導Ⅰ (通年) (福祉学科) 保育実習指導Ⅱ (通年) (福祉学科) 保育実習Ⅰ (通年) (福祉学科) 保育実習Ⅱ (通年) (福祉学科) 初年次セミナーⅠ (前期) (福祉学科) 初年次セミナーⅡ (後期) (福祉学科) 専門研究Ⅰ (通年) (福祉学科) 専門研究Ⅱ (通年) (福祉学科) キリスト教と西南女学院のあゆみ (前期 1 回) (保健福祉学部,人文学部) キリスト教と文化 (後期 2 回) (保健福祉学部,人文学部)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育内容 表現】 乳幼児の「表現」について他の領域と関連付けながら解説することで、特定の表現活動だけでなく、日常の総合的な子どもの表現について考察する視点を持てるよう工夫を行った。また、保育者自身の「表現」に係わる知識・技能習得のための演習を段階的に行い、自分自身を解放して表現する楽しさを共有することで、保育における指導のありかたを模索する機会を設けた。乳幼児の「表現」を導くための指導案を作成し発表を行うことで、子どもの表現への理解を深めた。
授業科目名【保育内容の理解を方法Ⅰ】 保育士として求められる基礎技能において、声の使い方について解説することで話声および歌声等について意識しながら声を使い分けができるよう、演習内容の工夫を行った。また、ピアノ演奏の基礎に関する実技指導ピアノ実技指導に関しては、学生のピアノの演奏技能の程度によってグループ別および個別に授業を行うことで、丁寧な指導を行った。

授業科目名【保育内容の理解と方法Ⅱ】 保育士の現場で活用できる音楽の基礎技能について解説し、ピアノの演奏技術を高め、弾き歌いや伴奏法について指導した。前期の「保育内容の理解と方法Ⅰ」を引き継ぎ、グループ別および個別に授業を行い、一人ひとりに適した指導を行った。また、歌唱においてはわらべ歌など子どもの遊び歌に即興的な身体表現を取り入れた発声を行い、自然な発声練習を行った。また合唱を通して声を合わせる楽しさを感じることが出来る演習を行い、音楽を用いた幅広い活動を行った。
授業科目名【保育実践演習】 子どもの身体的表現、音楽的表現、身体的表現を十分に引き出すための技術について解説し、子どもの様々な動きや表現力を引き出す具体的な方法について検討させた。表現活動を実施するため技能における自己の課題を設定し、授業期間全体を通して各自課題に取り組み、発表することで個人の音楽の能力を向上させることができた。また、様々な演習に表現活動を組み入れることで、様々な場面における表現活動の計画・立案・実践などの総合的な力を養った。
授業科目名【保育実習指導Ⅰ】 保育実習の事前から事後において必要とされる知識、技能の内容について取り扱う。実習生としての姿勢・心構え、実習先施設の機能・役割、子どもを理解する視点等、各自の実習課題を明確にすることで事前学習を深める。また、実習に必要な書類作成において個別指導を行うことで、日誌および計画書等の書き方を学べるよう工夫を行った。実習後は個別面談により実習の振り返りを行い、実習での学びを整理し、実習報告会にて発表することで、実習における各自の自己課題を明確化させた。
授業科目名【保育実習指導Ⅱ】 保育実習Ⅱに臨むにあって、保育所の機能・役割、子どもを理解する視点、保育士に求められる知識と技術について実習Ⅰを振り返り、自己の課題を確認し、事前学習を深め、新たに各自の実習課題を明確化した。実習に必要な書類の作成においては、個別指導を取り入れることで、理解を深める工夫を行った。実習後は個別面接により実習の振り返りを行い、報告会で発表することで実習での学びを整理する機会を設けた。
授業科目名【初年次セミナーⅠ】 学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。自らが積極的に課題を探究していくために、スタディ・スキルズ『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図った。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索の演習を行うことで、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した。
授業科目名【初年次セミナーⅡ】 基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力を獲得するために自らが積極的に課題を探究していく課題を設定し、学びの質を高めた。初年次セミナーⅠのスタディ・スキルズを強化および発展させ、物事を多面的・多角的に捉えて思考し、それらの考えを伝える力を身につけるための演習を行った。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 学生の興味・関心について議論し、学生が設定したテーマに沿って文献検索などの調査レポートの作成方法を指導した。また、充実した学びの確保のため、学生生活全般にわたってサポートを行った。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 学生が設定したテーマに沿って、レポート作成の指導を行った。また、充実した学びの確保のため、学生生活全般にわたってサポートを行った。
授業科目名【キリスト教と西南女学院のあゆみ】 キリスト教音楽の歴史を概観し、日本における讃美歌集の編纂について解説した。キリスト教教育を柱とする本学において讃美歌を歌う意義について解説し、西南女学院ゆかりの讃美歌を紹介した。
授業科目名【キリスト教と文化】 キリスト教の音楽について解説し、教会音楽の成り立ちについて解説した。教会暦について解説し、とくに待降節および降誕節に関連する音楽について解説を行った。クリスマスの曲を紹介し、受講者で合唱することでキリスト教音楽に主体的に親しむ機会を設けた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本演奏連盟 日本保育学会 日本声楽発声学会 日本音楽療法学会		2009 年 12 月～現在に至る 2012 年 10 月～現在に至る 2013 年～現在に至る 2018 年 3 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) モーツァルトの《声楽の ためのソルフエージュ Solfeggien für einne Sopranstimme K.393(385)》と夜の女王 およびパミーナのARIA に類似する旋律	単著	2023 年 3 月	西南女学院大学研究 紀要	モーツァルトの《声楽のための ソルフエージュ Solfeggien für einne Sopranstimme K.393(385)》と夜の女王および パミーナのARIAに類似する 旋律を比較し、その存在意義に ついて考察を行った。その結 果、ARIAと類似する旋律は、 高度な技術を伴い、ARIAを歌 った歌手の声楽技術を示すも のであり、ソルフエージュの練 習曲としての高い教育的価値 について記述した。 p.1-8
(翻訳)				
(学会発表)				
(演奏) ・くにたちコンサート	独唱	2022 年 5 月	国立音楽大学同調会	国立音楽大学卒業生による演奏 会において独唱 場所：ウェル戸畑（北九州）
・第 47 回 北九州市民 クリスマス	独唱	2022 年 12 月	北九州市民クリスマ ス実行委員会	クリスマス礼拝にて讃美歌独唱 場所：北九州復興教会（北九州）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
苅田キリスト教会 国立音楽大学同調会北九州支部 ふたば保育園 北九州聖書信徒学校	奏楽者 副支部長 リトミック講師 講師（教会音楽）	2006 年～現在に至る 2011 年 4 月～現在に至る 2018 年 6 月～現在に至る 2022 年 10 月 28 日, 11 月 4 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
懇親会委員 宗教委員 キリスト教センター音楽主事 西南女学院創立 100 周年記念事業実行委員 合唱サークル クールベルフィーユ顧問 西南女学院ハンドベル部顧問 大学・大学短期大学部チャペルにおける賛美指導（通年） 聖書学課 奏楽（2022 年 4 月 21 日） 西南女学院創立 100 周年記念誌 座談会（2022 年 7 月 16 日） 西南女学院大学オープンキャンパス模擬授業実施（福祉学科）（2022 年 8 月 20 日） 西南女学院中学高等学校 讃美歌コンクール審査員（2022 年 9 月 17 日） 西南女学院創立 100 周年式典 合唱指揮（2022 年 10 月 18 日） 創立 100 周年記念クリスマス礼拝の企画, 運営, 合唱指導、指揮、独唱（2022 年 12 月 15 日） 西南女学院大学・大学短期大学部卒業式 独唱（2022 年 3 月 20 日）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	木村 茂喜	職名	准教授	学位	修士 (法学) (九州大学 1997 年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会保障法	社会福祉、責任、児童の権利、犯罪をした者、自立支援

研 究 課 題
福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 犯罪をした者に対する社会復帰・自立支援と社会保障のあり方

担 当 授 業 科 目
法学(前期) (看護学科) 法学(前期) (福祉学科) 法学(前期) (栄養学科) 日本国憲法(後期) (看護学科) 日本国憲法(後期) (福祉学科) 日本国憲法(後期) (栄養学科) 社会保障 I (前期) 公的扶助論(前期) 司法福祉論(前期) 社会保障 II (後期) 権利擁護論(後期) 初年次セミナーI (前期) 初年次セミナーII (後期) 専門研究 II (通年) 社会福祉特講 II (集中)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【法学・日本国憲法・社会保障 I・社会保障 II・公的扶助論・権利擁護論・司法福祉論】これら科目について、2022 年度はすべて対面授業で行い、以下の工夫を行った。 ①限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。 ②講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。 ③学生の集中力維持のため、途中 5 分程度の休憩を入れた。 ④講義内容の理解度の確認のため、講義途中 (休憩前) と講義終了後の 2 回、Google Form を使い、学生はスマホ (またはパソコン) を用いて解答する確認テストを実施した。確認テストの結果は、成績評価に加えた。 ⑤講義終了後、コメントカード兼用のマークシート式出席カードを用いて、学生からの講義内容に関する感想・

質問を回収し、質問等への回答および意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。 ⑥やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に Google Classroom に.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。
授業科目名【法学】講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。
授業科目名【日本国憲法】抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介するほか、とりわけ女性・性的マイノリティに対する差別の現状と憲法上の論点について重点的に講義を行い、学生の理解の一助に努めた。
授業科目名【社会保障Ⅰ・社会保障Ⅱ】非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、具体的な事例等を用いて説明した、とりわけ制度が複雑な年金制度については、「磯野家・フグ田家」を例に挙げて、年金の保険関係や給付について説明を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【公的扶助論】最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【権利擁護論】成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【司法福祉論】2024 年度より改定される社会福祉士国家試験の試験科目である「刑事司法と福祉」の内容を踏まえ、犯罪と刑罰制度、施設内処遇・社会内処遇、医療観察制度、高齢・障害者による犯罪と福祉、犯罪被害者等支援など、幅広い内容で講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【初年次セミナーⅠ・初年次セミナーⅡ】1 年生を対象に、大学での「学び方」を学ぶ授業である。「初年次セミナーⅠ」では、「調べる」と「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。学生は「この世の中で『おかしい』『改善すべき』と考えていること」を調べ、各自発表を行った。 「初年次セミナーⅡ」では、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1 クラスを 4 グループに分けて「ディベート」を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009 年 10 月～2017 年 3 月) 企画委員(2018 年 10 月～2022 年 3 月)	1995 年 12 月～現在に至る
日本労働法学会		1998 年 5 月～現在に至る
日本司法福祉学会		2008 年 8 月～現在に至る
日本更生保護学会		2012 年 12 月～現在に至る
日本障害法学会		2016 年 12 月～現在に至る
九州社会法研究会	事務局員(会計監査担当)(2013 年 4 月～2014 年 3 月)	1995 年 4 月～現在に至る
社会法判例研究会		1995 年 4 月～現在に至る

2022 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 「生活自立支援保障法 における犯罪をした者」	単著	2022 年 7 月	山田晋ほか編『新たな 時代の社会保障法』 (法律文化社)	①犯罪をした者については、犯罪をしたということ自体が自立を阻む障壁を高める効果を有すること、犯罪をした者の社会的孤立が再犯を引き起こすこと、犯罪をするに至った背景は、必ずしも犯罪をした者にすべて起因するわけではないことから、犯罪をした者に対する生活の自立と社会参加を目的とする支援に関する法制度を生活自立支援保障法の一つとして位置づけることは可能であると考え。 犯罪をした者に対する福祉サービスおよび居住支援については、地域生活定着促進事業を中心に、刑事司法と福祉の連携が進んできている。その一方で、福祉サービスを受ける手続的権利については、犯罪をした者の情報を請求する権利および相談支援をいかに保障するかが課題となる。また、福祉サービスを受ける実体的権利については、本人の希望に沿わないサービスを提供することが認められる余地はあるが、このような支援を行う際には本人や代理人に対する説明や理解のほか、もし本人が再犯に至っても本人との関係を維持していくことが求められる。 ②掲載頁：148～163 頁
「社会福祉制度の支給 決定過程における諸課 題」	単著	2023 年 3 月	「社会保障研究」（国 立社会保障・人口問題 研究所）7 巻 4 号	①福祉サービス給付を行うための事前調査としての認定調査は、行政処分としての支給決定を行うために必要な調査であり、その意味で行政調査に含

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				まれると考えられる。行政機関が行うニーズ判定は、ニーズ調査を基にして、一律の数値化した基準に基づいて判定するため、ニーズ判定過程に当事者の参加は保障されていない。 支給の可否・支給量の決定は、財政・資源上の制約もあることから、広範な行政裁量が認められている。他方、サービスの対象者が地域で自立した生活を送るために、対象者の希望や意向にできる限り応えることで対象者のニーズをできる限り満たすことも軽視すべきではない。利用者のエンパワメントについて、意思決定支援の範囲を、事業者によるサービス提供段階に加えて、ニーズ測定及び支給決定といった、行政における手続過程においても利用できるように拡大すれば、対象者のニーズに即し、かつ意向に沿った支援が受けられるようになると思われる。 ②掲載頁：335～348頁
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

--	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
「犯罪行為者の社会復帰と自立支援法理の構築」	日本学術振興会	1,000,000	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
放送大学 総合科目「社会福祉と法（20）」第8回～第10回	印刷教材執筆担当講師・放送教材担当講師	2020年4月～2024年3月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
西南女学院大学生活協同組合 理事長 2022年6月1日～2023年5月31日 図書委員 2022年4月1日～2024年3月31日 フォークソング部 顧問 KOIKOI 顧問

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	杉谷修一	職名	准教授	学位	教育学修士 (九州大学 1990 年)
----	------	----	-----	----	---------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
教育社会学	子ども、遊び、社会化、相互行為、ニューメディア、ゲーミフィケーション、ゲーム

研 究 課 題
(1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。 (2) 教育におけるゲーミフィケーションの社会学的分析に関する研究。 (3) ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。

担 当 授 業 科 目
道徳教育の理論と実践 (前期) (看護学科) 道徳教育の理論と実践 (前期) (福祉学科) 道徳教育の理論と実践 (前期) (栄養学科) 道徳教育の理論と実践 (前期) (英語学科) 社会調査の基礎 (前期) (福祉学科) 教育原理 (後期) (福祉学科) 教育社会学 (後期) (看護学科) 教育社会学 (後期) (福祉学科) 教育社会学 (後期) (栄養学科) 教育社会学 (後期) (英語学科) 社会学と社会システム (後期) (福祉学科) 初年次セミナーⅠ (前期) (福祉学科) 初年次セミナーⅡ (後期) (福祉学科) 教職実践演習 (後期) (看護・福祉・栄養・英語学科) 養護実習 (福祉学科) 養護実習事前事後指導 (三期にわたる) (福祉学科) 事前及び事後の指導 (三期にわたる) (福祉学科) 専門研究Ⅰ (福祉学科) 専門研究Ⅱ (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 道徳教育の理論と実践 】 道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。 次期学習指導要領改訂など現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に付けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。授業づくりの基本的ルールを具体的な指導案に反映させる工夫を行った。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。資料の提示、補助教材の案内等でクラスルームを活用した。

授業科目名【 社会調査の基礎 】 国家試験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などについて複数の比較を行うなど工夫して理解を助けた。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。資料の提示、補助教材の案内等でクラスルームを活用した。
授業科目名【 教育社会学 】 子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関係をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関係を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。テキストで不十分な箇所についてはビデオ教材や別資料をもとにしたレジュメ・スライドを作成した。発展的学習として、キーワードを用いて複雑な対象を説明する方法について解説した。学んだ知識を資料の読み取りに活用できるよう、具体的な解説を行った。資料の提示、補助教材の案内等でクラスルームを活用した。
授業科目名【 社会学と社会システム 】 国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように工夫した。特にモデル図や身近な現象でたとえた具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。 また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減しながら理解を促した。今期は動画の活用なども試みた。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。新しい試みとして、抽象的な概念を映画のシーンなどを教材として活用した。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。資料の提示、補助教材の案内等でクラスルームを活用した。
授業科目名【 教育原理（子ども家庭コース） 】 保育実践との直接的関連がイメージしにくい学問領域のため、現在の教育現場の諸課題を取り上げ、教育の意義・内容・方法等の原理と結びつけるよう心掛けた。また、教育思想の展開は社会や文化と関連させながら、スライド資料として図解や画像を多用するなど工夫した。
授業科目名【 初年次セミナーⅠ・Ⅱ 】 「読む力」を養うことを主眼に授業を行った。論理的文章の読み取りテストを行い、なぜ読み取れなかったかをグループでディスカッションするなど自分自身の課題に気が付く工夫を行った。また、楽しみとしての読書を促進するために、様々なテキスト・文芸のジャンルを具体例（実際のテキストや口承文芸の音声など）として触れる機会を準備した。最後はプレゼンテーションを行い、資料探し、スライド作成、発表、感想などを相互に経験した。
授業科目名【 教職実践演習 】 教職課程の総仕上げにあたる科目であり、養護実習での経験を土台に教員としての資質能力の再点検を行った。特に「教師としての使命感」をテーマに、教員の不祥事やメンタルヘルスについて、事例や統計を用いながら自己省察と具体的取組を検討した。
授業科目名【 養護実習 】 養護実習中の巡回訪問指導が感染症対策のため実施できなかった。それを補うために電話による指導教員からの聞き取りの充実を図った。また実習中の実習生からの質問等にはメールを使って迅速かつ詳細に行った。

授業科目名【 養護実習事前事後指導・事前及び事後の指導 】 3月のオリエンテーションで養護実習の意義と目的を基本的に理解させると共に、実習経験者の体験を直接聞く機会を設けた。質疑応答や教員の指導を組み合わせることで事前の心構えから、不安の具体的解消法などについて授業を展開した。 事後指導については分野別の振り返りから始め、実習内容を深化させるための演習を行った。また実習校の規模や学校段階、その他学校の特性に起因する実習経験の偏りを少なくし、多様な養護活動を理解させることを意識した。クラスルームを通じて教員採用試験と関連する資料の提示や解説、予想問題の作成と解答・解説を行った。
--

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育社会学会	九州教育学会紀要編集委員（2009年4月～2011年3月、2016年3月～2016年12月）	1985年6月～現在に至る
九州教育社会学会		1985年6月～現在に至る
日本教育学会		1990年5月～現在に至る
九州教育学会		1990年5月～現在に至る
日本社会学会		1990年11月～現在に至る
日本教育方法学会		1997年5月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） 道徳科におけるゲーミフィケーションの検討 （1）－議論する授業の基礎となる条件－	単著	2023.3	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部教職論集 第1号	学習指導要領及び中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」に示される「考え、議論する道徳」の授業にゲーミフィケーションがどのように寄与できるのか、規則の修正を巡る議論などの例を通じて基礎となる条件を論じた。
（翻訳）				

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称 (学会発表)	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
特定非営利活動法人生涯学習指導者 育成ネットワーク	生涯学習指導者育成セミナー 講師	2007.9～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教職課程委員 2014年4月1日～現在に至る 大学点検評価改善会議FD 部門会議 2021年4月1日～現在に至る 福祉学科Instagram検討会 2022年4月1日～現在に至る 福祉学科保護者懇談会ワーキンググループ 2022年4月1日～現在に至る

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	杉本有紗	職名	講師	学位	人間環境学 (修士)
----	------	----	----	----	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床心理学 心理学的介入 心理リハビリテーション	高齢者臨床 臨床心理学的援助 役割意識 心理劇 施設職員

研 究 課 題
・認知症高齢者の臨床心理学的理解及び臨床心理学的援助 ・対人援助場面における自己と他者の行動及び心理の理解を促す研修のあり方 ・児童養護施設職員のストレスの理解と支援

担 当 授 業 科 目
初年次セミナーⅠ (前期) (福祉学科) ヒューマンサービス基礎演習 (前期) (福祉学科) 心理学と心理的支援Ⅰ (前期) (福祉学科) 発達心理学Ⅱ (前期) (福祉学科) カウンセリング論 (前期) (福祉学科) カウンセリング演習 (前期) (福祉学科) 発達臨床心理学演習 (前期) (福祉学科) 高齢者支援学Ⅰ (前期・集中) (看護学科・福祉学科・栄養学科) 高齢者支援学Ⅱ (前期・集中) (看護学科・福祉学科・栄養学科) 初年次セミナーⅡ (後期) (福祉学科) 心理学と心理的支援Ⅱ (後期) (福祉学科) 発達心理学Ⅰ (後期) (福祉学科) 社会心理学 (後期) (福祉学科) 高齢者臨床心理演習 (後期) (福祉学科) 子ども家庭支援の心理学 (後期) (福祉学科) 専門研究Ⅰ (通年) (福祉学科) 専門研究Ⅱ (通年) (福祉学科) 卒業論文 (通年) (福祉学科) 母子の心理・社会学 (前期・集中) (助産別科) 1 コマ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】 本演習では、1 年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。 2022 年度は 17 名前後のグループを 1 グループあたり 4 回、全 3 グループを担当した。心理学の雑誌記事を題材に、課題図書の見直し、批判的読解、レポートの書き方についてスモールステップで課題を課した。 グループワークを取り入れ、学び合う姿勢が育まれるよう心掛けた。
授業科目名【 ヒューマンサービス基礎演習 】 本演習では、ヒューマンサービスの基礎となる対人場面での援助につながる自己理解の向上を目指した。 2022 年度は全 1 年生を A クラス 3 グループ、B クラス 3 グループの計 6 グループに分けた。その結果 1 グループ 15 名前後で構成された。教員 3 名は、各々 A クラス 1 グループ、B クラス 1 グループの計 2 グループを担当した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況を把握し、フィードバックを行った。

授業科目名 【 心理学と心理的支援Ⅰ 】 本講義では、心理学の研究法、発達心理学、人格心理学、臨床心理学の基礎となる理論や著名な研究、導き出された理論等、心理学の概論について解説を行った。また、心理的支援について解説を行った。 プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。授業の初めに、前回の授業の振り返りと共に、必要に応じて学生の小レポートに多かった記述を紹介したり、学生の質問への回答を行うなどすることで、学生の知識の定着が進むよう心掛けた。
授業科目名 【 発達心理学Ⅱ 】 本講義では、青年期から老年期までの生涯発達心理学について、特に老年期の心身の発達や様々な理論を中心として解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。授業の初めに、前回の授業の振り返りと共に、必要に応じて学生の小レポートに多かった記述を紹介したり、学生の質問への回答を行うなどすることで、学生の知識の定着が進むよう心掛けた。
授業科目名 【 カウンセリング論 】 本講義では、カウンセリングの理論、カウンセリングの基本的な進め方と基礎的な技法について解説を行った。プリントを基本に進めた。模擬事例の一部やワークシートを利用し、学生の理解が進むように努めた。 毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。授業の初めに、前回の授業の振り返りと共に、必要に応じて学生の小レポートに多かった記述を紹介したり、学生の質問への回答を行うなどすることで、学生の知識の定着が進むよう心掛けた。
授業科目名 【 カウンセリング演習 】 本年度は、履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。
授業科目名 【 発達臨床心理学演習 】 本年度は、履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。
授業科目名 【 高齢者支援学Ⅰ 】 本講義は、看護、福祉、栄養の3学科6教員により、看護、福祉、栄養の3学科の学生を対象に、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法について、解説と実技指導を行うものである。講義では、高齢者の心理的発達、高齢者の社会参加とその臨床心理学的意義についての解説を担当した。アイスブレイクを行い、3学科の学生合同のグループでのPBL（問題解決型学習）が円滑に進むよう促した。
授業科目名 【 高齢者支援学Ⅱ 】 本年度は、履修希望者が5名以下であったため、開講しなかった。
授業科目名 【 初年次セミナーⅡ 】 本演習では、1年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。 2022年度は17名前後のグループを1グループあたり6回、全2グループを担当した。心理学研究の研究論文を課題図書とし、課題図書の講読、批判的読解、レポートの書き方（データのまとめ方：KJ法）についてスモールステップで課題を課した。グループワークを行い、学び合う姿勢が育まれるよう心掛けた。
授業科目名 【 心理学と心理的支援Ⅱ 】 本講義では、学習心理学、認知心理学、社会心理学等の基礎となる理論や著名な研究等、心理学の概論について解説を行った。 プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。授業の初めに、前回の授業の振り返りと共に、必要に応じて学生の小レポートに多かった記述を紹介したり、学生の質問への回答を行うなどすることで、学生の知識の定着が進むよう心掛けた。
授業科目名 【 発達心理学Ⅰ 】 本講義では、胎児期から青年期までの生涯発達心理学について、特に乳幼児期の心身の発達や様々な理論を中心として解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。授業の初めに、前回の授業の振り返りと共に、必要に応じて学生の小レポートに多かった記述を紹介したり、学生の質問への回答を行うなどすることで、学生の知識の定着が進むよう心掛けた。

授業科目名【 社会心理学 】 本講義では、社会心理学の基礎となる理論や著名な研究、社会心理学の概論について解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。日常生活との接点を考えることが、理論の理解に結び付きやすいため、小レポートでは、授業で紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて例示するよう促した。授業のはじめに、前回の授業のキーワードとその意味、小レポートで提出された例について共有し、学生の知識の定着が進むように心がけた。
授業科目名【 高齢者臨床心理演習 】 本演習では、高齢者臨床におけるアセスメントや心理面接についての指導を行った。発達の側面からの理解を振り返った上で、臨床場面における高齢者の心理について考えながら、アセスメントの手順、アセスメントの際の配慮について演習を行った。また、認知症高齢者の心理について文献を通して理解した上で、心理療法の目的、手順、具体的配慮、その効果について、事例検討とロールプレイによる演習を通して理解を深めた。
授業科目名【 子ども家庭支援の心理学 】 本講義では、生涯発達心理学、家族・家庭の機能や構造、支援を必要とする家庭についての講義、解説を行った。テキストを基本に進め、必要な情報は適宜補った。また、ワークシートにてポイントをつかめるように工夫した。学生同士で話し合うことで理解を深めるような機会も適宜取り入れた。毎回の授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。
授業科目名【 専門研究Ⅰ 】 受講する学生の興味関心のある専門書や論文を持ち寄り、文献講読を行った。また、人間科学についての研究法を解説し、研究テーマの設定について議論を深めた。少人数のクラスであり、積極的に意見交換を行った。学生が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めた。
授業科目名【 専門研究Ⅱ 】 本年度は受講する学生は0名であった。
授業科目名【 卒業論文 】 本年度は受講する学生は0名であった。
授業科目名【 母子の心理・社会学 】 本講義では、第1回テーマ「ライフサイクルの心理的特性と発達課題」について解説を行った。発達心理学の理論と母子を取り巻く課題について取り上げた。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。授業終了後の小レポートにて学生の学修状況の把握に努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本心理臨床学会	会員	2001年～現在に至る
日本臨床心理劇学会	監事（2012年4月～現在に至る） 心理劇臨床技能士	2001年～現在に至る
日本リハビリテーション心理学会	会員	2002年～現在に至る
日本臨床心理士会	会員	2004年～現在に至る
福岡県臨床心理士会	会員	2004年～現在に至る
日本発達心理学会	会員	2007年～現在に至る
日本心理学会	会員	2008年～現在に至る
九州臨床心理学会	北九州地区委員（2022年4月～現在に至る）	2022年～現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター	研究員	2008 年 4 月～2023 年 3 月
大分県中津児童相談所（発達相談・心理判定）	非常勤心理判定員	2016 年 4 月～2023 年 3 月（1 回/月）
大分県中津児童相談所（保護者等カウンセリング事業）	サイコロジカルスーパーバイザー	2021 年 4 月～2023 年 3 月（不定期）
大分県中津児童相談所（施設支援専門事業）	講師	2023 年 1 月 6 日（3 時間）、2023 年 3 月 8 日（3 時間）
日本臨床心理劇学会第 48 回学術大会（研究発表）	座長	2023 年 2 月 19 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
（大学） 学生募集委員会 委員（高大連携ワーキンググループメンバー） （学科） ヒューマンサービス基礎演習 担当 保護者会ワーキンググループメンバー

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 通山 久仁子	職名 准教授	学位 博士 (コミュニティ福祉学)
-----------	--------	-------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害者福祉、地域福祉	障害者家族、発達障害、「親亡き後」、当事者組織

研 究 課 題
発達障害者家族を対象として、「親亡き後」の生活課題・生活支援ニーズを明らかにし、そのニーズに応じた支援体制を「障害当事者」および「親当事者」の「当事者」組織を主体として構築していくための具体的な方策について検討する。

担 当 授 業 科 目
ソーシャルワーク演習 (後期) ソーシャルワーク演習 (専門) I (前期) ソーシャルワーク演習 (専門) II (後期) 相談援助演習IV (前期) 相談援助演習V (後期) ソーシャルワーク実習指導 I (通年) 相談援助実習指導 II (通年) 保健福祉学入門 (前期) 福祉入門 (前期) 福祉経営論 (前期) 就労支援サービス論 (前期) 障害者福祉 (後期) 生命倫理 (後期) 専門研究 II (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 ソーシャルワーク演習 】 本演習は初年次の学生を対象とした演習科目であるが、面接技法やソーシャルワーク・グループワークの展開過程などのソーシャルワークを実践するための基礎的な技術等が多く含まれた科目である。そのため、わかりやすい事例を選定したうえで、ソーシャルワークに関する基礎的な知識の確認を丁寧に行いながら演習を展開した。できる限り多くのグループワークやロールプレイを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深め、実践的にソーシャルワークのスキルを学べる機会を設けるようにした。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 ソーシャルワーク演習 (専門) I 】 本演習は新カリキュラムへの移行に伴い初めて開講された演習科目である。ソーシャルワークに関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、その基盤にある福祉的価値・倫理を十分に伝えられるよう努めた。学生がそれらのスキルを体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイを取り入れ、面接場面をクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的にふり返られるような機会を設けた。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 ソーシャルワーク演習 (専門) II 】 本演習は新カリキュラムへの移行に伴い初めて開講された演習科目である。ソーシャルワークに関わる実践

技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、その基盤にある福祉的価値・倫理を十分に伝えられるよう努めた。学生がそれらのスキルを体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイを取り入れ、面接場面をクラスで共有し、お互いにフィードバックし合いながら、学生が自身を客観的に振り返れるような機会を設けた。また学生の振り返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅳ 】 本演習は相談援助実習と連動して開講される演習である。より実践場面を意識し、臨床現場で用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないよう、その基盤にある福祉的価値・倫理を十分に説明する機会を設けるようにした。また、できる限りグループワークを取り入れ、他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会を設けるようにした。そして学生の振り返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 相談援助演習Ⅴ 】 本演習は相談援助技術を学ぶ最後の演習であり、学生には馴染みの薄い、地域の組織化や福祉のまちづくりの視点を習得する演習である。まず学生が地域とは何かを理解できるよう、「まち歩き」などのプログラムを取り入れ、地域福祉の視点から地域を理解できるような機会を設けた。そして個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。今年度は「ごみ屋敷」の住民への訪問場面や「地域ケア会議」の場面などのロールプレイを多く取り入れ、また「介護予防プログラム」の企画・運営、評価など、当事者へのアプローチや多職種との調整、地域向けの活動・事業の企画・運営を実践的に学べるプログラムを取り入れた。また学生の振り返りの時間を必ず設定し、その個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 】 本科目は新カリキュラムへの移行に伴い初めて開講された2年次の実習科目である。従来の3年次での実習から年次が下がり、「障害者福祉」の履修前・履修中の学生を対象としているため、「障害者福祉」に関する基礎的な知識の説明を加えた。また車いすの使用法や、実習施設で用いられている療法や支援方法を実践する機会を講義内で設けるとともに、実習の目的や実習に臨む姿勢について考える機会を設けるようにした。 新カリキュラム移行に伴う実習内容や実習プログラムの変更について、実習施設に理解が得られるよう調整に努め、実習プログラムの作成を実習施設と協働して行った。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】 実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について集中的に指導時間を設けた。事後学習では、各実習生が担当した事例の検討会を行い、プレゼンテーションや会議の運営方法について学ぶ機会を設けるとともに、グループスーパービジョンなど、グループでの実習体験の共有を通して、体験を意味づけ、理解を深められるような機会を設けるようにした。 昨年に引き続き、今年度もコロナ感染症流行下での実習であったため、学生や各実習施設への説明を十分に行い、感染症予防を徹底して安全に実習が行われるよう調整を行った。
授業科目名【 保健福祉学入門 】 本科目は保健福祉学部の7人の教員によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉学の研究」について1コマを担当した。対象が初年次生であり、他学科の学生も含まれるため、社会福祉とは何かという基本的な説明を行い、社会福祉分野での研究について、自身の大学・大学院での学びを実例としてあげ、大学で研究を行うことの意義をわかりやすく伝えられるように努めた。
授業科目名【 福祉入門 】 本科目は4人の教員と各領域の実践者によるオムニバス形式の講義である。その中で「社会福祉の担い手」、「地域福祉」の2コマを担当した。初年次生に対して、福祉への興味関心を醸成することを目的とした科目であるため、福祉が必要とされている現状や、福祉に携わることのやりがいなどを中心に、できるだけ視覚教材などを用いて、わかりやすく伝えられるようにした。
授業科目名【 福祉経営論 】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に

必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。 本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、学生と年齢に近い若手の実践を取り上げたりなどして、学生が身近にとらえられるような話題を提供するようにした。
授業科目名【 就労支援サービス論 】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習できるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また視覚教材を用いたり、事例演習を取り入れたりしながら、就労支援のサービス内容を具体的に理解できる機会や、就労支援の展開過程を実践的に学べるような機会を設けた。
授業科目名【 障害者福祉論 】 本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。 本科目は、2年生を対象としており、社会福祉の基礎となる科目のひとつでもあるため、出生前診断に象徴される優生思想や、「親亡き後」問題に象徴される社会的排除や孤立の問題といった具体的な事象を取り上げながら、障害者福祉の理念や基本的な視点を伝えられるよう努めた。また障害者の実像についてできるだけ具体的にイメージできるよう、視覚教材を用いるようにした。今年度はできるだけアクティブラーニングを取り入れ、学生が他の学生と意見を共有しながら学べる機会を設けるようにした。
授業科目名【 生命倫理 】 本科目では、生命倫理の課題に対して、学生が第三者としてではなく、当事者として考えられるよう、学生も将来的に直面する可能性のある、生殖補助医療や出生前診断といった、身近な話題を取り上げるようにした。またこれらの課題を具体的に理解できるよう、DVD等の視覚教材をできるだけ用いるようにした。そしてこれらの課題を通じて学生が人間の生死に対する自身の考えを深められるよう、できるだけアクティブラーニングを取り入れ、学生が意見交換を行いながら相互に学べる機会を設けるようにした。
授業科目名【 専門研究Ⅱ 】 学生が設定したテーマに沿って、レポート作成の方法を指導した。また教員採用試験や国家試験の受験勉強のサポートを行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 日本発達障害学会 障害学会		2004年～現在に至る 2005年～現在に至る 2009年～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
ソーシャルワーク実習プログラムの開発	保健福祉学研究所	○荒木剛、岡田和敏、通山久仁子、中川美幸、文屋典子、江藤くるみ、山本佳代子	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
発達障害者家族の「親亡き後」の支援体制の構築に関する研究	日本学術振興会	1,820,000	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
特定非営利活動法人 nest 北九州市障害支援区分認定審査会 北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会 社会福祉法人喜久茂会評議員選任・解任委員	理事 委員 委員 委員	2008 年 6 月～現在に至る 2013 年 4 月～現在に至る 2020 年 4 月～現在に至る 2021 年 6 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
【教育経費予算委員】 2020 年度より本委員を務めている。学科の教員に対して学科全体の予算をわかりやすく説明できるよう資料等を工夫した。また予算の組み換え等の学内の調整を行った。 【倫理審査委員】 2021 年度より本委員を務めている。委員の持ち回りで提出された申請書に対する相談に応じ、研究計画等に対する検討をともに行った。また「初年次セミナー」において 1 コマ、研究倫理についての講義を行った。 【保健福祉学研究所運営委員】 2017 年度より本委員を務めている。研究所講演会の企画、報告会の運営の補助等を行った。 【社会福祉士国家試験対策委員】 国家試験対策の年間を通じた企画、日程調整や担当教員、業者への依頼等の調整を行った。学生の受験勉強の状況等を適宜学科内で共有し、各教員が受験勉強をサポートできる体制をつくることができるよう努めた。学生に対しては、オリエンテーションや個別面接を通じて、国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1 年間モチベーションを継続して保っていくことができるよう動機づけを行った。

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	中川 美幸	職名	講師	学位	修士(社会福祉学) (福岡県立大学 2020 年)
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
医療領域（一般）におけるソーシャルワーク	ソーシャルワーク、退院支援、院内連携、地域連携、医療ソーシャルワーカーと退院調整看護師との協働

研 究 課 題
がん患者への相談支援の質の評価 医療ソーシャルワーカーのモチベーション 多職種連携

担 当 授 業 科 目
相談援助の理論と方法Ⅱ（通年） ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（通年） 相談援助実習指導Ⅱ（通年） ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（前期） ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（後期） ソーシャルワーク演習（後期） 福祉入門（前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 相談援助の理論と方法Ⅱ 】 ソーシャルワークの実践を行う上で問題を抱えた人々を「人と環境の相互作用」と理解する視点を学べるよう努めた。また実践モデルとアプローチ等といった問題解決を図るための基盤となる理論を通して、社会福祉の専門職としての心構え、態度などをイメージできるように、現場での事例を用いて理解を深められるよう工夫した。事例から支援を考える場面では、個人ワークやミニグループワークも取り入れ、より考えを深められるよう組み立てた。
授業科目名【 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 】 医療ソーシャルワーカーの役割と病院機能など、実習で必要となる基礎知識を中心に実施。また、動画の活用や、現場の経験などを伝えることで、医療ソーシャルワーカーについての理解が深まるよう工夫した。また、実習終了後の振り返りでは、現状と課題を整理し、3年時の実習につながるよう努めた。
授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】 実習前にはグループごとに病院機能などについて、調べ学習をし、全体で共有することで実習に必要な知識が定着するよう努めた。また、ロールプレイを行ったり、医療ソーシャルワーカーの業務指針や倫理綱領について学ぶ時間を取り、より具体的に医療ソーシャルワーカーの業務を理解し、実習に臨めるよう工夫を行った。実習後の振り返りを一人ずつ発表し、全員で共有することで実習報告会の準備を全員で行えるよう努めた。
授業科目名【 ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ 】 事例を個人ワークで考えた後にグループディスカッションを行うことで、より深くソーシャルワークの視点や価値観、倫理観などを学べるよう努めた。また、アセスメントでは、問題点にのみ目を向けるのではなく、本人の持っているリソースにも目を向けるよう指導した。ロールプレイも積極的に取り入れ、実習や現場でも活かせるよう配慮した。加えてロールプレイでは、クライアント体験から専門職の態度や価値観、倫理観についても考えられるような演習を行った。

授業科目名【 ソーシャルワーク演習 】 ソーシャルワークの基盤となる価値や倫理、視点、面接技術の基本などを身近なテーマを用いることで、イメージしやすいよう工夫した。また、ソーシャルワークの理論やプロセスなど授業で学んでいないことについては、自己学習からグループワーク、全体共有（発表）と段階を追って学習させ、足りない部分を解説した。また、他者の意見を聞く事、自分の意見をまとめてわかりやすく伝える、グループ内で意見が違った時にどのように意見をまとめるのか、ということも経験できるような組み立てを行った。また、ロールプレイではクライアント体験を行うことで、クライアントの感情もふくめ疑似体験させた。
授業科目名【 福祉入門 】 医療ソーシャルワーカーが病院でどのような実践を展開しているのかを現場の状況交えながら伝え、学生の医療ソーシャルワーカーへの関心を高めることができるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
福岡県医療ソーシャルワーカー協会 日本医療ソーシャルワーク学会 日本医療・病院管理学会 日本社会福祉学会 日本医療ソーシャルワーク協会	理事（2014年度～） 会長（2020年度～現在に至る）	1990年7月～ 2015年4月～ 2017年4月～ 2019年4月～ 2022年10月～

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 「医療福祉総合ガイドブック 2022年度版」	共	2022年4月	医学書院	① 本書は、新人の医療ソーシャルワーカーや医療ソーシャルワーカーを目指す学生、医療・福祉従事者、福祉サービスを利用する当事者や家族向けに作成したガイドブック。 ② 編集者名：村上須賀子、佐々木哲二郎、大垣京子、中川美幸、他8名 ③ 担当部分 第2章医療に関する諸制度（P47～P79）
（学術論文）				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳) なし				
(学会発表) 「新カリキュラム実習の調整・方法について」	単	2022年10月	日本ソーシャルワーク教育学校連盟九州ブロック社会福祉士養成教育・研究部会研修会（沖縄国際大学担当 Web 開催）	新カリキュラムで行う実習に対し実習先と顔の見える連携を行い、綿密に打ち合わせを重ねることで、取り組んだ報告と、実習から見えてきた新カリキュラムの今後の課題も実習先と意見交換した報告を行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
医療機関での医療ソーシャルワーク実習の現状と課題	日本医療ソーシャルワーク学会	○（村上須賀子） （竹中麻由美） （河野喬） （川村隆史） （佐渡裕紀） （正嶋忠貴） （高石麗理子） （田川雄一） （中村有紀子） （村上武敏） （渡邊佳代子） 中川美幸	50,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2022年6月1日～ 2025年5月31日迄
日本医療ソーシャルワーク学会	会長	2020年6月から現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生個人情報保護委員会 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日迄

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式 9）

氏名 中島俊介	職名 教授	学位 博士（学術）
---------	-------	-----------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
心理学	メンタルヘルス 地域貢献感 地域精神保健

研 究 課 題
平和・文化的活動における学生の地域貢献感の向上についての研究

担 当 授 業 科 目
保育内容（人間関係） 教育心理学 こころと人間 発達心理学 保育の心理学

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育内容（人間関係）】 受講者の勉学意欲も高く、そのために学生との対話型授業に工夫と努力した。心理劇を演じて保育現場で起こりがちな「ケンカや遊び場面」での人間関係の問題点に自然に気付くように配慮した。人間関係の基礎である、「聞く力・書く力・話す力」が向上したとアンケートから伺えた。
授業科目名【教育心理学】 教職科目の中で教育原理と並んで重要科目の一つであると認識している。教員採用試験合格を意識して、必ず「試験問題風の課題」をテーマにするように心がけた。期末の定期試験の内容も採用試験を意識した内容とした。学校現場での重要な「人権感覚」のセンスが問われる「いじめ問題」についても対応の基本ルールなども身につけられるように配慮した。
授業科目名【こころと人間】 心理学講義に対する興味と集中力をいかに高めて持続させるかについて毎年苦慮する。今年度も「映像を講義中に必ず入れる」は実行できた。「質疑を活発にする」はなかなか困難であったが、できるだけ発問をして意欲を喚起した。キープできるように努力した。次年度さらにこの点に工夫を加えたい。
授業科目名【発達心理学】 看護学科の科目であることを意識して講義した。看護にあたっては人間の年齢ごとの発達課題を学習しておくことは重要である。エリクソンの「人生 8 段階説」を基盤にして胎児期から老年期までの発達課題とその周辺のトピックについて講義した。国家試験にでた過去問について講義した。次年度は今年度よりも時間を多くとり学生の活発な質問や自主的な発表を試みようと思う。
授業科目名【保育の心理】 地域で必要とされ、信頼される保育士として知っておきたい「子どものこころのありよう」と「保育者自身のこころのありよう」さらに「保護者の願い」について理解と共感を深められるように講義を展開した。小人数なので、きめ細かい指導ができたと学生の振り返りの発言から伺えた。
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本心理学会 日本教育心理学会 日本人間性心理学会		2018年4月加入 1982年4月加入 1998年4月加入

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
平和活動における看護学生の地域貢献感の向上についての研究（ナイチンゲール平和の灯運動）	小さな平和運動連絡協議会	400.000	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期間等
北九州市人権施策審議会委員（第一期・二期・三期・四期、五期）	第三期より委員長	2003年から2023年3月まで

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
なし

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	西丸 月美	職名	講師	学位	教育学修士 (熊本大学)
----	-------	----	----	----	--------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
学校保健、健康教育	専門性、養護教諭、不登校、多職種連携

研 究 課 題
養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。具体的には、不登校・教室外登校の児童生徒に対する支援において、養護教諭と多職種連携について考察する。さらに現在の養護教諭の多職種連携に関する課題等について考察する。

担 当 授 業 科 目
地域保健学Ⅱ (前期) 基礎看護技術 (前期) 学校保健教育法 (後期) 養護概説 (後期) 教職実践演習 (後期) 看護学 (後期) 養護実習 (通年) 看護臨床実習 (通年) 養護実習事前事後指導 (三期にわたる) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【地域保健学Ⅱ】 本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習 (病院実習)、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説した。また、将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように、グループワーク (ロールプレイなど) も取り入れておこなう。授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。また、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会を行った。
授業科目名【基礎看護技術】 本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。当科目では、養護教諭として必要な基礎的看護技術、および児童・生徒に身体的健康問題が生じた場合の援助方法に関する知識を養うことを目的とする。感染防御技術を中心とした「健康と環境」、健康状態を判断するための「フィジカルアセスメント」、学校現場で起こりうる状況に対する「応急処置」に関する基礎的知識と看護技術、学校現場で遭遇することの多い健康問題への対応としての「健康問題がある場合の援助技術」について、講義による解説と、現場で役立つ技術の演習を実施した。授業では、看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように具体的な事例や用具を用いて行った。授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践するための工夫を行った。また、技術の定着を確認するために、バイタルサイン測定の実技試験を実施した。

授業科目名【看護臨床実習】 本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。机上の学修を実際の医療の現場に参加することにより、より実践的な知識および技術を深めることを目的として実習をおこなう。さらに、医療活動の実態を知ることにより、広く保健医療の一環としての学校保健の在り方について考察し、養護教諭の果たすべき役割を見出せるよう実習をすすめた。 3年生の病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、グループワーク等を取り入れより具体的な事例を用いて授業を行った。4年生の看護臨床実習では、学校現場で実際行う保健指導ができるようグループワーク等を取り入れた。グループで歯科保健指導案を作成し、模擬授業を実施した。また、学校現場での事故発生に迅速に対応できるように、BLSについてシミュレーション演習を行った。
授業科目名【学校保健教育法】 学校における保健教育の意義及び学習指導要領の改訂の基本方針等について概説し、小・中・高等学校・特別支援学校における保健教育の位置づけ、目標・方針・内容等について解説する。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について習得する。小・中・高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指す。 授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき指導案を作成した。授業において一人ひとりが、保健教育の指導案、教材を作成し、10分間の保健教育を行った。模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。 教育実習で模擬授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。
授業科目【養護概説】 学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、保健教育と健康相談などである。 授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習を行った。また、養護教諭としての実務経験を踏まえ、実際の健康診断がイメージできるように具体的に解説した。特に保健室経営についての講義では、グループでディスカッションを行い、「私たちの理想とする保健室のレイアウト」、「保健室の掲示物」を作成し、グループごとに発表を行った。
授業科目【養護実習事前事後指導】 養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的にこなす機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参加するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることを期待する。 養護実習の事前指導として実習前にオリエンテーションを行い、人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、健康診断等が予定通り実施されない学校もあったが、臨機応変に対応できるように具体的な事前指導を心がけた。養護実習後にはグループごとに養護実習についてまとめ、報告会を実施した。
授業科目【看護学】 看護の概念、看護の歴史及び養護教諭として必要な看護の基礎理論と養護診断について解説する。各論においては、ライフサイクルに応じた、小児看護、思春期看護、耳鼻咽喉科疾患の看護、眼科疾患の看護、歯科保健などについて解説する。また、学校保健と看護との関係について考察を加える。児童生徒等に多く見られる突発的な傷病について、緊急度の判断の方法及び適切な処置・対応を行うために必要な知識と技術についても解説する。 授業では、各論ごとに特徴的な疾患についてプレゼンテーションを行い、基礎的な知識の定着を図った。
授業科目【教職実践演習】 この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用方法など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指す。 養護実習での課題をグループごとにディスカッションをおこない、課題解決に向けてグループワークを行った。また、養護教諭と多職種連携について具体的な事例を通して演習をおこない、学校現場における実践的な力

を身につけるために授業の構造を工夫した。多職種との連携するための実践力を高めるために、グループワークを多く取り入れた。さらに、「現職の養護教諭の講話」、「性に関する指導」について外部講師を招き、実践力を高めるための工夫を行った。
授業科目【養護実習】 養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において3週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じて計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。本年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実習期間が変更になる学生が多かったが、全ての学生が実習を終了し、実習報告会を実施した。
授業科目【専門研究Ⅰ】 専門研究Ⅰでは、テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。 また、教員採用試験について各自が過去問題を持ちより情報交換を行い、問題のポイントを解説し、理解が深まるように授業内容を工夫した。さらに、保健室経営や救急処置について学び、より実践的な学習ができるようグループワークを取り入れるなどの工夫を行った。
授業科目【専門研究Ⅱ】 専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭の視点から専門性を深め、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成も工夫した。また、2年間のまとめとして研究レポートの作成し、研究のまとめをおこなった。 さらに養護教諭としての実践力を高めるために、学校現場で養護教諭として活躍する卒業生の保健室を訪問し、保健室経営や児童生徒への対応について学びを深めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本学校保健学会員 日本教育心理学会員(現在に至る) 日本教育保健学会会員(現在に至る) 日本人間性心理学会会員(現在に至る) 日本教育カウンセラー学会員(現在に至る) 日本学校心理士会学会員(現在に至る) 日本アロマコーディネーター協会会員(現在に至る) 日本養護教諭教育学会 第23回学術集会 熊本大会 実行委員 事務局 日本産業カウンセラー協会学会員(現在に至る) 日本養護教諭教育学会 第28回学術集会 熊本大会 実行委員 事務局		平成21年4月～(現在に至る) 平成21年9月～(現在に至る) 平成21年6月～(現在に至る) 平成22年6月～(現在に至る) 平成26年8月～(現在に至る) 平成27年1月～(現在に至る) 平成27年1月～(現在に至る) 平成27年10月 平成28年2月～ 令和元年4月～令和2年3月

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名 称	概 要
(著書) 養護教諭、看護師、保健 師のための 新版 学校看護 ーすべての子供の健康 実現を目指してー		2022.	東山書房	①養護教諭が職務を遂行する ために欠かせない基礎的な看 護学の知識や技術をわかりや すく解説した専門書である。 ②監修者名 編著者:遠藤伸子・池添志乃・ 籠谷恵 ③担当部分 第4章 急性期にある子供と家 族の理解と援助 2 多様な急性期症状の理解と 援助 2)腹痛 (P178～P182) 4)便秘 (P184～P187) 総頁数P. 319 ④B5 判

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期期間等
日本養護教諭養成大学協議会 福岡県高等学校養護教諭研究会	評議員 講師	2019年4月～現在に至る 2022年度

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会委員 2017年4月～2023年3月31日 教員免許状更新講習プロジェクトリーダー 2019年4月～2022年3月31日 教員免許状更新講習講師 2017年4月～2022年3月31日 キャンパスハラスメント委員 2020年4月～2023年3月31日

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	文屋 典子	職名	講師	学位	修士 (社会学) (関西学院大学 1994 年)
----	-------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	ソーシャルワーク方法論、子ども家庭支援 ファミリーソーシャルワーク

研 究 課 題
子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性

担 当 授 業 科 目
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ (前期) ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ (後期) 子ども家庭支援論 (前期) ファミリーソーシャルワーク論 (前期) ソーシャルワーク演習 (後期) ソーシャルワーク実習Ⅰ (通年) ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (通年) 相談援助実習 (通年) 相談援助実習指導Ⅱ (通年) 保育実習Ⅲ (通年) 保育実習指導Ⅲ (通年) 基礎実習 (通年) 専門研究Ⅰ (通年) 専門研究Ⅱ (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ 】 ソーシャルワーク実践におけるミクロ・メゾ・マクロの視点とソーシャルワーク実践のプロセスと支援展開で求められる技術について解説する中で、具体的な事例を用いて、ソーシャルワーク援助の対象となる人々の生活状況やニーズ・困難さを具体的にイメージしつつ、「解決のために何が求められるか」を学生が主体的に考え、ソーシャルワーク援助に求められる知識・技術・倫理を習得することをめざして授業展開を行った。
授業科目名【 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ 】 ソーシャルワーク実践を支える理論モデルとアプローチについて、アセスメントや介入における各アプローチの固有の視点や基盤理論を理解することができるよう、具体的な事例を用いて解説すると同時に、既習科目で習得した知識とも関連づけながら解説を行った。
授業科目名【 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 】 カリキュラム改正により、これまで3年生で実習に臨んでいたものが1年前倒しとなったため、学生の社会性と専門性の未熟な部分を実習に臨むにふさわしい程度まで高められるよう、個別指導や日常的な関わりの中で繰り返し助言指導を行うよう心がけた。子どもの発達や特性、障害の理解、援助の実際について事前学習での取り組みが十分ではなかったと反省すべき点があり、次年度さらに改善に取り組みたい。

授業科目名【 相談援助実習指導Ⅱ 】 実習前の事前学習では個別指導を強化し、各自の関心事と実習で学びたいこと、準備性をふまえた上で実習目標をたて、各自が準備して実習に臨めるよう指導を行った。前期実習後には各自の反省・課題と後期実習開始までに取り組むべきことを明確にして実行すること、後期実習では自身の成長や達成感を実感できるような学びを得られるよう実習の振り返りと事前学習とをサポートした。実習後の振り返り、学びの報告においては個別指導と同時にグループワークを用いた。当初は学生間の相互作用をファシリテートする必要があったが、徐々に一人ひとりが積極的に意見を交わすようになり、振り返りの作業から全体報告会に向けての発表準備に協力して取り組む中で、ディスカッションが活性化しさらに学びを深めることができた。実習報告の内容は、実習先の実習指導者からも高い評価を得た。
授業科目名【 保育実習指導Ⅲ 】 これまでの保育実習やさまざまな授業を通して学んできたことを整理し、自身の課題をふまえつつ実習目標を設定するために個別指導を強化した。視聴覚教材を用いて実習施設の役割・機能や対象者理解について知識を確認し、実習記録の方法について個別指導を行った。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいては、学生の学びや課題を整理し実習報告会を実施、実習のまとめを行った。
授業科目名【 子ども家庭支援論 】 現代の子どもと家庭を取り巻く状況を概観し、保育士に求められる家庭支援、保護者支援の方法と基盤となる法制度、活用する社会資源について、福祉・保育の既習科目やソーシャルワークに関する知識や理論と関連づけて解説を行った。家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家庭支援に求められる援助者の姿勢や視点を涵養することに努めた。
授業科目名【 ファミリーソーシャルワーク論 】 現代の家族の抱える課題や特徴を理解し、家族を取り巻く社会的状況との交互作用として家族の状況を捉えること、支援の展開について多角的に考察することにより、ソーシャルワーク専門職に求められる現象の捉え方、様々なアプローチに基づく多様な分析枠組みを持つことの重要性に学生自身が気づくことを主軸として授業を展開した。
授業科目名【 ソーシャルワーク演習 】 理論系科目より先行して、演習を通してソーシャルワーカーの視点、ソーシャルワークの価値と倫理、相談援助におけるコミュニケーション技法、ソーシャルワークの展開プロセスについて学ぶ科目である。専門的な用語や概念についての説明を丁寧に行うと同時に、事例やグループワークを活用して学生一人が考えること、自分の意見を表明すること、他者の意見を受け入れ、グループの話し合いをさらに発展させることができることを経験しつつ、今後、専門科目で学ぶ内容を理解し吸収する土台を形成することをねらいとして授業を展開した。
授業科目名【 基礎実習 】 福祉学科に入学したからこそボランティアや実習で多くの人と出会い、学びたいという意欲の高い学生が履修しており、初めての現場で戸惑いや困難に直面しながら人と関わることを実践的に学ぶことができた。現場での被援助者とのかかわりを通して学ぶのみでなく、学生同士の学び合いや支え合いを通して、人とのかかわり、多様性や共生社会を創り出していくことについて考えを深めることができるよう、実習前後のグループワークの展開やファシリテーションに注意を払いつつ授業を進めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1992 年 10 月～ 現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001 年 3 月～ ”
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991 年 11 月～ ”
日本家族研究・家族療法学会		1998 年 11 月～ ”
日本小児保健学会		1997 年 5 月～ ”
日本保育学会		2011 年 10 月～ ”

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1. 重度の障害のある同胞と暮らすきょうだいの心理社会的体験 ―当事者の語りの分析から―	共	2022.6	第 69 回日本小児保健協会学術集会（於：三重県総合文化センター）	①障害のある同胞と暮らすきょうだいの心理社会的体験について、インタビュー調査で得たきょうだい自身の語りを分析した結果、きょうだいは成長とともに周囲の人とのかかわりや社会的体験を通して、同胞に対する捉え方や同胞や親に対する思いを変容させ生活していること、きょうだいの位相に応じた支援を提供することが必要であるとの示唆が得られた。 ②樋口由貴子、笹月桃子、山本佳代子、 <u>文屋典子</u> 、野井未加 ③第69回日本小児保健協会学術集会講演集 P128

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
ソーシャルワーク実習プログラムの開発	西南女学院大学保健福祉学研究所	○荒木剛、通山久仁子、岡田和敏、中川美幸、山本佳代子、江藤くるみ、 <u>文屋典子</u>	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
社会福祉法人あゆみの森たけのこ会 社会福祉法人栄光園 特定非営利活動法人学童保育協会 ほっと子育てふれあい事業業務運営 事業者選考委員会	評議員 評議員 放課後児童支援員認定資格 研修会講師 委員	2021 年 3 月～ 2021 年 7 月～ 2017 年度～ 2023 年 2 月～3 月 31 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員 就職委員 吹奏楽部顧問

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	増本 由紀子	職名	講師	学位	修士 (保健福祉学)
----	--------	----	----	----	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
人文・社会、教育学	児童生徒の健康課題、養護教諭、学校保健

研 究 課 題
・養護教諭の実践に根差した養護教諭実践理論の構築についての研究 ・養護教諭の感染症に対する保健管理についての研究 ・児童生徒のメンタルヘルスリテラシー向上に対する養護教諭の支援についての研究

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健学会 中国四国学校保健学会 全国養護教諭サークル協議会 日本教育保健学会 日本公衆衛生学会 日本疫学会		2014 年～ 現在に至る 2016 年～ 現在に至る 2018 年～ 現在に至る 2018 年～ 現在に至る 2019 年～ 現在に至る 2019 年～ 現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
1. 保健委員会活動を通して子どもの主体性を育てる養護教諭の支援の実際	共	2022 年 12 月	教育保健研究 22	保健委員会活動における児童生徒の様子と養護教諭の働きかけから、児童生徒の成長と養護教諭の支援を整理した。 (p.1-10)
2. 精神疾患のある高校生を支援する養護教諭と担任教諭の連携の在り方	共	2022 年 12 月	教育保健研究 22	精神疾患のある高校生への支援について学校での課題を抽出し、養護教諭と担任の連携について考察した。 (p.23-33)
(翻訳)				
(学会発表)				
1. 養護教諭の実践に根差した養護教諭実践理論の構築に向けて（第1報）「保健室実践」の理念と方法 ー保健室における「相談支援」実践の考え方とあり方についてー	共	2023 年 3 月	第 20 回日本教育保健学会 (仙台)	養護教諭の40年間の実践事例から抽出した実践の考え方と方法について、理論化に向けて検討した結果の第一報。
2. The Evaluation by Yogo Teachers on School Closure due to the Epidemic of COVID-19 in Elementary Schools; A Questionnaire Survey	共	2022 年 12 月	The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (Taipei, Taiwan)	COVID-19の流行による一斉休校中の小学生の健康課題と養護教諭の執務の困難等について調査し検討した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
学校インフルエンザの流行予測に基づく養護 教諭の保健管理システムの開発 (20K11120、2020年4月 - 2023年3月)	日本学術振興 会科学研究費 助成事業 基盤研究(C)	○ 増本由紀子	3,900,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023年度入職）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 水貝 洵子	職名 講師	学位 臨床心理修士 (専門職)
----------	-------	-----------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床心理学	青年期 発達障害 生涯発達 アクションメソッド

研 究 課 題
・ 青年期前期後期を対象に心理社会適応の促進を目指した臨床心理学的支援の在り方について検討する。 特に、臨床動作法や心理劇などのアクションメソッドを用いた支援の在り方について検討する。 ・ 学生支援の一つとして、本学全学科の 1 年生を対象に健康管理カルテを配布し、その有用性について検討を行う。

担 当 授 業 科 目
【福祉学科】 (前期) ヒューマンサービス基礎演習 初年次セミナーⅠ 家族心理学演習 (2022 年度不開講) 発達アセスメント演習 健康臨床心理学 (後期) 初年次セミナーⅡ 臨床心理学概論 障害者心理学 発達臨床心理学 認知行動療法基礎演習 スクールカウンセリング論 (通年) 専門研究Ⅰ 専門研究Ⅱ 【看護学科】 (前期) 対人関係論 (後期) 臨床健康心理学

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】 他者との円滑で受容共感的なコミュニケーションの体験や自分自身への気づきを深める体験が得られることを目指し、様々な対人ワークを実施した。その都度、受講生自身による振り返りを行った。1 年生前期での実施のため、受講生の緊張感に配慮し、自発的な参加ができるようワーク内容を吟味した。
授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】 学生の提出した課題に対し、多かった回答内容や模範となる回答内容を示しながら、ポイントの解説を行った。課題に関して教員と学生間で一方的なやり取りに限定されないよう、上記のような方法で課題に対するフィードバックを行うなど受講生との相互的なやり取りを心掛けた。
授業科目名【発達アセスメント演習】 学生の多くが実習や就職後に活かせる知識と技術を身に付けようと意欲的に受講していることが予測された。そのため、ロールプレイングを通じ実際に発達検査を実施する体験を提供するだけでなく、発達検査を通じた被験者の特徴の理解の仕方や支援への活かし方について事例検討等を通じ学習した。
授業科目名【健康臨床心理学】 受講人数が少なかったため、受講学生の関心領域を尋ね従来の授業内容との関連を持たせながら、解説やワーク等を新たに加えた。また、4 年生開講科目であるため、事例の紹介なども適宜行い、より実践的な内容を取り入れるようにした。

授業科目名【臨床心理学概論】 臨床心理学の基礎となる理論について解説した。学生からの質問や感想に対し、授業で取り上げて回答や解説を行うなどして、学生の知識の定着や理解の深まりをはかった。
授業科目名【障害者心理学】 精神障害から身体障害にわたり代表的な障害を取り上げ、診断的理解および社会生活において障害児者がどのような体験をしている可能性があるかについて生涯発達の視点から解説した。診断的理解にとどまらず、当事者の立場から障害について理解する視点が培われるよう、事例や当事者の手記等を適宜資料として提示した。実習等で本講義での知識が活かされるよう適切な援助の在り方についても、臨床心理学的援助を紹介しながら解説した。
授業科目名【発達臨床心理学】 発達障害当事者の手記を教材として障害当事者の体験的理解の深まりを目指した。障害や障害者支援に関し多角的に考え捉える機会となるよう様々な事例を提示した。
授業科目名【認知行動療法基礎演習】 認知行動療法について初めて学習する受講生もいたため、授業前半では基礎的な用語や理論について時間をかけて説明した。後半は医療や福祉、保育など様々な領域で実践された事例を紹介し、学生が学習した知識や理論をどのように実践の場で活かしていくのかイメージしやすいよう工夫した。
授業科目名【スクールカウンセリング論】 受講人数は多くなかったが、実践に活かそうと意欲的に受講していた学生が多かった。そのため、解決志向アプローチをはじめとする主要な臨床心理学的援助方法について事例検討などを通じより実践的に学習した。また、教育者を目指している受講生が多かったため、教育的立場と心理的立場から児童生徒に関わる際の共通点や相違点などについても考え、多職種連携の重要性を確認した。
授業科目名【専門研究Ⅰ・Ⅱ】 学生は自ら学びたいキーワードやテーマを設定し、文献を検索した。文献購読やディスカッションを通じ、そのテーマや領域での基本的概念の整理や課題の検討を行った。学生が意欲的に学習に取り組めるよう、学生それぞれの興味関心に応じ文献を選択してもらった。
授業科目名【対人関係論】 円滑なコミュニケーションや適切な支援の基礎となる対人関係に関する心理学的理論について解説した。1年生を対象とした開講科目であり、心理学の学習が初めてである学生が多いため、学生からの授業内容に対する質問や感想について授業内で適宜取り上げて解説や回答をした。教員と学生間で相互的なやり取りを増やし、学生の理解が得られやすいよう配慮した。
授業科目名【臨床健康心理学】 臨床心理学についての基礎知識および、臨床心理学的視点を医療現場等でどのように患者理解や支援に活かすか等について解説した。受講生によって臨床心理学への理解度の差が見られたため、基礎的内容と事例などの発展的内容を合わせて伝えるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本臨床心理劇学会	第 48 回長崎大会 ワークショップ講師 (2023 年 2 月 18 日)	2010 年 4 月～
日本リハビリテーション心理学会		2010 年 4 月～
日本心理臨床学会		2013 年 4 月～
日本発達心理学会	日本発達心理学会ニューズレター委員 会委員（2022 年 1 月～2023 年 12 月）	2016 年 4 月～
特殊教育学会		2016 年 4 月～
日本心理学会		2019 年 4 月～

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
(著書) 子ども家庭支援論 —子どもを中心とした家庭支援—	共著	2022年4月	教育情報出版	①概要： 保育士養成課程における教科書として編まれたものである。子ども家庭支援論では子育て家庭に対する支援の必要性和意義・目的、現状の支援体制について述べられている。 ②編著者：七木田敦、上村眞生、岡花祈一郎 共著者名：本岡美保子、坂野学、他26名 ③担当部分： 「第10章 いろいろな家庭に、どのような支援ができるの？—家庭の状況に応じた支援—」, 「第5節 相談援助技術を活用した子ども家庭支援」. (p.138~139).
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 研究報告会発表 本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	共著	2023年3月	2022年度西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所報告会	①概要： 本学学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みとして「健康管理カルテ」を作成し、2021年度保健福祉学部入学生および2022年度大学部・短期大学部入学生へ配布した。また、本年度の使用状況について調査した。その結果、本学学生は健康管理カルテを体調不良時や実習前に活用していることが明らかとなった。また、学生にとってより利用しやすくなるよう今後の健康管理カルテの運用方法について考察した。 ②共著者名： 水貝洵子、山田恵、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子、大内田知英

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	西南女学院大学 保健福祉学部付属 保健福祉学研究所 研究費	○水貝洵子 山田恵 樋口由貴子 目野郁子 高崎智子 大内田知英	300,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター	面接指導員	2022 年 4 月～2023 年 3 月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・公開講座委員（2022 年度～） ・学生総合支援室アドバイザー（2022 年度～） ・ダンスサークル顧問（2022 年度～）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山根 正夫	職名	教授	学位	教育学修士
----	-------	----	----	----	-------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
障害や特別な支援のニーズのある子どもの保育、療育について・保育ソーシャルワーク	障害児保育・知的障害・発達障害・応用行動分析・保育ソーシャルワーク

研 究 課 題
障害児（者）の支援について行動分析学の立場から検討する。 保育場面におけるソーシャルワークの在り方について検討する。

担 当 授 業 科 目
児童・家庭福祉、障害児保育、社会的養護Ⅰ、社会的養護Ⅱ、特別支援教育論

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【児童・家庭福祉】 社会福祉士養成のための必修科目であるが、児童・家庭福祉の変化の歴史を押さえ時々の社会情勢の変化等にも言及し今日の児童・家庭福祉についてパワーポイント資料を用いて解説した。学生個々が単なる制度の理解に留まるのではなく本質的な部分についても考察していけるように配慮した。
授業科目名【障害児保育】 子ども家庭福祉コース3年生のみが受講。演習系科目であり、副読本についてノート作成し提出を求め、点検の上返却し後期の教材とした。また、お互いに分担して調べた内容について、プログラム準備、プレゼンテーション、ディスカッション、教員による解説の流れで授業を進めた。学生にとって自分の担当課題については理解が深まっているが、それ以外の内容の理解についてはばらつきが大きいので、各々の授業のまとめの中で補足的解説をして理解を深めるように配慮した。
授業科目名【社会的養護Ⅰ・Ⅱ】 3年生対象科目で、Ⅰは学科横断的に学生が選択できるが子ども家庭福祉コースの学生のみ受講した。Ⅱについては子ども家庭福祉コースの学生のみが受講できる。Ⅰは講義科目であり社会的養護の概要についてテキストを輪読の上解説した。Ⅱについては演習系科目であり、テキストを参考にして、課題について学生が調べ、プレゼンテーション・討議を通して学習を深める方法をとった。学生がやや制度面にだけ焦点が向けられるきらいがあり、対象者個々の生活実態の臨床的な側面からの学習の深化を得ることができるよう解説を加えた。
授業科目名【特別支援教育論】 英語・看護・福祉・栄養の4学科合同授業であった。それぞれの学科学生のレディネスが不明の為、授業中に各学科にまたがって確認しつつ講義を進めた。8回の授業であることから学習内容の不足を補うためにテキストの通読を薦め理解を深めることができるようにテキスト以外の参考文献等も提示した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 福岡教育大学附属障害児治療教育センター研究部員 日本保育ソーシャルワーク学会		平成12年11月～ 平成22年4月～ 平成28年～

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 子ども家庭支援論	共著	2022年4月	教育情報出版	8章特別な対応が必要な支援って、どのような状況なの？1 貧困、について担当執筆した。
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
社会福祉法人福音会評議員 社会福祉法人喜久茂会理事 北九州市保育事業協会理事 北九州市障害者自立支援協議会委員	地域ネットワーク部会会長	平成29年11月～現在至る 令和元年6月～ 令和1年6月～令和3年6月 令和2年7月～令和5年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

荣 養 学 科

2022 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	天本 理恵	職名	准教授	学位	博士(医学)	九州大学 2012 年
----	-------	----	-----	----	--------	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用栄養学 分野	小児栄養、母性栄養、栄養代謝(特に葉酸)、生活習慣病(主に癌、心疾患、加齢性疾患)とミトコンドリア

研 究 課 題
生活習慣病(主に癌や加齢性疾患)とエネルギーおよび栄養代謝(ミトコンドリアを中心に)との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、葉酸とミトコンドリア機能の関連性についても実験、考察する。

担 当 授 業 科 目
応用栄養学Ⅰ (2年後期 栄養学科) 応用栄養学Ⅱ (3年前期 栄養学科) 総合演習Ⅰ (3年前期 栄養学科) 総合演習Ⅱ (4年前期 栄養学科) 応用栄養学実習 (3年後期 栄養学科) 管理栄養士演習Ⅱ (4年前後期 栄養学科) 臨地実習Ⅰ (3年後期 栄養学科) 実践活動 (3年後期 栄養学科) 栄養学概説 (1年後期 栄養学科) 母子栄養学 (前期 助産別科) 栄養学 (2年後期 福祉学科) こどもの食と栄養 (2年後期 短期大学部保育科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概説 】 今年度は、応用栄養学Ⅰ以外は遠隔講義を実施した。遠隔講義であれ、これまでの講義スタイルを出来るだけ変更せずに講義を展開した。 1. 視覚教材に Power Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 2. 1の教材を印刷したプリントと、関連資料を配布し、重要なところをマークさせた。また、Power Point 教材だけでは不十分なところについては、板書し(遠隔講義ではパワーポイント上に手書きにて図式化し)、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書+スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。 以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。

授業科目名【 応用栄養学実習 】

毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。今年度は対面での実習が可能であったので、示範の際、調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習をセットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。コロナ禍のため、調理作業中の接触や試食の時間を短くする必要があり、学生は少人数制で重点献立のみの調理とした。今後も学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように改善を行っていく。

授業科目名【 総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ 】

総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言をメールおよび meet で行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。

授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ 】

管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。それらの問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は板書し、学生に書き取らせることで、理解を促した。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設している国家試験対策講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。

授業科目名【 母子栄養学 助産別科 】

視覚教材に Power Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。母性の栄養補給法に関して、実習先での課題に対するポイントの解説も行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。

授業科目名【 栄養学 福祉学科 】

対象が福祉学科で養護教諭を目指す学生たちのため、栄養のことを少しでも理解してもらい、将来の仕事に活かして欲しいとの思いから、栄養に関する難しい専門用語に関しては、出来る限り噛み砕いて教授するように努力した。毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。小テストに感想や質問を書いてくる学生たちが多く、その質問に必ず回答し、返却した。

授業科目名【 実践活動（3年生後期～4年生前期-12月まで） 】

2020 年度まで実施していた極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』の後継プロジェクトとして、2021 年度より『ほほえみ project』が立ち上がった。2022 年度も、看護・福祉・栄養の3学科の学生たちが連携し、八幡病院の小児病棟に入院している子どもたちへ（乳児 40 名、幼児 80 名、学童 30 名）、各ライフステージの成長発達に合わせた知育玩具（クリスマスプレゼント）作りを実施した。プレゼントの企画から、材料購入、そして作製まで、3 学科の学生たちが協力して実施した。ゼミを通して、多職種との協働・連携ができる人材や精神の育成（学生教育）を目指したいと考える。

授業科目名【 こどもの食と栄養 短期大学部保育科 】

短大部2年生の科目である。講義・演習・調理実習を含め授業を展開した。乳幼児期のこどもたちにとって食べる事の重要性（食育の基礎）を保育所で培うことがとても重要であるため、保育科の学生たちが、食や栄養に関し、少しでも興味を持ってもらうことが出来るように、福祉学科同様、栄養に関する難しい専門用語に関しては、出来る限りで噛み砕いて説明した。食育発表などの演習や、調理実習を組み込み、グループで協力しあい、楽しみながら演習・実習を進めていくことが出来るように授業の展開等に努力した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会 日本栄養改善学会 日本栄養・食糧学会 日本スポーツ栄養学会 日本癌学会 日本分子生物学会 日本 DOHaD 学会		2002 年 4 月～現在に至る 2002 年 4 月～現在に至る 2002 年 11 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2010 年 6 月～現在に至る 2012 年 9 月～現在に至る 2022 年 8 月～現在に至る

2021 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(学会発表) Relationship between changes in body mass index and eating habits of children aged 1.5–3 years	共	2022. 12	ICN: International Congress Nutrition in Tokyo 2022	①乳児期のカウプ指数が減少から増加に転ずる現象を adiposity rebound (AR) とよび、AR が起こる時期が幼児期に早いものほど若年成人での肥満や耐糖能異常等のリスクが高くなることが明らかにされている。早期 AR の背景となる母児の生活習慣に関する因子を明らかにし、小児肥満予防対策の基礎資料を得るため、乳幼児健康診査で得られるデータを活用し、乳幼児期の子どもとその母親の生活習慣及び食知識・態度に焦点を当て、早期 AR との関連を検討した。 ②Sakaida. Y., Amamoto. R., Iwahashi. A., Tsujimoto, Y., Hirotsu. K., Fukumura. T., Yoshita. K.)
				2022年度教育研究業績（2023. 3. 現在） 学会発表 1（内訳 単0，共 1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・北九州市立保育所給食調理業務 受託候補者選定検討会構成員（北九州市こども家庭局） ・北九州市小児保健研究会 ・福岡県保育協会 研修会 ・福岡県栄養士会 研究教育事業部 ・福岡市私立保育士会 区別研究会 給食グループ	構成員 理事 講師 連絡係（本学） 講師・アドバイザー	2022 年 12 月 2 日 2021 年 8 月～現在に至る 2022 年 7 月 13 日 2021 年 10 月 19 日 2022 年 4 月～2023 年 3 月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）	
・地域連携室 室員（子ども・子育て支援分野） ・入試 委員 ・国家試験対策委員 ・動物実験委員会 委員 ・ほほえみ project(ほほえみの会 2014 年 4 月～2020 年 3 月活動終了からの後継 project) ・上野千鶴子講演会 実行スタッフ	2016 年 8 月～現在に至る 2022 年 4 月～2023 年 3 月 2020 年 4 月～現在に至る 2019 年 4 月～現在に至る 2021 年 6 月～現在に至る 2022 年 7 月～2022 年 11 月 23 日（講演日）

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 岡部 明仁	職名 教授	学位 博士 (バイオサイエンス) (奈良先端科学技術大学院大学 2001 年)
----------	-------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
神経科学、神経生理学、神経解剖学、自律神経機能、呼吸生理、病態生理	抑制性神経伝達物質 (GABA、グリシンなど)、Cl ⁻ 共輸送体、細胞内 Cl ⁻ 濃度、呼吸リズム、延髄、摂食・満腹中枢、視床下部

研 究 課 題
1. 発達期における細胞内 Cl ⁻ 濃度の減少に伴う、GABA 作用の興奮性から抑制性へのシフトが呼吸リズム形成に与える影響の検討。 2. 哺乳から食餌行動へ移行する際の、視床下部における GABA 神経回路変化の組織学的検討。

担 当 授 業 科 目
生物と生命科学 (前期) 解剖生理学 (前期) 人体の構造と機能基礎実習 (分担・前期) 解剖学 (前期) (福祉学科) 応用生理学 (後期) 解剖生理学実習 (後期) 初年次セミナーⅡ (分担・後期) 管理栄養士演習Ⅰ (分担・通年) 生理学 (後期) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 生物と生命科学 】 講義スライドを全て資料として配布した。毎回可能な限り講義時間の 10 分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。高校で生物を選択していない学生にも苦手意識ができないように、意識的に身の回りの出来事と関連させながら講義を行った。
授業科目名【 解剖生理学 】 講義スライドを全て資料として配布した。人体の構造と機能基礎実習と本講義が並行して進められたので、座学と実習の連携を特に意識して行った。
授業科目名【 人体の構造と機能基礎実習 】 後半 10 回を担当した。実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。実習では、前年度のデータを使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫した。マウスの解剖実習を行うことで、命の大切さと臓器の配置の精巧さを体験してもらい、座学の解剖生理学と強く連携していることを意識してもらえるようにした。加えて、提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。

授業科目名【 解剖学（福祉学科） 】 講義スライドを全て資料として配布した。毎回可能な限り講義時間の10分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。
授業科目名【 応用生理学 】 講義スライドを全て資料として配布した。また、病気や病態と正常機能を比較することで理解を深めてもらうため、可能な限り病態の例を提示して意識してもらえるよう努めた。
授業科目名【 解剖生理学実習 】 実習書は毎回配布し、翌週にレポートとして提出してもらうようにした。本実習では、自分の体を使って実習を行うことでヒトの体に興味を持ってもらえるよう工夫している。加えて、体を構成する組織に意識を向けってもらうために、バーチャルスライドを用いて組織標本のスケッチを行うことで、器官・組織が様々な形の細胞からできていることを理解してもらえるよう構成した。本実習も提出してもらったレポートは必ず翌週の実習時には返却し、実習内容を覚えているうちに知識の定着・上書きをしてもらえるよう努力した。
授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】 栄養学科で使用する単位およびプレゼンテーションの基本について講義・演習を行った。単位については前期と内容を一部重複させて復習を兼ねたものにし、知識の定着を狙った。プレゼンテーションの基本については、口頭発表とポスター発表に分けそれぞれの特徴と提示の仕方を、具体例を用いて伝えた。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】 解剖生理学分野を担当した。講義スライドを全て資料として配布した。単に過去問を解くのではなく、なぜこの選択肢が誤答になるのかを一つ一つ丁寧に解説し、類似問題にも対応できるようにした。
授業科目名【 生理学（福祉学科） 】 講義スライドを全て資料として配布した。毎回可能な限り講義時間の10分程度を用いて、最近の発見・知見・生活に密着した出来事・トピックスなどを提示し、それらと講義内容に関連があることを気づいてもらえるようにした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生理学会 日本解剖学会 日本神経科学会 北米神経科学会	評議員（2002年4月～現在に至る） 代議員（2019年3月～現在に至る） 九州支部代議員（2013年11月～現在）	1999年7月～現在に至る 2001年10月～現在に至る 1996年7月～現在に至る 1999年11月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) なし				
				教育研究業績 総数 (2023. 3. 31現在) 著 書 2 (全て共著、査読有、内訳 英文1 和文1) 学術論文 40 (全て共著、査読有) 学会発表 116 (全て共著、内訳 国際学会41 国内学会75)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
動物実験委員会 委員 2017年4月1日～現在に至る 研究紀要委員会 委員長 2022年4月1日～2023年3月31日

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	尾 上 均	職名	教授	学位
----	-------	----	----	----

研 究 分 野	研究内容のキーワード
生化学 細胞生物学	細胞内 Ca^{2+} 動員機構 細胞内 Ca^{2+} 恒常性維持機構 タンパク質相互作用 インスリン分泌機構

研 究 課 題
① 細胞内カルシウム動因機構 ② 細胞内カルシウム恒常性の維持機構 ③ イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用 ④ インスリン、グルカゴン分泌に影響をおよぼす食品成分に関する in vitro 研究

担 当 授 業 科 目
生活の中の化学 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 人体の構造と機能基礎実習 管理栄養士演習Ⅰ 実践活動

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 生活の中の化学 】 - 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを目標の中心として講義を行った - 本科目、生化学Ⅰおよび生化学Ⅱをとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントの PDF ファイルを Classroom に提示し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた - 講義は、スライドを用いて行った。スライドには改訂を加えた。
授業科目名【 生化学Ⅰ 】 - 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた - 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な法則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした - 講義に用いるスライドにも改訂を加えて使用した - 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに改訂を加えて配布した - 講義中に話した内容に関する質問を行い、理解度の把握に努めた - 学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。ただし、基本的な生体化合物の構造式については試験にも出題した

授業科目名【 生化学Ⅱ 】 ・ 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。 ・ 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した ・ 生化学Ⅰで配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。 ・ 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた ・ 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた
授業科目名【 人体の構造と機能総合実習 】 ・ 本科目は岡部教授とのオムニバス科目であり、15 回中 5 回を担当した ・ 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学Ⅰ(後期に開講)で学ぶ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした ・ 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした ・ 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた ・ レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した
授業科目名 生化学実習 【 ・ 実験を通じて「事実(データ)を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫して要求し続けた ・ 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした ・ 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てられるように指導した ・ レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】 ・ 本科目は、複数の教員によるオムニバス科目であり、15 回中 2 回担当した ・ 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と国試過去問等の練習問題を組み合わせた授業内容にした ・ 生化学ⅠおよびⅡでは取り扱わなかったトピックとして、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った ・ 練習問題は国試や模試の過去問とオリジナルに作成したものを組み合わせたものにした

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本生化学会		1995 年 5 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

--	--	--

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生個人情報保護委員会

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	木村 宏和	職名	教授	学位	博士 (農学) 九州大学 (1999 年)
----	-------	----	----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用微生物学 食品科学	未利用バイオマスの有効利用 発酵食品の美味しさ 採卵鶏の腸内有用細菌

研 究 課 題
発酵食品の美味しさの客観的評価法の確立：発酵食品の美味しさに影響を与える、糖、有機酸、微生物叢を検討し、官能試験や味覚センサー分析値との関連性について検討する。 未利用バイオマス（農産廃棄物）と鶏腸内有用乳酸菌を用いた新たな採卵鶏用飼料の開発：農産廃棄物を鶏腸内有用乳酸菌（免疫賦活化乳酸菌）でサイレージ化し、それを用いた新たな採卵鶏用飼料を開発する。

担 当 授 業 科 目
食品衛生学実験 前期 微生物学 前期 食品機能特論 前期 食品衛生学 後期 加工食品機能論 後期 栄養学概説 後期 オムニバス 管理栄養士演習 I 通年 オムニバス 実践活動

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【食品衛生学実験】 オリジナルの実験書を作成した。市販の実験書に載っていない注意点や取り組みなどを説明し、学生の理解力向上に努めた。
授業科目名【食品衛生学】 講義用ワークブック（重要用語を穴埋め形式で書かせる）を作成した。講義中に板書ばかりに集中することを避け、復習が容易になるように努めた。
授業科目名【加工食品機能論】 オリジナルの講義資料を作成した。市販の教科書に載っていない最新の加工技術などを紹介し、学生の意欲向上に努めた。 講義用ワークブック（重要用語を穴埋め形式で書かせる）を作成した。講義中に板書ばかりに集中することを避け、復習が容易になるように努めた。

授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生物工学会 日本農芸化学会 日本乳酸菌学会 バイオテクノロジー研究推進会		1994 年～現在に至る 1994 年～現在に至る 2006 年 4 月～現在に至る 2013 年 4 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	西南女学院大学地域貢献活動助成金	○ 坂田郁子 高崎智子 木村宏和 船越淳子 西村貴子 永原真奈見 石井愛子 永田純美 竹下諄美 矢野夏実 伊藤由里子 学生6名 (邵仁浩) (中道敦子) (船原まどか) (辻澤利行) (学生9名)	50,000
--------------------------------	------------------	--	--------

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
2022年度シニアサマーカレッジ講座担当講師 学生募集委員 2022年4月1日～現在に至る 国家試験対策委員 2022年4月1日～現在に至る アドバイザー（2年生）2022年4月1日～2023年3月31日

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	坂田郁子	職名	教授	学位	修士 (人間環境学) (福岡女子大学大学院 2010 年)
----	------	----	----	----	-------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
公衆栄養学	食環境整備、生活習慣病予防、地域包括ケアシステム

研 究 課 題
1. 厚生労働省「予防・健康づくりに関する大規模実証事業」(イ) 食行動の変容に向けた尿検査及び食環境整備に係る実証事業に協力し、高血圧予防のための減塩とカリウム増加の働きかけ手法の検討。 2. 「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン」を普及するため、配食サービスの実態を調査し、健康支援型配食サービスのあり方についての検討

担 当 授 業 科 目
公衆栄養学Ⅰ (後期) (栄養学科) 公衆栄養学Ⅱ (前期) (栄養学科) 公衆栄養学実習 (後期) (栄養学科) 地域栄養活動論 (後期) (栄養学科) 臨地実習Ⅲ (後期) (栄養学科) 管理栄養士演習Ⅱ (前期・後期) (栄養学科) 初年次セミナーⅠ・Ⅱ (前記・後期) (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ】 集団や地域の健康・栄養改善のために、栄養課題やニーズを把握し、対象集団の特性に応じて、適切な栄養関連サービスを提供する公衆栄養プログラムの作成、実施、評価・フィードバックするための知識や方法を修得させるため、自治体で実施されている実践事例を紹介し公衆栄養プログラムへの理解を深めた。
授業科目名【公衆栄養学実習】 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱで修得した知識・技術を基に、地域診断、既存資料の活用、文献検索を行い、グループ毎の主体的な取組みを尊重しながら、PDCA サイクルに基づいた公衆栄養プログラムが作成できるように指導した。
授業科目名【地域栄養活動論】 地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務について外部講師の講義を交えながら解説を行い、管理栄養士の役割や多職種連携について理解させるとともに、臨地実習Ⅲに臨むための基礎知識の修得に努めた。
授業科目名【臨地実習Ⅲ】 実習期間中に実施される実習課題内容を事前に確認し、課題への指導を徹底して行い、臨地実習が有意義なものとなるように取り組んだ。臨地実習の巡回時には、実習での学びが今後の授業や職業選択に活かされるように、実習中の学生への助言を行った。また、今年度はコロナ蔓延防止期間中のため、2週間前から健康管理の記録、自粛行動を遵守させ実習に臨ませた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅱ】 管理栄養士国家試験教科「公衆栄養学」分野の出題傾向およびポイントを理解するために、国家試験の過去問題を分析し、出題傾向に的を絞った問題を作成し解説を行った。また、苦手な問題は何度も練習問題を解かせ、克服することに努めた。

授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】

初年次セミナーⅠでは、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である「聞く」「調べる」「読む」「書く」「考える」基礎的な知識の強化を図り、主体的に学ぶ技術の習得を目指した。

初年次セミナーⅡでは、個人あるいは集団での学習活動を軸に「発表する」「討論する」知識を強化を図り、プレゼンテーション能力の習得を目指した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
福岡県公衆衛生学会		1987年2月～現在に至る
日本栄養改善学会		2005年3月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2006年5月～現在に至る
日本在宅栄養管理学会		2018年5月～現在に至る
日本高血圧学会		2021年9月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 1.嘉穂・鞍手地域における配食サービスの現状と課題	共	2022年 5月17日	第69回福岡県公衆衛生学会 (於 福岡県庁)	① 在宅高齢者等への配食サービスについての実態を調査し、厚生労働省が策定した「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン」に即した配食事業を通じた食環境整備について課題をまとめた。 ② 共同発表者名 阿部萌瑛, 堂園史, 井上和美, 砂田一代, 川原明子 ③ 第69回 福岡県公衆衛生学会集録 (P25～P26)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市学校給食審議会	委員	2020年7月1日 ～2022年6月30日
公益社団法人福岡県栄養士会	第46回福岡県栄養改善学会 一般口演審査委員長	2021年10月31日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
人事委員会 委員	2021年4月 1日～2023年3月31日
栄養学科 学科長	2021年6月16日～2023年3月31日
キャンパス・ハラスメント防止・対策委員長	2022年4月 1日～2023年3月31日

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 高崎 智子	職名 教授	学位 博士 (医学) (九州大学 2001 年)
----------	-------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
予防医学	健康寿命、生活習慣、がん教育、がん検診、 胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん

研 究 課 題
・健康寿命の延伸を図るため、啓発活動を通じて、学ぶことによる疾病予防を目指す。 ・がん検診に関する地域住民の意識と課題について検討する。 ・がん検診における要精密者の受診率を高めるための課題について検討する。 ・本学学生健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みとして、健康管理カルテを作成し、その有用性について検討する。

担 当 授 業 科 目
病理基礎医学 (1 年後期) 栄養学科 疾病診断治療学Ⅰ (2 年前期) 栄養学科 疾病診断治療学Ⅱ (2 年後期) 栄養学科 臨床基礎医学実習 (3 年前期) 栄養学科 管理栄養士演習Ⅰ (4 年前期、後期) 栄養学科 実践活動 (3 年後期、4 年前期) 栄養学科

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 病理基礎医学 】 1 年生を対象としており、大学で初めて学ぶ医学講義であるため、医学用語をはじめとし、医学の基礎となる基本的な知識を習得することを目指した。病気の本質を理解するために、体の中で起きる変化を遺伝子・細胞・組織レベルから学び、疾病の種類や病因、病態との関連へと理解を深めていけるように努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
授業科目名【 疾病診断治療学Ⅰ 】 管理栄養士として栄養学を学ぶ上で臨床医学の知識は不可欠である。管理栄養士が知っておくべき基礎知識および医学的な考え方について学ぶために、代表的な疾患の成因、症状、診断方法、検査結果、治療方法などの知識を修得することを目指した。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次回の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
授業科目名【 疾病診断治療学Ⅱ 】 疾病診断治療学Ⅰ で学んだ臨床医学的知識を基に、疾病や栄養療法に関する専門知識をさらに深めるとともに、健康増進・疾病予防において管理栄養士が果たすべき役割についての重要性を学ぶことを目標とした。改訂された各種ガイドラインなどについては適宜補足して示し、常に最新の知識を得よう促した。また実際に社会で問題となっている事例を取り上げ、学んでいる医学内容との関連を具体的に提示することで関心を高め

るよう努めた。スライドに図表を多用して視覚的に理解しやすいようにし、授業中には質問をあてるなど、一方通行の授業にならないよう工夫した。また学生の理解度を測るために、毎回の授業の終わりに確認テストを実施し、次の授業の始めに理解度の低かった箇所を中心に再度解説して知識の定着を図った。
授業科目名【 臨床基礎医学実習 】 管理栄養士はチーム医療を担う一員である。医療の現場においては対象者の栄養状態や健康状態を把握した上で、栄養管理や指導内容を設定することが重要になってくる。医療現場の実際を理解するために、医療面接・身体診察法・生理検査法等に関する知識を修得できるように実習内容を設定し、今年度は新たに腹部エコー検査実習を取り入れた。新型コロナ感染予防対策として、体調チェック、マスク着用、換気、消毒などに留意しながら実施した。各実習の最初には、臨床医学検査と疾病との関連についての知識を確認するために、講義形式と質疑応答形式による導入を行った。検査を実際に体験するのみならず、グループワーク・事例検討や質疑応答の機会を増やす等、主体的に参加する工夫を行った。実習の終了後には、実習時間内にレポートを作成するよう課し、理解度を確認した。なおレポート作成に際しては、インターネットを利用して情報検索することを促すとともに、参考となる URL を提示し、信頼性のある情報を得る方法について指導した。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】 4 年生を対象として、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野を中心に演習形式による講義を担当した。実際に出题された国家試験問題を中心に解き、解説を行った。解答を導き出す過程や要点をまとめたスライドを作成し、暗記に頼るのではなく理解して考える習慣付けができるようにした。国家試験頻出分野に関しては、類題をくり返し解くことで理解の定着に努めた。
授業科目名【 実践活動 】 がんの原因の中には生活習慣とかかわるものも多く、予防のためのがん教育が小学校から始まっている。そのような状況を受け、特に大腸がんと乳がんについての「がんの予防と食事との関連」をテーマに、2 名の 4 年生および 11 名の 3 年生を指導した。学生の主体性を大切にしながら、資料の調べ方、引用の仕方、レポートの作成方法等について教授し、文献検索等により情報収集・考察し、レポートにまとめることを指導した。 今年度は、「食と健康」に関して地域住民に啓発活動を行うための本学栄養学科および九州歯科大学口腔保健学科との連携公開講座にて成果を披露する場を得た。「乳がんと生活習慣」をテーマに、予防につながる生活習慣や食事レシピ例のリーフレットを作成して紹介し、参加者の骨密度測定や身体組成測定等を行った。また公開講座での活動内容を、地域貢献活動交流会にてポスター発表したことも貴重な経験となった。大学で学んだ知識や技術をもとに、「食と健康」「口腔保健」の立場から連携して地域住民への情報発信と健康支援を行ったことは、将来就くべき専門職に対するモチベーションを高め、多職種連携によるチーム医療への理解を深めることにつながったと考える。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本人間ドック学会	人間ドック認定医 人間ドック健診専門医 人間ドック健診指導医 人間ドック健診情報管理指導士 遺伝学的検査アドバイザー	2005 年 8 月～現在に至る 2012 年 1 月～現在に至る 2017 年 4 月～現在に至る 2007 年 8 月～現在に至る 2020 年 4 月～現在に至る
日本抗加齢医学会	日本抗加齢医学会専門医	2020 年 1 月～現在に至る
日本がん検診・診断学会	がん検診認定医	2012 年 10 月～現在に至る
肺がん CT 検診認定機構	肺がん CT 検診認定医	2017 年 4 月～現在に至る
日本乳がん検診精度管理中央機構	マンモグラフィ読影認定医	2006 年 10 月～現在に至る
日本医師会	福岡県医師会認定総合医 日本医師会認定産業医 日本医師会認定健康スポーツ医	2017 年 4 月～現在に至る 2016 年 9 月～現在に至る 2011 年 5 月～現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 実践医療用語_語構成要素語彙試案表 Ver.2.0	共	2022年3月31日 Web 公開	言語資源協会 (GSK)	① 医療記録データを活用するための自然言語処理を支援することを目的とし、医療記録に含まれる合成語 7,087 語を構成する語構成要素 6,633 要素を対象に、意味的に分類するための意味ラベルを付与した。 ② 相良かおる、黒田航、高崎智子、東条佳奈、西嶋佑太郎、麻子軒、山崎誠
(学術論文) 1. 遠隔教育における大学生の健康に関する調査—健康に及ぼす影響と支援—	共	2022年3月	西南女学院大学紀要 2022 Vol.26	① 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、本学では遠隔授業を開始した。学生を対象として健康状態を問うアンケート調査を実施し、遠隔授業受講に伴う身体的および精神的な不調の内容と、それらへの対応策について検討した。 ② 高崎智子、相良かおる、八木康夫 ③ P57-70
2. 「急性」を含む病名の語構成	共	2022年8月	言語資源ワークショップ 2022 発表論文集	① 「～性」を二つ以上含み、そのうちの 하나가 「急性」である病名 28 語を対象に、BCCWJ や医療経過記録での出現頻度を調べ、「急性」の緊急度や語順の関係等を検討した。 ② 相良かおる、高崎智子、東条佳奈、西嶋佑太郎、山崎誠
3. 実践医療用語_語構成要素語彙試案表 Ver.2.0 の構築	共	2022年8月	言語資源ワークショップ 2022 発表論文集	① 医療用語について自然言語処理を効率的に行うためには、合成語の語構成や構成要素の意味に着目し、合成語の構造を明らかにする必要がある。こうした背景に基づいて作成した Ver.2.0 に

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				ついて、Ver.1.0からの変更点・課題・今後の可能性等を検討した。 ② 東条佳奈、黒田航、相良かおる、高崎智子、西嶋佑太郎、麻子軒、山崎誠
(翻訳)				
(その他)				
1. 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 70周年記念誌「健康医学センター」	共	2022年	国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 70周年記念誌	① 「健康医学センター」部門の沿革、実績、将来展望等について紹介した。 ② 松尾千華、高崎智子
2. 女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	共	2022年	西南女学院大学保健福祉学部 附属保健福祉学研究所 2021 報告書	① 本学学生健康維持・増進に向けた支援として取り組んだ「健康管理カルテ」の作成について、経過を報告した。 ② 樋口由貴子、目野郁子、高崎智子、水貝洵子、山田恵、大内田知英 ③ P6-7
3. 「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	共	2023年3月	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部 地域活動論叢 2022年度	① 口腔機能と栄養は密接に関連している。2022年10月に2大学が連携して実施した地域住民への情報発信と健康支援活動について報告した。 ② 高崎智子、木村宏和、舩越淳子、西村貴子、永原真奈見、石井愛子、永田純美、竹下諄美、矢野夏実、伊東由里子、坂田郁子、邵仁浩、中道敦子、船原まどか、辻澤利行 ③ P19-21

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 「急性」を含む病名の語構成	共	2022年8月	言語資源ワークショップ2022	① 「～性」を二つ以上含み、そのうちの 하나가 「急性」である病名28語について、BCCWJや医療経過記録での出現頻度を調べ、「急性」の意味の重要性や語順の特徴等を分析した。 ② 相良かおる、西嶋佑太郎、東条佳奈、高崎智子、山崎誠 ③ P1-2
2. 実践医療用語_語構成要素語彙試案表Ver.2.0の構築	共	2022年8月	言語資源ワークショップ2022	① 医療用語については自然言語処理に必要な語分割の処理のための情報が不足している。医療用語の合成語の構造を明らかにすることで、医療記録データからの合成語の抽出、整理の効率化を試みた。 ② 東条佳奈、黒田航、相良かおる、高崎智子、西嶋佑太郎、麻子軒、山崎誠 ③ P2-6
研究報告会発表 3. 本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	共	2023年3月	2022年度 西南女学院大学保健福祉学部 附属保健福祉学研究所 報告会	① 本学学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みとして「健康管理カルテ」を作成し、2021年度保健福祉学部入学生および2022年度大学部・短期大学部入学生へ配布した。本年度の使用状況について調査し、今後の「健康管理カルテ」の運用方法について考察した。 ② 水貝洵子、山田恵、樋口由貴子、目野郁子、高崎智子、大内田知英

(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	西南女学院大学保健福祉学部 附属保健福祉学研究所 研究費	○水貝洵子 山田恵 樋口由貴子 目野郁子 高崎智子 大内田知英	300,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
国家公務員共済組合連合会 新小倉病院 九州地区学生指導協議会 北九州市食品衛生懇話会	非常勤医師・産業医 常任委員会委員・福岡北支部長 会員（座長）	2019 年 2 月 ～現在に至る 2021 年 4 月 ～現在に至る 2022 年 4 月 ～現在に至る
・「食と健康」に関する西南女学院大学栄養学科・九州歯科大学口腔保健学科連携公開講座	「乳がんと生活習慣」講師	2022 年 10 月 8 日
・令和 4 年度後期「北九州市民カレッジ」高等教育機関提携コース講座	「コロナ禍でもがん検診は大切です」講師	2022 年 12 月 1 日
・2022 年度 地域貢献活動交流会・地域懇談会	地域連携室運営協議会 構成員	2023 年 3 月 10 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
学校法人西南女学院 将来計画委員会 大学・短期大学部 委員 西南女学院大学・短期大学部 学生部長 大学評議会 構成員 運営会議 構成員 点検評価改善会議 構成員 認証評価ワーキングチーム「学生領域」担当メンバー・ワーキングチーム副責任者	(2021 年 4 月 ～現在) (2021 年 4 月 ～現在) (2021 年 4 月 ～現在) (2021 年 4 月 ～現在) (2021 年 4 月 ～現在) (2022 年 1 月 ～現在)

教学マネジメント会議 構成員	(2022 年 10 月～現在)
学生委員会 委員長	(2021 年 4 月 ～現在)
就職委員会 委員長	(2021 年 4 月 ～現在)
国際交流委員会 委員長	(2021 年 4 月 ～現在)
倫理審査委員会 委員	(2019 年 4 月 ～現在)
大学キャンパスハラスメント防止・対策委員会 委員	(2021 年 4 月 ～現在)
学生個人情報保護委員会 委員	(2021 年 4 月 ～現在)
地域連携室運営協議会 構成員	(2021 年 4 月 ～現在)
学生総合支援室運営連絡協議会 構成員	(2021 年 4 月 ～現在)
大学教学マネジメント検討会 構成員	(2022 年 1 月 ～2022 年 9 月)
将来計画検討プロジェクト会議 メンバー	(2021 年 7 月 ～現在)
硬式テニス部 顧問	(2021 年 4 月 ～現在)
栄養学科 2 年生・4 年生 アドバイザー	(2020 年 4 月 ～現在)
管理栄養士 国家試験対策講座（前期・夏期集中・後期・国試直前）	(2019 年 4 月 ～現在)
社会福祉士 国家試験対策講座（夏期集中）	(2022 年 9 月)
オープンキャンパス 栄養学科模擬授業「味覚って不思議！～味覚と生活習慣病の味な関係～」	(2022 年 8 月)

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	藤和 太	職名	准教授	学位	博士(医学) (九州大学 2005 年)
----	------	----	-----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん 糖尿病 食生活習慣 遺伝子多型 疫学

研 究 課 題
1. 症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 2. アルコール関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究 3. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究

担 当 授 業 科 目
公衆衛生学Ⅰ (前期) 公衆衛生学Ⅱ (後期) 公衆衛生学 (前期) 健康管理概論 (前期) 管理栄養士演習Ⅰ (前期) 管理栄養士演習Ⅰ (後期) 国際栄養論 (後期) 実践活動

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【公衆衛生学Ⅰ】 聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かりやすくすることに気がついた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【健康管理概論】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。
授業科目名【公衆衛生学Ⅱ】 公衆衛生学Ⅰでは、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、公衆衛生学Ⅱの授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アジア太平洋がん予防学会 日本疫学会 日本癌学会 日本がん疫学研究会 日本公衆衛生学会	会員 代議員 会員 会員 会員	2002 年 10 月～現在に至る 2003 年 1 月～現在に至る 2003 年 10 月～現在に至る 2004 年 8 月～現在に至る 2010 年 12 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 健康管理概論 第3版 第8章	共著	2022 年 1 月	講談社	栄養学 NEXT シリーズ 教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論 第3版 東あかね・久保加織 編
(学術論文) 1. Associations between peroxisome proliferator-activated receptor γ (PPAR- γ) polymorphisms and serum lipids: two cross-sectional studies of community-dwelling adults.	共著	2020 年 8 月	<i>Gene</i> .2020 Aug 2;145019.	① 日本多施設共同コホート研究における横断研究で、PPAR- γ 多型 (rs1801282、rs3856806、rs12497191、rs1151999、およびrs1152003) と血清脂質との関連を検討したものである。今回は静岡地区のベースラインデータと第2次調査データを用いて検討した。結論として、rs3856806およびrs12497191多型は、脂質異常症及び高LDLコレステロール血症のリスク低下と関連している可能性があることが示された。 ② 共著者 Takashi Matsunaga, Mariko Naito, <u>Guang Yin</u> , 他12名 ③ 役割: データ収集、統計分析、論文作成、doi: 10.1016/j.gene.2020.145019.
2. Association of genetic polymorphisms with erythrocyte traits: Verification of SNPs reported in a previous GWAS in a Japanese population.	共著	2018 年 2 月	<i>Gene</i> . 2018 5; 642:172-177.	①日本多施設共同コホート研究において、2006 年と 2007 の間で募集された 35—69 歳、4972 人の男女を対象とした。赤血球特性を備えた 7 つの選択された SNP の連合を分析しました。TERT rs2736100 遺伝子多型と喫煙習慣の間に重要な相

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. Associations between Dietary Patterns, ADRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MICC Study.	共著	2016年9月	<i>Nutrients</i> . 2016 Sep 6; 8(9). pii: E545.	相互作用が見られた。 ② 共著者 Seiki T, Naito M, Guang Yin, 他9名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P172-177
4. ALDH2 polymorphism is associated with fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016年5月	<i>Nagoya J Med Sci</i> . 2016 May;78(2):183-93.	① 日本多施設共同コホート研究において、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3との関連を検討したものである。朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3 Trp64Argの交互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。② 共著者 Hinako Nanri, Guang Yin, 他16名 ③ 役割：データ収集、統計分析、P1-16
				① 日本多施設共同コホート研究における名古屋大学大幸地区横断研究において、ALDH2遺伝子多型と血清空腹時血糖値との関連を検討した。ALDH2遺伝子多型は飲酒習慣を通じて、空腹時の血糖値と関連していたことが示された。 ② 共著者 Guang Yin, Mari ko Naitou, 他16名。 ③ 役割：論文作成、データ収集、統計分析 P183-193

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(翻訳) 1. 医学部教科書 病気がみえる vol.1 消化器 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 モンゴル語・英語・日本語 語彙集	共著	2023 年 3 月	Medic Media 名古屋大学	名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学、モンゴル国立医科大学大学院研修所と協力し、日本の医学部教科書である「病気がみえる」シリーズをモンゴル語に翻訳する作業を行っている。2023 年 3 月に vol.1 と vol.8 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。
2. 医学部教科書 病気がみえる vol.4 呼吸器 モンゴル語・英語・日本語 語彙集	共著	2022 年 3 月	Medic Media 名古屋大学	2022 年 3 月に vol.4 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。
3. 医学部教科書 病気がみえる vol.10 産科 モンゴル語・英語・日本語 語彙集	共著	2022 年 2 月	Medic Media 名古屋大学	2022 年 2 月に vol.10 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。
4. 医学部教科書 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 モンゴル語・英語・日本語 語彙集	共著	2022 年 1 月	Medic Media 名古屋大学	2022 年 2 月に vol.3 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。
(学会発表) 1. <i>PASS1</i> 遺伝子多型と肝機能異常との関連	共著	2022 年 1 月	第 32 回疫学会総会(オンラインで開催)	① 対象者は J-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2703 名である。この研究では、 <i>PAPSS1</i> 遺伝子多型と肝機能異常との関連が示唆された。 ② 藤和太(銀光)、内藤真理子、若井建志他 11 名 ② 第 32 回疫学会学術総会抄録集 (P156)

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
2. PAPSS1遺伝子多型と空腹時血糖値との関連	共著	2021 年 1 月	第 31 回疫学会総会(オンラインで開催)	① 対象者は J-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2772 名である。この研究では、PAPSS1 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ② 藤和太(銀光)、内藤真理子、若井建志他 11 名 ③ 第 31 回疫学会学術総会抄録集 (P126)
3. カフェイン代謝酵素 CYP1A2 遺伝子多型、コーヒー摂取及び緑茶摂取と空腹時血糖値異常との関連	共著	2020 年 2 月	第 30 回疫学会総会(京都大学百周年時計台記念館)	① 対象者は J-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第 2 次調査に参加した 35-69 歳の男女 2695 名である。この研究では、CYP1A2 rs2472304 遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。 ② 銀光、細井菜穂子、内藤真理子、他 11 名 ③ 第 30 回疫学会学術総会抄録集 (P146)
				教育研究業績総数 (2023年3月10日現在) 著書 4 (内訳 単 1, 共 3) 学術論文 41 (内訳 単 0, 共 41) 学会発表 52 (内訳 単 0, 共 52) 翻訳 5 冊 (内訳 単 0, 共 5)

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
アジア太平洋がん予防学会（現在に至る）	会員	2002 年 10 月～
日本疫学会（現在に至る）	代議員	2003 年 1 月～
日本癌学会（現在に至る）	会員	2003 年 10 月～
日本がん疫学研究会（現在に至る）	会員	2004 年 8 月～
日本公衆衛生学会（現在に至る）	会員	2010 年 12 月～

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
保健福祉学部研究所運営委員会 委員 2017 年度～現在 予算委員会 委員 2020 年度～現在 国際交流委員会 委員 2020 年度～現在 栄養学科国試対策委員会 委員 2019 年度～現在

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	永田 純美	職名	助手	学位	修士 (栄養科学) (中村学園大学 2010 年)
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
スポーツ栄養学 運動生理学	スポーツ、健康増進、生活習慣病

研 究 課 題
スポーツ選手の栄養摂取状況及び血中脂質、貧血の関係

担 当 授 業 科 目
給食経営管理実習Ⅱ (3 年 前期) 給食経営管理実習Ⅰ (2 年 後期) 総合演習Ⅰ (3 年 前期) 食品栄養実習 (2 年 前期) 応用調理学実習 (1 年 後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ】 給食経営管理実習Ⅰは、学生にとって初めての給食実習であり、演習で行う帳票作成や発注計算は理解が困難な学生も多い。そのため演習の際は、グループだけでなく学生一人一人に声掛けを行い、理解度の確認を行った。また、授業時間外も質問を受け付け、帳票の意味や作成根拠を踏まえて説明した。給食実習は調理実習と同じく調理を行うが、食品の取り扱いや、調理工程、衛生管理ポイントなどが異なるため、調理実習との違いを説明しながら作業を進めた。大型機器や火力の強い調理機器を使用するため、安全面は常に注意し、学生が使用する際は必ず教員と共同で行うよう指導した。 給食経営管理実習Ⅱは、時間内に調理し、食事提供を行う実習である。そのため、作業工程や時間の管理が重要であり、学生一人一人の取り組みが、全体の進行度に影響を与える。特に調理作業が遅れている学生には技術指導や効率的な方法をアドバイスし、全体的な遅れが出ないように留意した。時間に追われることや、責任感を求められることもあり、学生は緊張した状態で実習に臨む。過緊張は調理ミスやケガの原因につながるため、進行状況やメンタル面の把握も踏まえ、できる限り全員の学生に声掛けを行い、緊張をほぐすよう努めた。 両実習共に、実習後の後片付けは、時間割の都合上短時間で行わなければならない。学生には最後までやり抜く力や集中力を身につけてもらうため、学生一人一人に的確に指示を出し、最後まで全員で作業を行うように促した。学生も次第に要領を得て、自主的に行動できるようになった。
授業科目名【総合演習Ⅰ】 臨地実習に臨むための演習であるため、学生に提出物の提出方法や期限の厳守、報告・連絡・相談を行うよう促した。また、実習の持参物などの購入忘れがないよう、こまめに連絡を行った。栄養指導の媒体作成や、発表の際にはアドバイスをを行った。

授業科目名【食品栄養実習】 事前に試作を行い、作業工程と出来上がりを確認した。また、時間のかかる作業は効率的に行えるように作業工程を計画し実行した。 示範は学生の理解が深まるよう、作業工程だけでなく、どのような化学変化が起きているか観察や記録のポイントなどについての説明も行いながら進めた。 実習中は、学生の作業の進み具合を確認し、特に失敗しやすい工程や重要なポイントは声掛けをした。また、結果だけでなく作業中の食材の変化も記録するよう促した。加工食品を製造する実習であるため、手洗いや食材の取扱い衛生面に注意するよう。
授業科目名【応用調理学実習】 食品の取り扱いや切り方などの技術指導、安全面や衛生面の確認、手が空いている学生には声掛けを行い、全員全員が実習に参加するよう促した。2年生からは給食経営管理実習が始まるため、衛生管理（食品の扱い、爪・髪の毛など）を徹底した。特に食材の分配は食品間での汚染を避けるため、加熱調理する食材は各班バットにまとめて分配を行い、肉・魚類、加熱調理しない食品は食品毎に分配または各班取りにくるように指示した。後片付け、掃除に関しては、自主性を促すため助手が全てを行うのではなく、具体的な指示を出し、自ら進んで行うよう指導した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会	正会員	2017年4月～現在
日本栄養改善学会	正会員	2019年7月～現在
日本給食経営管理学会	正会員	2022年4月～現在

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 「食と健康」に関する地域密着型食育活動の展開 ～参加回数が食嗜好および生活習慣改善に及ぼす影響～	共著	2022年12月	第22回国際栄養学会議	①西南女学院大学栄養科学科と九州歯科大学口腔保健学科は、2014年から北九州市で地域住民の生活習慣改善に関する地域密着型食育活動を開始した。食育活動の評価として、本講座への参加回数の違いによる食の好みや生活習慣改善への影響をアンケート結果で検討した。 ②田中貴絵, 近江雅代, 境田靖子, 田川辰也, 辻澤利行, 引地尚子, 中道敦子, 手嶋英津子, 石井愛子, 永田純美

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	地域貢献活動	○坂田郁子 高崎智子 木村宏和 船越淳子 西村貴子 永原真奈見 石井愛子 永田純美 竹下諄美 矢野夏実 伊東由里子 (邵 仁浩) (中道敦子) (船原まどか) (辻澤利行)	50,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
・2022 グリーンパーク食育事業 (さつまいもの収穫、食育実習) ・井筒屋×西南女学院大学コラボおせち		2022 年 11 月 5 日 2022 年 11 月 12 日 2022 年度

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
国試対策委員 教職員懇親会 3 年生サブアドバイザー

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 永原 真奈見	職名 講師	学位 博士 (人間環境科学) (福岡女子大学)
-----------	-------	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
栄養教育学	食育、生活習慣、食事調査、料理区分、特定保健指導

研 究 課 題
1. 小学生における生活習慣や不定愁訴の実態の検証 2. 主食・主菜・副菜等の料理区分を活用した食事評価 3. 女子大学生における朝食摂取状況、運動習慣、身体あるいは精神上の自覚症状に関する検証 4. 福岡県内のある市における食育に関する調査結果の検証 5. 特定保健指導における減量目標及び長期的指導効果の検証

担 当 授 業 科 目
・ 栄養教育論Ⅰ (2年後期) ・ 栄養教育論Ⅱ (3年前期) ・ 栄養カウンセリング論 (3年後期) ・ 栄養教育論実習Ⅰ (3年前期) ・ 地域栄養活動論 (3年後期) ・ 管理栄養士演習Ⅱ (栄養教育論) (4年前期・後期) ・ 臨地実習Ⅲ (3年後期、4年前期) ・ 初年次セミナーⅠ (1年前期) ・ 保健福祉学入門 (1年前期) ・ 学校栄養指導論Ⅰ (3年前期) ・ 学校栄養指導論Ⅱ (3年後期) ・ 栄養教育実習事前事後指導 (3年後期、4年前期・後期) ・ 教職実践演習 (4年後期) ・ 実践活動 ((3年後期、4年前期))

授業を行う上で工夫する事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 栄養教育論Ⅰ 担当 】(2年生後期) 管理栄養士国家試験の出題基準における「栄養教育論」分野は、年々、問題の難易度が上がっている傾向にある。毎回の講義は、教科書に加えて、パワーポイントによるスライド(ムービー等も利用)とプリント資料(書き込み欄付)を作成・配布し、学生の理解度が深まる工夫を行っている。また毎回、前回の講義内容の復習小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら講義を進めている。2年生で履修する科目であるが、国家試験において出題頻度が高い用語についてはその旨を強調し、時には過去問を示して解説を行うことで、国家試験対策にも通じるよう工夫している。
授業科目名【 栄養教育論Ⅱ 担当 】(3年生前期) 栄養教育論Ⅰで学んだ理論を基に、各ライフステージやライフサイクルに応じた栄養教育の特徴や課題、国や自治体における健康づくりの制度及び施策について解説している。栄養教育論ⅡにおいてもⅠと同様に、毎回、前回の講義内容の復習小テストを実施し、学生の理解度を把握しながら講義を進めている。また、講義の中で各ライフステージにおける実践活動の実際を紹介することで、学生がイメージしやすいように工夫している。

授業科目名【 栄養カウンセリング論 担当 】(3年生後期) 栄養教育論Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ基本的なカウンセリング技法を用いて、行動科学の理論に基づいたカウンセリングを行う実践的スキルについて解説している。様々な課題やライフステージ別の事例を用いた演習を取り入れることで、行動科学理論への理解が深まるよう工夫している。
授業科目名【 栄養教育論実習Ⅰ 担当 】(3年生前期) 栄養教育論Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識・理論を基に、個人及び集団におけるカウンセリングや栄養教育を実際に体験し、計画・実施・評価・改善を通して栄養教育マネジメントスキルを習得することを目標としている。健康や食生活に関する情報収集、優先課題の特定、学習計画の立案、実施、評価、改善までのPDCAサイクルの作業を体験的に学ぶことで、実践につなげられるよう工夫している。
授業科目名【 地域栄養活動論 分担 】(3年生後期) 地域のあらゆる場面で活躍する管理栄養士の業務内容について、実際の手法をもとに解説を行い、管理栄養士の役割について解説している。また、地域栄養活動実践の概要と行政組織、地域における公衆栄養活動プログラム立案の手法等についても理解が深まるよう工夫している。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅱ(栄養教育論担当) 】(4年生前期・後期) 「栄養教育論」分野を担当している。国家試験対策の模擬試験受験後に配布される解答・解説書は、解説が簡素であることが多いため、「栄養教育論」分野に苦手意識をもつ学生も多い。出題された問題の各選択肢について、解答のみにとどまらず、その範囲で系統化して習得しておくべき基礎知識も併せて解説している。
授業科目名【 臨地実習Ⅲ 分担 】(3年生後期) 臨地実習Ⅲでは、保健所へ実習に行く学生の指導を行う。実習期間中に実施される実習課題や研究授業内容を事前に確認し、より円滑に実施できるよう指導している。臨地実習の巡回時には、実習中の学生への助言及び学生の研究授業の講評を行っている。実習報告会では、各施設での実習内容について講評を行い、教員としての立場から実習の効果が最大限に得られるよう努めている。
授業科目名【 初年次セミナーⅠ 分担 】(1年生前期) 学生自らが目的をもって主体的に学ぶための着想力、論理性、表現力、独創性などの力を養成するため、1年生を対象に、スタディ・スキルの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図ることを目的とした科目である。その中でも、ノート・テイキングやリーディングに関する講義を担当し、例題を使って実際に体験させながら習得させることで、講義の中で定着を図るよう工夫している。
授業科目名【 保健福祉学入門 分担 】(1年前期) 保健福祉学は人々の健康と福祉(幸福)に貢献することを探求する研究の営みである。本科目は、保健・医療・福祉の専門性を理解するために本学教員の学問領域にふれ、多職種連携の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題への認識を深めていくことを目的としている。その中でも、「栄養の専門領域を探究するとは」の回を担当し、健康寿命に関わる研究成果等を分かりやすく紹介することで、保健福祉学への興味・関心が高まるよう努めている。
授業科目名【 学校栄養指導論Ⅰ 担当 】(3年前期) 栄養教諭の使命や職務、児童生徒を取り巻く食生活上の課題を踏まえた計画的な食に関する指導の実際、学級担任や地域・家庭と連携した食育の推進等について解説している。毎回の講義では、教科書に加え、学習指導要領や食に関する指導の手引等を用いて学生の理解度が高まるよう工夫している。また、パワーポイントによるスライドとプリント資料(書き込み欄付)を作成・配布し、学生が効率的に学べるよう工夫するとともに、学生の発言の機会を多くすることで積極性を培うよう努めている。
授業科目名【 学校栄養指導論Ⅱ 分担 】(3年後期) 学校栄養指導論Ⅰにおける基礎学習をふまえ、小学校、中学校の教科における食に関する指導内容や授業計画案の作成方法等について解説している。少人数でより深い学びができるよう、学生の積極的発言を促し、栄養教諭の教育実習に行くための実践的スキルが身に付けられるよう工夫している。
授業科目名【 栄養教育実習事前事後指導 分担 】(3年後期、4年前期・後期) 履修した教職科目の理論や技術をもとに、栄養教育実習に行くに当たっての心構えや予備知識、食の指導にかかわる授業研究について解説している。実習後には、実習中の反省や問題点の整理・分析に関する事例発表及びクラス討論を行うことで、今後の課題が明確に認識できるよう工夫している。

授業科目名【 教職実践演習 分担 】(4年後期) これまでの学習と教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感、家庭や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。単位取得状況や資質能力に関する評価、まとめ等を記入する履修カルテを活用して、教職に関する学びの集大成となるよう促している。
授業科目名【 実践活動 】(3年後期・4年前期) 栄養教育に関連した文献を探求し、内容を適切にまとめ、紹介するスキルの習得を目指している。また、高校生や成人を対象とした栄養教育の実践を通して、栄養教育手法を身に付け、社会人として働く上でのより実践的な知識とスキルの習得ができるよう心がけている。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本栄養士会 日本食育学会 日本栄養改善学会 日本健康教育学会		2001年4月～現在に至る 2018年4月～現在に至る 2019年9月～現在に至る (2001年4月～2016年2月まで所属) 2022年4月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(学会等発表) 1. 『食と健康』に関する 西南女学院大学・九州 歯科大学連携公開講 座	共著	2023年3月	地域貢献活動交流会 (ポスター)	教員と学生の協働による公開 講座を開講した。多職種連携に よる啓発を行うことによって、 生活習慣を改善するための動 機付けとなる機会を提供する ことができた。
				研究業績総数 (2023年3月31日現在) 学術論文 原著論文 8(うち筆頭 5) 研究ノート 4(うち筆頭 0) 紀要 15(うち筆頭 4) 学会発表 56(うち筆頭 13) 査読論文数 3

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
高大連携講座における講義	講師 「朝ごはんを制する者は 人生を制する！！！」	2022 年 6 月 1 日
食育イベント 2022 (主催：北九州市、教育委員会) (協力：日本高血圧学会)	料理区分を用いた食事診断の企画・実施	2022 年 8 月 31 日
第 29 回国際高血圧学会減塩弁当	監修補助「Kyoto Wondermeal」（４食分）	2022 年 8 月～10 月
「食と健康」に関する西南女学院 大学・九州歯科大学連携公開講座	料理区分を用いた食事診断の企画・実施	2022 年 10 月 8 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
・教職課程委員	2021 年 4 月～現在に至る
・管理栄養士国家試験対策委員	2022 年 4 月～現在に至る

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	南里 宏樹	職名	嘱託教育職員	学位	博士 (医学) (九州大学 1983 年)
----	-------	----	--------	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
基礎栄養学 栄養代謝学 生化学 細胞生物学	活性酸素 酸化ストレス 抗酸化防御機構 糖毒性 糖化タンパク質 血管内皮細胞

研 究 課 題
栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸化防御機能との関連において検討する。

担 当 授 業 科 目
基礎栄養学Ⅰ (1 年生後期) 1 クラス 基礎栄養学Ⅱ (2 年生前期) 2 クラス 栄養学実習 (2 年生後期) 2 クラス 管理栄養士演習Ⅰ (4 年生通年 ; 分担)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 基礎栄養学ⅠおよびⅡ 】 基礎栄養学は、化学を苦手とする学生が多いため、関連の深い生化学と関連づけながら講義した。講義の始めに前回の講義内容を簡単に復習し、全体の流れが分かるように留意した。講義で使用したスライドは、すべて印刷して配付した。また、基礎栄養学の重要項目の練習問題集を配付し、授業の終わりに 5 分程度、その日の講義内容に関する練習問題を学生に答えさせるようにした。管理栄養士国家試験の過去問題(2000 年～2022 年)の解説集も配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。 今年度の基礎栄養学Ⅰ(1 年生後期)およびⅡ(2 年生前期)は、新型コロナ感染がある程度落ち着いたため、すべての授業を対面で実施した。ただ、基礎栄養Ⅱの最後の授業のみ、わたしが濃厚接触者になったため、急遽、いつも使っている教室のスクリーン上にオンラインでスライドを映せるように教務課で手配していただき遠隔で実施した。
授業科目名【 栄養学実習 】 今年度は、すべて対面で実施したが、実習によっては、学生自身が測定するのではなく、教員が実際の測定のやり方をデモで示したり、測定の実施者を各班で一人に絞ったりして、実習中の”密 “、” 会話 “をできるだけ少なくするようにした。そのため、実習の目的の一つである共同作業という点では、必ずしも十分な成果が上げられなかった。それぞれの実習について、その栄養学的意義について考えさせるためのレポートを課し、1, 2 年次の基礎栄養学の復習ができるようにした。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】 8 人の教員が分担する栄養学科 4 年生のための演習で、「基礎栄養学」分野と「応用問題」分野を担当した。2011 年～2021 年の基礎栄養学に関する管理栄養士国家試験の問題について、分野別に分類し、分野ごとに 10～11 年分の問題をまとめて解くやり方で演習を実施した。その際、問題に関連する周辺事項を幅広く理解させるため、問題についての詳しい解説や重要事項をまとめたプリントを配布した。演習と自主講義と併せて、前期 10 回 (うち自主講義 8 回)、後期 8 回 (うち自主講義 6 回) 実施した。また、夏休み期間中に夏期対策を 3 日間(4 コマ)、後期終了後、国試までの間に直前対策を 2 日間 (2 コマ) 実施した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会 日本栄養・食糧学会 日本栄養改善学会		1977年4月より現在に至る 2003年5月より現在に至る 2014年1月より現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
大学嘱託教育職員（栄養学科）（2022年4月1日～2023年3月31日）

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式9)

氏名	浜谷 小百合	職名	准教授	学位	博士 (人間環境科学)
----	--------	----	-----	----	-------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
栄養教育・食育	食教育、学童期、QOL (Quality of Life)

研 究 課 題
1. 小学校児童の健康関連 QOL と食習慣、食環境に関する研究 2. 小学校児童の主食・主菜・副菜に関する食教育についての研究

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会 食育学会 公衆衛生学会 健康支援学会		2015 年 5 月 2017 年 1 月 2020 年 11 月 2021 年 9 月

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） 「小学校 5 年生児童の食習慣、食環境および保護者の食習慣と 1 年後の児童 QOL との関連：縦断的検討」	共著	2022 年 9 月	日本健康支援学会 健康支援 第 24 巻第 2 号 157-165	児童が朝食を毎日食べる食習慣は、児童の 1 年後の QOL の高さの維持や向上と関連していることが示唆された。保護者の朝食を毎日食べる習慣は 1 年後の児童 QOL の高さの維持や向上と関連があり、児童の朝食を毎日食べる習慣との一致性があったことから児童の QOL 向上には保護者の食習慣が重要であることが再認識された。
（翻訳）				
（学会発表） 「小学 5 年生の食事の手伝い頻度と児童及び保護者の食習慣、共食状況との関連」	共著	2022 年 9 月	第 69 回 日本栄養改善学会学術総会（示説発表）	食事の手伝い頻度の多い児童は手伝い頻度の少ない児童に比べて朝・夕食時に共食していた者が有意に多かった。手伝い頻度の多い児童の保護者においては、朝食の食事バランスや子と料理をする頻度の多さと関連があったことから、児童の手伝い頻度の多さは好ましい家庭の食環境と関連している可能性が示唆された。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023 年度入職）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 船越 淳子	職名 講師	学位 博士 (栄養科学)
----------	-------	--------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
食品科学	穀類、豆類、抗酸化活性、ポリフェノール 糠床、アントシアニン

研 究 課 題
ササゲ豆粉を利用した新規加工食品の開発 糠床および糠炊きの美味しさの検証

担 当 授 業 科 目
○前期 フードスペシャリスト論：1 年 (栄養学科) 初年次セミナーⅠ：1 年 (栄養学科) (共担) 食品学Ⅱ：2 年 (栄養学科) ○後期 食品学Ⅰ、食品学実験：1 年 後期 (栄養学科) 食品流通・消費論：2 年生 後期 (栄養学科) 実践活動：3 年 (栄養学科) ○通年 管理栄養士演習Ⅰ：4 年 (栄養学科) (分担)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【食品学Ⅰ】 本科目は、栄養成分の化学的性質、食品成分間の相互作用、pH、加熱、光などによる成分の変化、さらに食品の色、味、香りの機能性や役割など、食品に関する基礎的知識の修得を目標としている。テキストを中心として授業を行うが、今年度より授業内容をまとめた資料も加えて講義を行った。また、授業初めには、授業の目的を提示し、特に理解しなければならない点を把握させることを意識づけた。さらに、授業の振り返り、理解度の把握のために、小テストを実施した。
授業科目名【食品学Ⅱ】 本科目は、農産食品、畜産食品、水産食品、微生物利用食品、機能性食品などの素材となる食品の種類、分類、性状、化学成分、機能性、さらに食品の基本的性質を基にした利用法 (加工と貯蔵への応用、微生物を利用した発酵食品など) について理解することを目標としている。教科書を中心とした授業を行ったが、項目ごとにまとめた資料を作成し授業に用いた。さらに、授業の振り返り、理解度の把握のために、小テストを実施した。
授業科目名【フードスペシャリスト論、食品流通・消費論】 本科目は、フードスペシャリスト資格取得のための必修科目であり、フードスペシャリストとして社会で活躍するために必要な知識 (食文化、食品の開発・流通～消費、食品の情報、など) や、日本の食市場の変化、食品の流通ならびに食料消費の課題を理解することを目標としている。授業はスライドを用いて行い、テーマごとに、重要項目をまとめるためのプリントを配布し、それをレポートとして提出を課した。さらに、授業の振り返り、理解度の把握のために、小テストを実施し、フードスペシャリスト資格認定試験の過去問を利用して授業を行った。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ】

本科目は、管理栄養士国家試験の『食品学』分野を理解することを目標としている。過去5年分の問題を用いて、各食品のポイントを理解できるように授業を組み立てた。夏期までは食品ごとに、問題を解き授業を進めた。後期からは毎回10問程度過去問を解き、解説プリントを配布して、理解できていない点がしっかりと学生自身で把握できるよう授業を行った。今年度は、解きなれていない過去の業者模試の問題なども利用し、理解度の把握や応用力が身に付けられることを念頭に行った。

授業科目名【食品学実験】

食品成分の分類や特性について理解することを目標としている。実験の基礎的操作に関する実験をおこない、その後に食品成分に関する実験を実施した。「食品学Ⅰ」で学んだことを踏まえて、実験を通して体得できるよう授業を行った。実験の原理や食品成分の特性などを実験前の講義で解説し、実験の流れは器具を使って説明を加えた。今年度は実験の目的を把握し、結果をもとに自ら考察することを身に付けるためにを行った。各班に担当する項目を事前に振り分け、実験結果の説明、考察を報告する時間を設けた。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本食品科学工学会	正会員	2005年4月～現在に至る
日本保蔵科学会	正会員	2007年4月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員	2019年4月～現在に至る
日本食生活学会	正会員	2019年7月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 「食と健康」に関する地域連携公開講座	共著	2023年3月	西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部 地域活動論叢（2022年度）	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員（2022 年 4 月～2023 年 3 月 31 日） フードスペシャリスト認定試験 分担者 国家試験対策講座（前期・夏季集中・後期・国試直前） 夏季高校訪問、臨地実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 巡回指導 オープンキャンパス模擬授業 北九州市民カレッジ講師担当 2022 年度栄養学科保護者会、「食と健康」に関する地域連携公開講座の実施

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	森山 美加代	職名	講 師	学位	学士 (中村学園大学 1997 年)
----	--------	----	-----	----	--------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
スポーツ栄養	スポーツ栄養学、栄養アセスメント、食事調査、栄養サポート

研 究 課 題

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
(公社)日本栄養士会 (公社)福岡県栄養士会 日本スポーツ栄養学会	正会員 副会長・筑後支部長(2022 年 6 月～現在に至る) 正会員	1997 年加入、現在に至る 1997 年加入、現在に至る 2017 年加入、現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
【委員会等】 福岡県保険者協議会専門部会 企画調査部会	委員	2022 年 7 月～現在に至る
【講習会・セミナー等】 体操教室in八女 熱中症対策セミナー	講師	2022 年 6 月 11 日
(公社)福岡県栄養士会 生涯教育 マイキャリアの作り方	講師	2022 年 7 月 14 日
	講師	2022 年 8 月 8 日
	講師	2022 年 8 月 9 日
	講師	2022 年 10 月 26 日
	講師	2022 年 11 月 19 日
福岡県立春日高等学校 野球部 食育セミナー 食育の推進 実践セミナー(アクロス福岡) 栄養の日記念セミナー 東京都健康長寿医療センター研究所 低栄養予防講話 食育・地産地消ふくおか県民会議 受験サポート料理教室		

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
※ 該当なし (2023 年度入職)

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	八木 康夫	職名	教授	学位	博士(医学) (産業医科大学 2003 年)
----	-------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
運動生理学 生理心理学	exercise, recognition, information proceeding, event related potentials, P300, reaction time, elderly, supplements

研 究 課 題
高次脳機能に及ぼす運動の効果を、事象関連電位 P300 及び反応時間 (RT) を用いて検討する。運動の効果について、一過性の効果、慢性効果、加齢効果、脳血流への効果を検討している。また、高次脳機能に及ぼす歯科咬合の効果についても検討している。その他、サプリメントや栄養素が運動パフォーマンスや代謝経路に及ぼす効果、高次脳機能に及ぼす効果について検討している。

担 当 授 業 科 目
初年次セミナー I (栄養学科、1 年前期) 運動と健康 (栄養学科、1 年前期、必修) チームスポーツ (栄養学科、1 年前期) 生涯スポーツ (栄養学科、1 年後期) 運動生理学 (栄養学科、3 年後期) 運動・環境と栄養(栄養学科、3 年後期、2 クラス) 運動栄養演習(スポーツ栄養を含む) (栄養学科、4 年前期) 卒業ゼミ (栄養学科、4 年通年) 卒業研究 (栄養学科、4 年通年) 運動と健康 (英語・観光文化学科、1 年前期、必修) チームスポーツ (英語・観光文化学科、1 年前期) 生涯スポーツ (英語・観光文化学科、1 年後期) チームスポーツ (看護学科、1 年前期) 生涯スポーツ (看護学科、1 年後期) チームスポーツ (福祉学科、1 年前期) 生涯スポーツ (福祉学科、1 年後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 運動と健康 】 1. 講義は、基本的にPCを用いてPowerPointにてプレゼンテーションし、資料はGoogle classroomも用いて行った。対面及び遠隔授業のどちらにおいても、連絡及び資料提示等、双方向の教育指導を積極的に行った。 2. 毎講義後に、授業内容をまとめる小テストをGoogle Classroomで行い、出席確認アンケートでは授業内容の箇条書きと、興味関心点を記入し提出しさせた。 3. 毎講義の提出用学習ノートを作成してもらい、全授業終了後に回収し、採点し評価の一部とし、その後返却した。

授業科目名【 チームスポーツ 】

1. 受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握を体感できるようにし、自己の形態・体力に及ぼす運動の効果を総括した。
2. 講義の3回は、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」の講習を資料を用いて行い、在学中、学外、将来にわたり自ら運動処方できるように誘導した。
3. 各受講者は、学期始めに自己の標的運動量を算定し、授業ではカロリーカウンターを毎回装着させ、自己の運動量を記録把握し、運動意欲を喚起した。
4. 1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
5. チームスポーツでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。殆どの受講者は積極的行動へと変容している。
6. 授業内容についての連絡や必要事項、参加者の欠席、遅刻などの連絡にもはgoogle classroomを積極的に活用した。授業の班分けなどの不要な時間を減らすことができた。

授業科目名【 生涯スポーツ 】

1. 受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や現在の健康度と休み期間の関係を把握できるようにした。
2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
3. 1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
4. IIでは職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。
5. 遠隔授業対応の際にはgoogle classroomを活用し、各種のトレーニング方法を各自で調べ、グループでまとめ、グループでonlineで実施し、ストレッチ運動や自重体カトレーニング方法をonlineで行い、アンケートで内容の達成度を記述させ、評価した。

授業科目名【 運動生理学 】

1. 授業において、PCでGoogle classroomを活用した。連絡及び資料提示等、双方向の教育指導ができた。
2. 毎講義後に、授業内容のまとめ小テストを行い、アンケートに授業の箇条書きと、興味関心点を出席確認アンケートに記入してもらい提出させた。
3. 毎講義の提出用学習ノートを作成させ、全授業終了後に回収し、採点し返却した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本運動生理学会	常任理事・編集委員 (2008.7~至現在)	1992.4
日本体力医学会	評議員・会計委員 (2017.4~至現在)	1985.4
日本生理学会		1991.4
日本臨床神経生理学会		1997.4
西日本生理学会		1990.4
九州体育学会		1988.4

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
遠隔教育における大学生の健康に関する調査－健康に及ぼす影響と支援－	共	2023.3.31	西南女学院大学研究紀要, 26: 57-70, 2022	遠隔授業による学生の健康状態の現状を把握するため、前期遠隔授業受講に伴う健康状態を問うアンケート調査を実施した。全体の7割の学生が不調を訴え、眼や姿勢、運動不足に関する訴えが多く、視聴環境や授業進行の工夫や配慮が必要であると考えられた。 著者：高崎智子、相良かおる、八木康夫
(学術論文)				
(翻訳)				
第29回九州大学バスケットボールリーグ戦第6位	共	2022.9.3-11.3	九州大学バスケットボール連盟(九州各地)	九州地区の大学バスケットボール競技の順位を、一部7校がリーグ戦で競い、3校の全日本大学選手権の出場権をかけて戦ったが第6位であった。 顧問：八木康夫 監督：木村友彦

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

日本バスケットボール協会 日本体育協会 公開講座シニアサマーカレッジ (2022 年度実技中止)	JBA 公認 C 級コーチ バスケットボール指導員 講師	2011.5.25~至現在 2015.3.26~至現在 2018.8~
---	------------------------------------	---

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
ハラスメント相談員：2022. 4. 1～2023. 3. 31 紀要委員： 2022. 4. 1～2023. 3. 31 総合人間科学小委員会委員：総合人間科学カリキュラムの検討（至現在） バスケットボール部顧問：(1987. 4. 1～現在)	

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	山田 志麻	職名	准教授	学位	博士 (歯学) (九州歯科大学 2019 年 12 月)
----	-------	----	-----	----	------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
調理学、調理科学、食育、地域健康開発 高齢者の栄養、スポーツ栄養	調理科学 食育 高齢者 嚥下食 咀嚼 低栄養 口腔ケア 舌圧 健康増進 スポーツ栄養

研 究 課 題
・スポーツセンターを利用する高齢者の身体状況について体組成を基に考察する。 ・在宅高齢者の口腔・栄養状態の調査により実態を把握し、口腔ケア・栄養指導等の介入により対象者の QOL の向上を図る。 ・高齢者のための食事の考察。 ・次世代向けおせち料理の開発。

担 当 授 業 科 目
・基礎調理学実習 (前期) (栄養学科) ・調理学 (前期) (栄養学科) ・フードコーディネート論 (前期) (栄養学科) ・実践調理・調理科学演習 (前期) (栄養学科) ・高齢者支援学 I (後期) (栄養学科) ・応用調理学実習 (後期) (栄養学科) ・初年次セミナー (後期) (栄養学科) ・管理栄養士演習 I (通年) (栄養学科) ・実践活動 (通年) (栄養学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 基礎調理学実習 】 食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理学実習で活用できるよう周知徹底させた。
授業科目名【 調理学 】 調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い (保存や調理加工)、それにとまう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。單元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度な高いキーワードについて学習させた。
授業科目名【 フードコーディネート論 】 フードスペシャリスト認定試験 100%合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に單元ごとにまとめて講義した。

授業科目名【 実践調理・調理科学演習 】 1 年時から学習してきた調理学及び調理科学のまとめとして、数種の官能評価を実施・集計し、その結果を評価できるように実践した。また、食品材料の特性を知り、食品の組織や成分の変化を化学的・物理的な面から学ぶため、実験及び測定を行った。その他、未知の調味料や食材について学習し、実際に調理することで想像力や実践力を身に付けられるよう工夫した。
授業科目名【 高齢者支援学Ⅰ 】 看護・福祉と合同で高齢者を支援するための知識を習得し、さらに PBL を導入により、それぞれの分野や立場から、課題の抽出、問題の解決を図れるよう、学習内容を検討した。他学科の学生が互いに率直な意見を述べ問題解決までの話し合いとまとめができるよう環境づくりを心掛けた。
授業科目名【 応用調理学実習 】 1 年前期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで簡単に時短料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へステップアップするため、食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。
授業科目名【 初年次セミナーⅡ 】 初年次セミナーⅡは、前期初年次セミナーⅠより、ブラッシュアップした形で、大学生として必要な学習能力を向上するための支援を行った。遠隔授業だったため、グループワークを円滑に行えるよう努めた。
授業科目名【 管理栄養士演習Ⅰ 】 1 年次に履修した調理学の復習及びまとめを行い、基礎的な栄養士認定試験問題から複雑な国家試験問題まで、問題を解かせ解説を行った。
授業科目名【 実践活動 】 数名のグループに分かれ、テーマにあったデモンストレーションを実施した。計画、買出し、実演することで、栄養士としての立場を理解し、アンケートの実施により実践の評価を行った。自らが今後の課題を見つけ、学習目標につながるよう努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	1997 年から現在に至る
日本家政学会	正会員	1997 年から現在に至る
〃	第 74 回大会実行委員	2021 年から現在に至る
日本家政学会 九州支部	会計監査	2018 年 3 月～現在に至る
〃	九州支部大会実行委員	2019 年度
日本口腔衛生学会	正会員	2013 年から現在に至る
日本調理科学会	正会員	2013 年から現在に至る

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) イラスト調理科学	共著	2023年3月31日	東京教学社	①管理栄養士国家試験ガイドラインに準拠。調理科学に必要とされる知識・技術をイラストによりわかりやすく解説。 ② 編著 中嶋加代子, 山田志麻 共著 他7名 ③ 担当部分 第3章植物性食品の調理科学と栄養 第7章食事計画と献立作成 ④ B5判
(学術論文) 豊前市口腔ケアプロジェクトにおける栄養評価の取り組みとその成果	共著	2023年2月	栄養学雑誌,81,2023	① 豊前市における口腔ケアの栄養評価の取組と成果を評価した実践活動の報告。 ② 岡田圭子, 濱寄朋子他 32名 ③ (P40~48)
(翻訳)				
(学会発表)				
				教育研究業績 総数 (2023.3.31現在) 著 書 1 (内訳 単0, 共1) 学術論文 1 (内訳 単0, 共1) 翻 訳 0 (内訳 単0, 共0) 学会発表 0 (内訳 単0, 共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
【社会活動】 ・2022 グリーンパーク食育事業 (地域貢献活動：かぼちやの収穫) ・2022 グリーンパーク食育事業 (地域貢献活動：食育実習) ・2023 年 井筒屋おせち (協働) ・八幡バプテスト教会主日礼拝	講師 講師 監修 司式	2022 年 11 月 5 日 2022 年 11 月 12 日 2022 年 3 月～12 月 2019 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)		
・ハラスメン相談委員	2016 年 4 月	～現在に至る
・宗教委員	2016 年 4 月	～現在に至る
・キリスト教センター運営副委員長	2021 年 4 月	～現在に至る
・アドバイザー	2016 年 4 月	～現在に至る
・高齢者支援学Ⅰ・Ⅱ担当者	2017 年夏期	～現在に至る
・生協理事	2017 年 4 月	～現在に至る
・フードスペシャリスト認定試験責任者	2018 年 4 月	～現在に至る
・チャペルアワー 司式	2019 年 4 月	～現在に至る
・朝礼 司式	2019 年 4 月	～現在に至る
・弓道部顧問	2019 年 4 月	～現在に至る
・国家試験対策委員	2021 年 4 月	～現在に至る

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式9)

氏名	若菜 啓孝	職名	教授	学位	博士 (工学)
----	-------	----	----	----	---------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
教育工学、情報学	学修成果の可視化、LMS

研 究 課 題
LMS に有用なコンテンツ制作のあり方について 効果的な学修ポートフォリオの設計について

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育工学会 教育システム情報学会 高等教育質保証学会		2016- 2016- 2019-

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
e ポートフォリオによる学修成果の可 視化コンソーシアム	運営委員	2020. 4-

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023 年度入職）

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	渡邊和美	職名	教授	学位	修士 (環境共生学) (熊本県立大学大学院)
----	------	----	----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床栄養学	栄養管理、栄養評価、治療食、食事調査、精神疾患、生活習慣病、食育活動、在宅訪問栄養指導

研 究 課 題
1. 傷病者の効果的な栄養管理 2. 食事調査による食事アセスメント 3. 精神科領域における生活習慣病と栄養管理 4. 地域・子ども食堂における食育活動

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会 日本臨床栄養代謝学会 日本栄養改善学会 日本精神科医学会	正会員 正会員 正会員 準会員	1983年4月～ 2008年1月～ 2013年4月～ 2018年1月～

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 子ども食堂における食育活動		2022.8	第8回アジア栄養士会議	管理栄養士養成大学の教員と学生が、栄養バランスを考慮した料理を地域・子ども食堂で提供し、食育活動を行った。利用者も支援者も『食の楽しいひと時』を共有できる有意義な活動であった。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
熊本県健康食生活・食育推進連携会議 熊本県栄養ケアステーション事業 熊本県栄養士会 子ども食堂・地域食堂『はぐくみ食堂』 熊本県給食業務委託審査委員会	副会長 運営委員 理事 食育ボランティア 構成員	2018年4月～2023年3月 2015年4月～2023年3月 2022年4月～2023年3月 2019年12月～現在に至る 2019.年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023 年度入職）

人 文 学 部

英 語 学 科

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 アンデリュウ・ジッツマン	職名 講師	学位 修士 (言語学) (マクワォリ大学 2008 年)
-----------------	-------	------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会言語学	異文化コミュニケーション 社会的同一生 少年時教育

研 究 課 題
アイデンティティの確立 大学進学

担 当 授 業 科 目
英語コミュニケーション I, II ライティング基礎 パラグラフ・ライティング エリア・スタディ II グローバル英語 I 専門演習 I, II 卒業研究 欧米文化交流 A

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【英語コミュニケーション】 このコースは、生徒の英語コミュニケーション能力を、より自然で、スクリプトのない形に向上させることを目的としています。この目的を達成するために、このコースでは様々な社会的コミュニケーションルールを提示し、重要な練習の機会を提供します。
授業科目名【ライティング基礎】 何年も英語を書いている生徒たちが問題とする基本的な要素はたくさんあります。そこで、基礎的な部分を強化し、エッセイやリサーチレポートなどの大規模なライティング課題に備えられるように、地道なサポートを行いました。
授業科目名【パラグラフ・ライティング】 アイデアをパラグラフ形式にまとめることは簡単なことのように思えますが、多くの生徒がこれをうまく行うことができませんでした。このコースでは、様々な種類のパラグラフに焦点を当て、その知識をエッセイライティングに移す方法を説明しました。パラグラフからエッセイへの移行は、多くの生徒が苦手とする問題であり、このコースはそれを修正することを目的としています。
授業科目名【エリア・スタディ II】 隣国についての知識を持つことは、国際理解のための重要なステップです。このコースでは、ASEAN の国々に焦点を当て、彼らがお互いに、そして日本とどのような関係にあるのかを考察しました。

授業科目名【欧米文化交流 A】

このコースは、欧米文化を紹介し、対象国との交流の機会を提供することを目的としています。COVID-19 の関係で、海外研修は実施できなかった。その代わりに市内で外国人と交流活動が実施した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	北九州支部報告担当（2019 年 11 月～現在に至る） 学会ビジネス・マネージャー(2006 年 11 月～2010 年 11 月) 学会企画担当理事(2004 年 7 月～2006 年 11 月)	1994～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
---------	------	-----------------------	-----------------

--	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生委員 （副委員長）2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日 FD 部門委員 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日 教育経費予算配分委員 （委員長）2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日 英語学科カリキュラム構成委員（委員長） 2022 年 2 月 21 日～2023 年 3 月 31 日 学科オリエンテーションイベントの企画検討を行う。 English Camp 企画担当を行う。 第四回 KANAME 杯委員。 ハロウィンイベントの企画検討を行う。 クリスマスインテンシブの企画検討を行う。 ZION Cup（スピーチコンテスト）の企画検討を行う。 第 1 と 2 回学科 FD の司会者 地域活動、大学連携リレー講座「デジタル化の抱える課題と私たちの未来：言語学習のデジタル化」

2022 年度 教育 研究 活動 報告 書

氏名 太田 かおり	職名 教授	学位 博士（教育学）（国際基督教大学 2007 年）
-----------	-------	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学（英語音声学）・英語教育学（英語科教育法）・ICT 英語教育（e ラーニング）	英語の発音とリズムの指導法・小中連携英語教育・e ラーニング英語教育

研 究 課 題
英語学の分野において、初等・中等教育における英語の音声指導の調査研究を行い、その重要性と課題点について考察を行う。また、英語教育学の分野では、小中高大連携を視座においたグローバル時代の英語教育の在り方についてや、e ラーニング英語教育における教師の役割および効果的な指導に関する研究などを行っている。

担 当 授 業 科 目
[2022 年度 担当授業科目] 実践英語音声学Ⅰ（前期） 教育実習Ⅱ（前期・後期） 教育実習事前及び事後の指導（前期・後期） 専門演習Ⅰ（前期） 卒業研究（前期・後期） 実践英語音声学Ⅱ（後期） 教職実践演習（中・高）（後期） 教育における ICT 活用（後期） 専門演習Ⅱ（後期）

授業を行う上で工夫した事項
授業科目名【 実践英語音声学Ⅰ 】 「実践英語音声学Ⅰ」の講義では、音声学を学問として初めて学ぶ学生が大半を占めているため、丁寧でわかりやすい授業を心がけた。英語の母音・子音の調音方法や IPA 表記に加え、文レベルにおける音変化（連結・省略・同化など）、英語特有のリズムについても理論と実践の両面で学ぶ。英語のリズムやイントネーションについては洋楽などを活用し、学生がより興味を持ちながら楽しく学べるよう工夫した。また、調音点や調音方法を確認しながら授業を進行した。学生ひとり一人が実際に声に出して発音する機会をより多く設けることによって、授業後の英会話や英語学習にも応用できるよう、実用的な授業実践を意識した。学生は全体としてたいへん意欲的に授業に参加しており、個別の発音訓練にも熱心に取り組んでいる。学生は、毎回の授業の終わりに Google form のコメントフォームを入力し、学生からの質問に対しては次の授業にてフィードバックを行うことによって、双方向型で活気ある授業を心がけた。
授業科目名【 教育における ICT 活用 】 「教育における ICT 活用」は 2022 年度から新設された教職課程科目である。全学部学科の教職課程履修者全員が履修するため、80 名を超える受講者数のクラスである。全国の小学校・中学校・高等学校では GIGA スクール構想の推進もあり、授業内外における ICT の活用が加速している。本学の教職課程においても、学校教育現場において ICT 機器を効果的に活用することができる学生を養成するよう努めている。当科目を通じて教育における ICT 活用に関する基本的な知識・理解を深めるとともに、異なる学科の学生が一堂に集う機会を最大限に活用し、学部学科横断的に互いに学びあえるよう心がけた。具体的には、多様な専門的背景を持つ学生らが異なる視点から各々の意見や考えを交換し合い、それを全体で共有しあう場面を多く設けるよう工夫した。教育における ICT 活用に関する授業であるため、授業においても積極的に ICT を活用するよう心がけ、

より実践的な授業となるよう工夫した。受講した学生たちは、自身が小・中・高校生時代に比べはるかに ICT 化が進んでいる教育環境について理解を深めるとともに、4 年次の教育実習においても積極的に ICT を取り入れることができるようより実践的な活用事例についても指導を行った。
授業科目名【 専門演習Ⅰ・Ⅱ 】 3 年生のゼミにあたる専門演習Ⅰ・Ⅱでは、学生が中心となって地域連携活動を企画・運営・実施し、地域や社会の人々とながらながら社会へ貢献するとともに、学生自身の学びや成長へとつながるよう指導を工夫した。今年度は、子ども英会話スクールと学生が連携して活動を行った。昨年度までの2年間、コロナ禍において学生のプロジェクト活動には制限があり限定的なものであったこともあり、今年度は可能な限りゼミ生同士や地域の人々とのつながりの中で学び成長し合うことを大切にするよう心がけた。学生たちにとっては、ゼミの学生同士や地域の人々との連携活動を通じ、多くの学びや気づきを得るとともに大きな達成感を感じることもできる貴重な学びの機会となったようである。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音声学会 日本教育学会 国際教育学会 小学校英語教育学会 九州教育経営学会	福岡県理事	平成 22 年 12 月～現在に至る 平成 22 年 12 月～現在に至る 平成 23 年 4 月～現在に至る 平成 26 年 4 月～現在に至る 平成 28 年 4 月～現在に至る

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. e-learning 英語教育の学習効果に関する研究－学習者の自律学習へ向けた教師の役割－	単著	平成 24 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 7 巻第 2 号, 51-80.	大学生を対象に、4 ヶ月に亘って実施した e-learning 英語教育の成果報告を行った。また、e-learning 英語教育における教師の役割や、学習者の自律学習へ向けた授業運営の在り方等についても考察を行った。 (総頁数 30 頁)
2. 日本の英語科教育における音声指導の現状－初期英語教育における音声指導の導入及びその教授法の確立を目指して－	単著	平成 24 年 3 月	九州国際大学社会文化研究所紀要第 69 号, 53-73.	日本の大学生を対象に、中学・高等学校の英語科教育における音声指導の実態調査を行い、その結果を報告した。調査結果に基づいて、英語科教育における音声指導の現状と問題点を提示し、さらには、小学校外国語活動も視野に入れつつ、今後の日本における英語音声教育の在り方について論じた。 (総頁数 21 頁)

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
3. 日本の英語教育における盲点－音声教育の現状と課題－	単著	平成 25 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 8 巻第 1・2 合併号, 37-70.	学校教育における英語の音声指導の実態について調査研究を行い、日本の初等・中等教育において英語の音声指導が充分に行われていない実態を明らかにした。また、音声指導の具体的な内容について詳細な調査を行った結果、子音や母音の音声指導だけでなく、リズム・強勢・イントネーション・連結・同化・省略などを含む超音節的側面についても、学校教育では、調和の取れた指導が十分ではない現状を明らかにした。日本における英語教育の盲点として、音声指導の必要性和重要性を論じた。 (総頁数 34 頁)
4. 学校教育の現場に学ぶ－小学校外国語活動の事例研究－	単著	平成 26 年 3 月	九州国際大学国際関係学論集第 9 巻第 1・2 合併号, 19-38.	小学校外国語活動を論ずるにあたり、外国語活動の授業を参観した。その際の記録および所見について報告を行い、小学校外国語活動の現状と課題について考察した。 (総頁数 20 頁)
5. 教育の本質および教職の意義に関する一考察－全人教育としての教師の教育観・生徒観・指導観－	単著	平成 28 年 2 月	九州国際大学社会文化研究所紀要第 77 号, 23-45.	教育の目的及び教職の意義について考察し、教育の本質とは何かに迫った。教育基本法並びに学校教育法における教育の目的について概観し、全人教育を行う上での教師の教育観・生徒観・指導観、さらには、教師や学校の果たす役割について論じた。また、社会が求める人材について言及し、学校教育が育む人間像と実社会が求める人材像との一貫性について考察を行った。 (総頁数 23 頁)

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
6. 小学校外国語活動の課題と展望ー小学校外国語活動に関するアンケート調査から読み解くー	単著	令和2年3月	西南女学院大学紀 Vol. 24, 65-84.	北九州市内の全ての小学校135校（有効回答数 90 校、有効回答率 66.7%）を対象に実施した「小学校における外国語活動に関するアンケート調査」の結果を分析し、小学校外国語活動の成果と課題について考察した。アンケート調査では、全体の97%（90校のうち87校）が小学校外国語活動に関して「課題はある」と回答し、ほとんどの小学校が外国語活動に課題を抱えつつも、学級担任とALTが授業工夫と努力を重ね、児童の英語力の素地づくりに鋭意取り組んでいる様子が明らかとなった。 （総頁数 19 頁） 他
（翻訳）				
（学会発表） 英語科教育における音声指導のすすめー学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたかー	単独	平成 24 年 8 月 26 日	日本教育学会 第71回大会 （於 名古屋大学）	日本教育学会第 71 回大会において、『英語科教育における音声指導のすすめー学習指導要領(外国語編)は「音声教育」をどう取り扱ってきたかー』と題し、音声教育に関する現状報告と問題提起を行った。 他

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
北九州市内の小学校における「外国語活動」に関する研究調査：現状と課題、及び改善策の提案～地域活性化へ向けたグローバル人材の育成強化を目指して～	産業経済局 高度人材育成課	500,000	平成 25 年度 北九州市 学術・研究振興事業調査研究助成事業

北九州市内の中学校における英語教育の小中連携に関する調査研究：現状と課題、および今後の展望～今後の教育改革を見据えた小中連携の在り方を考える～	産業経済局 高度人材育成課	350,000	平成26年度 北九州市 学術・研究振興事業調査研究助成事業
小学校・中学校・高等学校の英語教育をCAN-DO リストでつなぐ：「北九州市内高等学校の英語教育に関する調査研究」および「小中高一貫 CAN-DO リスト(試案)の開発」	産業経済局 高度人材育成課	1,000,000	平成27年度 北九州市 学術・研究振興事業調査研究助成事業

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
中間市教育委員会 中間市点検評価委員 公益財団法人 日本英語検定協会 その他、県内外の小学校・中学校・高等学校の英語科教員や生徒を対象に、英語教育に関する講演会や研修会の講師を務める。	教育委員 評価委員 派遣講師	2019年7月8日～現在に至る 2018年4月1日～2019年6月18日 2019年4月1日～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
学生募集委員会	2019年4月1日～2021年3月31日
研究紀要委員会	2019年4月1日～2021年3月31日
学生委員会	2019年4月1日～2020年3月31日
地域連携室員	2021年4月1日～2022年3月31日
教職課程委員会	2019年4月1日～現在に至る
教務委員会	2021年4月1日～2022年3月31日
教務部長	2022年4月1日～現在に至る

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 倉富 史枝	職名 特別契約Ⅲ種教授	学位 修士(文学)(久留米大学 1995 年)
----------	-------------	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
家族社会学 ジェンダー論	近代家族、ジェンダー平等、ドメスティックバイオレンス、セクシュアルハラスメント

研 究 課 題
ジェンダー論に関して社会構造の問題として、力と支配を中心に家庭内や職場という身近な場で起こる暴力問題を考察する。ジェンダー平等を目指した国際的な動向と国内の動向を比較し、なぜ、日本がジェンダギャップが大きいのかを近代化に伴う社会意識の形成と関連づけて考察する。

担 当 授 業 科 目
共生社会とジェンダー（前期）（保育科 2 年、保健福祉学部及び人文学部の全学科 3 年次以上） キャリア開発（後期）（保健福祉学部及び人文学部の全学科 1 年次） 女性史（後期）（保健福祉学部及び人文学部の全学科 2 年次以上）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【共生社会とジェンダー】 社会や学問に存在する性差に関わる既成概念や諸問題について、男女共同参画社会やハラスメントや性暴力の根絶などの具体的なテーマで性別にとらわれない共生社会のあり方を実感をもって考えられるよう、グループ討論やその結果を新聞で表現するなどアクティブラーニングを実施した。また、国籍、人種、障害の有無などに関わらず多様な人々との共生をジェンダーの視点から総合的に捉え、女性が自立的に社会参画に関する問題を理解し、課題解決の方策を考えるよう働きかけた。
授業科目名【キャリア開発】 外部講師から多様な分野を視野にいれたキャリア支援ができるよう講話した。 双方向の授業として、学生から質問を受け回答するようにし、人数が多いため講師が複数の場合には、教室後部の学生にもマイクをまわした。キャリア形成は個人的課題だが、その背景の社会の構造と結びつけられるよう最後の講義では授業の振り返りに時間を使った。
授業科目名【女性史】 ジェンダーの視点で歴史を見直すために、固定観念を覆すような写真や図表を使用した。このような視覚的資料は印刷して配布し、歴史的な流れを説明する際には板書を多用し、ノートをとることで理解を深めるようにした。

授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
西日本社会学会会員 日本社会分析学会会員		1993 年 9 月～現在に至る 1993 年 10 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

--	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
こどもCAPふくおか 荻田町 NPO法人福岡ジェンダー研究所 福岡家庭裁判所 春日市男女共同参画審議会 福岡県同和問題をはじめとする人権問題に係る啓発・研修講師団 古賀市男女共同参画審議会 大川市男女共同参画推進審議会 福岡県人権施策推進懇話会 福岡県エイズ・性感染症対策推進協議会	代表 男女共同参画推進委員 理事 参与員 会長 講師 会長 会長 委員 委員	1998年6月～現在に至る 2001年4月～現在に至る 2002年3月～現在に至る 2004年4月～現在に至る 2011年5月～現在に至る 2014年4月～現在に至る 2015年4月～現在に至る 2018年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2018年4月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 Kristen Maree Sullivan	職名 教授	学位 修士 (応用言語学) (Macquarie University 2013 年)
---------------------------	-------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
応用言語学、日本学・日本語学	高等教育における国際化、日豪関係、留学、カリキュラム・デザイン、学習者オートノミー

研 究 課 題
1. 日本と豪州の高等教育における国際化に関する政策および戦略の変遷と関係、日豪関係を背景にして両国の高等教育における国際化政策及び戦略、学術交流の在り方について研究を行っている。 2. 留学の学習効果を高めるための取り組みの計画と評価、留学経験者の留学後のことなど、留学に関する研究を行っている。 3. 外国語学習における自律学習能力・学習者オートノミーの育成を目的とした実践的取り組みに関する研究。

担 当 授 業 科 目
異文化間コミュニケーションⅠ (前期) エリア・スタディⅠ (A クラス・B クラス) (前期) 専門演習Ⅰ (前期) 英語プレゼンテーションⅢ (A クラス・B クラス) (前期) 異文化間コミュニケーションⅡ (後期) 国際ボランティア演習 (後期) 専門演習Ⅱ (後期) グローバル英語Ⅱ (A クラス・B クラス) (後期) 日本語教育実習 (通年) 人文学入門 (1 回) (前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ・異文化間コミュニケーションⅡ】 異文化コミュニケーションにおける誤解や失敗を取り上げるケースについてのグループディスカッションと発表、体験型アクティビティ、視聴覚資料、外部講師による講義、振り返り課題などを活用して、異文化コミュニケーションの概念への理解を深める工夫を行った。
授業科目名【エリア・スタディⅠ】 CLIL (内容言語統合型学習) 手法を用いて行う授業である。移民・多文化主義と先住民というテーマを通して様々な角度から豪州というエリアについて考えることができるよう授業を行った。様々な情報源や形の資料を活用することで学生の理解や関心を高めつつ、エリアを学ぶときの手法についても意識させるよう工夫した。また、授業で扱ったテーマを通して、そして授業で身につけた手法を用いて、豪州をさらに知り、また他の地域について調べて考えることができることを意識させるよう課題設定の面においても工夫を行った。
授業科目名【専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱ】 ゼミのテーマ (諸国の移民政策および多文化をめぐる教育の取り組みと課題) に対する知識を身につけさせながら、調べる力、批判的思考力、チームワーク力、計画力、プレゼン力などを育成させることを目的とし、ゼミの運営方法において工夫を行った。専門演習Ⅰでは、学生は毎回異なるチームメンバーと、そして異なる役割で授業での報告に励み、毎回学生全員が発言してゼミに貢献できるよう工夫を行った。専門演習Ⅱでは、前期の学習を踏まえ学生が特に興味を持つテーマを確認したうえで、グループ単位で研究課題や調査方法を話し合っ決めてさせた。毎週のゼミで進捗状況を報告させ、フィードバックを行いながら学生の学びをサポートした。その中で、現場の声を直接聞く大切さについて考えさせるため、北九州国際交流協会へのヒアリング調査を企画した。調査結果を発表する場として山口県立大学とのオンライン合同ゼミを実施した。

授業科目名【英語プレゼンテーションⅢ】 通訳案内士に必要な知識および英語力を育成することを目標とした授業である。バイリンガル教材を活用して日本の地理・歴史・文化に関する知識を再確認しながら、それをどのように英語で伝えたら良いかを確認したうえで、その表現力および知識をしっかりと身につけさせ、応用できるようになることをサポートするためのアクティビティなどを工夫しながら授業を行った。
授業科目名【国際ボランティア演習】 国際協力 NGO である日本国際ボランティアセンターおよびカンボジアの幼児教育において活動しているチャリティ団体である TukTuk と協力して、PBL という形をとって、学生が主体的になってボランティア・プロジェクトの計画・実施・結果報告・振り返りが行えるよう授業運営を行った。ボランティア・プロジェクトの実施を通して、国際協力や世界の情勢について知識や意識を深めると同時に、チームワーク力、コミュニケーション能力、プロジェクト管理能力などのソフトスキルを向上させるよう授業運営を行った。
授業科目名【グローバル英語Ⅱ】 メディアと社会・ジャーナリズムの役割のテーマを扱う CLIL（内容言語統合型学習）手法を用いて行う授業である。英語力はもちろん、批判的思考力やメディアリテラシーの向上も目指し、世界で起こっていることとその背景について調べ理解し、それについて英語で説明して議論できるようになることを目指した授業である。難易度の高い授業であるため、それぞれの異なる学生のレベルやニーズに合わせ、学生の学習や理解を助けるために必要な工夫を行った。
授業科目名【日本語教育実習】 日本語教育養成課程の最終段階として、実際に日本語学習者を対象に教壇実習を行い、今までに学んできた理論と実践の統合を目指した。コロナ禍の影響で外国人の入国が制限され、実習の時期や形態がなかなか決まらなかったり、直前に変更になったりしたが、むしろ、これは日本語教育の現場の実情を直接体験する機会であり、臨機応変に柔軟に実情に対応できる力を向上させる機会であると、学生の不安を和らげながらも前向きにとらえるよう、そして対応力が身につくよう指導を行った。前期では、オンラインツールを活用して海外に住む生涯学習者を対象にした教壇実習と香港の大学に通う学生とのオンライン交流会、後期では北九州 YMCA でお世話になりオンラインツールを用いた教壇実習と対面による教壇実習を実施できた。学生の主体性を大事にしながらも、教案や教材を細かくチェックしてアドバイスをし、模擬実習を何度も実施しフィードバックをしっかりと行った。また、教壇実習直後のフィードバックセッションでは、すべての学生が率直に意見を述べられる雰囲気を作ると共に、フィードバックの内容が次回に活かされていることを確認しながら指導を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会（JALT） 大学英語教育学会（JACET） 日本自律学習学会（JASAL） 留学生教育学会（JAISE） オセアニア教育学会 言語文化教育研究学会（ALCE） Japanese Studies Association of Australia 異文化間教育学会 日本語教育学会		2005 年 9 月～現在に至る 2013 年 1 月～現在に至る 2013 年 9 月～現在に至る 2019 年 4 月～現在に至る 2019 年 4 月～現在に至る 2021 年 6 月～現在に至る 2021 年 7 月～現在に至る 2022 年 6 月～現在に至る 2022 年 8 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) 海外の日本語教育と日本の英語教育の比較	単著	2023年2月27日	多文化共生社会における言語教育の課題と今後の言語系教員養成の在り方、山口県立大学国際文化学部	言語・言語習得・言語教育等に関する言説が学習者および教員にどのような影響を与えるかについて考える材料として豪州の日本語教育の状況を紹介したうえで、日本の英語教育の状況と比較して解説を行った。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
Investigating Interconnections between the Higher Education Internationalization Policies of Japan and Australia	日本学術振興会	1,950,000 円	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
全国語学教育学会年次国際大会査読委員会	査読者	2022年度

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
人事委員会 委員 教務委員会 委員 国際交流委員会 委員 英語学科留学制度担当者：留学前・留学中・留学後のすべての段階において学生の支援を行うと共に、受け入れ先機関等と綿密な連携をとり、英語学科の留学制度の運営を行った。

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	塚本 美紀	職名	准教授	学位	修士 (教育学) (テンブル大学 2005 年)
----	-------	----	-----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語教育学	異文化理解教育、異文化理解・対応力の測定、ESD(Education for Sustainable Development)

研 究 課 題
異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。また、持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察を深めたい。

担 当 授 業 科 目
グラマー・コンポジション I (前期) 専門演習 I (前期) 教育ボランティア演習 (前期) 英語教科教育法 I (後期) 専門演習 II (後期) 教職実践演習 (中・高) (後期) 北九州の過去・現在・未来 (後期) 地域プロジェクト (後期) 教育における ICT 活用 (後期) 卒業研究 (通年) 事前及び事後の指導 (通年) 教育実習 II (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【グラマー・コンポジション I】 学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるように、重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用した。質問の時間を十分に取ったり、LINE やメールで質問を受け付けるようにしたりして、学生の疑問にすぐに答えられるようにした。また、試験前には授業とは別に勉強会を開催した。
授業科目名【専門演習 I】 国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、動画を見たり、さまざまな国の人々とインターネットを利用して英語で交流したりする機会が持てるようにした。アジア太平洋地域のユースと sustainable fashion をテーマに、半年間に渡り調査及び議論を重ねる半年間にわたるプロジェクトにも参加した。
授業科目名【教育ボランティア演習】 北九州市環境ミュージアムで毎年実施されている「未来ホタルデー」で、子どもたちがかるたや双六を使って、北九州市の自然、文化、歴史を学べるようなアクティビティを考案し実施した。子どもたちの実態と北九州市の教育の状況について事前に調査し、子どもたちが効果的に学べるように工夫した。

授業科目名【英語教科教育法Ⅰ】 学習指導要領の改訂に鑑み、学生たちが中学校や高等学校で学んできたことと現行の学習指導要領との違いがわかるよう解説した。毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。
授業科目名【専門演習Ⅱ】 来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。
授業科目名【教職実践演習（中・高）】 教育活動を行う際、どのようなリソースを活用できるのかについて議論する際、ワールドカフェの手法を取り入れた。また、教育実習での経験を活かして模擬授業の教案を作成するよう指示し、模擬授業の振り返りの時には、学生からの意見が出やすいようにいくつかの項目に分けて発言を促した。
授業科目名【北九州の過去・現在・未来】 北九州市についての基礎的な事項の紹介から始まり、北九州に関する新聞記事、書籍、映像などを用いたり、外部講師による講演を行うなどして、北九州について多角的に捉えられるよう紹介した。また、それぞれが学ぶ専門分野がどのように地域に貢献できるかということについてのオンライン・ポスターセッションを行い、学生同士が互いに学ぶ機会を設けた。ポスター作成については、少数であるが指示を勘違いする学生がいたので、たくさんのお見本を提示した。
授業科目名【地域プロジェクト】 地域で活躍している専門家に外部講師としてお越しいただいて、プロジェクトを実施するための必要な知識を学べるようにした。また、それぞれのテーマについて、協力を得られる外部機関等を適宜学生に紹介した。成果物の作成に際しては、授業以外でもメール等を活用し適宜アドバイスができるようにした。
授業科目名【教育における ICT 活用】 新しい分野で、さまざまな実践が試されている状況であるが、中でも成果が上がっているものになるべく紹介するようにした。また、授業の中でもなるべく ICT を活用し、授業の中でどのように使用することができるのかということを学生が実感できるようにした。
授業科目名【卒業研究】 計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。
授業科目名【事前及び事後の指導】 市内の中学校で英語科教諭として活躍する卒業生や英語科教諭として活躍された後管理職として高等学校で勤務されている先生に外部講師として講演していただき、いろんな面から教師としての在り方について学生が学べるようにした。また、教育実習の前にどのような準備が必要かということを理解できるように、教育実習を経験した4年生から話を聞く機会を設けた。
授業科目名【教育実習Ⅱ】 教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がとれるようにして対応した。また、コロナ禍であるので特に体調管理については実習前から気をつけておくよう指導した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アクロス「英語教師のための異文化研究会」 日本 ESD 学会 北九州サステナビリティ研究所 日本比較文化学会	理事（2008年8月～現在に至る）	1990年9月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年6月～現在に至る 2021年12月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 大学におけるキャリア教育の考察—女子大学人文系学部を事例として—	共	2022. 7	比較文化研究 No.148	① 女子大学人文系学部におけるキャリア教育について、文部科学省や経済産業省の方針を参照しながら考察した。 ② 共著者名 高橋幸夫、塚本美紀、神崎明坤 ③ (p.1～p.14)
日本と中国の大学におけるキャリア教育についての考察	共	2023. 3	西南女学院大学紀要 Vol. 27	① 日本と中国のキャリア教育と職業教育の定義と必要性を明らかにし、両国の大学におけるキャリア教育の在り方を探求した。 ② 共著者名 高橋幸夫、塚本美紀、神崎明坤 ③ (p.31～p.40)
Fostering Intercultural Competence of Japanese and Cambodian Students Through International Exchange Programs	共	2023. 3	西南女学院大学紀要 Vol. 27	① 日本とカンボジアの大学生が異文化間能力を高めることができるように、異文化間能力を評価するためのツールを検討し、効果的な国際交流プログラムについて考察した。 ② 共著者名 Miki Tsukamoto, Brian Nuspriger ③ (p.11～p.19)
中国の大学におけるキャリア教育の考察—人文系学部を事例として—	共	2023. 3	比較文化研究 No. 150	① 中国の大学におけるキャリア教育の実態を厦門大学の教育課程を例に考察した。 ② 共著者名 高橋幸夫、塚本美紀、神崎明坤 ③ (p.1～p.10)

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) 共創社会実現のための異文化間能力の育成：日本とカンボジア学生の交流について	単	2022. 5	日本比較文化学会第44回全国大会 2022年度国際学術大会 (於 山形大学)	① 日本とカンボジアの大学生の交流について、共創社会実現の観点から考察した。 ② 比較文化研究 No. 150 (p. V～p. VI)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
日本と中国における大学キャリア教育に関する研究 ―女子大学生の社会人基礎力の育成を中心として―	西南女学院	○ 神崎 明坤 高橋 幸夫 塚本 美紀 坂田 美登里 (林 楽 常) (王 小 燕) (張 小 光)	1,300,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
日本英語検定協会 北九州 ESD 協議会 Zonta International（世界の女性の地位向上を目指す国際的奉仕団体） 福岡県立小倉西高等学校学校関係者評価委員会 北九州市立ユースステーション	面接委員 会員 北九州ゾンタ アドボカシー・奉仕委員 評価委員 アドバイザーボード	1993年7月～現在に至る 2010年4月～現在に至る 2020年6月～現在に至る 2021年4月～現在に至る 2021年7月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

学生募集委員会 委員（２０１８年４月１日～２０２３年３月３１日）

教職課程委員会 副委員長（２０２２年４月１日～２０２３年３月３１日）

キャンパスハラスメント相談員（２０１４年４月１日～２０２３年３月３１日）

ゴールデンZクラブ 顧問（２０１４年４月１日～２０２３年３月３１日）

教職員懇親会 委員（２０１８年４月１日～２０２３年３月３１日）

教務総合人間科学小委員会 副委員長（２０２１年１０月～２０２３年３月３１日）

2022 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	西原 真弓	職名	教授	学位	修士(英語学) アリゾナ州立大学(1990 年)
----	-------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語教育 英語学 (英語音声学) 異文化コミュニケーション	教員養成課程における指導法 (語彙指導・音声指導) 教員研修の効果的な指導法 日本人英語学習者の発音とリスニング力の関係

研 究 課 題
・英語教育における「思考力」を測る基準の可視化について教科書分析を行う ・日本人学習者の英語イントネーション核の誤配置について、その影響を与えるチャンツを分析する ・コアのイメージをとらえた英語の語彙指導を深めるため、日本の学校教育では教えない表現をコーパス分析する

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)
授業科目名【 】
授業科目名【 】
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
大学英語教育学会 外国語教育メディア学会 小学校英語教育学会 日本英語教育音声学会	理事（2021～）	1991. 4 2014 . 4 2017 . 4 2021. 4

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） 小学校英語教員養成及 び小学校教員研修にお けるチャンツを使用し た英語プロソディ指導	共著	2023年1月	英語教育音声学, 第2 号 p.137-147	小学校での英語教育は音声重視であるため、教員の英語の発音は重要となる。教員に英語プロソディを指導する方法としてチャンツに着目し、教科書分析を行い、プロソディを指導するのに適切であるかを分析した。その結果、ほとんどのチャンツは適切なリズムがついているが、不適切なものもあることが明らかになった。
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

英文創出訓練アプリケーションの開発と実践研究	科学研究費補助金基礎研究(C) (一般)	代表：西原俊明 (長崎大学) 研究分担者	1,170 千円
------------------------	----------------------	----------------------------	----------

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
・長崎県英語教育推進協議会 ・第 70 回長崎県英語教育研究会大会 基調講演 ・長崎県諫早市小学校・中学校外国語教育研修会 ・長崎県大村市中学校外国語教育研修会 ・長崎県平戸市中学校外国語教育研修会 ・長崎市小学校外国語教育研修会 ・長崎県五島市中学校英語教員オンライン研修会 ・長崎県諫早市中学校外国語養育部会 教員研修会	委員 講師 講師 講師 講師 講師 講師	2018 年～2022 年 3 月 2022 年 10 月 2022 年 8 月 2022 年 8 月 2022 年 8 月 2022 年 8 月 2023 年 2 月 2023 年 2 月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023 年度入職）

2022 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	ブラウン馬本 鈴子	職名	講師	学位	文学博士
----	-----------	----	----	----	------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
イギリス文学、イギリス文化	ドリス・レスリング、ジェイン・オースティン ジェンダー、イギリス、

研 究 課 題
主に現代の女流イギリス文学に関する研究を行う。大まかには、女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析を行う。文学理論(ジャンルの意義)分析。

担 当 授 業 科 目
前期 英検演習Ⅰ、英検演習Ⅱ、英語文学Ⅰ、初年次セミナーⅠ、専門演習Ⅰ、卒業研究 後期 卒業研究、英語文学Ⅱ、専門演習Ⅱ、リーディングⅣ、初年次セミナーⅡ、TOEIC 演習Ⅰ、TOEIC 演習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 英語文学Ⅰ・Ⅱ 】 英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景を学習していった。「英語文学Ⅰ」から「英語文学Ⅱ」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である <i>The Tale of Peter Rabbit</i> を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げていった。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料(DVD)を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たちは、授業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、精読、速読を進める中で、英語力の向上を図った。対面授業の中でも資料のアーカイブや課題の提出場所として、Google Classroom を効率良く使った。
授業科目名【 卒業研究 】 前期には、専門演習Ⅰ、Ⅱを得て得た文学的読みを更に深化させ、ゼミ内でディスカッションを行った。また前期には、特に卒業論文のテーマ選びを行い、選んだテーマをどのように研究していくかの計画を入念に立てた。夏休みには、実際に卒業論文を書き始め、後期には、個人指導もたくさん行いながら、論文を書き進めた。ゼミ内で、仲間同士で指摘しあう機会を与えたり、ポスターセッションの練習会も行った。
授業科目名【 専門演習Ⅰ・Ⅱ 】 前期から後期にかけて、イギリス現代文学の短編集やジェイン・オースティンの『高慢と偏見』を読み、ゼミの中で調べてきたこと、まとめあげたこと、疑問に思ったことなどのディスカッションを行った。またゼミの初めには、各自が持ち寄った新聞記事を紹介し合い、社会現象を分析した。またその新聞の活動に加え、就職活動を意識してSPI対策とTOEIC練習を始めた。

授業科目名【 初年次セミナーI・II 】 通年を通して、テキスト『知へのステップ』をベースに、基礎的な学習スキルや、大学での授業の受け方、生活の送り方、計画の立て方についての概論を教えた。また書き込み式の『マイキャリアノート』を使い、学生個人個人が独自の思いを綴り内省を行ったり、キャリアへの計画、調べ物を行なった。前期後半では個人の、後期後半ではグループでのプレゼンテーションを行い、前期では主にパワーポイントで、後期には Google スライドで発表を行うことで、自分たちで決めたテーマに沿っての研究を行うミニプロジェクトを完成させた。またそれぞれの発表についてのフィードバックを Google クラスルームのアンケートシステムを使ってクラス全員で行い、その結果で学んだことをレポートに課した。後期では外部講師も招いて、プレゼンテーションのお手本として、デートDVに関するワークショップを行ってもらった。
--

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本英文学会九州支部 映画英語教育学会（ATEM）九州支部 日本オースティン協会	支部評議員（なし）	2001年10月～現在に至る 2006年10月～現在に至る 2015年11月～現在に至る

2 0 2 2 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 特になし				
(学術論文) Racial Issues in Doris Lessing's "Victoria and The Staveney's"	単著	2023,4 予定	西南女学院大学紀要 2023 VOL.27	ドリス・レスリング作の短編小説『ヴィクトリアの運命』において、人種問題を視座に入れて、語りや登場人物の在り方を分析して、現代のイギリスに残る人種問題を露呈した。
(翻訳) 特になし				
(学会発表) 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
特になし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
特になし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等
特になし		

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
公開講座委員 就職委員 研究紀要委員 1、2年生アドバイザー

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 マルコム ロス スワンソン	職名 教授	学位 大学教育部大学院修士課程
---------------------	-------	-----------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
1. Active learning 2. Technology in the classroom 3. Self-access learning centres	Active learning, student-centered learning, tablet devices, self-access, presentations

研 究 課 題
1. Language study through active learning 2. Digitizing language learning 3. Use of portable technologies as student resources

担 当 授 業 科 目
- English Extension I - English Extension II - English Extension III - English Extension IV - 専門演習 - 卒業研究 - 前期 - メディア英語 I - 英語コミュニケーション I - 英語プレゼンテーション I (2A & 2B) - 英語プロジェクト I - 後期 - 英語プロジェクト II - メディア英語 II - 英語プレゼンテーション II (2A & 2B) - 地域プロジェクト

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【メディア英語 I & II】 Google アプリケーション (Gmail、Documents、Sheets、Slides、Forms など) の使い方の学習教材を増やし、習熟度を向上させました。学生向けのセルフアクセストレーニングプログラムを充実させました。Canva や Keynote などのアプリケーションを使用したグラフィックデザインの指導も実施しました。
授業科目名【英語プレゼンテーション I & II】 PowerPoint、Keynote、Canva などのアプリケーションの習熟度を向上させるための活動を追加し続けました。また、コンテンツと配信を向上させるために、リサーチとライティングのスキルアップにも力を入れました。最後に、「エリアスタディ」「地域プロジェクト」「英語ディスカッション」など、他の科目で学んだスキルの統合を図りました。

授業科目名【地域プロジェクト】 観光文化学科とのコラボレーションは今年が初めてでした。門司港でのフィールドワーク、SDGs についての学習、「Motena-SEA」プロジェクトのアイデア出しなどを行うことができました。
授業科目名【English Extension I, II, III, IV】 4 学年それぞれを対象にしたエクステンション活動を作成した。国内外から講師を招き、英語講演会を 16 回開催 (https://seinan-jo.com/english/lectures/) した。
授業科目名【専門演習 I, II】 今年はゼミの授業で PBL (Project-Based Learning) にすごく力を入れました。タンガ・マーケットとのコラボレーションを成功させ、Hakko Japan のイベントで募金を募ることができました。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
全国語学教育学会	会員 第 48 全国語学教育学会 大会研究発表記録集編集長 Website 編集委員 JALT 北九州支部長	1996 年～現在に至る 2021 年 11 月 2010 年 5 月～現在に至る 2023 年 1 月～現在に至る
CALICO (コンピュータ支援言語教育コンソーシアム)	会員	2005 年 5 月～現在に至る
Moodlemoot	会員	2020 年 1 月～現在に至る
JASAL (Japan Association for Self-Access Learning)	会員	2015 年 7 月～現在に至る
Online Teaching Japan		

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
梅光学院大学ESSスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2022年6月
西南学院大学ESSスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2022年11月
キャンベル杯ディベート&スピーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディベート&スピーチ・コンテスト審査員	2023年3月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

- **英語学科長**
- 情報システム管理運用委員会
 - 英語学科の担当し、2021 年度副委員長となる。
- English Lectures（ZION CUP スピーチ・コンテストを含む）, Movie Month, Extension Activities, Halloween Event, Christmas Intensive, 卒論のポスターセッションの運営担当を行った。
- 英語学科ウェブサイトの管理
 - 英語学科のウェブサイト情報をアップデートするための委員会の責任者。
 - Moodle サイトを使ったオンライン学習の管理とトレーニング。

觀 光 文 化 學 科

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 池口 功晃	職名 准教授	学位 博士(経済学)(久留米大学 2019 年)
----------	--------	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光経済学、地域活性化	日帰り観光、観光の経済効果

研 究 課 題
観光を通じた地域経済活性化に関する国内のこれまでの研究は、観光地の「魅力」がその核心であると捉えたものが多く、例えば、温泉、食事、レクリエーションなど、いわゆる観光資源の魅力をいかに高めるかということに焦点が当てられてきた。しかし、近年の急速な高速交通網の発達には時間距離を短縮させるため、観光地の「魅力」は相対化されつつある。そこで、この点に着目し、①観光行動を消費者行動と捉えた消費行動分析、②観光地間の競合関係の分析、③産業連関表を通じた観光の経済分析など、主として3つのテーマを設定し、地域経済の計量的分析および評価をおこなっている。

担 当 授 業 科 目
(前期) ・国際経済入門 (英語・観光文化学科) ・初年次セミナーⅠ (観光文化学科) ・日本経済入門 (観光文化学科) ・ビジネス演習 (観光文化学科) ・観光関連法規 (観光文化学科) ・国内旅行実務 (観光文化学科) ・専門演習Ⅰ ・卒業研究 (後期) ・ビジネスファイナンス (観光文化学科) ・キャリアデザイン論Ⅱ (観光文化学科) ・地域活性化演習 (観光文化学科) ・地域活性化研究 (観光文化学科) ・ツーリズム演習 (観光文化学科) ・地域観光資源開発論 ・専門演習Ⅱ ・卒業研究

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 日本経済入門 】 経済学系の科目は金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎的理解が必須である。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない知識の定着を図った。また、授業の後半では戦後の日本経済 (GHQ の占領下～高度経済成長期～石油ショック～バブル経済の発生と崩壊～不良債権問題～アベノミクス) について上述した基礎を踏まえながら順に説明をおこなった。
授業科目名【 地域観光資源開発論 】 北部九州・山口県における観光の取り組みについて、学生が各グループに分かれて実地・文献調査をおこない、その後発表会を通じて新しい観光のあり方について議論する場を設けた。
授業科目名【 ビジネスファイナンス 】 ビジネスではいわゆる数字 (例えば、売上、原価、利益など) を読めることが大切であることから、本授業ではあらゆる業種の財務諸表を扱い、企業財務 (ファイナンス) の分析手法について詳しく説明している。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
東アジア企業経営学会 日本企業経営学会 九州都市学会 経営行動研究学会 観光学術学会 日本観光研究学会 日本地理学会	設立発起人	2021 年 4 月～現在に至る 2018 年 4 月～現在に至る 2015 年 4 月～現在に至る 2013 年 4 月～現在に至る 2012 年 4 月～現在に至る 2008 年 4 月～現在に至る 2008 年 4 月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 「地域産業構造と観光政策の視座―北九州市を事例として―」	単	2023. 3	『西南女学院大学紀要』第27号	わが国では2003年以来、観光立国の実現に向けた取組みが俄かに進められてきたが、観光政策の視座が未だ確立しておらず、依然として入込観光客数の増減のみを評価対象としているケースが多い。本稿においては北九州市を事例に、同市が公表している産業連関表と他の政令指定都市産業連関表における影響力係数や感応度係数などの分析指標の比較を通じて、同市における観光政策の視座の確立を試みた。
(翻訳)				
(学会発表) 「地方自治体における観光政策の現状とその課題―九州・沖縄の各県を事例に―」	単	2022.12	東アジア企業経営学会第2回全国研究大会（於、下関市立大学、オンライン開催）	2008年に観光庁が発足して以降、地方自治体の観光政策は、国が主導する観光立国推進基本計画との調整を図りつつ、地域独自の視点を一部織り交ぜながら進められてきた。しかし、人口減少や少子高齢化が進む昨今において行政機関の予算は年々縮小傾向にあり、その効率的な運用が求められている。そこで、本発表においては九州・沖縄の各県を対象にポストコロナの観光政策がどのように立案され施行されているか、現状を比較検討しながらその課題について考察した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
「輝こう！あまがせ・支援大使」（大分県日田市天瀬町「天瀬公民館まちづくり事業」）	観光に関する助言・指導	平成 25 年 9 月～現在に至る
宇佐市まち・ひと・しごと創生有識者会議 審議委員	副委員長	平成 27 年 7 月～現在に至る
津久見市まちづくり推進事業審査委員	副委員長	平成 28 年 8 月～現在に至る
日田市天瀬農業公園検討委員会	会長	平成 30 年 9 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教務委員

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	角谷 尚久	職名	准教授	学位	修士(経営情報学)(大阪経済大学 2011 年)
----	-------	----	-----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
人文・社会 / 経営学 経営情報学 観光学	航空産業、観光マーケティング、国際観光 (インバウンド)、地方創生

研 究 課 題
1. グローバル化する航空事業において収益構造の変化や協業体制の課題について 2. 複雑な旅行ビジネス構造の中での旅行業が直面している課題について 3. 地方創生において地域のかかえる課題について

担 当 授 業 科 目
(前 期) ・ インターンシップ (観光文化学科) ・ 観光フィールドワーク (観光文化学科) ・ 宿泊産業論 (観光文化学科) ・ 初年度セミナーⅠ (観光文化学科) ・ タウンマネジメント (観光文化学科) ・ 専門演習Ⅰ (観光文化学科) (後 期) ・ 観光産業論 (観光文化学科) ・ 現代ビジネス人材論 (英語学科) ・ 交通産業論 (観光文化学科) ・ 初年度セミナーⅡ (観光文化学科) ・ ニューツーリズム論 (観光文化学科) ・ フィールドワーク入門 (観光文化学科) ・ マルチメディアツーリズム (観光文化学科) ・ 専門演習Ⅱ (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【インターンシップ】 2022 年度においては、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、企業協力を前提に対面型の通常のインターンシップを実施する前提にて講義を行った。
授業科目名【宿泊産業論】 対面型授業の中で、出来るだけ具体例をあげながら、宿泊産業の歴史やビジネスモデルを教授するとともに、現役実務家のゲストスピーカーに登壇頂き、宿泊産業の現状を解説してもらうことにより、就職活動を念頭とした解説を行った。
授業科目名【観光フィールドワーク】 前年度後期に開講したフィールドワーク入門のステップアップとして、フィールドワークの役割を再認識するとともに実施する際の意義や手続きについて実務を習得し、スキルを身につけられるように工夫する。
授業科目名【航空産業論】 コロナ禍よりのリカバリーの中、各航空会社のリカバリープランの解説や航空業界への就職を視野に入れている学生に現在業界がおかれている状況などの解説を加えることにより、従来の授業内容をより実学向けにすることにより、理解度を深めるようにした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
東北亜観光学会	設立発起人	2009年4月
旅行ビジネス研究学会		2009年4月
日本ウマ科学会		2013年4月
観光学術学会		2016年8月
日本海運経済学会		2016年8月
日本観光研究学会		2018年12月
日本観光経営学会		2019年12月
沖縄経済学科		2021年10月
共生学会		2022年6月
日韓国際学術学会		2022年12月
東アジア企業経営学会		2022年12月

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
ポストコロナを見据えた航空産業	単著	2022年6月	Tourism and Culture Department of Tourism Vol.1	
ホスピタリティ産業への就職決定プロセスに関する質的研究ー在沖縄県の大学出身者を中心にー	共著	2023年3月	観光マネジメント・レビューVol.3	
地域貢献活動における大学の果たす役割についてー西南女学院大学と北九州市小倉北区役所との連携を事例としてー	共著	2023年3月	森下財団紀要 Vol.8	
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 日本の宿泊業の生産性 課題 - 沖縄県西海岸リゾートホテルのケーススタディ -	共著	2022年6月	第4回 観光経営カンファレンス	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 間等
一般社団法人 全日本学生馬術連盟	副理事長	2021年1月～現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
学生委員会 委員 FD委員会 委員 図書委員会 副委員長

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	神崎 明坤	職名	教授	学位	教育学修士 九州大学 1995 年
----	-------	----	----	----	-------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

研 究 課 題
① 中日の近代における思想家の道德修養に関する研究 ② 日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究 ③ 中日における大学の改革に関する比較研究

担 当 授 業 科 目
入門中国語会話（前期）、初級中国語会話（後期）、中級中国語（前期）、実用中国語会話（前期）、基礎中国語（前期）、応用日本語（後期）、中国語通訳ガイド演習（前期）、初年次セミナーⅠ（前期）、アジア文化交流研修 A（前期）、比較文化論（前期）、専門演習Ⅰ（前期）・専門演習Ⅱ（後期）、卒業研究（通年）、キリスト教と西南女学院のあゆみ（1 コーマ）（前期）、人文学入門（1 コーマ）（前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目目【入門中国語会話・初級中国語会話・実用中国語会話・中級中国語・基礎中国語・中国語通訳ガイド演習】 1. テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組み合わせることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国文化や中国の大学生の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。 2. 学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等、学生の実力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取り入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。 3. 講義内容が学生将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引き出す工夫を行った（検定試験は半年の勉強で4級、1年間で3級合格者出た）。 4. 毎回講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度に纏めて再表示し、印象付けるように工夫を行った。 5. 学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。「初級中国語会話」「実用中国語会話」「中級中国語」「基礎中国語」「中国語通訳ガイド演習」の授業は中国語でプレゼンテーションを作成し、発表させる練習を行った。 授業科目名【初年次セミナーⅠ】 本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び、一生の知的財産とする。論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる受講マナーが身についている。新聞や本を読む習慣が身についている。規則正しい大学生活習慣を見つけることが本授業の旨である。 1. 講義にテレビ、DVD などの補助教材の活用、疑問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を向上させ、積極的な授業参加することに工夫を行った。

2. 学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等、学生の能力に対応した個別学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。更に学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。

授業科目名【 専門演習Ⅰ・Ⅱ 】

グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まってきている。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。例えば、米やお茶等の食文化、漢字や儒教の思想もちろんのこと、年中行事、ものの考え方等の伝来文化によって形成された文化や習慣等の現代の日本の文化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことが本授業の旨である。

1. この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすく日本と中国の文化に関する論文を多数読んでもらい、その文化の相違点の比較研究などを通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。
2. 日本と中国及びヨーロッパ文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての研究計画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら、各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。
3. 実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えを纏め、口頭発表や論文作成の方法に必要な能力を身に付けさせる工夫を行った。

授業科目名【卒業研究】

卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領域における学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持って一つの仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。

1. 上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関の図書館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。
2. 先行研究を批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うために、ゼミ同士や指導教員との交流を通し、繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。
3. 仮説を論文として展開する力等を養い、学生自身のオリジナルな論文を書くことを心掛けて、最終的に集大成の論文を完成させる工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本中国学会	会員	1998年4月～現在に至る
九州教育学会	会員	1994年4月～現在に至る
日本比較文化学会	会員	2011年4月～現在に至る
日本比較文学学会	会員	2012年5月～現在に至る
日本比較教育学会	会員	2011年11月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 大学におけるキャリア 教育の考察—女子大学 人文学系学部を事例と して—	共著	2022 年 3 月	日本比較文化学会、比 較文化研究 No.148	本研究は、日本の大学において 女子大学人文系学部における 大学キャリア教育は学生の多 様化、社会経済産業発展の要請 を重く配慮したのか、学生のキ ャリア教育が学びと経験の視 点で整備されているのか、キャ リ教育科目は学生のキャリア 形成への繋がり、望まれる資 質、能力向上ができるかという 観点からキャリア教育に関す るものである。そこで社会人基 礎力育成」を中心に据えながら もそれに関する文部科学省や 経済産業省の方針等にも目を 向けて、事例の西南女学院大学 人文学部学生のキャリア教育 に関する評価を質問紙調査の 結果から検証することを目的 とし、学生の習得度及び問題を 明らかにしたものである。 高橋幸夫、塚本美紀、神崎明坤
中国の大学におけるキ ャリア教育の考察—人 文系学部を事例として —	共著	2022 年 9 月	日本比較文化学会、比 較文化研究 No.150	本研究は中国の大学における キャリア教育の実態を中国の 国家の方針及び大学事例につ いて、厦門大学の教育課程等を 考察しながら検討すると共に、 大学生のキャリア教育に対す る評価をアンケート調査結果 から把握し、キャリア教育に実 施状況把握を試みた。 高橋幸夫、塚本美紀、神崎明坤

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
日本と中国の大学におけるキャリア教育についての考察	共著	2023年3月	西南女学院大学紀要 Vol.26	本稿は、日本と中国に大学におけるキャリア教育が、国家のキャリア教育に関する法規に基づいて、学生の多様化や社会や経済産業の発展への要請に対応しながら、いかに構築されてきたかということを明らかにする。具体的には、日本と中国のキャリア教育と職業教育の定義と必要性を明らかにし、日本と中国の大学における教育の在り方を探求することを目的とする。 高橋幸夫、塚本美紀、神崎明坤

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) 中国と日本における大学キャリア教育に関する研究 ～社会人基礎力の育成を中心として～	単著	2022年6月25日	日本比較教育学会 58回 北海道・東北地域にて オンラインで発表	本発表は日本と中国における大学のキャリア教育の現状と社会人基礎力育成の位置付けをいかに構築されているのか明らかにする。事例としては日本の西南女学院大学人文学部と中国の廈門大学人文系学部を通し、社会人基礎力のスキルの学びを探究し、両国の大学生の社会人基礎力育成についてアンケート質問紙調査に基づき、社会人基礎力の育成の実態の因子分析を行い、結果を明らかにしたものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
日本と中国における大学キャリア教育に関する研究—女子大学生の社会人基礎力の育成を中心として—	西南女学院大学	○神崎明坤、高橋幸夫、塚本美紀、坂田美登里 (林楽常、王小燕、張小光、)	1,300,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
○観光文化学科科長 ○宗教主事補 ○人文学部宗教委員

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 高橋幸夫	職名 准教授	学位 経済学修士 (京都大学)
---------	--------	-----------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
マーケティング (広告・ブランド) デザインマネジメント・地域活性化マーケティング	地域におけるマーケティング・コミュニケーション デザイン・インスパイアド・マネジメント

研 究 課 題
・ テーマパーク経営におけるマーケティング (キャラクターマーケティング) ・ デザイン重視の経営研究 (デザインマネジメント研究) ・ 大学における地域活性化活動 ・ 大学におけるキャリア教育 (社会人基礎力・PBL を中心に)

担 当 授 業 科 目
初年次セミナーⅠ (前期) 専門演習Ⅰ・Ⅱ (前期・後期) 卒業研究 (前期・後期) マーケティング入門 (前期) 広告宣伝論 (前期) 消費者行動論 (後期) イベント・テーマパーク論 (後期) ブランド戦略論 (後期) キャリア・デザイン論Ⅰ (後期) 地域プロジェクト (後期) メディア政策論 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ (前期)】 ・ 大学生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなどの理解度向上と「社会人基礎力」をベースとした学生生活の考え方を始動した。
授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 ・ デジタルマーケティングの基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。 ・ 社会貢献活動の企画・実施を演習授業に取り入れた。 ・ さらに、就活を控える学生に対して、「企業研究」「自己分析」「適職診断」「面接」の指導を行なった。
授業科目名【マーケティング入門】 ・ 受講者がマーケティングの基本的な概念を理解し、実際の企業活動の中でマーケティングが担っている役割を具体例、特に映像を用いて理解できる仕組みを構築した。 ・ ・ 実用性の高い知識と応用力を身につけるために実務家の講義も実施した。

授業科目名【ブランド戦略論・デザインマネジメント論・広告宣伝論】

- ・各科目とも基本理論の習得を基礎に、外部より各領域の専門実務家を招聘し、ワークショップ展開の授業を行なった。これにより履修学生は各科目に対する興味と意欲の向上を目指した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
商品開発・管理学会 日本商業学会 産業学会 日本比較文化学会		2005 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在 2021 年 12 月から現在

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
・大学におけるキャリア教育の考察-女子大学人文系学部を事例として-	共著	2022 年 8 月	「比較文化研究」No.148 日本比較文化学会	・日本の女子大学、特に女子大学人文系学部におけるキャリア教育事例として西南女学院大学人文学部を取り上げて考察した。
・中国の大学におけるキャリア教育の考察-人文系学部を事例として	共著	2023 年 3 月	「比較文化研究」No.148 日本比較文化学会	・中国の大学におけるキャリア教育の実態を、厦門大学の教育課程等を考察・検討、大学生のキャリア教育に対する評価をアンケート調査で把握し、教育の実施状況把握を試みた。
・日本と中国の大学におけるキャリア教育についての考察	共著	2023 年 3 月	「西南女学院大学紀要」Vol.27,西南女学院大学	・日本と中国のキャリア教育と職業教育の定義と必要性を明らかにし、日本と中国の大学におけるキャリア教育の在り方を考察した。
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称 (学会発表)	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
北九州市立響灘緑地および行橋市長井浜公園 において販売するオリジナル商品開発および イベント開発の研究	(株) オリエンタ ルコンサルタンツ	1,000,000	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市企画調整局 「未来創造ネットワーク事業者選定 審査会」	審査委員	2022 年 6 月～8 月

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
情報システム管理運用委員会委員 学生個人情報保護委員会 就職委員会副委員長 各学生地域貢献活動支援

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	林 裕二	職名	教授	学位	修士 (文学) (西南学院大学 1993 年)
----	------	----	----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論、比較文化

研 究 課 題
英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本)を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担 当 授 業 科 目
人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科) 基礎英語 (前期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ基礎 (前期) (観光文化学科) 専門演習Ⅰ (前期) (観光文化学科) 北九州の技と文化 (前期) (看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科) 初年次セミナーⅠ (前期) (観光文化学科) 初年次セミナーⅡ (後期) (英語学科・観光文化学科) 応用英語 (後期) (観光文化学科) 応用TOEIC演習 (後期) (観光文化学科) 中級英文講読 (後期) (観光文化学科) 上級日本語 (後期) (観光文化学科) マルチメディアイングリッシュ応用 (後期) (観光文化学科) 専門演習Ⅱ (後期) (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
【人文学入門 (前期) (英語学科・観光文化学科)】 人文学部の担当教員複 7 名がそれぞれ 1 回か 2 回担当する。人文学部での学びの導入として、先ずは一般論的な人文学の枠組み、そして本学における人文学関連の学びの枠組みを知ることが目的とする。2021 年度のリフレクションから、この授業全体の目的がよりわかりやすくなるように、出席や提出物の評価基準がシラバス (配布) にどのように示されているか、それをどう理解するかにも触れた。担当は 2 回目分のみ。そこでは、「読む」をテーマとして話した。
授業科目名【基礎英語 (前期) (観光文化学科)】 1 年次の学年を二分割したクラスサイズである。授業では基礎的な 4 技能を伸ばすことを目的とした。基礎的な文法が弱いところには、丁寧に繰り返し説明をした。対面授業であり、E-learning の CHieru と英文多読活動の達成度を上げるように、声を掛け続けた。
授業科目名【マルチメディアイングリッシュ基礎 (前期) (観光文化学科)】 2019 年度の新規科目の 4 年目。昨年までは A、B クラス別であったが、本年度からは 1 クラスでの開講となった。E-Learning の CHieru を使う必修科目。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように情報処理演習室を使ったが、当初は PC の電源の入れ方、端末操作のレビューから始まった。学習マイルの目標を持たせて計画的に取り組めるように

した。授業最初に小テストを毎回行い、遅刻者が出ないようにした。1 年次の基礎英語、応用英語の CHieru 学習の体験が生きた。
専門演習Ⅰ（前期）（観光文化学科） 文献の探し方、人前でわかりやすいプレゼンテーションの仕方や、自分の関心のある新聞・雑誌の文章を選び、読み・書きの基本を学ばせた。ある程度内容のある文献を読ませて、要約、発表、質疑応答のサイクルと重ねた。希望者に第二回ビブリオバトル（書評大会）の企画・運営をさせた。英語学科学生の参加も得て、人文学部規模での開催となり盛会となった。
北九州の枝と文化（前期）（看護学科、福祉学科、栄養学科、英語学科、観光文化学科） 外部講師 5 名を招いて、科目名に相応しい内容となるように工夫した。外部講師には、打ち合わせ段階で、90 分を対面で行う際の学習効果を上げるための資料の提示の仕方、グループ学習の方法を説明した。敢えて 5 学科の学生が混ざりあうようにグループを構成した。履修者（80 名）が、それぞれの回の最後には活発に質問をしてくれた。
初年次セミナーⅠ（前期）（観光文化学科） 1 年生（5 名）の受講生に高校の教育内容との継続教育的な奥で大学の授業の受け方を学ばせた。テキストを指定して、初回のオリエンテーションで、最終回までの予習範囲を指定して、予習、提出物、復習の学習サイクルを確立させるようにした。
初年次セミナーⅡ（後期）（英語学科・観光文化学科） 第 2 回目の授業だけを担当。倫理がテーマで、倫理審査委員が担当している。1 年生にとって、そして大学で最も必要なことは、剽窃・盗用をしないということの意識づけを目的とした。1 年生のこの時点では、著作権にはあまり意識がないので、盗用を扱った新聞記事を提示して、何が問題になるのかを理解できるようにさせた。
応用英語（後期）（観光文化学科） 基礎的な英語の 4 技能を伸ばすことを目的とした。これは前期の基礎英語でも目指したもののでもある。但し、前期後期で担当クラスが異なる。E-learning の CHieru の学習と多読もある。両方とも授業外の活動としており、オリエンテーションではそれぞれの活動についての説明を行った。CHieru の学習マイルコンテストで、上位者を表彰するということで、学習の動機づけとした。予習を促す方策として予習ページを撮影して、送らせた。これは非常に効果的だった。
応用 TOEIC 演習（後期）（観光文化学科） TOEIC 演習シリーズの中での応用レベルである。応用とはしているが、基本的な文法力を養うことは必要であり、そこを強化しながら、リスニングや読解力を更に伸ばすために、こまめに質問をして答えさせるパターンを繰り返し行った。音読の課題として、音読を録音させ、それを提出させた。これは個別指導が非常にしやすかった。月曜日の昼休み直後の授業であり、眠らせないように机間巡視を頻繁に行い、質問をした。これは PPT をリモートで操作し、ワイヤレスマイクを利用することで可能になった。
中級英文講読（後期）（観光文化学科） 予習範囲を示し、それをしたことを写真で提出させて、予習率を高めた。英文講読のトレーニングの学習効果を確認するために、毎回短いエッセイを課して、添削をし、原文と添削を印刷して、次回に配布して、復習につないだ。この方式では、非常に立派な英文を書くことができた。
上級日本語（後期）（観光文化学科） 中国からの交換留学生 1 名が対象。ある程度の基本を前提として、四技能を伸ばすトレーニングを繰り返した。中国語話者にとって、日本語学習のポイントである助詞、活用、敬語等に焦点を当て、指導を行った。
マルチメディアイングリッシュ応用（後期）（観光文化学科） 前期マルチメディアイングリッシュ基礎で得た力を、更に伸ばす授業である。対面であり、遠慮なく個別に音読をさせられるようになり、学習の質と量を確保できた。Google Document での音声入力に慣れさせて音読の練習をさせて、録音させて提出させた。CHieru の学習マイルコンテストで、上位者を表彰することを予告して学習意欲を高めた。
専門演習Ⅱ（後期）（観光文化学科） プレゼンテーションスキルを伸ばし、文献をさがす方法、文献をどう解釈して、論文・レポートに生かすかを繰り返し、輪読を通して実践していった。卒論を次年度は書くために、自分の関心がどこにあるのかという意識づけをさせた。
卒業研究（通年）（観光文化学科） 8 名のクラス。卒論指導については、学年当初は全体指導を、そして授業が進むにつれて、個別指導の割合を増やしながら、制作に取り組ませた。質的研究を取り入れることは 3 年の前期には伝えていたが、どうしても

就職活動との関係で、取り組みが遅くなる傾向がある。コロナの影響が大きく、大半がオンラインでのアンケートとなった。デジタル世代の学生であり、いろいろなツールを使いこなして、アンケートを実施していた。参考文献については印刷文献の利用がどうしても後手となり、ネットからのデジタル文献利用が主になる傾向がある。妥協点として、印刷された文献のデジタル版を取り込むことを指導した。資料非公開の機関・組織に対しても、工夫をして、貴重な一次資料を得た学生も出た。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会(JBCA) (旧日本商業英語学会)	九州・山口支部長（2010年2月～2018年9月） 本部理事（2015年11月～2019年10月） 研究年報査読委員(2016年3月～現在に至る) 本部常任理事(2021年10月～現在に至る) 九州・山口支部長（2022年3月～現在に至る）	1993年6月～現在に至る
映像メディア英語教育学会(ATEM) (旧映画英語教育学会)	九州支部会計監査（2006年1月～2011年12月） 紀要査読委員(2010年4月～2012年3月) 紀要査読委員（2018年1月～現在に至る） 九州支部副支部長(2008年10月～2011年10月) 九州支部運営委員（2012年1月～現在に至る）	1994年2月～現在に至る
日本コミュニケーション学会	九州支部紀要編集委員（2011年9月～2015年6月）	1994年12月～2015年3月
日本人類言語学会 英語コーパス学会 日本比較文化学会	九州支部会計監査(2013年3月～現在に至る)	2002年10月～2004年3月 2003年4月～2009年3月 2010年2月～現在に至る
万葉学会	本部事務局長・理事	2018年5月～現在に至る 2014年2月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 英語の俳句	単	2022年10月	公益財団法人山形市文化振興事業団 山寺芭蕉記念館 第14回山寺芭蕉記念館英語俳句大会入選作品集	紙媒体とオンラインでの出版。 投句数221、入選句数37。
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) オンライン英文校正ツール‘Grammarly’活用法	単	2023年2月	日本比較文化学会 第35回九州支部大会 (於：福岡女学院大学)	AI、ビッグデータを利用したオンラインの革新的英文ライティングツールの仕組み、活用法を議論した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
財団法人日本英語検定協会	英語検定試験二次試験面接 委員	1995 年 8 月～2023 年 8 月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
入学試験会議 大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員会 学生募集委員会（副委員長） 倫理審査委員会 将来計画委員会

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	八尋春海	職名	教授	学位	修士 (文学) (1993 年九州大学)
----	------	----	----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光学	観光資源、阿蘇市、ニューツーリズム

研 究 課 題
阿蘇市における観光資源の活用

担 当 授 業 科 目
前期 初年次セミナーⅠ、人文学入門、海外旅行実務、専門演習Ⅰ、欧米観光文化地理Ⅰ、卒業研究 後期 映画で学ぶ欧米文化、映画で学ぶ世界遺産、欧米観光文化地理Ⅱ、専門演習Ⅱ、卒業研究

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナーⅠ】 人数が少なかったため、それぞれの履修生の性格にあわせて授業を進めるようにした。
授業科目名【人文学入門】 リレー講座のうちの3回を担当したため、内容が重複せず、新入生が興味を抱くような内容の授業にした。
授業科目名【海外旅行実務】 時差の計算が最も難しいようなので、3回に分けて少しずつ理解ができるように工夫をした。
授業科目名【専門演習Ⅰ】 オンライン中心の学年で横のつながりが薄かったため、グループディスカッションを多用して人間関係が深まるように心がけた。
授業科目名【欧米観光文化地理Ⅰ】 まずは、学生の認知度の高い国々を取り上げて、観光文化地理への興味が高まるようにした。
授業科目名【卒業研究】 着実の論文執筆が進むように、毎回の課題をデータに入れるように指導した。

授業科目名【映画で学ぶ欧米文化】 その時々でマスコミで話題になっている時事問題を解説することで、授業の内容が深まるようにした。
授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】 単なる知識の伝達にならないように、それぞれの世界遺産が抱えている問題も紹介し、学生の社会に対する意識を高めた。
授業科目名【欧米観光文化地理Ⅱ】 前期の「欧米観光文化地理Ⅰ」で取り上げた国については、全く違った角度からアプローチをして学生を知的に刺激した。
授業科目名【専門演習Ⅱ】 フィールドワークに向けて、実践的な指導と準備学習を行い、課題を達成した時の感動が高まるようにした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本比較文化学会	会長：2018 年度～現在	1996 年
日本比較文化学会九州支部	支部長：2010 年度～現在	1996 年
余暇ツーリズム学会	常任理事：2021 年度～現在	2005 年
映画英語アカデミー学会	九州支部事務局長：2014 年度～現在 理事・福岡支部長：2015 年度～現在	2013 年

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
人文学部長 学生募集委員 教育経費予算委員

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 劉 明	職名 教授	博士 (経営学) [立命館大学 2011 年] 学位 修士 (観光学) [桜美林大学 1996 年])
--------	-------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	アジア観光、日中観光交流、九州ディスティネーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティの相違、インバウンド観光の人材育成

研 究 課 題
1. アジア観光・特に日中両国の観光交流について 2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光について 3. 九州ディスティネーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について 4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について 5. インバウンド観光対応型の人材育成について

担 当 授 業 科 目
観光学入門 (前期) インバウンド観光論 (前期) 観光マーケティング論 (前期) アジア観光文化地理Ⅰ (前期) 初年次セミナー (前期) 専門演習Ⅰ (前期) ホスピタリティ論 (後期) 観光社会学 (後期) アジア観光文化地理Ⅱ (後期) 旅行商品企画論 (後期) 経営学入門 (後期) 専門演習Ⅱ (後期) 卒業研究 (通年)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【観光学入門】 「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。 また、プリント・PC・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。 さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。

授業科目名【インバウンド観光論】 「インバウンド観光論」では、日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等について論じ、観光マーケティングの視点から、日本や九州におけるインバウンド観光の振興にとっては、重要なターゲットとなるアジア、欧米特に中国、韓国、アメリカ、イギリスなどの国からの訪日観光客の誘致を事例に講義する。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。
授業科目名【観光マーケティング論】 「観光マーケティング論」では、観光サービスに関するマーケティングを取り上げる。観光産業に特有の観光マーケティング、観光まちづくりを担う組織などが主体となるデスティネーションマーケティングをそれぞれ事例を基に紹介していく。観光を学ぶ学生たちに観光産業及び観光地域でのマーケティング事例を分かりやすく紹介し、それらの事例を通して、観光マーケティングの魅力とその理論のエッセンスを理解してもらえるように工夫した。
授業科目名【アジア観光文化地理Ⅰ】 「アジア観光文化地理Ⅰ」の授業では、映像を通して、学生たちに日本、中国、韓国の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。
授業科目名【初年次セミナー】 初年次セミナーⅠでは、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である『聞く』『調べる』『読む』『書く』『考える』の強化を図る。具体的には、講義の聴き方、ノート取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のITC活用法など、大学で主体的に学ぶ技法を習得することができるように工夫した。
授業科目名【専門演習Ⅰ】 「専門演習Ⅰ」では、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動を参加してもらった。
授業科目名【ホスピタリティ論】 ホスピタリティは今や企業が生き残るために必須の要素になっているのである。お客さま、従業員、地域社会、そしてそのほかの利害関係者に、夢・感動・幸福を提供することこそが企業の存在にとって必要不可欠なのである。つまり、ホスピタリティは企業が存在するための「規範」あるいは「価値」として位置づけられるようになったのだ。この講義では、ホスピタリティとは何かを理論的に学び、企業の事例などを用いてわかりやすく解説し、学生がよく理解できるように工夫した。
授業科目名【観光社会学】 本講義では、観光社会学が観光を捉える視点や方法を説明し、研究対象の新しい観光と多様化する観光形態を現代社会の動向に絡めて紹介する。また、観光社会学の事例研究の成果を解説する。また、質問をしていただき、学生達の関心あることについて話をする。それと同時に観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。さらに、授業の感想や提案などを学生に書いてもらい、学生との交流を図る。
授業科目名【アジア観光文化地理Ⅱ】 「アジア観光文化地理Ⅱ」の授業では、映像を通して、学生たちにタイ、シンガポール、ベトナム等の地域性や風土人情及び観光資源を認識・理解してもらう。また、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。
授業科目名【旅行商品企画論】 「旅行商品企画論」では、観光客のニーズの変化を分析し、他地域と差別化できる九州の観光資源及び独特なもの・コトを考察し、九州におけるインバウンド旅行商品の造成プロセスを学ぶ。 また、演習として学生が自分の馴染みの地域を選んで、そこでのフィールドワーク（FW）活動を通して、観光客のニーズに合った旅行商品の企画をする。さらに、その成果について、発表を行う。

授業科目名【経営学入門】 本講義では、組織とマネジメントの概念や役割等具体的な内容に触れながら、人の強み・弱み、マネジメントとイノベーションの使命や方法及び戦略について学ぶ。企業の事例などを挙げてわかりやすく解説すし、学生がよく理解できるように工夫した。
授業科目名【専門演習Ⅱ】 「専門演習Ⅱ」では、「専門演習Ⅰ」に続き、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。 また、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。さらに、コミュニケーションとホスピタリティ能力を高めるため、地域貢献活動を参加してもらった。
授業科目名【卒業研究】 「卒業研究」では、時間をかけて、学生の就職活動に向け役立つスキルを伝授した。 また、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。 さらに、地域貢献活動について、後輩たちへの指導を求めった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本ホスピタリティ・マネジメント学会		1994 年 09 月－現在に至る
日本観光研究学会		2001 年 01 月－現在に至る
余暇ツーリズム学会		2007 年 12 月－現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 夢実現の環境づくりについて ―東京インバウンド観光研修を事例として	単	2023 年 3 月	余暇ツーリズム 学会誌 第 10 号	観光文化学科の多くの学生の夢は観光産業で働くことである。その夢を実現するには、大学の環境づくりは大事だと考える。 観光文化学科では、産学官連携を重視し、より実践的な観光専門教育の実現に取り組んでいる。旅行業・宿泊業・航空業等それぞれの業界で研修などを実施し、プロの現場でプロから直接学ぶことでインバウンド観光の人材を育成している。 本論文は、2014年-2019年6年間にわたって実施した東京インバウンド観光研修を事例として、学生が夢を持てるように、学生の夢を実現することが出来るようになるには、どのような環境づくりが必要なのか及び観光教育のあり方を明らかにすることを目的としたものである。
(学会発表) 夢実現の環境づくりについて ―東京インバウンド観光研修を事例として	単	2023 年 1 月 28 日	余暇ツーリズム学会 2022 年度九州支部会 (福岡市赤煉瓦文化館)	本研究発表は、2014年-2019年、6年間にわたって実施した東京インバウンド観光研修を事例として、学生が夢を持てるように、学生の夢を実現することが出来るようになるには、どのような環境づくりが必要なのか及び観光教育のあり方を明らかにすることを目的としたものである。

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

1. 人事委員
2. 国際交流委員
3. 教職員研修委員

助 産 別 科

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	古賀 玉緒	職名	講師	学位	修士 (医科学) (久留米大学 2009 年) 氏名
----	-------	----	----	----	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
母性看護学・助産学	周産期・更年期・教育

研 究 課 題
周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

担 当 授 業 科 目
助産別科】 前期：ウイメンズヘルスケア、助産診断ケア学Ⅲ（産褥期）、助産診断ケア学Ⅳ（新生児期）、助産診断ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク）、・総合看護学・助産学基礎実習 通年：助産診断ケア学Ⅵ（健康教育演習）・助産診断ケア学Ⅶ（助産過程演習）・助産学研究演習 助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習：（後期） 【看護学科】 母性看護学演習・ウイメンズヘルス：（前期）、母性看護学実習・母性看護方法論：（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 助産診断ケア学Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】 助産別科の学生を対象に産褥期・新生児期に関する助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。講義では、演習や実習に向けて知識や思考が深められることを意図し、事前学習を実施し授業を計画し、具体的な支援についてはグループワークにて考える機会を設けた。また、教員が助産技術の動画を作成し、演習に向けたイメージ作り、準備に活用できるよう工夫した。演習では実践に活用できることを意図し模擬患者へのロールプレイの時間を設け学生の実践力向上を目指した。なお、学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。
授業科目名【 助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ、助産学研究演習 】 助産診断ケア学Ⅵでは、健康教育の概要についての解説、産褥期・思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを目標に講義内容を組み立て実施した。演習では他教員も加え少人数を受け持ち、個別的な対応を行った。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導にのぞめるよう準備した。学内での学習は臨地実習における対象者へ向けた直接指導や高校生を対象とした思春期教育へつながることもあり、実践を意図した内容を工夫した。 なお、学内演習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。助産過程演習・助産学研究演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。
授業科目名【 助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ） 】 今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一部学内実習にふりかえて実施した。学内であっても実習目標を達成できるよう実習内容を検討し、臨地実習と併せ、特に不足する内容を学内実習で対応した。臨地実習では適宜、施設担当者との連絡をとり施設の受け入れ条件の確認と厳守し臨んだ。時間や実習内容に制

限はあったものの集中して学ぶことができた。 校内実習および臨地実習ともに、個々のレベルをふまえて指導方法を工夫した。なお、実習では本学の感染防止ガイドラインに沿って感染防止に努めた。
授業科目名【ウイメンズヘルスケア】 本科目は専門科目であり、他の専門科目を学ぶ上で基盤となる知識をおさえる科目であるため、授業計画の前半に集中講義として3人の教員で担当し、ライフサイクル各期におけるヘルスケアについて解説した。なお、授業の中で小テストを実施し知識の定着を図った。
授業科目名【母性看護方法論・母性看護学演習・ウイメンズヘルス】 看護学科2年生、3年生を担当し、周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的変化の理解およびウェルネス看護診断・看護過程の理解を目的に、映像を活用し学生の知識の定着や思考力の向上に努めた。 なお、看護過程演習では臨床実習を見据え、得られた知識を実践で活用できるよう個人ワークや担当教員との質疑応答の時間を確保した。本年度は個人対応が可能であり、個々の進捗状況をふまえて効果的な指導になるよう努めた。また、事前に学習成果を提出させ教員は予め内容を確認したうえで指導のポイントをふまえて講義に臨んだ。演習では優先度の高い技術を中心に本学の感染予防ガイドラインに沿って実施した。 ウイメンズヘルスでは、女性の健康に関するなかでも、更年期老年期の女性の健康について解説を行った。遠隔授業であったが、ネット機能を活用したグループディスカッションの時間を設け、学生の考察が深まるよう取り組んだ。
授業科目名【母性看護学実習】 今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響がつづき学生の実習は臨地・学内およびリモートと実習形態の相違がみられた。そのため、全ての学生がそれぞれの実習形態のなかで、より効果的な実習を経験することができ、かつ実習目標を達成できるよう実習内容を検討しながら教員間および臨床指導者と検討しながら実習方法を工夫した。学生の指導については、教員間および指導者とも定期的に情報交換を行い学生の進捗状況をふまえて効果的な指導を心がけた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会	会員	2007年4月～現在に至る
日本看護研究学会	会員	2008年4月～現在に至る
福岡県看護協会	会員	2008年4月～現在に至る
日本助産学会	会員	2011年5月～現在に至る
日本看護科学学会	会員	2014年5月～現在に至る
全国助産師教育協議会	会員	2010年4月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

--	--	--

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
大学) 入試委員、学生募集委員、付属研究所（保健福祉学部） 助産別科） 学生支援（アドバイザー）、実習コーディネーター（母性看護領学実習・助産学実習） 学生募集に関する業務

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	新郷 朋香	職名	助教	学位	助産修士 (専門職) 天使大学大学院 2009 年
----	-------	----	----	----	------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産ケア、産後ケア、母性看護学	助産ケア、産後ケア、継続支援、子育て支援

研 究 課 題
助産師の妊娠期から産褥期における継続的ケアについて考察する コロナ禍での学内実習における学生の学びと実習の成果を考察する

担 当 授 業 科 目
<助産別科> 助産診断・ケア学Ⅰ 助産診断・ケア学Ⅱ 助産診断・ケア学Ⅲ 助産診断・ケア学Ⅳ 助産診断・ケア学Ⅵ 助産診断・ケア学Ⅶ <看護学科> 母性看護学演習 ウィメンズヘルス 母性看護学実習 助産学研究演習 母子の心理・社会学 助産学実習Ⅰ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】 科目責任者と共に、助産学生の学習状況や達成状況などを考え演習の組み立て、実践を行った。学生の知識が実際の対象者へのケアに結びつけることが出来るよう支援を行った。 また、ロールプレイで対象者や助産師、第三者の視点に立つことが出来るよう計画し、自分のケアを振り返る機会を設けた。
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅵ・Ⅶ 】 数名の助産学生を受け持ち、平等に学習を深めていけるよう調整を行った。教員間でも理解の共有を図り学生の理解の確認を行い、学習が深まるよう努めた。
授業科目名【 助産学実習Ⅰ 】 学内実習と臨地実習を組み合わせで行った。 学内実習では、基本的な助産技術の習得や助産過程の展開を行った。また様々な場面を想定した分娩介助練習を行い、臨地実習で生かせるよう支援した。 臨地実習では、学生の体調管理や感染予防に努め、実習施設や母児、学生の安全を最優先に配慮した。学生の個別性を考慮し、指導の方向性を他教員とも共有しながら支援した。また、臨床指導者との意見交換を行い学生の進捗状況や学びをフィードバックしより深く理解できるよう支援した。
授業科目名【 母性看護学演習 】 実際に実習で活用できるよう、事例を設け看護過程の展開を行った。看護過程の展開では数十名を受け持ち、個別での時間を設け理解を深めることが出来るよう関わった。また、技術演習では、繰り返し確認できるよう動画視聴による工夫を行った。感染予防対策をしっかりと行い、技術テスト・技術練習の時間を設け、細やか

な指導が行えるよう時間と場所の設定をした。
授業科目名【 ウィメンズヘルス 】 “子宮頸がんとうィメンズヘルス”のテーマで講義を行い、学生の知識の確認、病態や治療・予防における現状について説明した。
授業科目名【 母性看護学実習 】 臨地実習、学内実習で行った。 臨地実習では、感染対策で実習内容に制限があったが指導者と調整を行い多くの経験や見学ができるよう調整した。また、臨地実習で行う事が出来なかった項目については学内で技術の振り返りを行った。 テーマカンファレンス・まとめカンファレンスを実施しディスカッションを通して母性看護への学びを深めることが出来るよう支援した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本助産学会		2009年4月～現在に至る 2020年4月～現在に至る

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
1. 看護学科に関する業務全般（補佐） 2. 国家試験に関すること（補佐） 3. 物品管理（副） 4. クラス担任（副） 5. 業務に関すること（補佐） 6. 入学・卒業に関すること（補佐）

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	杉浦 絹子	職名	教授	学位	博士 (看護学)
----	-------	----	----	----	----------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
生涯発達看護学 助産学 母性看護学	知的障がい 妊娠 出産 育児 支援 親 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 親性準備性 保健 指導ツール

研 究 課 題
知的障がいの者の妊娠・出産・育児の支援方法開発

担 当 授 業 科 目
※ 該当なし (2023 年度入職)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 】 ※ 該当なし (2023 年度入職)

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本助産学会	専任査読者	2019 年～現在

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 助産師基礎教育テキスト 助産学概論・母子保健	共著	2023 年 2 月	日本看護協会出版会	杉浦絹子 (分担) B5 版全 p293 中、第 5 章 2 諸外国のお産の歴史 p153-158、3 お産と文化 p159-177
母性看護学①母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護	共著	2022 年 11 月	メヂカルフレンド社	杉浦絹子 (分担) B5 版 p353 中、第 1 章 1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは p205-212、2 リプロダクティブ・ヘルス/ライツにかかわる近

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				年の動向 p213-220
(学術論文)				
Status and Influencing Factors of High School Students' Family Formation Willingness	共著	2023年2月	Kawasaki Journal of Medical Welfare 28(2)	Junko KAWAHARA, <u>Kinuko SUGIURA</u>
A Qualitative Study on Breastfeeding among Mothers with Intellectual Disabilities: Perspectives of Nurse-Midwives and Public Health Nurses	共著	2022年10月	Women, Midwives, and Midwifery 2(3) 28-40	<u>Kinuko SUGIURA</u> , Kazuko FUJISAWA
Pregnancy-related Discomfort and Stress Levels in Pregnant Women	共著	2022年8月	Kawasaki Journal of Medical Welfare 28(1) 1-13	Emi AMAKAWA, <u>Kinuko SUGIURA</u>
Pregnancy-related Comforts: A Survey on Pregnant Women during Their Second and Third Trimesters	共著	2022年2月	Kawasaki Journal of Medical Welfare 27(2) 179-188	Emi AMAKAWA, <u>Kinuko SUGIURA</u>
A Survey on Nurses Balancing Child Care and Work	共著	2022年2月	Medical Welfare 27(2) 121-130	Ayumi SURUMOTO, <u>Kinuko SUGIURA</u>
(翻訳)				
(学会発表)				
知的障害のある母親における母子健康手帳の利用実態	共著	2022年9月	日本母性衛生学会第63回学術集会	藤澤和子、 <u>杉浦絹子</u>

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
知的障害のある親への乳幼児育児の支援方法の検討（研究代表者）	科学研究費補助金 基盤研究C	○ <u>杉浦絹子</u> 藤澤和子	2021～2024 年 320万円
知的障害者の妊娠、出産、育児支援のための母子健康手帳と使用ツールの開発（研究分担者）	科学研究費補助金 基盤研究C	○藤澤和子 <u>杉浦絹子</u>	2021～2025 年 310万円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
(公社) 全国助産師教育協議会	資格・専門能力委員会委員長	2021 年 7 月～2023 年 6 月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
※ 該当なし（2023 年度入職）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 前田 幸	職名 講師	学位 助産修士 (専門職) 天使大学 2006 年
---------	-------	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産学、母性看護学	助産ケア、助産師外来、バースレビュー、出産想起、分娩の振り返り、助産学生、分娩介助、乳がん検診

研 究 課 題
・分娩体験におけるバースレビューの意義や役割について考察する ・妊娠期からの胎児へのコミュニケーションが愛着に与える影響について考察する ・助産学生の分娩介助の習得過程に関して考察する ・乳がん検診・自己触診法の啓発活動を通しての学生の学びについて考察する

担 当 授 業 科 目
【助産別科】 ・助産診断・ケア学Ⅰ 妊娠期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅱ 分娩期 (前期) ・助産診断・ケア学Ⅴ 周産期のハイリスク (前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ 健康教育演習 (通年) ・助産診断・ケア学Ⅶ 助産過程演習 (通年) ・ウィメンズヘルスケア (前期) ・助産学研究演習 (通年) ・母子の心理・社会学 (前期) ・実習：助産学基礎実習 (前期)・助産学実習Ⅰ (通年)・助産学実習Ⅱ (後期) 【看護学科】 ・母性看護方法論 (2 年後期) ・母性看護学演習 (3 年前期) ・ウィメンズヘルス (3 年前期) ・母性看護学実習 (3 年後期～4 年前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ】 助産診断・ケア学では、基礎的知識及びフィジカルアセスメント、助産技術の習得ができるように、事前課題やワークシートなどを用い、学生自身が主体的に自ら考え、意欲・関心が得られるように工夫した。できるだけ、双方向型の授業を意識し、ディスカッションや発表を取り入れるなど、教員と学生同士の学びの共有ができる授業を心掛けた。演習においては、最新のガイドラインなどを活用し、机上の学習で得た知識を統合させ、ケアの実践につながるよう、担当教員とともに環境を整えた。また、実際に臨床の場において体験する場面やケアなどを積極的に取り入れて授業を展開した。 1. 助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期) 母性看護学で培ってきた知識をより深く掘り下げ定着させるために、ワークシートを用い、個人ワークとグループワークを併用しながら知識習得のための授業を目指した。特に、妊娠期における保健指導の必要性やその根拠について理解し、対象者にとって必要な指導を導き出せるように意識しながら関わった。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において、必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、演習内容に妊婦と助産師役、第3者の視点も含めロールプレイを行い、ケアに結び付けられるよう演習を組み立て取り組んだ。演習後は、

観察したことをアセスメントするとともに、経験したことに対する振り返りの機会をもった。また、模擬妊婦体験を通して、日常生活を妊婦として体験する機会もち、その経験を共有しケアへ結びつけることができるように工夫した。

2. 助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）

事前課題を課して母性看護学で得た知識を復習するとともに、助産の専門的知識の習得に結びつけることができるよう準備をした。分娩期の生理・分娩経過に伴う産婦や胎児の変化、支援方法について学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるように DVD 視聴や模型を使用し、授業を実施した。また、知識の定着を確認できるように小テストを行い、結果をすぐにフィードバックし復習へつなげることができるように工夫した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準に沿って、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づけを行った。実習において必須である分娩助産やそれに伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。また、学生が胎盤の模型を各自作成し、使用することで主体性を促した。分娩経過に沿って、経過診断と時期診断が行えるように、実際にパルトグラムの記載を行いながら、情報収集・アセスメント・ケアの方向性を常に修正し、分娩のケアの演習を行った。記録の重要性にも触れ、助産録など責任をもって記載することを実施した。感染対策についても学生自身がより意識して行動できるように工夫した。

3. 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）

妊娠期を主に担当した。助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）と連動しながら、保健指導の指導案の作成をおこない、発表会を実施し学生同士の共有を行った。担当教員とともに、きめ細やかな指導を心掛けた。

授業科目名【助産学基礎実習】

新型コロナウイルス感染症拡大状況に合わせて、学内実習と臨地実習のハイブリット形式で実習を実施した。学内実習では、実習目標の到達にそって、臨床での実習と同レベルでの経験ができるように準備を行い取り組んだ。基礎助産学実習では、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行った。具体的には、対象者を捉えることからはじめ、母子の安全を考え、また科学的根拠に基づいたケアを学生が提供できるように支援した。学生個々の価値観等を考えながら支援するとともに、助産ケアに関して、フィジカルアセスメントをしたうえで、今後どのようなことが予測されるか、対象者に必要なケアは何か、学習で得た知識を活用できるようにフィードバックを行い工夫した。実習後には、面談を行い学生の学びの振り返りができるよう支援するとともに、学生全員で実習のまとめ発表会を行うことで、基礎実習での経験が次の段階へつながるように支援した。

授業科目名【助産学実習Ⅰ・Ⅱ】

新型コロナウイルス感染症拡大状況に合わせて、臨地実習と一部学内実習とのハイブリット形式で実習を行った。実習目標に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるよう学生の支援を行った。特に助産学実習Ⅰ・Ⅱでは学生が対象者や家族を多角的に捉え、気づき、対象者に寄り添ったケアを提供できるように意識して、学内実習では事例を用い、また臨地実習での不足部分を補う形で実習を行った。

1. 助産学実習Ⅰ（正常）

正常経過と逸脱経過の判断を行いながら、倫理的視点を常に持ち、ケアを実施できるよう助言等の工夫をした。臨地実習では、臨床指導者や他の教員と連携をとり、意見交換しながら支援するとともに、学生がより対象者の個別性を考えたケアを実施できるように工夫して、フィードバックを行った。また、正常からの逸脱の事例を経験した学生には、1つ1つの場面やケアの振り返りを行う機会を持つとともに、グループ間での情報共有やディスカッションを通し、より客観的に学びを共有することができるよう支援した。

2. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）

逸脱の経過やハイリスク疾患の学習をしっかりと行い、対象の理解へつなげるとともに、必要な保健指導を考え実施できるよう指導者と連携を図り、支援した。また NICU での実習では、NICU での実習を通して、対象者及び家族の支援レポートを考えることができるように支援した。

全ての実習後には、面談を行い学生の学びの振り返りができるよう支援するとともに、学生全員で実習のまとめ発表会を通し、臨地実習で学生が経験したことを共有する機会をもち、助産学生としての学びの総まとめとなるように支援した。

授業科目名【母性看護方法論】

2022 度は、産褥期・新生児期を担当した。母性看護は、対象が女性や子どもと家族であるため、学生が自分自身の身体と結びつけることができるよう、日常生活での関連性を示すとともに、体操など学生が机上でも体験できる方法も取り入れた。学生が主体的に学習できるように、講義の中でワークシートを用いた学習や小テストなどを取り入れ、学生自身が知識の習得状況を確認できる機会を設けた。母性看護学をより具体的にイメージでき、また興味を持てるよう写真や動画などの映像を取り入れるなどの工夫をした。また、学生が教科書の知識と結び付けてイメージしやすいよう臨床の現場で起こりうることや自身が経験したこと、実習で先輩たちが経験したことなど具体的な事例等を用いて、看護者としての考え方や対象者との関わり方を考える機会をもてるよう工夫した。また、時事的トピックも加えることで、学生が日常生活中で母性看護を身近に意識できるよう工夫した。

授業科目名【母性看護学演習・実習】**1. 母性看護学演習**

看護過程の習得ができるように、ワーク型の演習を取り入れ、小グループ単位で担当教員がサポートし、個別的で細やかな指導を実施した。また、看護技術に関しては、感染対策を行った上で、技術演習を行った。動画視聴などを通して学生が繰り返し技術を学べるように教材を工夫した。また、母性看護学実習の前に技術に関するフォローを行った。

2. 母性看護学実習

新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、臨地実習・学内実習を併用して実施した。臨地実習では、実習指導者と相談しながら、学生が学びを深めることができるよう感染対策を行いながら、見学やケアの実施の機会が得られるように工夫した。学内実習では、事例を用いて看護展開することにより、臨床での実習に近い形で実習ができるよう環境を整えた。学生自身が妊婦・産婦・褥婦を体験することで、対象者の状況や気持ちを考える機会を設けた。ケアの振り返りやカンファレンスを多く取り入れ、学生自身の気づき、学生同士の気づきを大切に、ケアをより深く考えることができるように工夫した。また、看護技術の習得が十分ではない部分に関しては、繰り返し実施をすることで技術の定着を図った。臨地実習・学内実習とも実習を行う中で、主体的に学生がカンファレンスを行うテーマを決め、テーマカンファレンスを実施した。実習の総括として、まとめカンファレンスを行うとともに、実習最終日に面談を行い、学生の学びの振り返りができるよう支援した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本助産学会 母性衛生学会		2003 年 4 月～現在に至る 2017 年 3 月～現在に至る 2018 年 4 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教務委員会 2019年～現在に至る 助産別科に関する業務 教務に関する全般を担当、家族計画実施指導員資格認定に関することを担当 学生支援に関すること：助産師国家試験対策を担当、アドバイザー 学生募集に関すること：オープンキャンパス（7月）担当

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山田 恵	職名	助教	学位	修士 (人間関係学)
----	------	----	----	----	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
助産ケア アタッチメント 女性の健康支援	母子関係 アタッチメント 感性 寄り添う支援 女性の健康 プレコンセプションケア

研 究 課 題
・アタッチメントの問題、発達特性、未解決の葛藤を抱えている妊産婦に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。 ・思春期世代に対し、助産学生が行うプレコンセプションケアの意義と有効性について検討する。

担 当 授 業 科 目
<助産別科> ・人間関係とコミュニケーション (前期) ・助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅲ (産褥期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ (健康教育演習) (通年) ・ウイメンズヘルスケア (前期) ・助産学基礎実習 (前期) ・助産学実習Ⅱ (正常逸脱) (後期) <看護学科> ・母性看護学演習 (前期) ・母性看護学実習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 人間関係とコミュニケーション 】 授業開始後間もない時期の開講であるため、学生同士のコミュニケーションが図れるよう体験学習や協同学習の技法を取り入れた。また、学生の自発性を高めるよう発言の機会を多くとった。時間内で学習した内容、理解した内容を文章化させ、「何となくわかった」から「このように理解した」とそれぞれの学びの内容を確認し、次回の講義に反映させた。
授業科目名【 ウイメンズヘルスケア 】 事前課題を提示し、社会の動向から問題提起させ、全体で意見交換できるよう場の設定を行った。また、教科書の内容だけでなく、新たな知見や社会情勢からケアの対象の実像を具体的に説明し、現代社会が求める助産師の役割について考える機会とした。
授業科目名【 母子の心理・社会学 】 他の科目と関連する部分が多いため、これまでの学習内容をふまえて発展させる形で組み立てた。現代社会における課題を実例をもとに解説し、助産師の役割や責務について考察する機会とした。
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期)、Ⅱ (分娩期)、Ⅲ (産褥期) Ⅳ、(新生児・乳児期) 】 今年度は入学前の臨地実習経験や母性看護技術の実践に関して学生間でかなり差がみられた。そのため、例年以上に視聴覚教材などを活用した授業計画を立案した。また、知識を統合させ思考しながら実践できるよう、

演習の組み立てを行った。その際、演習計画はできるだけ詳細に立案し、公平性が保てるよう時間調整した。また、学生全体で意見交換する機会を設けた。
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習） 】 助産過程演習に対する準備状況を事前調査結果や面接などから把握し、個別指導に活かした。講義時間外でもできるだけ学生対応に努め、学習が円滑に進むよう支援した。
授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習） 】 思春期の健康教育演習を担当した。カリキュラム改正とこれからの助産師に求められる内容を意識し、「プレコンセプションケア」「包括的性教育」の概念を中心に講義内容を組み立てた。また、助産学実習では経験できない集団指導を経験できるよう中高に依頼し、調整した。準備段階では、自発性とチーム力を身につけられるよう、企画立案から運営まで学生主体で行えるよう計画した。そのため、教員は統括チームのサポート的役割を担った。指導内容に関して中高の教育と齟齬が生じないよう指導案や教材の確認をくり返し行い、教育の質の保障をした。
授業科目名【 助産学実習（基礎）（正常Ⅰ）（正常逸脱Ⅱ） 】 助産学基礎実習では2施設を同時に担当した。各施設の受け入れ条件が異なったため学内実習の計画立案や、実習指導者との調整を行い、施設間で学修状況に差が出ないように支援した。 助産学実習Ⅰでは県内実習と県外実習（各5週間）を担当した。学生に対しては常に連絡相談態勢を取り、毎日、実習終了後 meet を使用し面接し、実習の進捗状況や心身の体調把握に努めた。記録指導はメール上（パスワードかけ）で提出したものを早期に返却し、効果的に実習が進めていけるよう支援した。臨床指導者とは週に1回電話にて実習調整を行い、分娩介助例数10例到達に向け支援した。 助産学実習Ⅱでは、受け入れ要件を遵守しながら目標到達できるよう指導者に働きかけ、学生が実践できる機会を設けた。
授業科目名【 母性看護学演習 】 看護過程演習では23名の学生を担当した。2年次に学習した看護過程論から発展させる形で、学生の理解状況を確認しながら個別指導を行った。国家試験対策につながるよう教科書を活用した学習を意識させ、知識の獲得を図った。実技演習においては全員が平等に経験できるよう計画し、学生間で学び合えるよう協同学習の手法を用いた。
授業科目名【 母性看護学実習 】 実習施設が3施設あり、それぞれ学生の受け入れ要件が異なっていたため、施設ごとの実習要領の見直しを行った。また、実習目標到達に向け、臨地で経験できない技術に関しては学内で実践する機会を設け、評価した。
授業科目名【 ウイメンズヘルス 】 進行2「思春期の健康とウイメンズヘルス」、進行5「ジェンダーとウイメンズヘルス」を担当した。学生の身近な生活状況や体験を題材とすることで、自身の健康やジェンダー観を見つめ直す機会とした。また、文科省が勧めている「生命の安全教育」を取り入れた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) なし (報告書) 女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	共	2022.6	西南女学院大学 保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2021 報告書	①女子学生の健康に対する意識を高め、学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みを実施するための方法として、「健康管理カルテ」の作成を行なった。今後、その有用性を調査し、改良を重ねることで、より学生にとって利用しやすい「健康管理カルテ」を作成する。 ②共著者名： 樋口由貴子, 水貝洵子, 山田恵, 目野郁子, 高崎智子, 大内田知英 ③ 西南女学院大学 保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2021 報告書 (P6-7)
(翻訳)				
(研究報告会発表) 本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	共	2023. 3	2022 年度 西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 報告会	①本学学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みとして「健康管理カルテ」を作成し、2021 年度保健福祉学部入学生および2022 年度大学部・短期大学部入学生へ配布した。また、本年度の使用状況について調査した。その結果、本学学生は健康管理カルテを体調不良時や実習前に活用していることが明らかとなった。また、学生にとってより利用しやすい今後の健康管理カルテの運用方法について考察した。 ②共著者名： 水貝洵子, 山田恵, 樋口由貴子,

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				目野郁子, 高崎智子, 大内田知英
				教育研究業績 総数 (2022. 3. 31 現在) 著書 4 (内訳 単 1, 共 3) 学術論文 1・報告書 2 (内訳 共 3) 学会発表 18 (内訳 共 18)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
本学学生を対象にした健康管理カルテの作成	西南女学院大学 保健福祉学部附属 保健福祉学研究所 研究費	○水貝洵子 山田恵 樋口由貴子 目野郁子 高崎智子 大内田知英	300,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）

<別科学生募集他>

- ・2022 年度のオープンキャンパス企画・運営担当
- ・助産別科ブログ担当

<別科業務>

- ・助産学生 4 名のアドバイザー担当
- ・クラス担任
- ・入学・卒業に関する業務（補佐）
- ・実習コーディネーター（補佐）

<学生支援>

- ・看護学科教員や保健室職員、事務職員の要請に応じて、看護学科学生及び職員等の健康相談を行った。関連する病院の紹介や連絡調整を図った。
- ・個々の女子学生の健康に対する意識を高め、大学として学生の健康維持・増進に向けた学生支援となるよう全学部 1 年生に「私の健康管理カルテ」を配布した。

短期大学部

保 育 科

2022年度教育研究活動報告用紙(様式9(2022))

氏名	阿南 寿美子	職名	准教授	学位	修士(教育学)
----	--------	----	-----	----	---------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
幼児心理 幼児教育 保育者養成	社会的能力の発達 規範意識 いざこざ 保育観 子どもの学び 保育カンファレンス 実習記録

研 究 課 題
幼児期の対人交渉場面において、乳幼児が規範意識や対人関係構築などの社会的能力をどのように獲得していくのかについて考察する。子どもの遊びの中における学び(育ち)の捉え方について考察する。 保育者養成校の学生が、2年間の学生生活を通してどのように保育者として保育観や援助観が育まれて行くのかを考察する。 保育の質を向上するための保育カンファレンスのあり方について考察する。

担 当 授 業 科 目
学校法人西南女学院 西南女学院大学短期大学部 保育科 ・保育の心理学(前期)(1年生) ・保育内容「言葉」の指導法(後期)(1年生) ・こどもの発達理解とあそび(複数担当教員)(前期)(2年生) ・こどもの理解と援助(前期)(2年生) ・教育実習指導(複数担当教員)(2年間通年)(1年生、2年生) ・教育実習Ⅰ(複数担当教員)(通年・学外)(1年生) ・教育実習Ⅱ(複数担当教員)(前期・学外)(2年生) ・教育実習Ⅲ(複数担当教員)(後期・学外)(2年生) ・保育・教職実践演習(幼稚園)(複数担当教員)(後期)(2年生) ・こども学基礎演習(通年)(1年生) ・こども学特別演習(通年)(2年生) 学校法人扇城学園 東九州短期大学 幼児教育学科 ・子どもの心理(前期)(1年生)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育の心理学】【子どもの心理】 「保育の心理学」では子どもの発達の理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。
授業科目名【こどもの発達理解とあそび】 共同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に関しては、現役の幼稚園園長により、集団遊びや身近な素材を使った遊び、ルールのある遊び、わらべうた遊びなど子どもの発達や遊びの展開方法を中心に授業を進めてもらい、それを受けて講義の中で再度、遊びの留意点や子どもへの配慮などについて学生と考察しながら、指導案を作成する中で、実践に向けての取り組みを行った。

授業科目名【保育内容「言葉」の指導法】 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基にして、乳幼児期の言葉の発達や保育者の援助についての理解が深められるように配慮した。また、言葉の発達を促す児童文化財についての解説を行ったうえで、絵本・紙芝居・ペープサートなどの実践を行いながら、実際の保育において実践できるような取り組みを行った。
授業科目名【こども学基礎演習】 保育に関する基礎的理解を深められるように、壁面構成やカプラ制作などの取り組みを行った。前期は特に学生生活に慣れること、他者と協同する力やコミュニケーション能力を高められることを目標に個別面談を実施し。また、話し合いでは教員も積極的発言を行いながら学生間の仲が深められるように配慮した。後期は、ゼミ長・副ゼミ長を中心に学生が中心となって話し合いを行い、学生自らが考え、作り上げられるように教員は主に学生の活動を見守りながら進められるように配慮した。また、実践に向けて意欲が高められるように2年ゼミ生が行っている喜久屋書店でのおはなし会を見学する機会を設けた。
授業科目名【こども学特別演習】 保育に関する実践的スキルを高められるように、ゼミ活動を展開した。具体的には、保育科えほんのへや及び喜久屋書店（セントシティ7階）における“おはなし会”の実施、合成染料やアクリル絵の具を使用しているTシャツ染め、壁面構成、キャンドル製作、ハーバリウム製作などである。準備を含めて学生を中心に進めることで、協同性や責任を持った行動ができるように配慮した。また、地域の保育園が園外保育等で訪問する施設（スペースLABO・いのちのたび博物館・到津の森公園）を訪れ、保育者としての視点が深まるように施設の方に解説をしていただきながら見学した。
授業科目名【保育・教職実践演習（幼稚園）】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2人1組で指導計画を作成し、準備・実践までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生自に保育者としての意識が高まるように配慮した。また、ICTを用いたドキュメンテーション作成を通して、保育を保護者に伝えるためのスキルを高められるように指導した。
授業科目名【教育実習指導】 事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。 報告会は1、2年生合同で行い、2年生よりスライドを用いた発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	会員	2012年～（現在に至る）
日本保育者養成教育学会	会員	2018年～（現在に至る）
日本乳幼児教育学会	会員	2018年～（現在に至る）

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
1. 保育カンファレンス研究の現状と今後の展望	共著	2023年3月	西南女学院大学紀要VOL27	保育カンファレンス研究の現状を把握し、今後の展望を見出すことを目的とした。そのために、保育カンファレンスに関する先行研究について「保育カンファレンスがどのように行われているのか」を検討した。その結果、保育カンファレンスの参加者、用いられる資料の多様化が進んでいることが明らかとなった。今後の展望として、インフォーマルな保育カンファレンスの検討が必要であること、園外も含めた多様な職種の人たちと協働した保育カンファレンスの検討が必要であることが提起された。 <u>阿南寿美子</u> ・島田知和・田中洋
2. 保育者養成課程における援助観の縦断的調査	共著	2023年3月	西南女学院大学紀要VOL27	保育者養成教育や学外実習が援助観の育成にどのように影響しているかを検討した。短大保育科在学生を対象に、2年間に4回の質問紙調査を実施し援助規範意識を測定した。その結果、入学時の援助規範意識の特性で2群に分けることができた。実習前後の援助規範意識について安定群と変化群が見出された。変化群は安定群に比べ、入学時の返済・自己犠牲・弱者救済規範意識は高く、交換規範意識は低かった。変化群は、の養成課程で専門職としての援助規範を学び、実習を経験することで、安定群の援助規範意識に近づく傾向が示された。 笠修彰・命婦恭子・ <u>阿南寿美子</u> ・篠木賢一・末寄雅美
3. 保育者の資質としての運動指導観と遊び環境への理解の変容 ー2年間の養成課程の学びと実習を通してー	共著	2023年3月	西南女学院大学紀要VOL27	短期大学生が養成教育の中で運動指導観と遊び環境を理解する能力を身につけ変容させていく過程と各々の資質変容との相関および保育観形成との関連について明らかにし、資質形成を効果的に行う保育者養成カリキュラムについて考察を行った。その結果、運動指導観と遊び環境への理解には明確な相関は見られず、運動指導観は1年次には変化が無く2年次に低下すること、遊び環境への理解は入学時に理解が低い学生は進級時に理解が高まるということ、子ども中心保育観と関連して高められるという結果が得られた。 篠木賢一・末寄雅美・命婦恭子・ <u>阿南寿美子</u> ・笠修彰
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 1. 保育者養成における実習日誌に関する考察 Ⅱ—保育現場へのヒアリング調査から見えてきたもの—	共著	2022年5月	日本保育学会第75回大会(ポスター発表)	保育実習で学生が作成する実習日誌については、時系列型の日誌が中心となっているが、現在、様々な新しい様式への提案がされている。そこで、本研究では、新しい日誌様式を作成するにあたり、現場保育者が現在の様式に抱いている必要性や指導時の難しさなどをヒアリング調査した。その結果、現在中心になっている時系列式は必要であり、その作成方法を養成校として指導することが必要であること、新様式を用いる際は、学生だけでなく現場保育者にも説明が必要であることが示唆された。 島田知和・阿南寿美子・脇信明・上原真幸・金子幸・末寄雅美・藤本朋美・古林ゆり

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)
外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考
社会における活動等			
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等	
九州保育者団体合同研究集会	北九州部会副委員長 分科会運営委員 第50回福岡集会副実行委員長	2012年4月～現在に至る 2016年～現在に至る 2019年～現在に至る	
北九州市児童福祉事業第三者評価事業	専門委員	2016年4月～現在に至る	
NPO法人あゆみの森共同保育園 社会福祉法人喜久茂会(ふたば保育園)	第三者委員 評議員	2018年1月～現在に至る 2021年6月～現在に至る	
北九州市社会福祉協議会キャリアアップ研修会	講師	2021年9月15日	
北九州市児童福祉事業第三者評価事業評価基準見直しプロジェクト	委員	2022年4月～現在に至る	

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

教務委員会 副委員長（2020 年 4 月～現在に至る）

入学試験会議委員（2014 年 4 月～現在に至る）

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園運営委員（2016 年 4 月～現在に至る）

認定絵本士資格講座責任者（2018 年～）

2022 年度ガイダンス等（2 回） 他

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	池田 佐輪子	職名	専任講師	学位	修士 (人間関係学) (北九州市立大学 2014 年)
----	--------	----	------	----	--------------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床教育学	代替的愛着、行動制御システム、内的作業モデル、 自我・社会性の発達、養育者支援、就学支援

研 究 課 題
臨床教育学に関して、保育所保育士による代替的愛着形成と発達支援を中心に考察する。特に、養育者との愛着に歪みを感じられる虐待的環境にある子ども、発達に偏りが感じられる子どもの育ちを保障するための保育士の関わりについて考察する。保育所での3歳未満児に対する代替的愛着関係が、養育者と子どもとの愛着の修復に有効であること、その愛着関係を基盤に就学までの養育者支援として応用していく方向を検討・考察する。

担 当 授 業 科 目
保育者論 (前期) 乳児保育Ⅱ (前期) こども文化 (前期) こども学基礎演習 (通年) こども学特別演習 (通年) 保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ (通年) 在宅保育 (後期) 乳児保育Ⅰ (後期) 保育・教職実践演習 (幼稚園) (後期) 保育総合表現 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 保育者論 】 テキスト、参考書等を使って、専門職である保育士、幼稚園教諭等の資格を取得するために必要な基本的な知識・技能、倫理観をもれなく学べるように心がけた。また実務家教員として保育現場での実践を踏まえ、具体的な事例を織り交ぜて説明することで、社会に求められる望ましい保育者についての理解を促した。入学時に学生が思い描いた個々の理想の保育者像を最大限生かしつつ、社会に求められ得る保育者像を構築できるよう考慮しながら課題を事前に提示し、個別に考えをまとめたうえで発表を行うことで、自分の意見をもち、他者と意見交換することで多面的な思考ができるようにした。
授業科目名【 在宅保育 】 基本となる保育士としての知識・技能・倫理観等に加え、居宅訪問型保育に対応できる実践力・応用力を身に付けることを重視し、講義で理論の説明をしたうえで、演習において身近にあるペットボトルや牛乳パックなどを利用した玩具作り、子どもの発達に応じた遊びの展開等、学生が主体的に考え、意見を交換しながら保育内容を検討していけるよう配慮した。また子どもの発達や家庭状況に応じた保護者の子育て支援についても事例を取り上げながら検討した。
授業科目名【 乳児保育Ⅰ 】 まずは保育所実習で3歳未満児と関わることを念頭に、3歳未満児のイメージがもちやすいように、写真や実践例が多用されているテキストを用い、基本的な3歳未満児の発達とその発達を促す望ましい関わりとその留意点について講義を行った。また講義授業ではあったが保育所実習を見通し、保育人形を使って、着替え、おむつ交換、授乳、ふれあい遊びなどの演習も取り入れ、具体的に関わり方の基礎が学べるようにした。

授業科目名【 乳児保育Ⅱ 】 1 年生での保育所実習も振り返りながら、乳児保育Ⅰでの学びを踏まえて、知識に加えて現場での事例を交え、より現場での保育のイメージがしやすいように説明をしていった。また学んだ知識を応用しながら実習及び現場での実践につながるよう指導計画を立てて検討し、保育所実習Ⅱで活用できるようにした。人形や教材を使って演習も行い、具体的に実践につなげるようにしていった。
授業科目名【 子ども文化 】 具体的な子ども文化財の資料を活用して説明し、まず教員が資料を用いてデモンストレーションを行うことで、実践のイメージがもちやすいようにした。また、学生が各自で実際に制作したものをおはなし会の形式で発表することで実践力を身につけると共に、他者の様子も見て学ぶこともねらいとした。さらにお互いの評価点や改善点を伝え合うことで、より工夫した作品を作り、実践する意欲が高まるように心掛けた。特に認定絵本士の取得を視野に、外部講師の協力等も求めて絵本に関する知識、技術が身につくようにした。
授業科目名【 子ども学基礎演習 】 子どもや保育への理解を体験的に深めることができるように、学生が主体的に考え工夫し、他者と協力しながら活動することを意識しながら授業・演習を行った。実際に子どもたちと触れ合う機会はほとんどもてなかったが、学んだことを確認したり軌道修正したりしながら、実践力が定着するように心がけた。
授業科目名【 こども学特別演習 】 学生の主体的な学びを重視しながら、積極的に企画を出し合い、本学「えほんのへや」でのおはなし会、地域連携でのおはなし会、親子ふれあいルームなどに出向いてのクリスマス会など子どもたちと触れ合いながら、応用的な実践力が身につくように計画・実践していった。季節や子どもの年齢に応じた活動を工夫し、楽しみながら実践力を身に付けることができたと思われる。
授業科目名【 保育実習指導Ⅰ 】 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で実習の制約はあったものの、実習先の理解と協力によって感染症に留意しながら子どもたちを守り育てるための実習に向けた指導ができた。様々な児童福祉施設の特色を理解したうえで、授業で学んだことが実際の保育実習現場で活かせるように、また実習を通して自分の課題に気付いて次の実習に向けた改善ができるように、それぞれのねらいを明確にする自己課題シートや自己振り返りシートを活用した演習を行った。
授業科目名【 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ 】 自己課題振り返りシートを用いて保育実習Ⅰでの課題を明確にすることで、次の実習で課題の解決に向けた具体的な取り組みができるようにしていった。またお互いの課題の情報交換をすることで課題を多面的に捉えて解決に向けられるようにしていった。
授業科目名【 保育・教職実践演習（幼稚園） 】 実際に保育指導計画を作成して対面授業で模擬保育を行うことで、保育の実践力を養った。また、全員で保育を振り返り、様々な意見を出し合うことで、多面的な視点をもって課題解決に向けた関わりができるようにしていった。
授業科目名【 保育総合表現 】 受講する学生が少なかったが、少人数でもできることを工夫し、本学マロリーホールを会場に、シオン山幼稚園の子どもたちを招待して作品の発表を行うことを目標に音楽劇を準備していった。これまで学んできたことを総合的に活用し、保育現場で活用できることをねらいに立てて音楽劇のシナリオを作り、演技・演出に加え、音響や照明も学生同士で話し合いながら進めていった。学生が主体的に活動できるように教員はできるだけサポートに回り、作品の完成へと導いた。急な寒波のために計画通りの実施はできなかったが、困難な状況を工夫して乗り越えることも学べたと思われる。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
保育学会		2018年5月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
・ コラボキャンパスネットワーク 親子ふれあいルーム	実行委員 オブザーバー	2009 年 4 月～2015 年 3 月 2015 年 4 月～現在に至る
・ 特別非営利活動法人 チャイルドライン北九州	理事	2013 年 3 月～現在に至る
・ NPO 法人あゆみの森共同保育園	苦情解決体制における 第三者委員	2018 年 9 月 1 日～2022 年 3 月 31 日
・ 北九州市立島郷市民センター (島郷文化大学)	講師	2022 年 9 月 9 日
・ 北九州市社会福祉研究所 (令和 4 年幼児教育研修 保育士等キ ャリアアップ研修分野②幼児教育)	講師	2022 年 6 月 13 日

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
学生募集委員会	2020 年 4 月～2023 年 3 月
教育経費予算配分委員会	2022 年 4 月～2023 年 3 月
後援会学校委員	2022 年 4 月～2023 年 3 月
地域連携室・子ども子育てワーキンググループ企画 「中高生のための絵本講座」講師	2022 年 7 月 2 日

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	笠 修彰	職名	准教授	学位	修士 (健康福祉学)
----	------	----	-----	----	------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会福祉学	障害者福祉 地域福祉 ソーシャルワーク

研 究 課 題
・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究 ・子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究 ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

担 当 授 業 科 目
西南女学院大学短期大学部 保育科 ・こども家庭福祉 (前期) ・社会的養護Ⅰ (前期) ・子ども家庭支援論 (前期) ・社会福祉 (後期) ・社会的養護Ⅱ (後期) ・保育実習指導Ⅰ (通年) ・保育実習指導Ⅲ (通年) ・こども学基礎演習 (通年) ・こども学特別演習 (通年) ・施設実習Ⅰ (学外実習) ・施設実習Ⅱ (学外実習) 西南女学院大学 保健福祉学部 福祉学科 ・精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ (前期) ・精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【こども家庭福祉、社会福祉、子ども家庭支援論】 専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、適宜補助プリントを作成し、配布。プリントは、授業内容の理解を補助するもの、授業内容の理解度が確認できるテスト形式のもの、要点をまとめたものなどを作成し、理解度の把握及び意欲の向上を目指した。
授業科目名【社会的養護Ⅰ】 授業では、社会的養護への意欲関心を高めるとともに、社会的養護の実践を具体的にイメージできるよう、適宜事例等を用いた授業展開を心掛けた。また、学生の学習状況を把握するため、適宜小テストを行い、授業理解度の低い学生については必要に応じて個別対応を行った。

授業科目名【 社会的養護Ⅱ 】 授業では、具体的な事例を用いた個人ワークを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主体的に学習できるよう支援した。
授業科目名【 】

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 日本保育学会	会員 会員	2008 年 7 月 2016 年 9 月

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 1. 入門 保健医療と福祉	共	2023. 3 (発刊予定)	ミネルヴァ書房	①社会福祉士・精神保健福祉士養成課程における教科書として編まれたもので、政治・経済・社会および福祉先進国である北欧などの動向も見据えた上で、保健医療制度の持続可能性を高めるための手法と社会構造を掴むために求められる視点をわかりやすく解説している。 ②編著者 川村 匡由 ③担当部分 第6章 保健医療対策 1. 保健所の役割 2. 医療計画（地域医療の指針）3. 5 疾患（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患） 4. 5 事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療） 5. 薬剤耐性（AMR）対策を担当した。 総頁数 P250 ④A5 版

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. 保育者養成課程における援助観の縦断的調査	共	2023. 3	西南女学院大学紀要VOL27	①保育者養成教育や学外実習が援助観の育成にどのように影響しているかを検討した。短大保育科在学生を対象に、2年間に4回の質問紙調査を実施し援助規範意識を測定した。その結果、入学時の援助規範意識の特性で2群に分けることができた。実習前後の援助規範意識について安定群と変化群が見出された。変化群は安定群に比べ、入学時の返済・自己犠牲・弱者救済規範意識は高く、交換規範意識は低かった。変化群は、の養成課程で専門職としての援助規範を学び、実習を経験することで、安定群の援助規範意識に近づく傾向が示された。 ②笠修彰・ 命婦恭子・阿南寿美子・ 篠木賢一・ 末寄雅美
2. 保育者の資質としての運動指導観と遊び環境への理解の変容 ー2年間の養成課程の学びと実習を通してー	共	2023. 3	西南女学院大学紀要VOL27	①短期大学生が養成教育の中で運動指導観と遊び環境を理解する能力を身につけ変容させていく過程と各々の資質変容との相関および保育観形成との関連について明らかにし、資質形成を効果的に行う保育者養成カリキュラムについて考察を行った。その結果、運動指導観と遊び環境への理解には明確な相関は見られず、運動指導観は1年次には変化が無く2年次に低下すること、遊び環境への理解は入学時に理解が低い学生は進級時に理解が高まるということ、子ども中心保育観と関連して高められるという結果が得られた。 ②篠木賢一・末寄雅美・命婦恭子・阿南寿美子・笠修彰

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	会員	2008年4月～現在に至る
一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会	理事	2009年6月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2015年4月～現在に至る
『保育福祉小六法』(株) みらい	編集委員	2016年4月～現在に至る
公益社団法人日本社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る
公益社団法人福岡県社会福祉士会	会員	2017年9月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

学生募集委員会 副委員長（進学ガイダンス5回，高校訪問51校） 2022年4月1日～2023年3月31日 キャンパス・ハラスメント相談員 2022年4月1日～2023年3月31日
--

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	篠木 賢一	職名	准教授	学位	修士 (体育学 鹿屋体育大学 2001 年)
----	-------	----	-----	----	------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
体育方法学	幼児の運動能力 バレーボールの戦術

研 究 課 題
子どもの喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力との関連について考察する。

担 当 授 業 科 目
スポーツ実技 (通年) 子どもの運動あそび (前期) 子どもと健康 (前期) 子ども学基礎演習 (通年) 子ども学特別演習 (通年) 保育・教職実践演習 (後期) 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ (通年) 保育所実習Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 子どもの運動あそび 】 子どもたちのあそびを実際に行うことによって、体験的に運動発達の理解を促している。また、運動あそびの果たしている役割を理解し、「あそぶ力」と「あそびを発展していく力」を身につけるために、指導・補助のポイントや安全管理について解説し、グループワークを通して実践力の向上を図っている。
授業科目名【 子どもと健康 】 子どもが自らの体や健康に関心を持ち健やかに成長していくために、幼児期の体の諸機能の発達や生活習慣の形成を、幼稚園教育要領・保育所保育指針に沿って解説した。また、生活習慣の獲得を促す環境や援助方法について、事例をもとに学生が自ら考えられるように授業を進めた。
授業科目名【 子ども学特別演習 】 子どもの運動あそびや健康を中心としたテーマを学生の興味・関心に沿って決定し、実践に生かせる研究活動を行っている。まとめた研究結果はオープンキャンパスで展示し、公表する機会を設けている。
授業科目名【 保育・教職実践演習 (幼稚園) 】 様々な角度から保育をとらえる視点が育まれるように、現場保育者の実践事例検討を行った。また、模擬保育では、これまで授業や実習を通して学んだことを活かしながら、2 人 1 組で指導計画を作成し、準備・実践 までを行った。子ども役は保育者が要求する年齢の子どもを演じるために、子どもの姿を表現することが必要になる。観察者は客観的に保育全体を観ることが必要になる。これらを通して、学生に保育者としての意識が 高まるように配慮した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州・体育スポーツ学会 日本保育学会 日本バレーボール学会	会員 会員 会員	1997 年～ 2012 年～ 2013 年～

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1.保育者の資質としての 運動指導観と遊び環境 への理解の変容－2 年間 の養成課程の学びと実 習を通して－	共著	令和5年3月	西南女学院大学紀要 27 巻	保育者養成課程の学生（短期大学） を対象に行った 2 ヶ年調査の結果分 析。運動指導観と遊び環境を理解す る能力を身につけ変容させていく過 程と保育観形成との関連について、 無記名アンケートより明らかにし た。運動指導観と遊び環境への理解 には明確な相関はみられなかった。 遊び環境への理解については、子ど も中心保育観と関連して高められる という結果が得られた。 篠木賢一・末寄雅美・命婦恭子・阿 南寿美子・笠修彰
2.保育者養成課程におけ る援助観の縦断的調査	共著	令和5年3月	西南女学院大学紀要 27 巻	保育者養成課程の学生（短期大学） を対象に行った 2 ヶ年調査の結果分 析。対象学生が在籍している 2 年間 に 4 回の質問紙調査を実施し、援助 規範意識を測定した。実習前後に援 助規範意識が安定している群と変化 する群が見出され、変化する群は実 習を経験することで安定している群 の援助規範意識に近づく傾向が示さ れた。 笠修彰・命婦恭子・阿南寿美子・篠 木賢一・末寄雅美
(学会発表) 1.バレーボールにおける 地方学連選抜チームの チームづくりに関する 事例研究	共著	令和5年3月	日本バレーボール学 会第 28 回大会（ポス ター発表）	2022年度第23回西日本大学バレー ボール学連女子選抜対抗戦におい て優勝したA学連選抜チーム のチームづくりに関して、短期間 にどのようなチームづくりを行 ったかという事例研究。学生主体 のミーティングを取り入れるこ

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				とで、会話量が増え選抜チームという状況下においてもチーム力及び戦術的思考力・遂行能力が向上したと考えられる。 村川誠・沼田薫樹・濱田幸二・篠木賢一・坂中美郷

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
九州大学バレーボール連盟 附属シオン山幼稚園「運動あそび」	女子強化委員 女子強化委員長 講師	2006年～現在に至る 2021年～現在に至る 2013年～毎月1回程度

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）
大学キャンパス・ハラスメント防止・対策委員 2017年度～現在に至る 学生委員 2021年度～現在に至る 教育経費予算配分委員 2018年度～現在に至る 排球部 監督 2014年度～現在に至る

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	末寄 雅美	職名	教授	学位	修士 (教育学) (九州大学大学院 1998 年)
----	-------	----	----	----	---------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
保育者養成教育	実習指導、環境遊び、体験学習など

研 究 課 題
① 2 年間の保育者養成における体験的な学びを通じた保育観・子ども観の育成ー環境遊びを中心として ② 保育者養成教育における実習での保育の記録のあり方 ③ 現場保育者向けの生活体験プログラムの構築 (フィールドワーク) ④ 遊び技術を向上する保育士の研修のあり方

担 当 授 業 科 目
教育実習指導 (通年・1/2 年) 子ども学基礎演習 (通年) こども学特別演習 (通年) 保育原理 (前期) 教育原理(前期) 保育・教育実践演習 (後期) 子どもと環境 (前期) 保育メディア演習 (後期) 保育内容「環境」の指導法 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【保育原理】 保育に関わる基礎的な概念や子ども理解のベースとなる授業内容のため、学生にとって出来るだけ分かりやすく、かつ基本的事項を確実に身につけられるような工夫として、テーマ別のノートプリントを作成し、それをもとに授業を進行した。遠隔授業となったため、学生の学習ペースに十分配慮しながら授業進行を行った。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
授業科目名【教育原理】 保育をとりまく状況についてできるだけ新しい情報に基づいたものとなるよう、また学生が「教育」に対し日常的に興味関心を深められるような授業内容となるよう改善を行った。学生の学習ペースが保てるようノートプリント形式のプリントを配布し、要点をまとめやすくした。オンラインでの小テストを数回行ったことで、より理解を深めることができた。
授業科目名【子どもと環境】 カリキュラム変更による新規科目。「幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領」における 5 領域の「環境」について、そのねらいや内容、取り扱いについて、一つ一つ解説し、授業を進めた。入学して間もないため「幼稚園教育要領」等の文書や 5 領域の意義などから丁寧に説明を行い、毎回復習プリントで学習内容を確認し、理解の定着を図った。加えて、保育における遊びの意義や遊び環境との関係、遊びを引き出す玩具や教材、環境設定と保育のねらいとの関連など、概説的に取り扱った。できるだけわかりやすく説明することを心がけたため、学生の最終成績は非常に良好であった。

授業科目名【保育内容「環境」の指導法】 今年度から設置された新たな科目。前期科目「子どもと環境」と内容を関連させた。 前年度までは「保育内容「環境」」の授業で扱っていた内容から演習や実技的な内容を中心に授業内容を構成した。授業前半では、屋外での体験学習を中心に授業を組み立てた。特に、自然や生活環境への関心が高まるよう工夫した。 保育活動で利用する様々な教材と思考力の発達について、映像教材や実物を用いたりしながら授業を進めた。授業後半は、学生による「模擬保育」を行った。グループ毎に企画書を作成し、与えられたテーマに基づいた活動を行った。実技を行い振り返りを行うことで、学生の理解が深まっただけでなく、活動の楽しさを実感できたようである。
授業科目名【保育メディア演習】 授業の前半では、メディア環境をテーマにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。また、「認定絵本土養成指定講座」に関わる3コマの授業では、外部講師と連携しながら授業を行い、絵本や情報社会との関連について、より学生の理解が深まったと思われる。特に、大学図書館職員からの授業では、絵本検索を通じて絵本の関心を深める非常に良い機会となった。
授業科目名【教育実習指導】 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」と段階的に行われる実習に対し、学生がそれぞれ課題意識を持ちながら臨めるような指導を行った。 実習事後指導では一人一人の学生に対し面談を行い、また丁寧な日誌指導を行った。実習報告会は対面で実施し、学生自身が自分の学びを客観的に振り返って後輩にプレゼンテーションする場を設けたりと主体的な学びになる工夫を行った。特に「教材研究」として、一年次には手遊び、二年進級時にはペープサートなどの教材作成と実演、二年後期では現場で継続的に使用できる教材の作成と実演を行った。
授業科目名【保育・教職実践演習(幼稚園)】 現場での保育実践を見越したアクティブ・ラーニングの授業を行った。学生の主体的な学びとなる「模擬保育」では、クラス毎に二人一組で指導案作成と模擬保育の進行を行い、他の学生は子ども役・観察者となり実践後には意見交換を行う内容で、学生個々人の学びと実習経験が生きる授業となった。「実践に学ぶ」では、保育の実践記録を読み合い意見交換を行った。卒後1年目の卒業生を招いた授業では、現場での実践を想定しながら学生が話を聞いていた。いずれも、学生が授業への参加意識が高まるような工夫を行っている。
授業科目名【子ども学基礎演習】 科目の主担当者として全体計画を作成した。ゼミ毎での活動を軸として、学生が話しやすい雰囲気作りや学習成果を実感できる活動への取り組みなど様々な工夫を行った。「認定絵本土養成指定講座は複数回実施したが、特に外部講師を招いた授業では、認定絵本土としての実践力を高められるよう工夫と努力を行った。 個別に担当したゼミ活動では、学生の懇親を深めつつ保育への理解につながるような活動を工夫しながら行った。後期は科学遊びや時季に合わせた簡単な工作遊びなど、学生がやりたい活動を決めて主体的に実施できるよう支援的な役割で関わった。
授業科目名【こども学特別演習】 2年次のゼミ活動の科目のため、体験的な学習をできるだけ行えるよう工夫した。学外授業は、今年度も動物園（到津の森公園）訪問を行い、加えて学生の要望から新しく開館した「北九州ラボ」（青少年科学館）への訪問も行った。また、「科学遊び」のテーマでは紙飛行機やシャボン玉遊びやスライム作り、クリスマスリース作りの際には、学内の自然環境を活用する作品作りなど学生が科学的な活動に関心を高められるような工夫を行った。人数も少なく、日常的に仲が良い学生たちだったため、年間を通して和気藹々としたゼミ活動となった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 日本保育者養成教育学会 日本社会教育学会 日本生活体験学習学会 九州教育学会	理事（2004・2010 年、2018 年） 事務局幹事（1996-1998 年）	2013 年 5 月～ 現在に至る 2017 年 3 月～ 現在に至る 1996 年 4 月～ 現在に至る 1998 年 10 月～ 現在に至る 1996 年 4 月～ 現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（学術論文） 1. 保育者の資質としての運動指導観と遊び環境への理解の変容－2年間の養成課程の学びと実習を通して	共著	令和5年3月	西南女学院大学紀要 26巻	保育者養成課程の学生（短期大学）を対象に行った2ヶ年調査の結果分析。保育者として求められる資質が2年間の間にどのように変容しながら育成されるのか、また資質の要素がどのように相関をもつのか、継続的な研究を行っており、今回は「運動指導観」「遊び環境への理解」に焦点を当てた分析を行った。両者の要素には明確な創刊は無く、運動指導観は2年次に低下すること、遊び環境への理解は入学時に低い学生は実習経験と共に理解が高まることが明らかになった。 篠木賢一・末寄雅美・阿南寿美子・笠修彰・命婦恭子
2. 保育者養成における援助観の縦断的調査	共著	令和5年3月	西南女学院大学紀要 26巻	保育者養成課程の学生（短期大学）を対象に行った2ヶ年調査の結果分析。保育者として求められる資質が2年間の間にどのように変容しながら育成されるのか、また資質の要素がどのように相関をもつのか、継続的な研究を行っており、今回は「援助観」に焦点を当てた分析を行った。実習前後に援助規範意識が安定する群と変化する群があり、変化する群は実習を経験することで専門職としての援助観を獲得することが明らかになった。 笠修彰・命婦恭子・阿南寿美子・篠木賢一・末寄雅美

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表) 1. 保育者養成における実習日誌に関する考察Ⅱ－保育現場へのヒアリング調査から見えてきたもの－	共著	令和4年5月	日本保育学会第75回大会（ポスター発表）	保育実習等で経験の振り返り学習に用いられる実習日誌について、学生の学びがより深められる日誌様式や指導のあり方についての研究の第2報となる。保育現場で実習指導担当者へのヒアリング調査を行い、多くの実習担当者が日誌の時系列表記を必要と考えていること、また視点が深まるような様式を求めていること、新しい様式の導入への課題や難しさなどが明らかとなった。 島田知和・阿南寿美子・脇信明・古林ゆり・金子幸・上原真幸・ <u>末寄雅美</u> ・藤本朋美
2. 保育者を対象とした生活体験プログラムについて②－保育者体験講座の参加者の感想の分析を中心に－	共著	令和4年9月	日本生活体験学習学会第24回大会（自由研究、口頭発表）	福岡県飯塚市庄内生活体験学校における野外活動プログラムの実践研究の発表である。飯塚市内の保育者を対象に、畑作りや芋掘り、苗木づくり、蜂蜜採取などのプログラムを実践することで、ゆくゆくは庄内生活体験学校を活用する保育活動や職員研修のプログラムを構築することを目的としている。20年度から実施したプログラムの中間報告となる。 宮嶋晴子・ <u>末寄雅美</u> ・桑原広治・正平辰男・原和也

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
福岡県八女市子ども子育て会議 (八女市子どもの貧困対策会議)	委員、会長	2016 年 9 月～現在に至る (2024 年 9 月迄)
柳川市保育協会保育士会研修部会	助言講師	2006 年 4 月～現在に至る
福岡県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2018 年 8 月～現在に至る
九州保育団体合同研究会	分科会運営委員	2018 年 8 月～現在に至る
NPO ドングリ研究部会	研究・実践担当	2020 年 9 月～現在に至る
九州保育団体合同研究会	4・5 歳児保育、運営委員	2018 年 8 月～現在に至る
福岡県八女市子育て支援員講座	講師	2019 年 6 月～現在に至る
熊本県保育士会新任保育士研修会	講師	2022 年 5 月
福岡県みやま市保育士会研修部会	研修部会講師	2022 年 7 月 (直前に中止)

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
・保育科学科長 2020 年 4 月～現在 ・人事委員会 副委員長 2020 年 4 月～現在 ・教学マネジメント会議 2023 年 1 月～現在 ・入試会議 2020 年 4 月～現在 ・西南女学院将来計画委員会 2022 年 4 月～現在 ・学校法人西南女学院評議員 2020 年 4 月～現在 ・西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園 幼稚園運営委員 2018 年 4 月～現在 ・西南女学院高校との高大連携事業・5 年生への学科紹介 (2022 年 6 月) ・折尾愛真高校との高大連携授業(2023 年 1 月) ・高校における進路ガイダンス (北九州高校(7 月・3 月)、ひびき高校(7 月)、若松高校(3 月)) ・高校生への学科紹介(直方高校(7 月)、折尾高校(8 月)) 他、学生募集のための高校訪問の実施、学科ブログやInstagram更新等の学生募集活動

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	末成 妙子	職名	教授	学位	横浜国立大学大学院 教育学修士 (音楽教育学)
----	-------	----	----	----	----------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
・音楽教育学 ・特別支援教育学 ・幼児の表現	・聴覚障がい児教育 (聴覚障がい乳幼児) ・こども音楽療育 ・表現 (身体・音楽)

研 究 課 題
「こども音楽療育」の立場から、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据えて音楽の実践力をつける方法を研究する。障がいのある子も、そうでない子も、共に活動ができ、発達を促す「表現活動」について研究する。2021 年 7 月に出版した『幼児期の表現活動』の執筆活動を通して、自身の講義の振り返りを十分行うことができた。 また、2022 年 1 月に出版した『障がいのある子どもの保育・教育の実践』は、編者として本編全体を見通すことに携わったことにより、障害児保育について、それぞれの専門分野の方々と意見を交わすことができた。

担 当 授 業 科 目
保育内容「表現 (身体・音楽表現) (前期) 子どものためのピアノ I (前期) 子どものためのピアノ II (後期) 子どものうたと伴奏法 (後期) 子どもと表現 (後期) こども音楽療育概論 (後期) こども音楽療育演習 (前期) こども音楽療育実習 (後期) 子ども学基礎演習 (通年) 子ども学特別演習 (通年) 子どものうたあそび (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【子ども学基礎演習】 学部全体で年間の流れを決めているので、その流れを尊重したうえで充実した活動ができた。末成ゼミとしての特徴は音楽を中心に据えるということであったので、12 月に本学マロリーホールで開催された市民カレッジに出演し、学生はミュージックパネル「森のクリスマス」を披露し、歌やピアノ演奏、演劇に取り組んだ。満足のいく出来栄であったという感想を述べてくれていた。音楽があまり得意でない学生も笑顔で参加し、シアターを演じたり、クリスマスにちなんだダンスを披露したりすることができた。「お話し発表会」では、学生が自主的に準備して臨んだ。キリスト教教育を根幹に据える本校の姿勢を、ゼミ活動を通して伝えることができたと考えている。
授業科目名【子ども学特別演習】 1 年生のゼミ生と共に、12 月に本学マロリーホールで開催された市民カレッジに参加して、音楽を披露した。ハンドベルではゼミの中でも力の差があったが、苦手な学生に、得意な学生が的確なアドバイスや心優しい援助をして、皆で音楽を作り上げて、その過程は大変こころ温まるものであった。 1 年生のゼミに絵本士資格の講座が含まれているので、なかなか 1・2 年生合同の活動時間がとりにくかったが、学科の方針でこれからその点は改善されていくと考えている。

授業科目名【保育内容「表現（身体・音楽表現）」】 「表現する喜びを味わい、幼児の表現の力を育む」を本科目の目標に設定し授業を構成した。昨年度上梓した「幼児の音楽表現」の著書をテキストにして、音楽を使って、様々な工夫をこらした表現を披露し合い、お互いの良い点を見つけ合い、子どもにとっていかに「表現する」ことが大切であるかを学んだ。「表現を促す環境」という視点からも考察して、保育環境へも配慮した表現の在り方を学び合うことができた。
授業科目名【こども音楽療育実習】 半期の授業であるにもかかわらず、3回の「療育的音楽あそび公演」を行った。第1回目はリモートで市内の3園とつなげて、音楽クイズ、演奏、身体表現と変化に富んだ企画をまとめ、双方向とのやり取りのできる環境を十分に生かして行った。ウィルスの感染が収まらず、リモートで触れ合う企画は回を追うごとに内容が充実してくるのを実感した。2回目の公演は「おながくDEあそぼう」という企画でウエル戸畑において、親子の音楽活動を行った。感染対策という点から、金管楽器・木管楽器の使用は控え、密を避け、検温を行い、使用した机や椅子の消毒まで含めて、綿密な準備の下で行った。3回目のリモートは、「白雪姫」を題材に音楽あそびを企画した。地域連携の企画ということもあり、予算をいただくことができたおかげで、外部のホールを使用することも可能になり、西南女学院の保育科を地域にアピールすることができたと思う。子どもとのやり取りを通して、子どもの反応を肌で感じて療育的活動を行うことができた。 学生全員が3つの企画に参加するというとてもハードな授業になったが、皆で協働し充実した療育活動ができたと考える。
授業科目名【子どもと表現】 保育所保育指針、幼稚園教育要領などを吟味し読み込んだのち、紙芝居を作ることを見習い発表の課題として、色塗りワーク、折り紙ワーク、劇の効果音に関するワーク、絵本「ぼんたのじどうはんばいき」を題材に販売機から出てきてほしいものを手作りし、セリフを考え演技することなど、演習を織り込んだ展開をした。8回という限られた回数の授業ではあったが、毎回大変積極的な意見や取り組みがあり、学生どうしが刺激し合えるよい流れを作ることができた。
授業科目名【こども音楽療育演習】 障がいについて考えるとき、発達障害に注目が集まりがちであるが、肢体、知的、視覚、聴覚、病弱の5障害、について理解を深め、そうした子どもたちとかわかるときに音楽はどのような力があるか、どのように音楽を使って子どもたちとコミュニケーションできるか、子ども達が生きやすくなるかを考えながら授業を進めた。 将来、実際の保育の現場で行うことができる療育的音楽活動をめざし、音楽の多様な力を使った様々なセッションについて解説した。 さらに障害のある子にとって、大きな壁ともいえる言葉の領域についても理解を深め、また、各々の子どもに応じた配慮について考え、実際の楽曲を使って、楽器の効果的な使い方を実演した。ピアノにとらわれず様々な楽器を使うことで音楽の世界が広がることを実感できることをめざした。
授業科目名【子どものうたあそび】 授業で歌ったうた、工夫した音楽活動を必ずノートに残し、子どもの歌にできるだけ親しむように、講義の中で促した。コロナ禍でも保育園・幼稚園では音楽を使った活動があるので、音楽を使って手や指先、からだを動かして遊ぶことを身に付けてほしいと考えている。音楽を通した活動は人間関係を深めていくことにつながり、そうした遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つ。限られた講義時間の中で、わらべうたから最近のうたまでの広い領域からどの曲を学ばせるかは、十分に精査して講義を進めた。互いに励ましあったりして伴奏に積極的に取り組んだり、個性のある遊び方を披露してくれたり、保育科らしい発展的な授業になった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞った学びも有効だったと考える。
授業科目名【こども音楽療育概論】 編者となって未成がまとめた「障がいのある子どもの保育・教育の実践」をテキストに、具体的なエピソードを多く取り入れ、聾学校、総合支援学校での体験を交え、講義を進めた。特に聴覚障害については生活するうえの様々な不自由さを理解し、事例を示しながらその支援の方法を学んだ。受講する学生は入学時からこの科目に強い関心を持っているの、ノートをよく取り、緊張感を持って授業に臨んでいた。発達障がいやクローズアップされているが、5障がい全般について理解を深めるように、様々な障がいの実態を知り、重度・重複化する子どもの障がいを理解するように指導した。

授業科目【子どものためのピアノⅠ・Ⅱ】 教育芸術社の「大学生のためのピアノ教本」をテキストに用いて個人レッスンの形態で行った。本年度は半数近い学生がピアノの初心者で、1年間をかけてもバイエル100番まで進むことができない学生が例年より多く、不安を覚えた。この科目の目標曲の設定、課題の出し方、目標とするピアノ演奏の到達点について、今一度考えるべき時に来ているように思われる。他の保育士養成校の取り組みを参考にして、現実的な改編が望まれていると考えるが、それにはカリキュラムの改正が必要である。楽器の習得は辛抱のいることで、免許取得そのものへの意欲が衰退することがないように、さまざまな相談、練習方法の悩みなどが気軽に話し合える雰囲気を作り、学生どうしが互いに良い刺激を受け合って進めることができるように心掛けたい。
授業科目【子どものうたと伴奏法】 実習の場面で使う曲の練習ができ、さらに高度なピアノ曲をおさらいすることができる科目であるにもかかわらず、学生の意欲が期待ほど伸びず、今後に課題を残す科目のありかただと感じた。試験の課題曲について再考し、ピアノの技術の習得を本学で学ぶことができる貴重な時間なので、実際的なコード進行、簡易伴奏、子どもの実態に合った即興的なアレンジなど学べるように工夫していくことが望まれると考える。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音楽教育学会	正会員	2011年～現在に至る

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学术论文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
障がいのある子どもの保育・教育の実践	共著・（編者）	2022年2月	学友社（203頁）	3人の編者の一人としてこの本を上梓した。項目立てから著者の選考、校正、索引立てまで行った。保育士幼稚園教諭を目指す学生がインクルーシブ保育を展開する力をつけるための大学生向けテキストである。事例、イラストを多く用いて保育実践に結び付きやすい内容になっている。
（学术论文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） 「コロナ禍におけるリモートでの音楽療育実践の可能性」	単独	2023年3月26日（予定）	日本音楽教育学会 中国・四国大会 於：岡山大学	音楽養育実習で行った、リモートで市内の保育園・幼稚園をつないでの療育的音楽あそびについて発表した。どのような利点、影響、があり、今後の課題はどのようなことかなどを検証した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

なし			
----	--	--	--

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）	
国際交流委員会 副委員長 公開講座委員会 委員長 図書委員会 副委員長 西南女学院大学・短期大学部評議員（2020年4月1日～2023年3月31日） 北九州市立幼稚園連盟第1ブロック教職員研修会 講師 「すぐに実践できる楽しいリズムあそび・合奏」 (11月16日) 地域連携活動において北九州市民カレッジ講師（12月8日） 地域貢献活動＜子ども・子育て支援と学校教育＞の分野で「音楽DE あそぼう」というイベントを開催 (2023年1月14日)	

以上

2022 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名	谷崎 太	職名	准教授	学位	経営学修士
----	------	----	-----	----	-------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
会計学 管理会計論	統合的企業会計、財務報告の変革、 管理会計情報の公開可能性

研 究 課 題
企業会計統合論 ～管理会計情報の公開可能性～

担 当 授 業 科 目
初年次セミナー (1 年前期) 経済学入門 (1 年後期) 子ども学基礎演習 (1 年前期・同後期) 子ども学特別演習 (2 年前期・同後期) メディアリテラシー (1 年後期) キャリア開発 (1 年後期) 情報処理入門 (2 年前期) 保育メディア演習 (2 年後期 AB クラス) 保育メディア演習 (2 年後期 CD クラス) 実践キャリアプランニング (2 年前期) 保育総合表現 (2 年後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【初年次セミナー】 汎用的技能、スタディスキル、スチューデントスキルを身につけるために、グループワークを中心とした演習を次の順序で行った。全体に共通した課題に対する討論をしながらグループを形成する。その後、グループごとに別途提示された課題について資料を集めながらグループとしての発表資料を作成する。一連の活動を振り返り、個人としての振り返りレポートを作成する。これらによって、「聞く、調べる、読む、書く、考える、発表する、討論する、を鍛錬・強化する姿勢を養う」「グループワーク、チームビルディングを通して、自己および他者を理解する姿勢を養う」「課題解決のために、テーマを探求し、解決の方策を探る姿勢を養う」「自らの行動を省察し、成長へと繋げる姿勢を養う」ことを促した。
授業科目名【保育メディア演習】 保育実践の記録化・可視化を行う上で有用な情報ツールを利用できるよう、文書ならびにプレゼンテーションの作成、利用についての技能向上を図った。現場で必要とされる資料作成の留意点等について考察する課題を提示し、課題の作成から提出までを、ブラウザ、Word、PowerPoint、電子メール等で完結させることでテーマの考察と PC 操作の習熟とを同時に促した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期

日本簿記学会 日本会計史学会 国際会計研究学会 日本企業経営学会 日本会計研究学会 日本生産管理学会 広島大学マネジメント学会 経営行動研究学会	監事（2000 年～現在に至る） 中四国支部幹事（2001 年～2003 年）	1994 年 4 月 1996 年 11 月 1996 年 11 月 1997 年 3 月 1997 年 9 月 1998 年 4 月 2000 年 12 月 2008 年 8 月
---	--	---

2022 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
なし		

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学生個人情報保護委員会（2021 年 4 月～2022 年 3 月） 情報システム管理運用委員（2020 年 4 月～2022 年 3 月） 大学短期大学部一般教育課程委員（2020 年 4 月～2022 年 3 月）

2022 年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	戸田由美	職名	教授	学位	文学修士
----	------	----	----	----	------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
日本近代文学	夏目漱石・文芸学的諸相・見立て・東洋・西洋

研 究 課 題
夏目漱石文芸における不思議さの究極にある本質的概念を究明する。そのうえで、日本文学の諸相と、それに及ぶ文化を『見立て』の世界観を用いて意義を解明することに焦点をしぼる。そのためには作品の中の西洋的世界観、東洋的世界観を解明し、言語の本質と人の関係性を明らかにし、漱石の課題であった『文芸を科学する』という意味を分かりやすく説くことを研究の第一義としている。この思想は現代社会に対するテーマであるので、立証できれば「日本語教育」界に貢献できるものである。なぜならば漱石の研究課題の真骨頂であるからである。

担 当 授 業 科 目
文学 日本語表現法 子どもと言葉 子どもと絵本 こども学特別演習

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 文学 】 学生の文字離れに関しての対処方法として、文学は実学であるという観念を究明する。習得する手立てとして、上質な文学作品、文学的表現に触れさせるとともに現代社会の実情と内容を重ねながら社会学的見地で解釈できるようにセンスを磨くことを主眼として講義した。学生の、作品に関する質問を講義中に取り上げて皆で究明した。
授業科目名【日本語表現法 】 卒業して社会に出ても立派に通用するよう、様々な表現法の習得に力を注いだ。小テスト、添削、および学生一人ひとりの実力を考慮に入れてのマンツーマン指導をに力を入れた。ただし、学生が自身の考えを自らの言葉で表現できる能力を生み出すための、能力開発に力を注いだ。真面目な学生は、着実に成長している。
授業科目名【子どもと絵本 】 保育科における児童文学で大切なことは、「子どもの五感の発達と生活体験の拡大」がどのように文学作品の中に生かされているかを見出せるか、である。そのため、イメージの拡大、たいせつなものを感じ取る力、空想する力、それぞれの年齢の程度にかなった絵本の紹介等々に力点を集中させ、わかりやすい講義を心掛けた。さらに、講義中に QandA コーナーを設け、学生の理解が深まるよう工夫した。
授業科目名【子ども学特別演習(ゼミ) 】 ファンタジー文学ゼミである。人間の生きてゆくなかで、もっともたいせつなところの部分、そこに宿るファンタジーの世界を究明する。イタリアの絵本学者の研究をもとに、ファンタジーと子どもとの関わり方を学ぶ。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

日本文芸学会 日本キリスト教文学会 日本近代文学会 文芸形象会 日本語教育学会		1983 年 1991 年 1985 年 1984 年
---	--	--------------------------------------

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) ただいま、翻訳中 完成には至っていない				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
子ども・子育て会議専門委員	専門委員	令和6年3月31日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
西南女学院 理事 大学短期大学部 学部長 大学短期大学部附属シオン山幼稚園 園長

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 東 彩子	職名 准教授	学位 修士 (宣教学: フラー神学大学院) Master of Cross Cultural Studies (Fuller Theological seminary)
---------	--------	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
キリスト教と身体性	神秘劇、キリスト教教育、キリスト教女子教育

研 究 課 題
●キリスト教教育・保育における身体表現の意義と、その教育的・宣教的効果について ●中世の神秘劇研究を土台とする、現代における神秘劇に関する宣教学的研究

担 当 授 業 科 目
<短期大学部保育科> キリスト教学Ⅰ (1年前期)、キリスト教学Ⅱ (2年後期)、キリスト教保育 (1年後期) <大学人文学科 (英語・観光文化) > キリスト教学 (旧約聖書) (1年前期)、キリスト教学 (新約聖書) (1年後期) <大学共通> キリスト教と文化 (2年後期) キリスト教と西南女学院の歩み (1年前期) <大学助産別科> キリスト教と生命倫理 (1コマ)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【キリスト教学Ⅰ・Ⅱ】 I & II 共に、紙芝居・絵本などに学生自らが触れる参加型授業を展開し、視聴覚教材を取り入れる等、学生の興味を引き出すための工夫をした。年間を通して対面チャペルや教会訪問が再開し、体験的な学びが深まった。
授業科目名【キリスト教保育】 キリスト教保育の本質と目的の理解を深めるため、体験的・実践的な授業を行った。「世界の子ども」の発表では、各国のこどもたちの現状について調査しグループ発表を行い、自分たちにできることを検討した。神秘劇では、シナリオ作成や劇制作により聖書の理解を深めると同時に、こどもたちに聖話を伝えるための実践方法や表現方法を探り、聖書に基づくチームワークとリーダーシップについて洞察を深める機会を作った。
授業科目名【大学人文学部 キリスト教学 (旧約・新約)】 前期は旧約聖書、後期は新約聖書にわけて講義を行うため、学生が1年間を通して聖書全体を概観できた。「感恩奉仕」の精神の土台となる聖書の知識を身につけられるよう、聖書の登場人物を中心に解説した。後半は、コロナ禍で中止していたグループワークの再開が叶い、グループの興味ごとにテーマ設定を行い、調べ学習とプレゼンテーションを行うことができた。
授業科目名【大学共通 キリスト教と文化】 キリスト教文化に幅広く触れる機会を提供した。キリスト教の歴史や人物、芸術や文学などについての解説を元に、学生が興味をもった分野について、自らテーマを決めて文献検索を行い、発表の機会を設けた。
授業科目名【大学共通 キリスト教と西南女学院のあゆみ】 オムニバスで行う本科目では、日本におけるキリスト教女子教育について、また、西南女学院に多大な貢献をした Kathleen Mallory について担当し、歴史と人物の紹介を通して、キリスト教女子教育の意義を伝えた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本キリスト教教育学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本基督教学会	会員	2010年9月～現在に至る
日本宣教学会	会員	2014年9月～現在に至る
日本キリスト教史学会	会員	2017年4月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表) SARA(Stretch and Relaxation in Agape)の開発とコロナ禍における実践報告	単	2022年 5月28日	日本キリスト教教育学会	コロナ禍より毎週実施しているZoomを用いたSARA(讃美歌に合わせたエクササイズ)に関する、アンケート分析を土台とした実践報告

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
キリスト教学校教育同盟全国新任夏期研修会 日本バプテスト宣教団 ワールド・ビジョン・ジャパン 日本YWCA(日本基督教女子青年会) 日本バプテスト豊前キリスト教会 SARA (Stretch and Relaxation in Agape)	運営・実行委員 West Japan, Associate Staff 会員・チャイルドスポンサー 会員 会員 Founder (米国 BASI Instructor)	2018年4月～現在 2020年7月～現在 2010年7月～現在 2010年7月～現在 2021年5月～現在 2005年～現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

<西南女学院創立 100 周年関係>

西南女学院創立 100 周年記念祈祷会司式	2022 年 4 月 18 日
西南女学院創立 100 周年事業委員会委員	2021 年 6 月～現在
キリスト教教育功労者選考委員会委員	2021 年 6 月～現在
西南女学院創立 100 周年記念式典聖書朗読・祈祷	2022 年 10 月 18 日
西南女学院創立 100 周年記念クリスマス礼拝総監督	2022 年 12 月 15 日
創立 100 周年記念歴代宣教師記念碑献納式祈祷	2023 年 3 月 22 日

<役職・委員・その他>

西南女学院キリスト教センター長	2020 年 4 月 1 日～現在
西南女学院キリスト教センター運営委員会委員長	2020 年 4 月 1 日～現在
西南女学院大学・短期大学部宗教主事	2020 年 4 月 1 日～現在
西南女学院大学宗教委員会委員長	2020 年 4 月 1 日～現在
西南女学院大学ウクライナ学生アドバイザー	2022 年 4 月～現在

<詳細>

新任オリエンテーション聖書学課講師	2022 年 4 月 2 日
大学・大学短期大学部チャペル奨励	2022 年 4 月 13・14 日、2023 年 1 月 19 日
職員研修懇談会開会礼拝司式	2022 年 8 月 24 日
西南女学院聖書学課司会	2022 年 7 月 21 日、22 年 12 月 1 日
西南女学院大学 FD 研修会開会礼拝司式、祈祷	2022 年 8 月 18 日、8 月 25 日、22 年 3 月 24 日
西南女学院大学英語学科 KANAME 杯祈祷	2022 年 10 月 29 日
西南女学院大学保健福祉学部講演会祈祷	2022 年 11 月 23 日
短期大学部附属シオン幼稚園卒園式祈祷	2023 年 3 月 11 日
西南女学院中学・高等学校全体礼拝奨励	2023 年 3 月 16 日

西南女学院月報巻頭言「今月の聖句」	第 699 号（2022 年 7 月号）
	第 702 号（2022 年 10 月号）
	第 706 号（2023 年 2 月号）

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	藤田 稔子	職名	准教授	学位	修士(看護学)(神戸市看護大学 2005 年)
----	-------	----	-----	----	-------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
小児看護	感染症(感染症対策、予防接種) 小児ぜんそく 医療保育

研 究 課 題
【取り組み始めて COVID-19 流行により中断中の研究課題】 ・医療保育専門士と小児病棟看護師との協働の在り方について一特に、子どもの理解が乏しい新人看護師に対して、保育の専門性を有効的に活用した取り組みの実施と考察。(医療保育士との共同研究) 【継続していきたい研究課題】 ・感染症対策に関して、乳幼児の身近なものへの一般細菌の付着状況を実験的に調査し、その結果、安全かつ簡易的に実施可能な消毒方法を考察する。 ・慢性疾患、特に気管支喘息を持った幼児が、どのように疾患と向き合い、自己管理をしていくのか、また、スムーズな子ども自身が可能な自己管理方法について考察する。 ・子ども達が身体や健康に関心を持つきっかけとなる「絵本」に着目し、発達段階にみた「内容」「(身体や症状を表す)ことば」について調査する。

担 当 授 業 科 目
子ども学基礎演習(保育科1年 前期・後期) こども学特別演習(保育科2年 前期・後期) 初年次セミナー(保育科1年 前期) こどもの健康と安全(保育科2年 前期) 子どもの保健(保育科1年 後期) こども音楽療育実習(保育科2年 後期) 在宅保育(保育科2年 後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【こどもの健康と安全】 今年度もBLSは日本赤十字社福岡県支部の指導員複数名に学生が十分演習できる蘇生人形の台数を持参のうえでの実技演習ではなく、大学保健福祉学部看護学科の急性期看護学助教と小児看護学助手にご尽力いただいて実技演習をおこないました。今回は、2コマ続きの演習として、BLS、包帯法等を含む応急処置を少人数での実技演習としました。昨年度の傾向を踏まえ、演習前に演習に入っていただく助教助手と意見交換や打ち合わせを十分におこない、保育現場で考え得るより実践的な事例に基づく手技の習得を目指した内容で行うことができました。少人数で行うことにより、フィードバックもより深くでき、一人ひとりの手技を見て指導できたと思います。 授業科目名【在宅保育】 ベビーシッターとして、主流になる障害児への保育を今年度はより詳細に内容を組み込みました。受講生から高評価であった内容は、障害にあった食事形態や食器の選び方、介助の方法の実際を学ぶ回です。また、自分達でミキサー食を作って試作する回では、とろみ剤の調整により嚥下の感覚を直に体験してもらい、どのような硬さがよいのか、一口がどれぐらいの分量が適しているのかを試行錯誤して体験してもらいました。また、産後ケアを学ぶことにより、社会人として女性としてのマナーや日常生活行為を見直し、不足しているところは気付きに繋がっていたように感じました。(特に洗濯や炊事について)

授業科目名【こども音楽療育実習】

今年度は、対面での活動のみを計画していましたが、コロナ禍で協力してくれていた園から今年度もぜひしてほしいという要望が強くあり、web 公演 2 回、ウェル戸畑多目的ホールでの公演 1 回と合計 3 公演をこなしました。

役割をしっかりと決め、受講生の主体的な言動を丁寧に拾いながら、後方支援に努めました。今年度は、リズム室にポータブル Wi-Fi を持ち込み、通信としては問題なく実施することができましたが、2 回目の配信時は音声の設定が上手くいかず、少し残念な結果となりましたが、事前に園に魔法の鏡を作って持っていく等内容的には好評でした。しかしながら、受講生も担当する我々も負担が大きく、次年度は対面公演だけに絞れたら、と願っています。

授業科目名【こども学特別演習】

例年通りの井堀市民センターでの活動ができました。回を追うごとに企画力や準備する手際もよくなり、自分達でスケジュールを立て取り組んでいけるようになっていきました。実施した後、必ず振り返りの時を持っていましたが、徐々に自分達だけでまず LINE のノート機能を用いて振り返り会をおこない、記録に残し、次につなげるように工夫をしていました。私自身は、活動が円滑に進むようにセンターとの連絡を密にしてセンター職員と共に裏方として活動を支えていくことに専念いたしました。この活動は、2022 年度地域連携室主催の交流会で報告させていただいています。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児保健学会 日本小児看護学会 日本医療保育学会		2000 年 4 月～現在に至る 2005 年 4 月～現在に至る 2010 年 4 月～現在に至る

2022 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 子どもと社会の未来を 拓く—保育内容—健康	共	2022.3.23	青踏社	①保育士資格及び幼稚園教諭 免許取得の必修科目の教科 書である。特に出版社から は、新型コロナ感染に関する 事項を入れた内容で依頼を 受け、執筆した。 ②編著 高橋弥生、臼井達也 執筆 高橋弥生他 19 名 ③担当部分 第 12 章 子ども の病気とケガ (P.161-P.175) 総頁数 P.192 ④B5 判
(学術論文)				
(翻訳)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表)				教育研究業績 総数 著書 7 (単0 共7) 学術論文 3 (単1 共2) 学会発表 12 (単2 共10) その他 8 (単0 共8)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
だいすきにつぽん 活動助成	全国栄養士養成協議会	○青木るみ子 藤田稔子	¥70,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市開発審査会	委員	2013年11月～2022年11月 (任期満了)
北九州市私立保育園連盟	外部理事	2018年～現在に至る
社会法人 真祐会	評議員	2019年～現在に至る
北九州市保育所連盟戸畑支部	全体研修会講師 (web 研修会)	2022年10月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・委員会 - 倫理委員会 副委員長 2010年度～現在に至る - 就職委員会 副委員長 2016年度～現在に至る - FD 委員 2019年度～現在に至る ・アドバイザー関連 - 保育科1年ゼミ アドバイザー - 保育科2年ゼミ アドバイザー ・進路ガイダンス - 美萩野女子高等学校 2022. 12. 1 ・地域貢献

いぼりの森の「みんな！だぁ～いすき！」みんな♪フレアイ隊

だいすきにつぼん

- ・執筆

附属シオン山幼稚園「しおんのそののあゆみ」2023年3月号 巻頭言

- ・卒業生支援

医療保育専門士への支援

2022 年度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙 (様式 9)

氏名 村上 里絵	職名 特任教授	学位 修士 (福岡教育大学 1995 年)
----------	---------	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
発達心理学、応答的保育	乳幼児の言語的発達、応答的保育、幼児の思考力

研 究 課 題
発達心理学を基盤に、乳幼児の育ちと保育を考える。特に、乳幼児期の子どものことばの発達と人的環境（母親もしくはそれに代わる養育者や保育者）との関わりについて考える。

担 当 授 業 科 目
・保育内容総論(前期) ・こどもの発達理解と遊び (前期) ・教育実習指導 (前期・後期) ・こどもの生活とあそび (後期) ・保育の計画と評価 (教育課程含む) (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 保育内容総論 】 乳幼児期は、小学校以降の教科別教育と異なり、領域別に保育されるものではなく、子どもが主体の総合活動であり、環境を通して行うものである保育の本質について繰り返し説明する。また、五領域の視点は、保育の振り返りに必要であり、活動にバランスよく組み込まれていることが大切であることを実践事例を基に説明する。更に保育現場でのエピソードを用い、子どもの姿が思い描けるような工夫をしている。
授業科目名【 こどもの発達理解と遊び 】 乳幼児期の発達を理解しながら、子どもの成長発達に必要な遊びや活動を体験し、体で会得できるように演習とする。また、学生自身の実習での指導計画作成に生かされるように、授業中に説明した「配慮事項」や「援助」などを授業シートに記録する時間を確保し、指導している。
授業科目名【 保育の計画と評価 (教育課程を含む) 】 子どもの姿について想像力を働かせながら、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領から、各幼稚園・保育園(所)・認定こども園の保育計画 (教育課程・全体的な計画) に繋がっている概要が理解できるように子どもの姿を交えて説明する。また、実際の保育計画を見ながら、各年齢の繋がり、計画→実践→記録→評価の PDCA サイクル＝カリキュラムマネジメントについて、理解を促すよう工夫している。
授業科目名【 子どもの生活と遊び 】 乳幼児期の生活と遊びが子どもたちに学びをもたらせ、小学校低学年の生活科や図画工作等に繋がることを様々な事例を通して説明する。また、日常生活における子どもの遊びの種類や知識の引き出しが増やせるように実際に子どもの室内における遊びやゲームを紹介し、出来る限りの室内遊び体験をし、学生自身が主体的に興味を持って知ろうとする時間を作った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 保育教諭養成課程研究会		1985 年 4 月～現在に至る 2017 年 4 月～2022 年 3 月

2021 年 度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州市児童福祉施設第三者評価委員	委員	2012 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
なし

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山路 麻佳	職名	特任講師	学位	修士 (教育学)
----	-------	----	------	----	----------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
ピアノ演奏学、音楽表現	ピアノ演奏表現、音楽教育、保育者養成ピアノ教育、 幼児の音楽表現、アンサンブル、リトミック

研 究 課 題
保育者養成のためのピアノ教育において、ピアノの経験がない初心者への効率的な指導法を弾き歌い伴奏を中心に、幼児の音楽表現と関連させながら考察する。 幼児の音楽表現に関して、リトミックや器楽アンサンブル(合奏)を中心に考察する。 ピアノ演奏表現について、ピアノ作品の作曲家や時代背景を中心にして演奏解釈を考察し表現を深める。

担 当 授 業 科 目
子どものためのピアノⅠ (前期) こどものうたと伴奏法Ⅰ (前期) 音楽の基礎 (前期) 子どものためのピアノⅡ (後期) こどものうたと伴奏法Ⅱ (後期) 保育総合表現 (後期) 器楽アンサンブル (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名 (子供のためのピアノⅠ) ピアノの基礎的な演奏技能を学んでいく上で、学生に応じた進捗で技術を向上していけるようグループに分けて個人レッスン形式に進めた。個人レッスン以外に、科目担当者のもとで1人2回ずつ中間発表・グループレッスンの機会を設けた。これにより実践を意識してピアノ演奏に取り組むだけでなく、お互いに意見交換をすることで他者の表現を感じ受け止め言葉で伝える大切さや自身の演奏を見つめ直す機会を設けた。
科目名【こどものうたと伴奏法Ⅰ】 保育者として音楽を楽しんで表現することができるよう、学生が曲のイメージを広げ曲に合った伴奏をつくり弾きうたいの演奏ができるよう個々に応じた指導ができるよう授業を展開した。個人レッスン以外に1人2回ずつ中間発表・グループレッスンの機会を設けることで、人前で弾くことに慣れるだけでなく、実践に即した形(保育者(弾き手)・子ども役(歌い手))で発表を行い、それぞれ感想を伝え合うことで保育者に必要なピアノ演奏技術について理解を深められるよう心がけた。2年次になり実習や就職試験など授業外でピアノが課せられることが増え、学生がより実践の場で力を発揮していくことができるよう、課題とは別に実習先や就職試験で求められる曲の指導もしていくよう配慮した。
授業科目名【音楽の基礎】 6つの段階に分けたソルフェージュ教材を準備し、毎回の授業後半に取り組むことでリズム感や基本的な発声について演習を通して理解が深まるようにした。講義の際は机間指導を適宜行いながら進めることで学生から質問を受ける機会を設け、全体の状況を把握できるよう配慮した。これまでの音楽経験から既に音楽の知識をもっている学生と、これから初めて学ぶ学生と様々な経験値の学生がいるため、単元ごとに小テストを行うことでそれぞれの学習状況を把握するとともに復習への意識を高めた。

授業科目名【子どものためのピアノⅡ】 個人レッスンを進めながら、科目担当者のもとで1人2回ずつ中間発表・グループレッスンの機会を設けた。これにより実践を意識してピアノ演奏に取り組むだけでなく、お互いに意見交換をすることで他者の表現を感じ受け止め言葉で伝える大切さや自身の演奏を見つめ直す機会を設けた。 弾き歌いの課題ではコード伴奏を用いた課題を入れることで、前期で履修した「音楽の基礎」での学びを踏まえて、知識に加えて演奏を通して理解を深めることで、より実践的なピアノ技能を高められるよう進めた。
授業科目名【こどものうたと伴奏法Ⅱ】 これまでに習得したピアノ演奏技術をもとに、学生の習得状況に応じた個々に合わせた課題を準備し授業を進めた。ピアノ演奏に不安がある学生に対しては、自信をもって現場で演奏していくことができるよう個々の技能に応じた簡易伴奏法を教授した。
授業科目名【保育総合表現】 学生主体で「シオンの丘こども劇場」を作り上げていくために、学生同士で意見を出し合う時間を多く設けた。また、学生が音楽劇を希望したため、個々の楽器経験をもとに楽曲のアレンジなどを学生と話しながらサポートに入り作品を表現していく上での音楽の重要性が伝わるよう進めた。履修者数が少ない中ではあったが、限られたものを使って学生が協力して考え進めることで、より現場に近い形で創り上げていくことができるよう心掛けた。
授業科目名【器楽アンサンブル】 履修者が少人数であったため、編成の大きいアンサンブルはできなかったが少人数でもできる教材を準備し、ハンドベルや保育現場で多く使われる楽器の奏法を学び、アンサンブルの美しさ楽しさが伝わるよう指導した。また、楽器演奏に苦手意識をもっている学生もいたが、身体や声を使ったリズムアンサンブルを取り入れることでアンサンブルへの理解を深めていくことができるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 九州公私立音楽学会	会員 会員	2018年～現在に至る 2019年～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				
(資格取得) リトミック指導資格(中級)		2023年3月	特定非営利活動法人 リトミック研究センター	リトミック指導者養成コースにおいて、2歳児に向けた指導法を習得し指導者として認定された。
ドイツ・ハンブルグ国際音楽春期講習会 修了		2023年3月	アレグロ・ミュージック・プラン	ドイツ・ハンブルグにて、講習会へ参加、修了演奏会へ出演し修了証書を授与された。 講習会場:ブラームス・コンセルヴァトリウム 修了演奏会会場:シュニトケ音楽院ホール 修了演奏曲目:リスト作曲 バラード2番、ショパン作曲 エチュード12番「革命」

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
北九州音楽協会 福岡青年音楽家協会 むなかた第九コンサート	会員 会員 伴奏ピアニスト	2015 年 4 月～現在に至る 2016 年 4 月～現在に至る 2016 年 4 月～現在に至る
福岡青年音楽家協会「第 205 回 緑のコンサート」	ピアニスト	2022 年 4 月 23 日
「九州山口ジュニアピアノコンクール」審査員	審査員	2022 年 7 月 29 日
むなかた第九コンサート 2022	伴奏ピアニスト	2022 年 12 月 4 日
島村楽器「福岡地区音楽教室発表会」	伴奏ピアニスト	2023 年 3 月 11 日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
チャペルアワー 奏楽 クリスマス礼拝 奏楽 筑豊高校へ出張模擬授業 講師